

目次

005 1 はじめに

- 006 建学の理念・教育理念
- 007 教育目標と3つのポリシー
- 008 沿革
- 009 学部・研究科の構成
- 010 年間の流れ
- 011 SDGsの取り組み

013 2 学生生活

- 014 学生生活の基礎知識
- 018 大学メールアドレス
- 020 セイカ・ポータル
- 024 経済的支援
- 027 学生生活の支援
- 029 学内のルール
- 031 緊急事態発生時の対応・事前対策
- 032 ケガ・体調不良時の対応
- 033 様々なトラブルを防ぐために

035 3 キャリア支援

- 036 セイカのキャリア支援

041 4 国際交流

- 042 セイカの国際交流

045 5 教学

- 046 授業科目
- 050 卒業・修了・進級
- 051 履修登録
- 053 授業
- 056 単位修得

061 6 カリキュラム

- 062 全学共通カリキュラム
- 072 国際文化学部
- 074 人文学科
- 087 グローバルスタディーズ学科
- 096 メディア表現学部
- 098 メディア表現学科
- 110 芸術学部
- 112 造形学科
- 118 デザイン学部
- 122 イラスト学科 イラストコース
- 127 ビジュアルデザイン学科
グラフィックデザインコース/
デジタルクリエイションコース
- 132 プロダクトデザイン学科
プロダクトコミュニケーションコース/
ライフクリエイションコース/ファッションコース
- 141 建築学科 建築コース
- 147 人間環境デザインプログラム
- 158 マンガ学部
- 162 マンガ学科
カートゥーンコース/ストーリーマンガコース/
新世代マンガコース/
キャラクターデザインコース
- 169 アニメーション学科 アニメーションコース

175	7 大学院
176	人文学研究科 修士課程
180	芸術研究科 博士前期課程
184	デザイン研究科 修士課程
188	マンガ研究科 博士前期課程
194	博士前期課程・修士課程 様式見本
195	博士前期課程・修士課程 カリキュラム構成／科目一覧
198	芸術研究科 博士後期課程
202	マンガ研究科 博士後期課程

207	8 資格課程
208	資格課程の概要
209	教職課程
228	博物館学芸員課程
230	図書館司書課程

233	9 諸規程
234	京都精華大学 学則
239	京都精華大学大学院 学則
242	京都精華大学 学位規程
244	京都精華大学 履修規程
248	京都精華大学 各種試験および レポート等における不正行為に関する規程
249	京都精華大学大学院 博士前期課程および 修士課程学位審査規則
250	京都精華大学大学院 博士後期課程 学位審査規則

253	10 施設
254	キャンパスマップ
257	学内施設
268	学外施設

1

はじめに

Introduction

建学の理念・教育理念

京都精華大学の理念

京都精華大学は、1968年にリベラルな政治学者であった初代学長岡本清一を中心にもったく新しい大学の創造をめざすべく誕生しました。岡本清一は、学長就任の条件として、「教育の基本方針に関する覚書」を提示しました。この覚書には、京都精華大学の建学の理念ともいえる「人間尊重」「自由自治」がうたわれています。「人間尊重」「自由自治」を基盤とし、新しい人類史の展開に対して責任を負い、世界に尽力する人材の育成を使命としてきた京都精華大学では、学生、教員、職員がすべて人格的に平等であり、全員が大学の創造に参加しています。

● 教育の基本方針に関する覚書

1. 京都精華短期大学は、人間を尊重し、人間を大切にすることを、その教育の基本理念とする。この理念は日本国憲法および教育基本法を貫き、世界人権宣言の背骨をなすものである。
2. 京都精華短期大学は特定の宗教による教育を行わない。しかし諸宗教の求めてきた真理と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。
3. 学生に対しては、師を敬うことが教えられる。師を敬うことなくして、人格の感化と学問的指導を受けることはできないからである。そして敬師の教育を通じて、父母と隣人に対する敬愛の心を養う。
4. 教員の学生に対する愛情責任は、親の子に対するそれが無限であるように、無限でなければならない。職員もまた教員に準じて教室外教育の一斑の責任を負う。
5. 学内における学生の自由と自治は尊重され、その精神の涵養がはかられる。従って学生は、学内の秩序と環境の整頓に対して責任を負わなければならない。
6. 礼と言葉の紊れが、新しい時代にむかって正され、品位のない態度と言葉とは、学園から除かなければならない。
7. かくしてわが京都精華短期大学における教育の一切は、新しい人類史の展開に対して責任を負い、日本と世界に尽くそうとする人間の形成にささげられる。

教育理念

初代学長岡本清一の建学理念は、その時々を担う人々によって新しい理解が加えられ、時には議論の対象となってきました。2003年春、建学理念の継承と再生を図るため、京都精華大学はあらためてその使命と基本理念を明らかにしました。

● 京都精華大学の使命

1. 京都精華大学は、人間を尊重し人間を大切にすることを教育の基本とし、学問・芸術によって、人類社会に尽くそうとする自立した人間の形成を目的とする。
2. 京都精華大学は、社会に責任を負う自立した人間の形成という目的のために、恒に現実の社会的視点を維持し、広く社会に貢献する活動を行う。
3. 京都精華大学は、教員、職員、学生によって一個の有機的な社会を構成し、この大学社会における人間的な交流を基礎にして教育を行う。

● 京都精華大学の基本理念

1. 京都精華大学は、広く国内外に開かれた教育を行う。人間が国家、宗教、民族の対立を乗り越えて共に生きるためには、その価値観の違いを超えて人間的な信頼関係を創出しなければならず、国家、宗教、民族を超えた人間的な交流の体験が必須である。
2. その教育において、特定の宗教・思想による教化を行わない。しかし、歴史を通じて人類が求めてきた普遍的な価値と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。
3. その教育は、共生を目指し、なお自立する人間の形成を目的とするために、現実の人間の問題を扱う学問・芸術の探求に基づき行わなければならない。その知的資源の創造的な編成と運用は、広く国内外に貢献することを目指さなければならない。
4. そのように現実社会に対する建設的批判と貢献を目指す、京都精華大学の教育と研究の活動は、また恒に現実と対峙し社会的視点を維持する大学の経営によって保障されねばならない。
5. 京都精華大学は、教員、職員、学生に開かれた大学社会を組織し、この社会を人格的平等主義に基づき運営する。各構成員が自覚的に選択した価値観は、対等にこれを尊重し、特定の価値観の絶対化は、人間の自由を抑圧し個人の自立を妨げるものとして、これを拒否する。
6. この大学社会は、構成員の自己啓発と相互の建設的批判によって日々刷新され、新たな教育と研究の土壌を形成する。品位のない態度と言葉は、この大学社会から除かれなければならない。構成員間の身分差別は、本学の理念とは無縁である。
7. すべての構成員は、この大学社会の規範に従うことが求められるとともに、新しい大学の創造に参加する権利を有する。

教育目標と3つのポリシー

教育目標（目指すべき人材像）

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち多様な人々と協働し、世界の様々な課題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間

3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）				
DP1 知識と理解 knowledge & understanding	DP2 創造的思考・ 視点と考察 creative perspective & observation	DP3 技術・研究と表現 skills / research & expression	DP4 他者理解と協働 mutual understanding & collaboration	DP5 社会への関心と行動 interests & action
広い視野から複眼的に 考察するための 知識と理解力	新しい文化と価値を 発想するための 創造的思考力	変化し続ける社会で 専門領域の学びを 生かすための応用力	地球規模の視点で 社会的課題に 取り組むための 他者理解力と協働力	より良い 社会を創るための 主体的な行動力

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）		
① 知識・理解・技能 1. 高等学校の教育課程における基礎学力・ 技能を有している 2. 入学後に発展可能な、作品制作に関する 基礎知識・技能を有している（芸術学部・ デザイン学部・マンガ学部）	② 思考・判断・表現 1. 身近な問題について、知識や情報をもと に筋道を立てて思考できる 2. 他者の意見を理解し、自分の考えをわか りやすく表現できる	③ 関心・意欲・態度 1. 新しい領域や多様な人々に対して先入観 なく向き合い、生涯にわたって学習を継 続する意欲がある 2. 学びたい学部・学科の知識や経験を社会 で活かしたいという目的意識を持っている

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

京都精華大学は、学位授与の方針を達成するために、全学共通教育科目、学部専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

(1) 全学共通教育科目

全学共通教育科目は、各自の専門性を活かしつつ社会の中で自由な個人として生きる姿勢を培うため、様々な学問領域にわたる科目を配置します。具体的には、表現科目群、グローバル科目群、リベラルアーツ科目群に加え、導入プログラム、マイナー科目群、社会実践力育成プログラム、キャリア科目群から構成しています。

(2) 学部専門教育科目

学部専門教育科目は、学部共通科目と学科専門科目から構成されます。ともに、専門分野の基礎から専門的知識・技能や主体的に取り組む態度を修得し、それらを総合的に活用する力を養うため、体系的に科目を配置します。

2. 教育方法

- (1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
- (3) 学修成果の可視化を通じて、学生の自律的な学修を支援します。

3. 学修成果の評価

本学では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「学部・学科レベル」「科目レベル」の2つのレベルで把握し、評価します。

各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 学部・学科レベル

学部・学科レベルの評価は、学部学科所定の教育課程における卒業要件達成状況、進級要件達成状況により行います。

(2) 科目レベル

科目レベルの評価は、シラバスで提示された科目の学修目標に対する評価により行います。

沿革

京都精華大学は、1968年に英語英文科、美術科の2学科をもつ短期大学として開学しました。1979年に美術学部を有する4年制の大学とってから、1989年に人文学部の開設、2006年にデザイン学部、マンガ学部の開設、2013年にポピュラーカルチャー学部を開設するなど、学問の領域をつねに広げてきました。2018年には創立50周年を迎え、今後も新たな挑戦を続けていきます。

1968年	4月	京都精華短期大学開学。 美術科・英語英文科を設置。
1973年	4月	美術科デザインコースにマンガクラスを設置。
1979年	4月	京都精華大学開学。美術学部造形学科、美術学部デザイン学科を設置。
1989年	4月	人文学部人文学科を設置。
1991年	4月	京都精華大学大学院を設置(美術研究科造形専攻・デザイン専攻)。
1993年	4月	大学院人文学研究科を設置。
2000年	4月	人文学部に環境社会学科を設置。 芸術学部デザイン学科にビジュアル・コミュニケーションデザイン分野・映像分野・プロダクトコミュニケーション分野を設置。 芸術学部マンガ学科(ストーリーマンガ分野・カートゥーンマンガ分野)を設置。
2003年	4月	人文学部に社会メディア学科・文化表現学科を設置。 大学院芸術研究科に博士後期課程を設置。
2006年	4月	デザイン学部(ビジュアルデザイン学科・プロダクトデザイン学科・建築学科)を設置。 マンガ学部(マンガ学科・マンガプロデュース学科・アニメーション学科)を設置。 芸術学部素材表現学科・メディア造形学科を設置。
	11月	京都国際マンガミュージアムを開設(京都市との共同事業)。
2009年	4月	人文学部を再編し、総合人文学科を設置。
2010年	4月	大学院芸術研究科を再編し、デザイン研究科デザイン専攻修士課程・建築専攻修士課程およびマンガ研究科マンガ専攻修士課程を設置。
2012年	4月	大学院マンガ研究科に博士後期課程を設置。
2013年	4月	ポピュラーカルチャー学部ポピュラーカルチャー学科を設置。 ビジュアルデザイン学科を再編し、イラスト学科を設置。 マンガ学科にギャグマンガコース・キャラクターデザインコースを設置。
2017年	4月	芸術学部造形学科・素材表現学科・メディア造形学科を再編し、造形学科を設置。 マンガ学科に新世代マンガコースを設置。
2021年	4月	ポピュラーカルチャー学部と人文学部を再編し、メディア表現学部と国際文化学部を設置。 人間環境デザインプログラムを開設。 プロダクトデザイン学科にファッションコースを設置。
2025年	4月	建築学科に人間環境デザイン専攻を設置。

学部・研究科の構成

● 国際文化学部

人文学科

- 文学専攻
- 歴史専攻
- 社会専攻
- 日本文化専攻

グローバルスタディーズ学科

- グローバル関係専攻
- グローバル共生社会専攻
- アフリカ・アジア文化専攻

● メディア表現学部

メディア表現学科

- メディア情報専攻
- イメージ表現専攻
- 音楽表現専攻

● 芸術学部

造形学科

- 洋画専攻
- 日本画専攻
- 立体造形専攻
- 陶芸専攻
- テキスタイル専攻
- 版画専攻
- 映像専攻

● デザイン学部

イラスト学科

- イラストコース

ビジュアルデザイン学科

- グラフィックデザインコース
- デジタルクリエイションコース

プロダクトデザイン学科

- プロダクトコミュニケーションコース
- ライフクリエイションコース
- ファッションコース

建築学科

- 建築コース

● マンガ学部

マンガ学科

- カートゥーンコース
- ストーリーマンガコース
- 新世代マンガコース
- キャラクターデザインコース

アニメーション学科

- アニメーションコース

[学部横断プログラム]

● 人間環境デザインプログラム

● 大学院

人文学研究科	修士課程
芸術研究科	博士前期課程／博士後期課程
デザイン研究科	修士課程
マンガ研究科	博士前期課程／博士後期課程

年間の流れ

	行事	セメスター制（前期・後期）	クォーター制（1Q・2Q・3Q・4Q）
4月	入学式		
	新入生ガイダンス	新入生／在学生前期 履修登録	新入生／在学生 1Q・2Q履修登録
		前期授業開始	1Q 授業開始
5月		前期履修取消	1Q 履修取消
6月			2Q 履修登録変更
			2Q 授業開始
			1Q 成績公開
7月			2Q 履修取消
8月	夏季休暇	前期成績公開	2Q 成績公開
9月	夏季休暇		
	後期／3Q ガイダンス	後期履修登録	3・4Q 履修登録
10月		後期授業開始	3Q 授業開始
		後期履修取消	3Q 履修取消
	学園祭		
11月			4Q 履修登録変更
12月			4Q 授業開始
	冬季休業		3Q 成績公開
1月			4Q 履修取消
2月	卒業・修了展		
	春季休暇	後期成績公開	4Q 成績公開
3月	春季休暇		
	卒業式		
	在学生ガイダンス	在学生前期履修登録	在学生1Q・2Q 履修登録

詳細は、「セイカ・ポータル」および大学Webサイトに掲示された「学年暦(大学カレンダー)」で確認してください。

SDGsの取り組み

京都精華大学では、様々な差異を持つ全ての大学構成員が尊重され人格的に平等であることを、教育の基本として歩んできました。2016年にはダイバーシティ推進宣言を発表し、翌年には「違いとともに成長する」をコンセプトに、ダイバーシティ推進センターを設立。2018年には、「関西SDGsプラットフォーム」に参加し、積極的に研修等の取り組みを行ってきました。さらに2020年12月には、新たに「京都精華大学SDGs宣言」を発表しました。すべての人の違いを尊重しながら、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の構築に貢献するために、全学的にSDGsの実現に向けて取り組んでいます。

京都精華大学SDGs宣言

2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択されたSDGs (Sustainable Development Goals) は、持続可能で多様性と包摂性ある社会の実現に向けて、2030年までに達成すべき17のゴールとそれに関連する169のターゲットを定めた国際的な目標です。大学も、教育、研究、運営の面から、SDGsの実現に向けて貢献することが重要になってきていると言えるでしょう。

京都精華大学の教育の基本方針には、日本国憲法、教育基本法、世界人権宣言との共通理念である「人間の尊重」、そして「自由自治」を教育の基本理念とすることが明記されています。2016年に発表したダイバーシティ推進宣言の中でその基本的な考え方を改めて表明し、翌年にはダイバーシティ推進センターを設立しました。さらに2018年には、より明確なコンセプトと活動方針を盛り込んだ「ダイバーシティ推進宣言2018」を発表してきました。本学の教育理念とダイバーシティ推進コンセプト「違いとともに成長する」は、「誰一人取り残さない」というSDGsの趣旨と根本を同じくするものです。

これまでダイバーシティ推進宣言のもとに進めてきた、学内すべての学生・教員・職員に包摂的なキャンパスを目指す方針を継続した上で、年齢、人種、性別、身体的特徴、性表現など表面的に認識されやすいものから、国籍、宗教、家庭環境、出自、働き方、性自認、性的指向など表面からは認識されにくいものまで、すべての人の違いを尊重しながら、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の構築に貢献するために、全学的にSDGsの実現に向けて取り組んでいくことを宣言します。

「リベラルアーツ」「表現」「グローバル」の3つを基軸とする京都精華大学は、芸術やデザイン、人文学の知見を生かし、世界が直面する共通課題の理解とクリエイティブな解決法の開発とを教育・研究を通して行うほか、大学運営においてもESG(環境・社会・ガバナンス)を重視してまいります。

京都精華大学

在学生に向けた具体的な取組み

- 性別違和、通称名使用などの事由による学籍簿の氏名・性別記載変更を認めています。
- 定期健康診断で、性別違和や健康上の事情を抱える人を対象に専用の時間帯を設けています。
- 大学で発行する全ての証明書に性別の記載はありません。
- 誰でも利用できる「みんなのトイレ」を学内24カ所に設置しています。
- 生理用品無償配布サービス機器Oitrを学内トイレ内個室に設置しています。
- 学食のメニューに食肉表示を記載しています。
- 障害のある学生の学修支援を行っています。

2

学生生活

Campus Life

学生生活の基礎知識

1. 事務局各種窓口案内

学生生活の様々な場面において、事務局の職員がサポートします。各部署の窓口対応時間、取り扱い内容は以下の通りです。

窓口対応時間(授業期間)

月～金曜日 9:00～18:00

※授業期間外の窓口対応時間は「セイカ・ポータル」に掲示します。

取り扱い内容

グループ名	窓口	取り扱い内容	場所	連絡先
学生グループ	学生支援チーム	学生生活に関する相談(進路、休退学、復学など)、各種証明書発行(学生証・学割・健康診断書など)、奨学金、忘れ物、課外活動、教室・学外施設利用申請、留学生支援、木野寮など	本館 1階	TEL:075-702-5101
	障害学生支援室	障害学生支援、支援学生養成講座など		TEL:075-702-5268
	キャリア支援チーム	就職活動支援(求人情報の閲覧・進路就職ガイダンス・企業説明会・進路相談)、求人・インターンシップなど	明窓館 1階	TEL:075-702-5130
教学グループ	教務チーム	履修登録、授業、試験、成績、各種証明書発行(在学証明書・成績証明書・卒業見込証明書など)、資格課程、単位互換、転学部・転学科・転コース相談など	本館 1階	TEL:075-702-5119
総務グループ	総務チーム	学外アトリエ「the SITE」利用申込など	本館 4階	TEL:075-702-5131
	経理チーム	学費納入、施設使用料・資格課程受講料の納入など		TEL:075-702-5120
	施設管理チーム	施設に関する相談、ごみの分別など		TEL:075-702-5228
	情報管理チーム ※ICTサポートセンターを含む	ソフトウェア利用申込、大学メールアドレスなど	対峰館 T-110 ※ICTサポートセンターは本館2階東	TEL:075-702-5255 ※ICTサポートセンターは075-702-6395
学長室グループ		情報館事務(図書・雑誌・新聞・AV資料等の閲覧・貸出など)、社会連携事業、公開講座、学外所有スペース・ギャラリーの利用申込、研究支援、学長事務など	本館 4階	TEL:075-702-5263
グローバル推進グループ		国際交流プログラム支援(交換留学、海外ショートプログラム、グローバルcommonsなど)、修交館など	本館 2階	TEL:075-702-5199
広報グループ		展覧会・出版等の告知、大学案内など	本館 2階	TEL:075-702-5197

2. 大学Webサイトでの情報取得について

大学Webサイトにも施設利用や各種申請手続き、奨学金情報など大学生活に関する基本情報を掲載しています。PCとスマートフォンに対応していますので、必要に応じて情報を確認してください。

「京都精華大学 在学生の方へ」 <https://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/>



3. 学籍

- (1) **学籍** 学籍とは学校における籍のことで、本学の学籍を有するとは、本学に在籍している学生であることを示しています。
- (2) **学籍番号** 一人ひとりの学生に学籍番号が付与されます。

例 **224 G 001**

入学年度 (2024年度) 個人番号

学科・コース (右記参照)

L 人文/W グローバルスタディーズ/T メディア表現/G 造形/F イラスト
 V グラフィックデザイン/Q デジタルクリエイション/D プロダクトコミュニケーション
 R ライフクリエイション/B ファッション/A 建築/H 人間環境デザイン/M カートゥーン
 N ストーリーマンガ/S 新世代マンガ/K キャラクターデザイン/Y アニメーション

※編入生は224の次にXと各学科・コース記号が入り、2年次生は21番から、3年次生は31番から始まります。大学院はM(修士)またはD(博士)がつきます。

(3) 学生証

学生証は本学の学生である身分を証明するものです。したがって、常に携帯し、確認を求められた場合はただちに提示してください。学内では事務局窓口で各種手続きを行う場合や情報館への入館、各種証明書発行の際などに必要です。また、学外では通学定期券購入や本学が提携する美術館などの文化施設で特別優待を受ける際に提示が求められます。学生証を紛失した場合は速やかに学生支援チームで再発行の申請をしてください。申請方法については、P.16「各種証明書の発行方法」を参照してください。

(4) 学籍情報の変更

学生の個人情報は、入学試験出願時の情報に基づき、本学のデータベースに登録されています。入学後、個人情報に変更が生じた際は、以下の方法で変更の手続きを行ってください。

① **住所・電話番号・学費支弁者(保証人)・緊急時連絡先(保証人以外の方)などの変更(帰省先の住所・電話番号を含む)**
 「セイカ・ポータル」から手続きを行ってください。

② 氏名の変更

学生本人の氏名変更は、学生支援チームで手続きを行ってください。

※性別違和、通称名使用の希望などの事由による氏名・性別表記の記載変更についても、学生支援チームに問い合わせてください。

(5) 学籍の異動と学籍に関する諸制度

① 休学

休学とは、学生が疾病またはその他の事由により、1カ月以上就学することができない場合、学長の許可を得て、当該学期に大学を休むことです。

【休学を願い出る際の留意点】

- ・休学をするためには、休学をしようとしている学期以前の学費が完納されている必要があります。
- ・休学期間中の学費は、1クォーターにつき10,000円です。また、休学手続き期日は第1クォーター:3月31日、第2クォーター:6月15日、第3クォーター:9月30日、第4クォーター:12月15日であり、当該期日を過ぎると通常の授業料が発生します(期日が窓口対応日でない場合は、直前の窓口対応日を期日とします)。 ※手続きには日数を要するため、各期日の1ヶ月前までに学生支援チームへ申し出てください。
- ・休学期間はクォーター単位で選択できますが、学修状況を踏まえ、手続き前に担当教員や教務チームとよく相談をしてください。なお、特別な理由がある場合は継続して1年(連続で2年まで)を限度に延長することができます。兵役による休学のみ休学期間を連続で3年まで認めます(別途証明書類が必要です)。
- ・休学期間満了日の2週間前までに「復学願」「休学願」「退学願」のいずれかの提出がない場合は除籍となります。必ず手続きを行ってください。

② 復学

復学とは、休学期間の満了に伴い、大学に復帰することです。

③ 退学

退学とは、学生が疾病、その他の事由により大学を辞めることです。

休学・復学・退学に関する申請・手続きについて

休学・復学・退学の申請・手続きの詳細については、大学Webサイトを参照してください。また、休学・退学を検討する必要がある場合は、早期に担当教員、または学生支援チームに相談してください。

④ 除籍

除籍とは、大学の決定により学生の身分を失うことです。学則に定められている除籍の主な理由は次の通りです。

- ・所定の在学年限(最長8年間)を超える場合(ただし、休学期間などを除く)
- ・所定の授業料等学費の納付を怠り、その督促を受けてもこれを納付しない場合
- ・休学期間の満了に伴い、復学の手続きを行わない場合など

⑤ 再入学

本学を退学した者、または除籍となった者は、退学または除籍の日より2年以内であれば再度入学の機会があります。

4. 通学

通学に際しては、公共交通機関、スクールバス、自転車などを利用してください。自動車による通学は認められません。

(1) 通学定期券を購入するには

公共交通機関の通学定期券を購入する際には、各機関の窓口で学生証の裏面に貼付された「通学証明書」シールを提示してください。通学証明書シールは毎年更新が必要です。例年3月下旬～4月上旬に行われる学内定期健康診断もしくは学生支援チームで配布しますので、必ず貼り替えてください。

(2) スクールバス

無料で利用できるスクールバスは、地下鉄「国際会館」駅と大学の間を運行しています。授業がない日曜日・祝日・施設使用禁止日は運行しません。また、大学行事や長期休暇中などは運行ダイヤが変わりますので、その都度、大学Webサイトやバス停で時刻表を確認してください。

(3) 自転車・バイクによる通学

自転車・バイクによる通学に際しては、学内の駐輪場を利用してください。所定の場所以外での駐輪は認められていません。また、盗難を防ぐために自転車・バイクは必ず施錠し、ヘルメットやそのほかの付属品は持ち歩くようにしてください。なお、京都市内・京都府内で自転車を利用する場合、自転車保険（個人賠償責任保険）に加入する義務があります。

(4) 自動車の一時乗り入れ

制作材料・資材の搬入などにより、自動車の乗り入れが必要な場合は、学生支援チームにて「車両一時乗り入れ票」の発行を受け、一時的に駐車することができます。手続きの際には学生証の提示が必要となります。

5. 各種証明書の発行方法

証明書は、本館1階に設置の「証明書自動発行機」にて発行することができます。発行の際は「学生証」もしくは「セイカ・ポータルユーザーIDとパスワード」が必要となります。一部、後日の発行となる証明書がありますのでご注意ください。

※本学が発行するすべての証明書に性別の記載はありません。

表記	証明書	手数料	発行時期	窓口での手続き方法	注意事項
日本語版	在学証明書	200円	即時発行	不要	
	成績証明書	200円	即時発行	不要	
	卒業見込証明書	200円	即時発行	不要	卒業年次生のみ発行
	修了見込証明書	200円	即時発行	不要	修了年次生のみ発行
	各種資格取得見込証明書	200円	申込から1週間後	証明書自動発行機で「納付書」を発行のうえ、教務チーム窓口にて申込	
英語版	在学証明書	500円	即時発行	不要	
	成績証明書	500円	即時発行	不要	
	卒業見込証明書	500円	即時発行	不要	卒業年次生のみ発行
	修了見込証明書	500円	即時発行	不要	修了年次生のみ発行
	健康診断証明書	200円	即時発行	不要	学内の定期健康診断を受診した人または大学指定の医療機関で期間内に受診した人に対してのみ発行
	学割証	無料	即時発行	不要	有効期間:発行日より3カ月間 発行可能枚数:年間1人あたり10枚まで
	長期休暇期間証明書	無料	即時発行	不要	
	学生証の再発行	1000円	申込から2～3日後	証明書自動発行機で「申込書」を発行のうえ、学生支援チーム窓口にて申込	学生証が手元に無くても申込書の出力が可能です

オンライン発行・コンビニ発行について

本学では自動証明書発行機に加えて、証明書外部発行サービスを利用したオンライン発行なども可能です。本サービスを利用した場合、証明書発行料とは別にシステム利用料や印刷費を要します。詳細は本学WEBページ(<https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/application/apply.html>)をご覧ください。

6. 学費について

[学費納入期日]

前期1期 / 1Q	前期2期 / 2Q	後期1期 / 3Q	後期2期 / 4Q
4月30日	7月31日	10月31日	1月31日

口座自動振替の場合、学費は各納入月の26日に引き落とされます。26日が金融機関の休業日にあたる場合は、翌営業日に振り替えます。入学初年度の前期1期/1Q学費は、入学手続き時の納入となります。学費納入を困難にする経済的事情が発生したときは、速やかに身近な教職員や学生支援チームに相談してください。

[授業料]

学部

期間	国際文化学部	メディア表現学部	芸術学部	デザイン・マンガ学部 / 人間環境デザインプログラム
前期1期 / 1Q	271,500円	296,500円	387,500円	394,750円
前期2期 / 2Q	271,500円	296,500円	387,500円	394,750円
後期1期 / 3Q	271,500円	296,500円	387,500円	394,750円
後期2期 / 4Q	271,500円	296,500円	387,500円	394,750円
合計	1,086,000円	1,186,000円	1,550,000円	1,579,000円

大学院

期間	博士前期課程・修士課程		博士後期課程		
	実技系 芸術・デザイン・マンガ研究科	理論系 人文学・芸術・デザイン・マンガ研究科	芸術・マンガ研究科	予備審査合格者	
前期	1期	262,500円	187,500円	187,500円	79,250円
	2期	262,500円	187,500円	187,500円	79,250円
後期	1期	262,500円	187,500円	187,500円	79,250円
	2期	262,500円	187,500円	187,500円	79,250円
合計	1,050,000円	750,000円	750,000円	317,000円	

学費の延納手続きについて

やむを得ない事情により、学費納入期日までに支払いができない場合は、経理チームからの案内を「セイカ・ポータル」で確認し、所定の期間内に延納願を提出してください。

学費未納による除籍について



学費納入期日や延納期日を過ぎても学費が未納であり、督促を受けても学費が納入されない場合は、学費未納による除籍となります。

大学メールアドレス

1. 大学メールアドレス (Gmail) の付与

在学中は、学生一人ひとりに京都精華大学メールアドレス (Gmail、～@st.kyoto-seika.ac.jp) が付与されます。教員や事務局に連絡する際は、こちらの大学メールアドレスから送信してください。また、この大学メールアドレスは、みなさんに連絡するための情報として教職員で共有しています。大学からの重要なお知らせが届きますので、毎日1回必ず確認してください。

メールアドレスカード

京都精華大学メールアドレスカード	
225A000	セイカ ダイガク
セイカ・ポータル(履修登録など)	
ユーザーID: s225a000	パスワード: 
京都精華大学メール(Gmail)	
ユーザー名: s225a000	パスワード: 
メールアドレス: s225a000@st.kyoto-seika.ac.jp	
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz	
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ 0123456789	

京都精華大学メール (Gmail) 用
『ユーザー名』、『パスワード』
『メールアドレス』



注意

『京都精華大学メールアドレスカード』には、個人の「京都精華大学Webサービス」用のユーザID・パスワードおよび、「京都精華大学メール (Gmail)」用のメールアドレス・パスワードが記載されています。大変重要な情報ですので、各自で厳重に管理してください。これらが第三者に漏れるとメールを読まれたり、成りすましてメールを使用されたりする危険性があります。万が一、メールアドレスカードを紛失した場合は、すみやかに情報管理チーム窓口(対峰館1階)までご相談ください。

2. 大学メールアドレスの確認方法

(1) パソコンで確認する場合

- ① 任意のWebブラウザでGoogleのトップページにアクセスします。
- ② 画面右上のログインボタンをクリックするとログイン画面が表示されます。
※すでにアカウントを持っている場合には、アイコンから「別のアカウントを追加」をクリックしてください。

※すでにアカウントを持っている場合には、「別のアカウントを追加」をクリック



- ③ 以降は画面の案内に従い『京都精華大学メールアドレスカード』に記載されている「京都精華大学メール(Gmail)」の【メールアドレス】と【パスワード】を入力し、【次へ】をクリックします。

以下を入力し **次へ** をクリック
 メール:「京都精華大学メール(Gmail)」のメールアドレス
 パスワード:「京都精華大学メール(Gmail)」のパスワード



- ④ メニューよりGmailをクリックしてください。

Gmailをクリック



(2) スマートフォンおよびタブレットで確認する場合

Webブラウザでパソコン使用時と同様にアクセスするか、無料のメールアプリを活用することをおすすめします。

1. セイカ・ポータルとは

「セイカ・ポータル」とは、本学学生専用の学生生活支援総合サイトです。履修登録手続きを行うほか、学生生活や授業に関する重要な情報が掲載されています。必ず1日1回はログインして情報を確認してください。

「セイカ・ポータル」の主な機能は以下のとおりです。

(1) 履修登録・履修取消

履修登録および履修取消の手続きは、「セイカ・ポータル」で行います。手続き期間を過ぎると履修登録・取消ができなくなりますので、期間内に忘れず手続きを行ってください。

(2) 時間割の確認

履修登録手続き後、決定した時間割はいつでも「セイカ・ポータル」で確認できます。履修登録した授業科目と自分の時間割に誤りがないか、必ず履修登録や履修取消をした後に確認してください。

(3) 成績・単位修得状況の確認

各学期に履修した授業科目の成績、およびその学期までの単位修得状況は、学期末に「セイカ・ポータル」で確認できます。

(4) 休講・補講・教室変更情報の確認

履修登録を行った授業が休講になった場合の情報、休講になった授業の補講に関する情報を確認できます。また、履修登録を行った授業の教室が何らかの事情により変更になった場合も、変更後の教室を「セイカ・ポータル」で確認できます。休講・補講・教室変更の情報はメール(～@st.kyoto-seika.ac.jpのアドレス)で受け取ることもできます。

(5) 学修ポートフォリオの蓄積

ディプロマ・ポリシーに対応した5種の能力がどれだけ身についているかをレーダーチャート形式で確認できます。その他、これまでの単位修得状況やGPAの推移などを一括して確認できます。

(6) その他授業に関する情報の確認

オリエンテーションの案内など授業全体に関わる情報のほか、課題の提出締め切りなど履修登録を行った授業科目に関する情報を確認できます。

(7) 学生生活に関する情報の確認

健康診断や奨学金説明会の案内、施設の利用や各種イベント情報など学生生活に関する情報を確認できます。

(8) アンケートへの回答

「キャンパスライフ・アンケート」や「授業評価アンケート」など、アンケートは、「セイカ・ポータル」より回答してください。

2. 利用上の注意

「セイカ・ポータル」の利用にあたってはいくつかの注意点ががありますので、必ず以下に目を通してから利用してください。

(1) 利用環境について


「セイカ・ポータル」は、パソコンおよびスマートフォンやタブレット型端末で利用することができます。

スマートフォンから利用する場合は、ログイン画面よりスマートフォン専用のURLをクリックしてください。

京都精華大学 学生生活支援総合サイト **セイカ・ポータル**

スマートフォンでの利用について

学生ユーザーはスマートフォン表示のサイトを利用可能です。
その他のユーザー(保護者・教員・職員)はPC版サイトからアクセスしてください。



スマートフォン専用のURLをクリック

(2) 利用が勧められているブラウザソフトを使ってください

ブラウザソフト(インターネットでホームページなどを閲覧するときに使うソフトウェア)は、Microsoft Edge、Google Chrome、Safari、Firefoxの利用をおすすめしています。それ以外のソフトでは表示位置がずれるなど、うまく機能しないことがあります。

(3) 0:00~6:00の間は「セイカ・ポータル」を利用できません

毎日0:00~6:00の時間帯は、データのバックアップを行いますので、「セイカ・ポータル」を利用することはできません。

(4) 30分間、操作ボタンをクリックしないと、ページの有効期限が切れ、再度ログインが必要となります

履修登録手続き中にページの有効期限が切れると、情報が正しく登録されません。定期的に「チェック」ボタンをクリックするといった対処方法を取ってください。

3. セイカ・ポータルへのログイン

(1) セイカ・ポータルへのアクセス

Microsoft Edge、Google Chrome、Safari、Firefoxなどのブラウザソフトを立ち上げて、以下のURLにアクセスしてください。ログイン画面が表示されます。ログインページでスマホ版とPC版を切替可能です。

<https://portal.kyoto-seika.ac.jp/>

〈スマホ版〉

〈PC版〉



(2) セイカ・ポータルへのログイン

入学時に配布された名刺サイズの「メールアドレスカード」に記載されたユーザーIDとパスワードをログイン画面の所定ボックスに入力して、「LOGIN」ボタンをクリックしてください。※「メールアドレスカード」を紛失した場合は、情報管理チーム窓口で再発行の手続きを行ってください。


メールアドレスカード

京都精華大学メールアドレスカード
225A000 **セイカ ダイガク**

セイカ・ポータル(履修登録など)
ユーザーID: s225a000 パスワード: Aa123456789

京都精華大学メール(Gmail)
ユーザー名: s225a000 パスワード: Aa123456789
メールアドレス: s225a000@st.kyoto-seika.ac.jp

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ 0123456789



LOGINを
クリック

(3) スマホ版のログイン後のトップ画面は以下のような構成となっています。

掲示

休講・補講・教室変更などの授業関連情報や学生生活などの各種お知らせが届いていることを知らせます。



クラスプロフィール
授業ごとに課題の確認や提出ができます。

リンク集

授業評価アンケートなどに回答するためのアンケートシステムのほか、学生生活に必要な各種システムへのリンクがまとめられています。

メニュー表示画面



メニューを選択する場合は、画面左上の「≡」を押してください。

(4) PC版のログイン後のトップ画面(以降、トップ画面)は以下のような構成となっています。

メニューバー

履修登録手続き、時間割の確認、シラバス照会、成績・単位修得状況の確認などは、このメニューから行います。

掲示

休講・補講・教室変更などの授業関連情報や学生生活などの各種お知らせが届いていることを知らせます。



リンク集

授業評価アンケートなどに回答するためのアンケートシステムのほか、学生生活に必要な各種システムへのリンクがまとめられています。

クラスプロフィール

授業ごとに課題の確認や提出ができます。

※ログイン後にスマホ版とPC版の切り替えはできません。一度ログアウトし、再度ログインしてください。

● 掲示

キーワードや授業科目から、必要な掲示を検索することができます。



● クラスプロファイル

授業ごとに課題を確認したり、Web上で課題を提出することができます。



4. セイカ・ポータルのマニュアル掲示

各種機能の操作マニュアルは、セイカ・ポータルの掲示板および ⓘ アイコンより確認できます。

(1) 掲示板で確認する

以下の手順で確認してください。

- **PC版** 「掲示」▶ キーワード検索窓にて「セイカ・ポータル利用マニュアル」と入力 ▶ 「検索」ボタンをクリック
- **スマホ版** 「掲示」▶ 「検索する」バー右の「+」ボタンをクリック ▶ キーワード検索窓にて「セイカ・ポータル利用マニュアル」と入力 ▶ 「検索」ボタンをクリック

(2) ⓘ マークより確認する

右上にマークが表示されているページは、表示しているページに関連した各機能のマニュアルが掲示されています。履修登録などのマニュアルを掲示していますので必要に応じて確認してください。

1. 奨学金制度

奨学金は減免・給付型と貸与型に大別されます。減免・給付型は、返済の必要のない奨学金、貸与型は返済しなければならない奨学金です。

また、奨学金には本学が独自に設けている制度と、国やそのほか地方自治体などが設けている制度があります。

※募集時期は下表を参照してください。ただし、募集時期は変更することがありますので、必ず「セイカ・ポータル」の掲示を確認してください。

京都精華大学独自の
奨学金のページ

国内学生

留学生



(1) 京都精華大学独自の奨学金

奨学金の種類	金額(年間)	対象	採用人数	選考基準(抜粋)	出願・選考方法	時期
英語資格取得 奨学金 給付	500,000 円	国際文化学部 グローバル スタディーズ 学科に在籍 する国内学生 (2~4年生)	不定	本制度の出願前年度に下記のTOEICスコアを取得した者。(ただし、出願年度に留年している者は出願不可) ● 学部1年次修了までにTOEIC L&R 580以上 ● 学部2年次修了までにTOEIC L&R 690以上 ● 学部3年次修了までにTOEIC L&R 785以上	【出願】 出願書類を学生支援チームに提出 【選考】 提出書類により選考	要項公表:4月上旬 申込締切:5月下旬 審査・選考:6月上旬 採否通知:6月中旬
成績優秀 奨学金 減免	年間 授業料の 1/4の額	国内学生 全学部 留学生 全学部	45名 (各学年15名、 国内学生と 留学生の 合計人数)	学部2~4年生に在籍する学部生のうち、以下のすべてを満たす者 ● 標準的な単位数を前年度までに修得している者(2年生:31単位、3年生:62単位、4年生:93単位) ● 前年度GPAが3.0以上の者 ● 対象となる年度および前年度に休学していない者	【出願】 不要 【選考】 成績要件を満たす者のうち成績上位者を採用	対象者確認:5月下旬 審査・選考:6月中旬 採用通知:7月上旬 (採用者のみに通知)
私費 外国人留学生 大学学費減免 減免	年間 授業料の 1/4の額	留学生 全学部	84名 (各学年28名)	学部2~4年生に在籍する私費外国人留学生のうち、以下のすべてを満たす者 【経済要件】 ● 仕送り(授業料を除く)が平均月額70,000円以下であること ● 家賃(共益費含む)が月額25,000円以下であること ● 在日している扶養者がいる場合、その年収が500万円以下であること 【成績要件】 ● 標準的な単位数を前年度までに修得している者(2年生:31単位、3年生:62単位、4年生:93単位) ● 前年度GPAが2.5以上の者 ● 対象となる年度および前年度に休学していない者	【出願】 出願書類を学生支援チームに提出 【選考】 提出書類と成績により選考	要項公表:6月上旬 申込締切:6月下旬 審査・選考:7月中旬 採否通知:7月下旬
海外プログラム 学修奨励 奨学金 減免	年間 授業料の 1/2の額	国内学生 全学部 国内学生 全研究科 留学生 全学部 留学生 全研究科	20名 (国内学生と 留学生の 合計人数)	● 本学の海外協定校への交換留学および海外プログラム(ショートプログラムは除く)を履修する者 ● TOEFL-ITPの得点が550点以上の者 ● 出願の前学期までの通算GPAが3.0以上の者 ● 出願の前学期までの必修科目の単位数をすべて取得済の者 ● 出願の前学期までの修得済単位数が1クォーターあたり平均8単位以上(資格課程科目の単位数と認定単位数は除く)の者 ● 過去に本奨学金を受給していない者	【出願】 出願書類をグローバル推進グループに提出 【選考】 提出書類および面接により選考	【秋出発】 要項公表:5月下旬 申込締切:7月下旬 審査選考:8月上旬 採否通知:8月下旬 【春出発】 要項公表:11月下旬 申込締切:1月下旬 審査選考:2月上旬 採否通知:2月下旬
海外プログラム 履修奨励 貸与奨学金 貸与/無利子	最大 300,000 円	国内学生 全学部 留学生 全学部	不定	● 正課科目として開講する海外プログラムを受講する意志があるにもかかわらず、経済的な理由で履修困難な学生	【出願】 出願書類をグローバル推進グループに提出 【選考】 提出書類により選考	プログラム実施時期に応じて適時「セイカ・ポータル」で募集

奨学金の種類	金額(年間)	対象	採用人数	選考基準(抜粋)	出願・選考方法	時期
国内学生 大学院 学費減免 減免	博士前期・ 修士課程 年間 授業料の 1/2の額 博士 後期課程 年間 授業料の 3/4の額	国内学生 全研究科	博士前期・ 修士課程 4名 (各学年2名) 博士 後期課程 3名 (各学年1名)	【経済要件】 学費支弁者の収入が本学が定める経済基準(給与収入の方で年収約300万円以下)を満たす者 【成績要件】 ■ 博士前期・修士課程 1年生: ● 成績要件なし 2年生: ● 標準的な単位数を前年度までに修得している者(2年生:16単位) ● 前年度GPAが3.0以上の者 ● 対象となる年度および前年度に休学していない者 ■ 博士後期課程 1年生: ● 成績要件なし 2・3年生: ● 標準的な単位数を前年度までに修得している者(2年生:6単位、3年生10単位) ● 前年度GPAが3.0以上の者 ● 前年度に研究科において研究計画の進捗状況が良好であると認められた者 ● 対象となる年度および前年度に休学していない者	【出願】 出願書類を学生支援チームに提出 【選考】 提出書類と成績により選考	要項公表: 5月下旬 申込締切: 6月下旬 審査・選考: 7月上旬 採否通知: 7月中旬
私費 外国人留学生 大学院 学費減免 減免	博士前期・ 修士課程 年間 授業料の 1/2の額 博士 後期課程 年間 授業料の 3/4の額	留学生 全研究科	博士前期・ 修士課程 10名 (各学年5名) 博士 後期課程 3名 (各学年1名)	【経済要件】 ● 仕送り(入学金、学費を除く)が平均月額70,000円以下である者 ● 家賃(共益費含む)が月額25,000円以下である者 ● 在日している扶養者がいる場合、その年収が500万円以下である者 【成績要件】 ■ 博士前期・修士課程 1年生: ● 成績要件なし 2年生: ● 標準的な単位数を前年度までに修得している者(2年生:16単位) ● 前年度GPAが3.0以上の者 ● 対象となる年度および前年度に休学していない者 ■ 博士後期課程 1年生: ● 成績要件なし 2・3年生: ● 標準的な単位数を前年度までに修得している者(2年生:6単位、3年生:10単位) ● 前年度GPAが3.0以上の者 ● 前年度に研究科において研究計画の進捗状況が良好であると認められた者 ● 対象となる年度および前年度に休学していない者	【出願】 出願書類を学生支援チームに提出 【選考】 提出書類と成績により選考	要項公表: 6月上旬 申込締切: 6月下旬 審査・選考: 7月中旬 採否通知: 7月下旬
短期 奨学貸付金 貸与/無利子	最大 30,000 円	国内学生 全学部 国内学生 全研究科 留学生 全学部 留学生 全研究科	不定	● 学生生活維持のために緊急の出費を要する者 ● 貸与から6カ月以内に返還できる者 ※休学中の学生は対象外	【出願】 出願書類を学生支援チームに提出 【選考】 提出書類により選考	随時
自然災害等の 被災者に対す る学費減免等 救援措置 減免	最大 年間授業料 の1/2の額	国内学生 全学部 国内学生 全研究科 留学生 全学部 留学生 全研究科	不定	● 災害救助法の適用地域に本人もしくは学費支弁者が居住し、就学継続が著しく困難となった者	【出願】 出願書類を学生支援チームに提出 【選考】 提出書類により被災状況と家計、国や地方公共団体による支援状況、学内外の奨学金利用状況を総合的に審査	災害発生時

(2) 日本学生支援機構 (JASSO) 奨学金 (国内学生対象奨学金 ※外国籍の方も対象となる場合があります)

●『給付奨学金+授業料等減免』(「高等教育の修学支援新制度」)

本学は「高等教育の修学支援新制度」の対象機関に認定されています。この制度は修学意欲がありながらも経済的な理由により進学が困難な学生の経済的負担の軽減を目的とした国による支援制度です。日本学生支援機構の「給付奨学金」を受けるのと同時に「授業料や入学金の減免」の支援を受けることができます(どちらも返還不要)。I～IVの支援区分があり、毎年家計基準により支援区分の見直しがされ、給付奨学金月額と授業料等減免額が決定します。

(2025年度から本制度について改正されます。詳細は本学WEBサイトでご確認ください。)

●『貸与奨学金』(第一種・第二種・入学時特別増額貸与奨学金)

貸与奨学金は返還が必要な奨学金制度です。無利子の第一種貸与奨学金(月額2万円～6万4千円)・有利子の第二種貸与奨学金(月額2万円～12万円)、入学時特別増額貸与奨学金(一時金10万円～50万円)があり、貸与を受ける金額は自分で決めることができます。

● 申込みについて

「定期採用」:年2回(春期・秋期)申込みを受け付けます。募集時期には説明会を開催しますのでご参加ください。(4月・10月)

募集期間・説明会開催日時については、セイカ・ポータルでお知らせをしますのでご確認ください。
「家計急変・緊急・応急採用」:進学前又は在学中に被災や父母等の病気との事由により家計が急変し奨学金支援が必要とする場合、通年で随時申込みを受け付けます。家計急変の事由発生後から申込み迄の期限がありますので、申込みを希望する場合は速やかに学生支援チームへご相談ください。

京都精華大学WEBサイト
(JASSO奨学金)



(3) その他

各地方公共団体・民間育英団体が運営する奨学金制度については、学生支援チームにお問い合わせください。

2. 教育ローン

民間の金融機関や日本政策金融公庫など国の金融機関が設ける、資金用途を教育関連費用に限定した個人対象のローン制度です。本学が提携する、みずほ銀行、オリエントコーポレーション、セディナ(SMBCファイナンスサービス)、滋賀銀行では、融資利率が優遇され、有利な条件で融資を受けることができます。制度の詳細については、大学Webサイト(「教育ローン」のページ)に掲載されている各金融機関へお問い合わせください。

京都精華大学WEBサイト
(教育ローン)



1. 教員に相談するには

本学の専任教員に相談・質問がある場合は、オフィスアワーを利用することができます。オフィスアワーとは、指定された時間帯に、教員の研究室を訪れ、授業に関する質問や学生生活に関する相談などを行うことができる制度です。各教員が設けているオフィスアワーの時間帯は、「セイカ・ポータル」もしくは教務チームで確認することができます。

2. ハラスメントに関する相談窓口

ハラスメントとは、言葉や行為により、相手方に不利益や不快感を与え、その尊厳を傷付けることを意味します。本学では、ハラスメントに関する学内相談窓口を設置しています。また、相談者のプライバシー保護を優先し、秘密を厳守します。

● ハラスメント相談室

[学生支援チーム] 受付時間 9:00～17:00(月曜日～金曜日)

TEL: 075-702-5265 E-mail: gsoudan@kyoto-seika.ac.jp

[総務チーム] 受付時間 9:00～17:00(月曜日～金曜日)

TEL: 075-702-5336 E-mail: soudan@kyoto-seika.ac.jp

[教務チーム] 受付時間 9:00～17:00(月曜日～金曜日)

TEL: 075-702-5230 E-mail: ksoudan@kyoto-seika.ac.jp

3. 学生相談室（臨床心理士による相談・フリールーム）

学生相談室では、気分が落ち込む、心理的不調がある、授業に出られないなど、様々な悩みを臨床心理士に相談することができます。病院紹介や各種連携も行っていますので、気軽に相談してください。相談は予約制です。右の2つの方法のどちらかで申し込むことができます。また、学生相談室内には「フリールーム」があります。授業の合間にくつろぎたい、静かに過ごしたいときなど、くつろぎのスペースとして利用できますので、気軽にたずねてみてください。開室時間は、12:00～17:00(月曜日～金曜日)です。変更や臨時閉室などは、学生相談室前の掲示などで確認してください。

● 予約方法

1. 専用アドレス gakusou2020@kyoto-seika.ac.jp にメールを送信する
2. 「予約申込票」に記入し、学生相談室前のポストに投函する

※メールには「氏名・学籍番号・学部・学年・相談したいこと・来室可能な曜日と時間帯」を記載してください。

※「予約申込票」は本館3階の学生相談室前や本館1階の学生支援チーム前に置いてあります。

※申込みから次回予約の決定まで1～2週間かかることがあります。

● 受付時間

10:00～17:00(月曜日～金曜日)

4. 障害学生支援

障害学生支援室は、障害等の理由により修学上の支援が必要な学生のための相談窓口です。ここでは、コーディネーターとよばれる専門スタッフと共に、困りごとを整理したり、その困りごとに対応するための支援方法を考えたりすることができます。相談内容に応じて、所属学部・研究科や学内外の関係機関とも連携しながら、学生一人ひとりに応じた修学支援を行っていますので、困りごとや不安なことがある方は、遠慮なく相談してください。また、講義の情報保障（パソコンテイクや字幕制作など）やガイドヘルプなどを行う学生サポーター（学内アルバイト）を随時募集しています。「セイカ・ポータル」などで募集を案内しますので、活動に興味がある方は、ぜひ参加してください。

◎連絡先 | TEL: 075-702-5268 E-mail: shien@kyoto-seika.ac.jp ◎場所 | 本館1階 学生支援チーム内

[その他相談窓口について]

学生生活の様々な場面における各種相談窓口については、上記以外にも、学習のてびき P.14の「事務局各種窓口案内」や大学ウェブサイト「お問い合わせ一覧」-「在学生の方（授業／学生生活／学費納入など）」<https://www.kyoto-seika.ac.jp/contact.html> に記載されていますので、参照のうえ相談してください。そのうえで、もしどこに相談すべきか不明な場合は、本館1階の学生支援チームにまずは相談してください。

◎連絡先 | TEL: 075-702-5101 E-mail: gakusei@kyoto-seika.ac.jp

5. 定期健康診断

春季オリエンテーション期間中に学内で定期健康診断を無料で受診することができます。自身の健康状態の確認のために必ず受診してください。とくに教職課程の介護等体験対象者や就職活動を控えた3・4年生は、体験先や企業に健康診断書を提出する必要があります。定期健康診断を受けず、後で健康診断の必要が生じた場合は自費(15,000円程度)で受診することになります。健康診断の日程は学部・学年別に指定されます。なお、性別違和や健康上の理由などで別日程の受診を希望する人を対象に専用の時間帯を設けていますので、希望者は学生支援チームに相談してください。

6. 文化施設の特別優待

(1) 学生証の提示により無料・優待価格で利用できる施設

京都国立近代美術館／国立国際美術館／京都国立博物館／奈良国立博物館／細見美術館／茶道資料館／京都市動物園(学生支援チームで無料入場券を配布)／京都国際マンガミュージアム

(2) 京都市キャンパス文化パートナーズ制度

本学は京都市キャンパス文化パートナーズ制度に加入しています。同制度は、学生が文化芸術に対する理解を深め、学生生活をより豊かなものとするために、京都市が設けているものです。本学の学生は、この制度に登録・入会すると、学生証と携帯会員証の提示により、特定の文化施設を利用する場合に優待を受けることができます。利用できる文化施設や登録方法などの詳細は、京都市Webサイトで確認してください。

※詳細は大学Webサイトで確認してください

大学Webサイト
「文化施設の特別優待」



京都市キャンパス文化
パートナーズ制度



7. 無償で利用できるアプリケーション

本学では各種企業とソフトウェア利用に係る包括契約を結んでいるため、本学の正規課程に在籍する学生は以下のアプリケーションを無償で使用できます。

(1) Adobe Creative Cloud「Photoshop」「Illustrator」「After Effects」「Premiere Pro」など

(2) Microsoft 365 (Office)「Word」「Excel」「PowerPoint」など

※上記のアプリケーション利用は、在籍期間中に限られます。利用に関する詳細は、情報管理チーム窓口(対峰館1階)にお問い合わせください。

8. アルバイトの紹介

本学では「バイトネット(学生アルバイト紹介システム)」を通じて、アルバイト情報を提供しています。「バイトネット」では、業務内容や労働条件などを厳正に審査し、安心して優良な求人情報のみを紹介しています。

※「バイトネット」は、本学が業務提携する株式会社学生情報センターが運営する求人情報提供サイトです。

「バイトネット」

京都精華大学専用ページ

<https://www.aines.net/kyoto-seika>



利用登録には大学が発行するE-mailアドレス(@st.kyoto-seika.ac.jp)が必要です。下記の手順に沿って利用登録を行い、「バイトネット」のIDとパスワードを取得してください。

【登録の手順】

1. 「バイトネット」京都精華大学専用ページから「利用登録」ページを開く。
2. 大学が発行するE-mailアドレス(@st.kyoto-seika.ac.jp)を入力する。@以下まで省略せずに入力すること。
3. 大学が発行するE-mailアドレス宛に「バイトネット」のID・パスワードが送信される。

9. 住まいの紹介

本学では、提携業者を通じて、アパート、マンション等の住まいを紹介しています。希望する方は総合窓口となる株式会社フラットエージェンシーにご相談ください。また、本学学生のための物件検索サイト「賃貸京都.jp 京都精華大学」でも提携業者各社が管理する物件を検索できます。

株式会社フラットエージェンシー 本店

☎ 0120-75-0669 ◎営業時間 | 10:00~18:00 ◎定休日 | 火曜日

※詳しくはWebサイトをご確認ください

賃貸京都.jp
京都精華大学



10. 学外アトリエ「the SITE」

本学が所有するレンタルスペースです。アトリエ・事務所・店舗として貸し出しをしています。

学外アトリエ「the SITE」 ◎所在地 | 京都市左京区田中東春菜町30番地3 ◎アクセス | 叡山電鉄叡山本線「元田中」「茶山」駅 徒歩5分

◎賃料 | 4.5万円から13万円+消費税(共益費8,000円+消費税) ◎問い合わせ先 | 総務チーム TEL: 075-702-5131

1. 忘れ物・落とし物の取り扱い

学内で忘れ物・落とし物をした場合、または拾得した場合は、学生支援チームへ届け出てください。持ち主が判明した場合は本人に連絡をします。また、持ち主が分からない拾得物は、1カ月間保管した後に処分します(財布、携帯電話、キャッシュカードなどの貴重品は、1週間後に警察署に届け出ます)。 ※キャッシュカードやクレジットカードなどを紛失した場合は、速やかに最寄りの警察署・交番へ届け出るとともに、銀行または発行会社に必ず連絡してください。

2. 郵便物の取り扱い

学生個人宛の郵便物や宅配便などを大学が受け取ることはできません。自宅を受け取るよう手配してください。

3. 京都精華大学環境方針

本学では、2022年4月1日に以下の環境方針を策定しています。

(1) 基本理念

京都精華大学は「自由自治」を教育理念とし、芸術・文化の教育を通して、あたらしい社会と文化の創造に取り組んでいる。本学は、その活動を基盤として、ひとびとが自然と調和し、自由と平和を享受できる未来の実現をめざす。これは、自然環境、社会環境、生活環境といった人間をとり巻くあらゆる次元での環境において追求されるものである。そのために、大学の教育活動によって、環境に関する意識を醸成するとともに、様々な実践をとり入れて、人類史の展開に尽くそうとする人間の育成をはかる。

(2) 基本方針

- ① 京都精華大学の教員・職員・学生および常駐する委託会社社員を含めた全員が協力し、自然環境と共生した人間を含めた生物にとって健康かつ安全で快適なキャンパス空間の創造につとめる。
- ② 大学の教育活動を通じ、学生の環境意識を形成し、一人ひとりが責任と自覚を持ち、自発的に行動できる人間の育成につとめる。
- ③ 大学が社会的存在であることをふまえ、学生の社会的成長をうながすための、社会に開かれた教育プログラムを設定し、展開する。
- ④ あらゆる活動において、使用エネルギーの削減、資源の有効利用など、エネルギー効率を高める方策に積極的に取り組み、また環境汚染を予防するための関連法規などを遵守する。

4. 快適なキャンパスライフのためにできること

快適なキャンパスライフを維持するために、本学の構成員として実行してください。

(1) ごみ分別は「義務」です

- ① 日常のごみは、種類別に分別廃棄する。
- ② 制作ごみは、朝夕館横の集積場に分別廃棄する。
※P.30「京都精華大学ごみ分別表」参照
※正しく分別しないと回収を断られることがあります。
※特に「紙ごみ」と「プラスチックごみ」を「燃えるごみ」に入れるケースが目立ちます。

(2) 安全で快適なキャンパスを作り、守る

- ① 実習室や設備などは整理整頓し、きれいに使う。
- ② バイクは専用駐車場に停める(キャンパス内乗り入れ禁止)。
- ③ 自転車は押して歩く(キャンパス内走行禁止)。
- ④ 指定喫煙場所以外は禁煙(歩きタバコ、ポイ捨て禁止)。
※P.254～255キャンパスマップ参照
- ⑤ 防火扉の前や点字ブロックの上に物を置かない(一時的であってもダメ)。

(3) 限りある資源やエネルギーを大切に


- ① 教室や実習室はこまめに消灯、エアコンや換気扇のスイッチもOFF。
- ② 冷房は28℃、暖房は20℃設定にする。
- ③ トイレの暖房便座は必ずふたを閉める。
- ④ 余ったペンキや溶剤類は、流しや水路に流さず、ウエスで拭き取り、「燃えるごみ」に出す。
- ⑤ 「プラスチックごみ」、「缶・ペットボトル」、「紙ごみ」はリサイクルのため分別してごみに出す。

5. ごみの分別について

大学から出すごみは分別することが義務となっています。大学の構成員として、以下の分別表に従ったごみの分別を行ってください。正しく分別しない場合、ごみ回収を断られることがあります。不明な点は下記担当(施設管理チーム)までご連絡、ご相談ください。

京都精華大学ごみ分別表

適切に分別しましょう
～混ぜればごみ、分ければ資源～




プラスチック

- ビニール類 (ビニール紐・PPバンド・梱包材など)
- プラスチック製容器・包装※1
(カップ・キャップ・フィルム・ラベルなど(☑)がついたもの)
- 発泡スチロール※2 ●スチレンボード※2
- プラスチック製品
(クリアファイル・ペン・ディスク・ラミネートされたものなど)

※1:
・飲食物がついた容器は、洗うか
汚れをふき取ること
・インク類の空容器は朝夕館の集積場へ

※2:
・細かく削ったものは透明ビニール袋に
まとめること
・サイズが大きいものは朝夕館の集積場へ



缶・ペットボトル


- 飲料用の缶・ペットボトル

飲食用ガラスびん

専用回収箱へ

●溶剤類のびんは朝夕館の集積場へ

●割れたびんは袋に入れ
ごみ箱の前に置くこと



紙・紙製品

- コピー用紙・メモ用紙
- ハガキ・チラシ・ポスター
- 封筒
- 画用紙
- 包装紙・紙袋・紙箱・紙筒
- ボール紙・クラフト紙

古紙回収となるもの


ごみ箱の横にまとめて置く

- 段ボール
- 新聞紙、雑誌、書籍
- シュレッダーごみ

機密書類

段ボールに詰め、封をせず施設管理担当まで

クリップやファイル、機密性のないチラシや封筒などは入れないこと



燃えるごみ


- 生ごみ ●わりばし ●紙コップ・紙パック
- 合成紙・粘着紙(写真・光沢紙・粘着シールなど)
- 感熱紙(レシート・カーボン紙など)
- 耐油紙(パラフィン紙・トレーシングペーパーなど)
- 汚れた紙類(使用済みティッシュ類・食品や油で汚れた紙皿やシートなど)
- 布(ウエス・ぞうきん・不織布など) ●その他(輪ゴム・ガムテープなど)

汚れたプラスチック容器は、洗うか
汚れを拭き取りプラスチックへ

実習室内のごみ箱も
「燃えるごみ」と同様です。

ごみ箱に廃棄できないもの 朝夕館の集積場に分別してください

朝夕館の搬入は
9:00～16:00



搬入時には必ず用務員さんに
声をかけてください

廃プラスチック

※上記ごみ箱に入らないサイズの大きいもの

- 発泡スチロール
- スタイロフォーム
- 樹脂制作物
- FRP制作物

プラスチック以外の素材は取り除くこと

木くず

- パネル
- コンパネ
- 看板

木以外の素材は取り除くこと

おかぐずは透明ビニール袋にまとめて実習館前へ

溶剤類の缶・びん

少量残っている場合はウエス等で拭き取ること

スプレー缶は使い切り穴をあけて中を空に

陶磁器・ガラスくず

包装紙などは取り除くこと

石膏くず

液状の石膏は乾燥させること

廃蛍光灯

金属くず

電化製品・大型ごみに関して

- テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコン
- ※家電リサイクル料金が掛かります
- パソコン・プリンター
- 大型ごみ(畳・ソファなど)

処理を希望される場合は、事前に施設管理担当まで(個人所有物は大学では処理できません)

電池類

専用回収箱へ

その他、各学科・コースで特有なもの(廃液など)は個別に回収しています

【施設管理チーム】TEL:075-702-5228

緊急事態発生時の対応・事前対策

1. キャンパス内で火災・地震が発生した際の対応

(1) 火災が発生した(火災を発見した)場合

- ① 大声で周囲に知らせ、火災報知機を押す。または通報する。

施設管理チーム TEL:075-702-5228

警備棟 TEL:075-722-3729

消防署 TEL:119

- ② 廊下または実習室内に設置してある消火器や消火栓で初期消火をする。

消火器の使用方法

1. 安全栓(黄色いリング)を抜く
2. ホースを外し、火元に向ける
3. レバーを強く握り、放射する(消火器の放射時間は15秒!)
4. 1本で消せない場合は周囲に応援を呼ぶ

- ③ 初期消火できない場合は、安全な場所へ避難する。

避難にはエレベーターを使わず、必ず階段を使うこと。煙が発生している場合は、身をかがめて低い姿勢になり、ハンカチで口を覆うなど煙を吸い込まないようにすること。

(2) 地震が発生した場合

- ① 丈夫な机の下に避難し、衣類やかばんなどで頭を守るなど身の安全を図る。
- ② 窓や扉を開けるなど出口を確保する。
- ③ 必ず火を止め、万一出火した場合は初期消火をする。
- ④ 扉を開けたままにし、負傷者を優先し、安全な場所へ避難する(すぐに外に出ないこと)。

● 避難場所はグラウンドです。

※火災予防のため日ごろから消火器や消火栓、防火扉の前には物を置かないでください。
※廊下や階段、非常口は避難経路となるため日ごろから物を置かないよう心がけてください。

2. 災害に備えた対策・基礎知識

(1) 日頃の対策

被害や不安を少しでも軽減するために以下の対策をしておきましょう。

- ① 避難場所の確認(大学付近および自宅周辺など)
- ② 家族との連絡方法および待ち合わせ場所の確認
- ③ 災害用伝言サービスの確認と登録(事前登録が必要な場合があります)
- ④ 帰宅ルートおよび所要時間の確認
- ⑤ 転倒防止対策や緊急時アイテムの確認
- ⑥ 大学や友人などへの連絡方法の確認とリスト整備

(3) 家族への連絡方法

① NTT災害用伝言ダイヤルサービス

地震など大災害発生時、電話がつながりにくい状況になったときに、提供されるサービスです。

● 伝言の録音方法

- ① 「171」へ電話をかけます。ガイダンスが流れます。
- ② 「1」をダイヤル。
- ③ 市外局番+自宅電話番号。

● 伝言の再生方法

- ① 「171」へ電話をかけます。ガイダンスが流れます。
- ② 「2」をダイヤル。
- ③ 市外局番+被災地の人の電話番号。

※被災地にいる人も、被災地以外にいる人も利用方法は同じです。

② 携帯各社の災害用伝言板サービス

携帯電話各社でも災害発生時に「災害用伝言板」などのサイトが利用できるようになります。事前登録が必要な場合もありますので、利用方法を確認しておきましょう。

(4) 大学への安否報告

災害が発生した場合、大学は学生の安否確認を行います。災害発生時に登校していない場合は、連絡可能になり次第、電話かメールで学生支援チームに連絡してください。その際には、学籍番号、氏名、現在の状況を知らせてください。

学生支援チーム TEL:075-702-5101

E-mail:gakusei@kyoto-seika.ac.jp

ケガ・体調不良時の対応

1. 学内でのケガ・体調不良

学内でケガをした場合や体調が悪くなった場合は、保健室を利用することができます。保健室には看護師が常駐し、応急手当や健康に関するアドバイスをしています。

保健室 (本館1階)	開室時間 (授業期間中のみ)	月～金 10:00～17:00(閉室時間13:00～14:00) 土 10:00～14:30(閉室時間13:00～14:00)
---------------	-------------------	--

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」(薬機法)に基づき、保健室では一般医薬品(内服薬等)を取り扱っていません。体調不良が心配な方は、主治医や薬局(薬剤師等)と相談のうえ、緊急時に対応できる自分にあった薬を携帯するようにしてください。

2. 医療機関

本学では、以下の医療機関と提携し、学生の保健管理や健康診断を行っています。

丹羽内科医院(校医)

京都市左京区岩倉三宅町360(叡山電車「八幡前」駅下車、北へ徒歩5分) ◎TEL | 075-781-5221

◎診察時間 | 9:00～12:00、17:00～19:00 ◎休診日 | 木曜・日曜・祝日・土曜午後 ◎URL | <http://www.niwanaika.net>

校医以外の大学周辺の医療機関については、保健室で紹介しています。必要に応じて問い合わせてください。

3. 学内で傷病者を発見したら

学内で傷病者を発見したときは、慌てずに周りの人に知らせ、協力して応急手当をすするとともに、教職員に連絡し、指示を仰いでください。

緊急時に備え、本学ではAED(自動体外式除細動器)をキャンパスおよび学外施設に設置しています。AEDは、心肺停止者が心室細動状態か否かを自動的に判断し、必要に応じて電気ショックを与える医療機器です。キャンパス内に4カ所、学外施設に3カ所設置しており、誰でも利用できます。

AED設置場所

(1) キャンパス内 ※P.254～255キャンパスマップ参照

①本館1階 ②体育館1階 ③情報館2階 ④警備棟

(2) 学外施設

①京都国際マンガミュージアム ②丹後学舎 ③朽木学舎

4. 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険

本学では、全学生が入学時に「学生教育研究災害傷害保険」および「学研災付帯賠償責任保険」に加入しています。

講義や実習、課外(クラブ)活動、通学中の事故によるケガの治療、他人にケガをさせたり、器物を破損してしまったときの賠償には、一定条件の下に保険金が支払われます。そのような場合は、速やかに学生支援チームに連絡してください。

● 学生教育研究災害傷害保険

国内外における正課中(講義、実習、演習)、学校行事、大学が認めた課外活動(クラブ・サークル、インターンシップ、ボランティア活動)などの教育研究活動中、学内施設利用中、通学中の事故によるケガを治療した場合、一定条件のもとに保険金が支払われます。

● 学研災付帯賠償責任保険

国内外における正課中(講義、実習、演習)、学校行事、大学が認めた課外活動(インターンシップ、ボランティア活動)またはその往復において、他人にケガをさせた場合や、他人の器物を破損させてしまった場合、一定条件のもとに保険金が支払われます。

※インターンシップを保険対象とするためには、事前にキャリア支援チームに届出書を提出する必要があります。

様々なトラブルを防ぐために

1. 飲酒・喫煙時の注意 (20歳未満の飲酒・喫煙は違法です)

(1) 飲酒

2010年に発生した学生の飲酒死亡事故以降、学内外を問わず大学施設内での飲酒はできません。

- ① アルコールハラスメントはやめましょう。イッキ飲み、罰ゲーム、上下関係で飲酒を強要する、その雰囲気をつくる、大量に飲ませて酔いつぶす、酔ってからむなど、すべてがアルコールハラスメントであり、人権侵害です。命を失うケースもあり、傷害などの犯罪に発展する可能性のある極めて悪質かつ危険な行為です。絶対にやめましょう。
- ② 飲酒運転はやめましょう。お酒を飲んで、車・バイク・自転車を運転することは法律で固く禁止されています。また、飲酒運転は本人だけでなく第三者にも迷惑や被害を与える大きな事故につながります。また、お酒を飲んでいる人の運転を制止する立場にありながら止めなかった人も処罰の対象となることがあります。絶対にやめましょう。

(2) 喫煙

すべての人が快適にすごせるキャンパスづくりのために、キャンパスは指定場所以外全面禁煙です。喫煙の際には、タバコを吸わない人に煙を吸わせることや、不快な思いをさせることがないように、周囲に配慮し、マナーを守ってください。歩きタバコ、吸いがらのポイ捨てはやめましょう。本学における特定屋外喫煙場所はP.254～255のキャンパスマップに記載されています。

2. 薬物乱用の防止

大麻や覚せい剤、麻薬などの違法薬物を使用することは犯罪です。違法薬物はその乱用だけでなく所持も禁止されており、例えば、大麻所持の場合は5年以下の懲役に処せられます。

特に近年は青少年による大麻事犯が増加傾向にあり、2019年には本学学生6人が大麻取締法違反(所持)の罪で逮捕・起訴されました。インターネット等において「有害性がない」などの誤った情報が氾濫していますが、大麻の乱用は、青少年期に構築される脳・神経系の正常な発達及び成熟に障害を起こす可能性が強く示唆されており、10代の頃から使い始めると依存症になる危険が高まることが報告されています。また、近年では若年層によるオーバードーズ(一般用医薬品を、決められた量を超えて摂取すること)も薬物乱用として社会問題化しています。

薬物乱用はただ一度の使用でもあなたの人生を台無しにし、家族や友人などあなたに関わる周囲の人も傷つける恐れがあります。自ら使用しないことが大切ですが、他者から誘われた場合もしっかりと断り、必ず自分を守ってください。もし、あなたの周囲で使用の可能性がある場合はすぐに学生支援チームか教職員へ相談してください。大学に相談することは友人やクラスメイトを裏切る行為だと自身を責めることはありません。薬物乱用を止めないことのほうが、その人の人生を悪化させる恐れがあるからです。

また、「合法ドラッグ」や「合法ハーブ」といった危険ドラッグに関する事故やトラブルも起きています。身体への影響がなく安全であるかのように誤解されていますが、危険度は麻薬と同じ、またはそれ以上です。

違法薬物は絶対に買わない、使わない、かかわらないようにして自分を守ってください。そして、医薬品は正しい目的や方法で使用しましょう。

薬物乱用に関するメールでの相談窓口 | gakusei@kyoto-seika.ac.jp

3. ネット上のマナーおよび個人情報の取り扱いに関する注意

インターネットは、情報の収集や交流など、私たちの生活に欠かせないツールですが、無防備な書き込みによるトラブルやフィッシング詐欺など、多くの社会問題も起きています。インターネット上の発言は、全世界の人に見られる可能性があり、一度書き込んだ内容を完全に削除することはできません。特に近年はSNSをきっかけにした学生間のトラブルが数多く発生しています。アカウントに鍵をかけたか、特定の相手をブロックしたりしていても友人などを通じて相手に伝わる場合がありますので、個人情報や他人の人権を傷つける発言など、無防備・無責任な書き込みをしないよう気をつけましょう。また、芸術・表現を学ぶ学生としての自覚を持ち、著作権や肖像権の正しい理解と配慮を心がけましょう。

4. 悪徳商法・悪質団体への注意

甘い話・うまい話で一時的に気を引いて高価な商品売りつけたり、執拗な勧誘や断りにくい状況の中で契約をさせようとしたりする「悪徳商法」には十分注意をしましょう。

クーリング・オフ制度(契約を締結した場合でも、一定の期間であれば無条件で契約の申込みを撤回したり、契約を解除したりできる制度)等の事後対応も大切ですが、まずはそうした怪しい誘いに乗らないよう冷静に判断しなくてはなりません。被害に遭ってしまったかもしれない、という時は、家族や大学、消費生活センターに相談をしてください。

悪徳商法の主な手口

・マルチ商法

商品を買って会員になり、知人を紹介して商品を買ってもらうと紹介料や成功報酬などの利益を得ることができるというもの。実際は利益が保証されているものではなく、借金が残ってしまう場合もある。

・キャッチセールス

販売の目的を隠し、「街頭アンケートに協力してほしい」「無料体験を行っている」などと路上で声をかけて営業所や飲食店に誘導し、強引に商品売りつけるもの。

・デート商法

恋愛感情を利用して高額な商品を買わせようとするもの。SNSやマッチングアプリ等を使用して近づき、時には複数人で勧誘され断れない状況に追い込まれたり、強引に借金をさせられたりすることもある。

独立行政法人国民生活センター URL | <http://www.kokusen.go.jp>

3

キャリア支援

Career Support

セイカのキャリア支援

1. セイカのキャリア支援の考え方

「好きや得意を仕事に」を本気で支援

セイカのキャリア支援のコンセプトは「好きや得意を仕事に」です。大学を卒業すれば、基本的には社会に出て毎日多くの時間を仕事に使うことになります。であれば、好きなことや得意なことにつながっている仕事の方が、より幸せに生きられるはず。それをただの理想ではなく一人ひとりが実現できるよう本気で支援するのが、セイカのキャリア支援です。

卒業後の進路にはいくつかのケースがあります。

学んできた内容を
活かす仕事に就く

専攻とは直結していないが
自分の特徴を活かせる仕事に就く

自分で仕事をつくる
(作家、マンガ家、イラストレーターなど)

どの進路を選ぶにしても優劣はありません。むしろどういふ仕事のかたち、働き方に関心が向くかは、4年間の学生生活の間に大きく変化するものです。専攻分野にとらわれすぎする必要ありません。専門資格が必須の仕事を除けば、専攻を問わずやってみよう!と思う仕事にいくらかでも挑戦できる時代です。そして、セイカではどの進路に対してもサポート体制を整えています。窓口対応だけでなく、授業や年間に多数実施するイベント・講座を通して、あらゆる角度からみなさんが自由な進路選択ができるよう支援していきます。

2. 進路を考えたときのヒント

進路選択に必要なのは自分だけの「経験」





どんな仕事のかたちを希望するとしても、仕事を探す際には「自分がどんな人間で何をやってきたか、何をしたいか」を伝えることが必要になります。つまり、進路を考えるには「自分自身の経験をどれだけ掘り下げられるか」が肝心になるのです。自由度の高い大学生時代に、好きなことややってみよう!に思い切り挑戦する経験をひとつでもふたつでも積むことが、大学生活で一番大事なことだと言えるかもしれません。そうした経験を積み重ねていけば、自分の傾向や将来の仕事の方向性が自ずと見えてくるはず。アンテナを張っていれば、セイカには学部を問わず誰でも参加・挑戦できるチャンスがたくさん転がっています。進路は自分のために自分で選び取るもの。人に流されたり合わせたりするのではなく、少しでも気になるものは積極的に参加してみてください。挑戦も失敗も含め「経験しないと学べないこと」こそが、あなただけの糧になります。

表現の学びは武器になる

「自己アピールできないことがない」という相談を受けることがありますが、実は、表現を学ぶセイカの学生は無意識に多くの力を身につけています。「絵画」に取り組んでいるなら観察力や集中力が、「デザイン」ならコンセプトから考える企画力が、「マンガ」なら発想力や忍耐力が、「論文」なら客観性や分析力が…、といった具合に、各学部の日々の学びを通して自然に養われる力があります。今のあなたは何が好きですか? 何が得意ですか? そして、周囲の人々や世界がどうなるとうれしいですか? 進路・就職のことを考えるとき、まずはこれを自分に問いかけてみてください。

3. 各学年別のステップとやっておくべきこと

進路選択に向けてどんな準備をしていけばいいのかを学年ごとに見ていきましょう。

	各学年別のステップとやっておくべきこと	キャリア支援チームからの一言アドバイス
1年生	1年目は、授業で基礎知識や技術をどんどん吸収するインプットがメインの時期です。興味関心をもったことは積極的に参加、挑戦しておく、それが後々進路を考えるときの資源になります。活動内容は、経過や結果を必ずデータで記録して！	 <p>キャリア支援チーム 公式キャラクター「うまび」</p> <p>吸収し基礎を固める時期。 失敗も成長の糧。 自由にどんどん挑戦して みるのが大事。</p>
2年生	授業課題はもちろん、課外プロジェクト、サークルやアルバイトなど課外活動にも力を入れられる時期。この時期に「〇〇に力を入れてがんばった!」と言える経験をつくっておくことが大事です。PCスキルも苦手分野は克服しておきましょう。	<p>挑戦を蓄積する時期。 学内外の活動に 幅をもたせ、好きなことに 思い切り打ち込んで。</p> 
3年生	進路ガイダンスが始まり、将来と自分について考え向き合う時期。情報収集と自分自身の考えを明確にできるかどうか明暗を分けます。関心がある業界や仕事があれば積極的にインターンシップに参加するとよいでしょう。	 <p>進路と向き合う時期。 情報収集と自分自身の 考えを言葉にする 時間をつくろう。</p>
4年生	就職希望者は前半から活動が本格化。卒論、卒制と活動が重なってくるので、早めの行動が肝心。作家など就職以外の進路を希望する場合はとくに、活動を継続していける環境を在学中にどれだけ整えられるかが大切になります。困ったとき、迷ったときはキャリア支援チームへ相談を！	<p>活動本格化、 早めの行動が成功のカギ。 相談はどんな些細な ことでもウェルカム!</p> 

4. 活用しよう！大学のキャリア支援

本学では、みなさんのキャリアに役立つさまざまなサポートを行っています。目的に合わせて積極的に利用してください。

学生グループ キャリア支援チーム | 明窓館1階(キャリアパーク)

(1) 進路・就職に関する個別相談

進路・就職に関する個別相談を受けられます。就職活動をはじめ進路についての悩みだけでなく、履歴書・エントリーシートの添削や面接指導、ポートフォリオのチェックも可能です。

対応時間 | 月～金 10:30～17:30 (1回30分)

1・2年生 | 相談希望日の前日18時までにキャリア支援チームで予約してください。
3・4年生 | 相談希望日の前日まで「キャリア支援サイト」からいつでも予約ができます。
詳しい予約方法については「セイカ・ポータル」を確認してください。

(2) その他の窓口で受けられるサポート

先輩の作品 ポートフォリオ閲覧	クリエイティブ職で内定を決めた先輩のポートフォリオを閲覧できます。ゲーム、アニメーション、広告、グラフィック、プロダクトなど多様な進路に対応したポートフォリオが揃っています。
就職関連書籍の貸し出し	様々な進路や働き方を考えるための書籍、業界や職種の解説本、ポートフォリオ制作の参考書籍、筆記試験対策本などをカウンターで借りられます。

(3) 窓口以外で受けられるサポート

「セイカ・ポータル」、 学内メールを通じた情報発信	「セイカ・ポータル」、学内メールを通じてキャリア支援チーム主催の講座・ガイダンスをはじめ、学外のインターンシップ、就職・進路に関するイベントなどについての情報を随時配信しています。 必要な情報をしっかりチェックしましょう。
キャリア関連イベントの実施	さまざまな業界の現場からゲストを招いた業界研究会を、年間通じて数多く実施しています。 学部・学年問わず参加できるので、関心があれば早期から知識や理解を深められます。
就職活動体験レポート閲覧 (3年生以降対象)	卒業生の就職活動体験レポートをキャリア支援サイトで閲覧することができます。
キャリア支援サイト (3年生以降対象)	大学に届くインターンシップ、求人情報を確認することができます。

5. 一番使える！セイカ生に合わせた各種ガイダンス

本学では1年を通じて、進路選択や就職活動に役立つさまざまな内容の講座やガイダンスを実施しています。とくに進路・就職ガイダンスは参加率の高い人ほど内定率も高いため、積極的に参加しましょう。

(1) すべての就職希望者のための総合支援

就職を目指す学生のために以下のような大学オリジナルの講座・ガイダンスを実施しています。一部、学年を限定したイベントがありますが、希望者は参加できます。詳細は「セイカ・ポータル」で確認してください。

進路・就職ガイダンス	業界や職種の理解、仕事の探し方、履歴書の書き方、面接対策など就職活動に必要となる基本的な知識が身につきます。
企業説明会(単独・合同)	人事・採用担当者を大学に招き、会社の紹介や採用スケジュール、求める人物像などを説明してもらいます。このイベントで内定が出るケースが増えています。
内定者が語る 今年の就活体験談	就職が内定した4年生から就職活動の“生”の体験談が聞けます。
各種就職対策講座	「面接対策講座」や「職業研究」など就職活動に役立つ各種講座やイベントを実施しています。

(2) クリエイティブ系職種を目指す人に特化した支援

ゲームクリエイター、Webデザイナー、グラフィックデザイナーなどクリエイティブ系の職種を目指す学生を対象に以下の講座・ガイダンスを実施しています。

ポートフォリオ対策講座	クリエイティブ職の就職活動で最も重視して審査されるのはポートフォリオ。ゲーム、広告デザインなどの分野で活躍する現役デザイナー等を招き、ポートフォリオ制作のポイントをわかりやすく説明します。
ポートフォリオ個別相談	ポートフォリオは、業界や職種によってその評価ポイントは全く異なります。キャリア支援チームの個別相談を利用したアドバイスはもちろんですが、現役クリエイターより直接指導の機会も多数設けています。「セイカ・ポータル」や大学メールを通じてお知らせしますので、お見逃しなく。
ポートフォリオの プレゼンテーション術	クリエイティブ職では、面接でも必ずポートフォリオについて説明を求められます。ポートフォリオや掲載作品の意図やコンセプトについて、どこを、どのように伝えればよいのか、ポイントをお伝えします。ポートフォリオのプレゼンテーションの極意をお伝えする講座を年2回、実施しています。

(3) 就職以外の進路を目指す人を支援

マンガ家など企業就職以外の働き方を希望する学生のためのサポートプログラムも実施しています。

マンガ講評会	マンガ編集者を大学に招き、マンガ作品を講評・指導してもらいます。夏と冬の年2回開催される合同講評会では、大手出版社を中心に多数の編集部が来学します。
フリーランス、アーティスト スタートアップ志望者向け講座	フリーランスやアーティストとして生計を立てる卒業生や起業家などを中心に招き、活動方法などをお話いただく講座や、公募紹介講座を実施しています。

6. セイカならではの特色あるサポート

本学の学生に合わせてつくられた、セイカ独自の特色あるサポートを紹介します。

① 京都精華大学オリジナルキャリア手帳

無数の卒業生たちの進路を支援してきたキャリア支援チーム。そんなチームスタッフが経験をもとに書き下ろした、進路就職ノウハウ情報つきの手帳を、3年生全員に無料配布しています。必要な基本情報はもちろんセイカ生の興味関心に合わせた内容が盛り込まれており、活動の際に携帯しやすいサイズとデザインになっています。ダイアリー機能もあるので手帳としても活用できます。



② 適職診断ができる『セイカミライカード』

セイカのキャリア科目担当教員がオリジナルで開発・デザイン制作した適職診断ゲーム『セイカミライカード』を使って、いつでも適職診断をすることができます。ゲーム感覚で受けられるので、「どんな仕事があるかわからない」「何が向いているのか知りたい」という人にはうってつけ。友達と一緒にやってみるのも○。進路について考えるときの一つのきっかけとして活用してみてもいい。



③ 先輩たちの豊富なポートフォリオ

デザイナーなどクリエイティブ職の採用試験で最も大きなウェイトを占める作品審査。そこで提出する自分自身の作品ポートフォリオについて、早めからリアルにイメージをもてるよう、実際に内定先に提出したポートフォリオを毎年先輩たちから集めています。業界、職種も幅広く、これだけ多くのポートフォリオ事例が実物で見られるのはセイカならではの学部学年不問、誰でもいつでも自由に閲覧可能です。



☑ キャリアに役立つ科目も要チェック!

カリキュラムのなかにも、キャリアを考えるうえで役立つ科目がたくさんあります。

1. キャリア科目

『キャリア2』、『キャリア3』、『職業研究』、『ポートフォリオ実習』、『コミュニケーション実践演習』など、進路選択に直結する科目を目的に合わせて履修しましょう。

2. 汎用性が高いスキルはPC・デジタル関連と語学!

仕事内容や業界を問わずワードなどのPCスキルは必須です。クリエイティブ職であれば、デジタルソフトの操作スキルが必要です。ウェブのスキルも需要UP中。語学力はあって損なし! 苦手部分を早めに授業でスキルアップしておきましょう。

3. 社会、経済、ビジネスへの理解を深める科目

筆記試験や面接時に必要となる時事・ビジネスに関する知識。『現代社会の諸問題』などの科目を通して、世界や社会で起こっているトピックスへの理解を深めましょう。

4

国際交流

International
Exchange

セイカの国際交流

本学では1968年の開学時より国際交流に力を入れてきました。芸術系の学部がある大学としては全国でもトップクラスの留学生数、協定校数を有するほか、国際交流に関わる充実した制度が整っているため、学内にいながらして海外の文化を感じることも可能です。しかしながら、皆さん自身が実際に現地へ足を運び、見て、話し、聞いて得られる「経験」に勝るものはありません。学生の間にてぜひ一度は海を渡り、現地の文化に触れ、人と交流することで、自身の世界、可能性を広げてください。

1. 海外での国際交流

(1) 交換留学

本学に在籍したまま、海外の協定校で学ぶことができる制度です。本学の規定授業料を納めれば、留学先協定校での授業料は免除されます。また、現地で取得した単位は帰国後に卒業要件単位として認定されるため、4年間での卒業が可能です。留学先では正規の学生として扱われ、現地の学生と同等に指導されます。本学の協定校リストには世界トップレベルの大学が名前を連ねています。現地の学生や教員と学び合えるこの機会をぜひ利用してください。

① 交換留学時期と学内出願時期

交換留学時期と学内出願時期は次のとおりです。記載のない時期に交換留学へ行くことはできません。

所属	交換留学時期	出願時期(目安)
学部	3年次春出発	前年度の7月下旬
	3年次秋出発	前年度の1月下旬
	4年次春出発	前年度の7月下旬
大学院	2年次春出発	前年度の7月下旬

② 交換留学に行くための条件

交換留学の希望者は、所定の出願期間に書類提出を済ませ、学内選考を受けたいうえで、本学による大学推薦を得る必要があります。出願条件は次のとおりです。

- ・参加動機が明確で十分な成績(年間36単位以上修得)を有する。
- ・出願時にTOEFL-ITP415点以上(TOEFL-iBT34点以上)のスコアを提出できる。
- ・出願前に所属分野の専任教員と交換留学に関する相談を済ませ承認を得ている。

③ 早めに準備しておくべきこと

求められてもすぐには準備できないことがいくつかありますので、予めお伝えします。

- ・語学力:前掲のTOEFLスコアの基準をクリアできるように語学力向上に努めてください。
- ・留学費用:欧米圏で100~200万円、アジア圏で40~50万円を目安に資金準備計画を立ててください。

④ 備考

- ・この制度を利用できるのは在学中に1回限りです。
- ・時期によっては交換留学生を受け入れない協定校もあります。
- ・学部生と比較すると大学院生の交換留学先候補は限定されます。
- ・学内選考の結果、大学推薦を得られても、留学希望先から受入を断られる場合があります。
- ・留学生の受入にあたっては学内出願条件以外の条件を指定する協定校もあります。

(2) 海外ショートプログラム

正課科目の授業として取り扱われる短期の海外研修プログラムです。海外ショートプログラムには、次の3種類があります。

① タイプA：教員主導型（1～2週間）

研修先の事情に通じた本学専任教員が、現地へ同行・引率して直接指導をおこないます。

[過去の実績例] タイ、台湾、イタリア、フィンランド、フランス、セネガルなど

[費用目安] アジア圏 20万円～、ヨーロッパ圏 40万円～

② タイプB：大学幹旋型（スタディツアー）（1～4週間）

特色あるテーマに基づき、個人々が関心と目的意識をもって主体的にツアーに参加します。

[過去の実績例] ボランティア活動、イタリアものづくり研修など

[費用目安] アジア圏 20万円～、欧米圏 50万円～

③ タイプC：大学幹旋型（語学研修）（2～4週間）

語学を修得するという目的に特化して、決められた生活環境のなかで勉強に励みます。

[過去の実績例] 英語（アメリカ、ニュージーランド、フィリピン）、フランス語、韓国語

[費用目安] 英語研修 30万円～、フランス語研修 80万円、韓国語研修 20万円、中国語研修 20万円

長期で行われる交換留学やフィールドワークへのステップとして、また在学中の海外経験として、ぜひ積極的に参加してください。

2. 学内での国際交流

(1) iC-Cube（アイシーキューブ）

京都精華大学は留学生の比率が高く、学生のバックグラウンドは多彩です。キャンパス内での多文化交流や異文化理解のための共同スペースであるiC-Cube（アイシーキューブ）では、英語をはじめとする多彩な言語によるコミュニケーションや講演会、ワークショップなどの国際交流イベントを開催します。語学力に自信がなくても不安に感じることはありません。気軽に国際交流を楽しみましょう。

(2) 海外からのビジターとの交流

京都精華大学では、世界各国の教育機関などから、日本語や日本文化の研修、交換留学、視察旅行などを目的としたビジターやゲストを多数受け入れています。ぜひ彼らと交流する機会を楽しみましょう。



注意

交換留学および海外ショートプログラムに関心のある方は、別刷の専用冊子を参照してください。また、国際交流担当部署（グローバル推進グループ）のスタッフと積極的にコミュニケーションを図り、情報の収集に努めるようにしてください。

5

教 学

Academic Matters

授業科目

1. 大学の授業とは

大学では、それぞれの授業のシラバス(授業概要および計画を示したもの)を見て、学びたい授業を自身で選び、自分専用の時間割を作ります。各学部・学科・コース・専攻ごとに体系化された教育内容があり、様々な科目で構成されています。みなさんは自分の所属している学科・コース・専攻のカリキュラムに沿って授業を選ぶことになります。

2. 学期制

本学では、2学期(セメスター)制と4学期(クォーター)制を併用しています。2学期(セメスター)制は1年間を前期と後期の2つの学期に、4学期(クォーター)制は1年間を1Q、2Q、3Q、4Qの4つの学期に分けた学期制度です。科目によって、授業の開講される学期が異なりますので、履修登録の際によく確認してください。なお、2025年度の学期は、以下の通りです。

※各年度の学期は、「セイカ・ポータル」および大学Webサイトに掲示された学年暦(大学カレンダー)を参照してください。

前期	2025年4月1日から2025年9月30日	1Q	2025年4月1日から2025年6月10日
後期	2025年10月1日から2026年3月31日	2Q	2025年6月11日から2025年9月30日
		3Q	2025年10月1日から2025年11月30日
		4Q	2025年12月1日から2026年3月31日

3. 開講期間による科目の分類

科目は開講期間によって以下のように分類できます。

(1) 通常授業

セメスター開講科目	前期もしくは後期の14週間、毎週開講される授業
クォーター開講科目	1Q、2Q、3Qもしくは4Qの7週間、毎週開講される授業
通年授業	1年間(1Qから4Qの合計もしくは前期、後期の合計28週間)、毎週開講される授業

※各年度の授業開講期間および授業日は、「セイカ・ポータル」および大学Webサイトに掲示された学年暦(大学カレンダー)を参照してください。

(2) 集中授業

毎週決まった曜日・時間に開講するのではなく、夏季休暇期間、春季休暇期間中の数日間や、不定期に開講する授業です。開講日程は授業によって異なりますので、各科目のシラバスで確認してください。

4. 履修条件による科目の分類

科目の中には、卒業するために履修が必須となるものや自由に選択して履修できるものがあります。

(1) 必修科目

卒業要件として、必ず履修してその単位を修得しなければならない科目です。

(2) 選択必修科目

卒業要件として指定された科目群の中から選択して履修し、所定の単位数または科目数を修得しなければならない科目です。

(3) 選択科目

指定された科目群の中から、自身の目的や興味関心に応じて自発的に選択して履修する科目です。

どの科目が「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に該当するかは、P.61以降の「卒業要件表」、「科目一覧」で確認してください。

5. 授業形態による科目の分類

科目は授業形態によって、以下の5種類に分類できます。

(1) 講義

担当教員が自身の研究実績や知見に基づき、履修者にテーマに沿った解説をすることを基本的なスタイルとする授業形態です。質問やコメントペーパーなどを活用した双方向授業による場合も多く見られます。

(2) 演習

同じテーマに取り組む比較的少人数の履修者とそれを指導する教員によって成立する授業形態です。あるテーマについて討議をする、グループで1つのプロジェクトの完成を目指して制作に取り組むなど、複数人で課題に取り組む授業形態が多く見られます。

(3) 実習

講義や演習で培った知識、技術を活かし、実際に制作や活動に取り組むような授業形態です。

(4) 学外実習

さまざまな学外の団体等で、それまでの知識や経験を活かし、実際に現地での活動を体験する授業形態です。

(5) 成果評定

卒業論文、卒業研究、卒業制作など学修の成果を評価して単位を認定する科目です。

6. 授業実施形態による科目の分類

(1) 対面授業

教室で教員と直接対面して受ける授業です。

(2) 対面授業（一部、遠隔授業含む）

総授業時間数の半分以上が対面で行われる授業です。

(3) 遠隔授業：オンデマンド型

資料掲示、動画配信等の教材で学修し、オンライン上で課題のやりとりを行う授業です。

(4) 遠隔授業：同時双方向型

Zoom等のツールを使って、時間割通りにオンライン上で受講する授業です。

(5) 遠隔授業（一部、対面授業含む）

総授業時間数の半分以上が遠隔で行われる授業です。

7. 実務経験を有する教員による科目について

科目の中には、実務経験を有する教員がその経験を活かし担当する科目、学外から多様な企業等で活躍する方々を講師に迎え実施する科目、企業とのコラボレーション授業、インターンシップなど、実践的教育から構成される科目を配置しています。各科目の詳細はシラバスの「実務経験／実践的教育」欄で確認してください。シラバスのキーワード検索で【実務経験／実践的教育】と入力し、該当科目を抽出することができます。

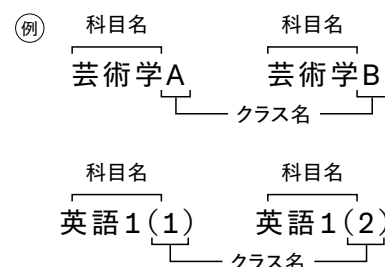
8. クラス

クラスとは、教育上の効果を考慮して、受講者を適切な人数のグループに分けたものです。

科目名の後に続く“A”“B”“C”および“(1)”“(2)”“(3)”はクラス名を表します。

右の例の場合、AクラスとBクラスの授業、(1)クラスと(2)クラスの授業は、クラスは異なりますが、同じ科目のため、重複して履修することはできません。また、科目によっては、学科・コース・専攻ごとにクラスが決められているものもあります。

なお、この「学習のてびき」カリキュラムページの「科目一覧」には、クラスが表示されていません。各科目のクラスについては、「セイカ・ポータル」に掲示される「開講科目一覧」を参照してください。



9. シラバス

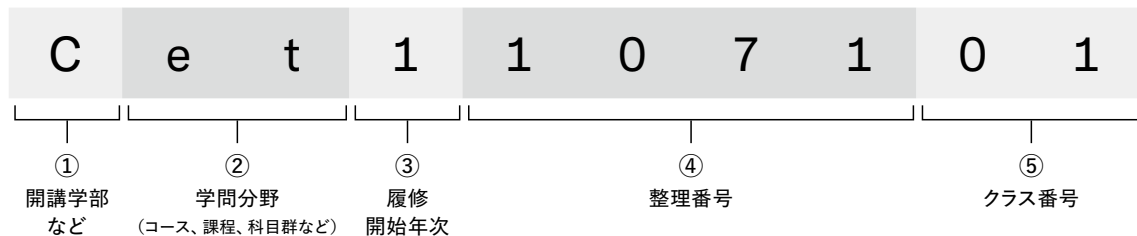
シラバスとは、各科目について、その内容と計画を解説した概要のことです。科目名、担当教員名、開講期、単位数、科目の目的や到達目標、授業実施形態、具体的な授業計画等が説明されています。また、成績評価の方法・基準、教科書・参考文献、履修条件などについても書かれています。シラバスをよく読み、科目を履修登録してください。

10. 科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、カリキュラム(教育課程)を体系的に理解することを目的に、本学で開講しているすべての科目にコード(番号)を付けたものです。

科目ナンバリングコードは、各科目の対象とする学部・学科・コース、履修可能な年次などを表しています。コードはP.65以降の「科目一覧」およびシラバスの各科目ページに記載されていますので、履修科目を選択する際、何年生から履修できるのか、どのような順序で履修すればよいのかを判断するのに活用してください。

たとえば、全学共通教育科目の表現科目群で、1年生から履修できる講義科目の「美術史」は以下のようなコードが付けられています。



科目ナンバリングコード

① 開講学部など	コード
全学共通	C
国際文化	K
メディア表現	T
芸術	A
デザイン	D
マンガ	M
大学院	G

③ 履修開始年次	コード
年次不問	0
大学1年次	1
大学2年次	2
大学3年次	3
大学4年次	4
大学院M1年次	5
大学院M2年次	6
大学院D1年次	7
大学院D2年次	8
大学院D3年次	9

② 学問分野	コード
国際文化学部	gl
人文学科	hu
グローバルスタディーズ学科	gs
メディア表現学部メディア表現学科	mc
芸術学部造形学科	fa
デザイン学部	fd
イラスト学科	il
ビジュアルデザイン学科	vd
グラフィックデザイン	gd
デジタルクリエイション	dc
プロダクトデザイン学科	pd
プロダクトコミュニケーション	pc
ライフクリエイション	lc
ファッション	fs
建築学科	ar
人間環境デザイン	he
マンガ学部	fm
マンガ学科	dm
カートゥーン	ct
ストーリーマンガ	sm
新世代マンガ	ng
キャラクターデザイン	cd
アニメーション学科	an

② 学問分野	コード
導入プログラム	ip
表現科目	et
グローバル科目	gg
リベラルアーツ科目	la
社会実践力育成プログラム	ps
キャリア科目	ca
マイナー科目	mi
大学院共通基盤(M)	MC
人文学研究科(M)	MH
芸術研究科(M)	MA
デザイン研究科(M)	MD
マンガ研究科(M)	MM
芸術研究科(D)	DA
マンガ研究科(D)	DM
資格(教職)	QT
資格(学芸員)	QM
資格(司書)	QL
資格(その他)	QA
単位認定	ZZ

11. 単位制度

すべての科目には単位数が設定されています。単位とは、科目を修得するために必要な学修量（時間）を数で表したもので、「1単位の科目」は「45時間の学修を必要とする内容（自学自習時間を含む）」をもって構成することが標準となっています。



1回の授業は90分ですが、制度上これを2時間の学修時間として計算します。

各科目の単位数は、この授業時間と自学自習時間、および1単位あたりの学修量をもとに、次のように計算します。

学期制	授業科目の分類	1週あたりの学修量			1学期あたりの授業週数	1学期あたりの学修量	1単位あたりの学修量	単位数
		授業時間	自学自習時間	合計				
セメスター制	講義（一部の演習）	2時間	4.5時間	6.5時間	14週	約90時間（6.5時間×14週）	45時間	2
	外国語／実習／演習	4時間	2.5時間	6.5時間	14週	約90時間（6.5時間×14週）	45時間	2
クォーター制	講義（一部の演習）	2時間	4.5時間	6.5時間	7週	約45時間（6.5時間×7週）	45時間	1
	外国語／実習／演習	4時間	2.5時間	6.5時間	7週	約45時間（6.5時間×7週）	45時間	1

学修量には、大学の教室で行われる授業だけでなく、予習・復習、課題への取り組み（作品制作、レポート作成等）など自主的な学習が含まれます。自主的な学習の内容については、各科目のシラバス内「授業外学習の指示（予習・復習・課題等）」を参照してください。

12. 履修登録上限単位数

大学での学修は、授業時間以外に予習復習といった自学自習の時間も含めて考えられています。学修時間をしっかりと確保するために、本学では以下のとおり、履修登録上限単位数を定めています。

1Q	2Q	3Q	4Q	年間
12単位	12単位	12単位	12単位	48単位

※資格課程専門科目は、履修登録上限単位数に含まれません。

※前学期に修得できなかった単位分を上乗せして、次の学期に履修登録することはできません。

※前年度に修得できなかった単位分を上乗せして、次年度に履修登録することはできません。

※2Q、4Qの集中授業は、それぞれ2Q、4Qの履修登録上限単位数に含みます。

卒業・修了・進級

卒業・修了・進級要件とは

(1) 進級要件

「進級要件」とは、次の学年に進級するために必要とされる条件のことです。各学科・コース・専攻、各学年に設置・開講されている進級要件科目の単位を修得する必要があります。したがって、進級要件科目の単位を修得できない場合は、次の学年に進級することができず、「留年」となります。

(2) 卒業要件

「卒業要件」とは、所属学部を卒業するために必要とされる条件のことです。
以下3点の要件を満たせば、卒業が認定され、「卒業証書」とともに学士の学位が授与されます。

- ① 本学に設置されている学部で4年以上在学すること（編入学生は別に定める）。
※休学の期間は、在学期間には含まれません。
- ② 所属学科・所属コース・所属専攻が定める卒業要件にしたがって、卒業に必要な単位を修得すること。
- ③ 学費等が完納されていること。

● 授与される学位の種類

国際文化学部	: 学士(文化)
メディア表現学部	: 学士(メディア表現)
芸術学部	: 学士(芸術)
デザイン学部	: 学士(芸術)
マンガ学部	: 学士(芸術)

(3) 修了要件

「修了要件」とは、所属研究科を修了するために必要とされる条件のことです。
以下3点の要件を満たせば、修了が認定され、「修了証書」とともに修士または博士の学位が授与されます。

- ① 本学に設置されている大学院研究科に 修士・博士前期課程は2年以上、博士後期課程は3年以上在学すること。
※休学の期間は、在学期間には含まれません。
- ② 所属研究科が定める修了要件にしたがって、修了に必要な単位を修得すること。
- ③ 学費等が完納されていること。

● 授与される学位の種類

【博士前期課程・修士課程】

人文学研究科	: 修士(人文学)
芸術研究科	: 修士(芸術)
デザイン研究科	: 修士(芸術)
マンガ研究科	: 修士(芸術)

【博士後期課程】

芸術研究科	: 博士(芸術)
マンガ研究科	: 博士(芸術)

※各研究科・学部・学科・コース・専攻の卒業・修了・進級要件は、それぞれのカリキュラム紹介ページを参照してください。

1. 履修登録とは

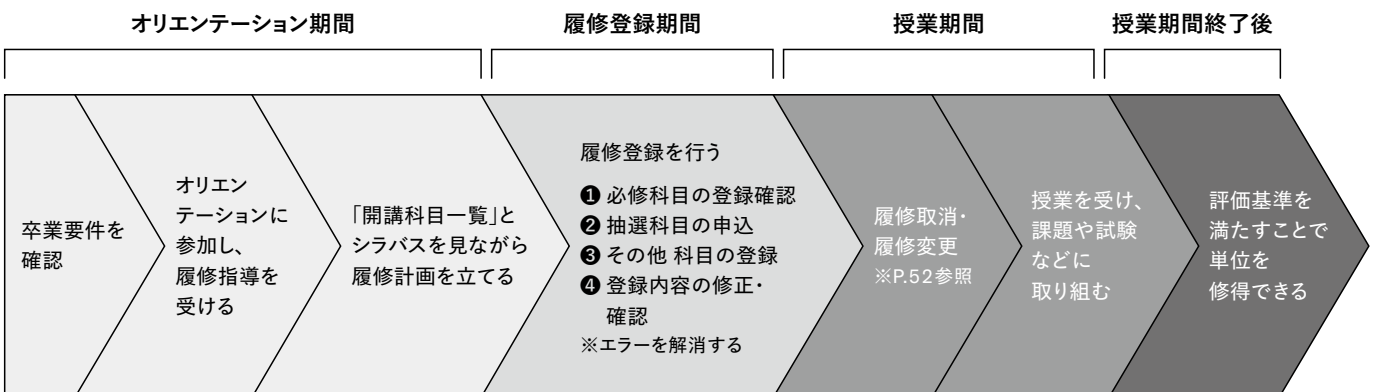
「履修登録」とは、単位を修得しようとする科目を決め、その科目の受講を申請することです。1Qおよび3Qの開始前に履修登録期間(学年暦参照)が定められ、「セイカ・ポータル」にて学生自身が登録手続きを行います。科目の登録にあたっては、所属する学部、学科、コース、専攻、学年に指定されている必修科目と進級・卒業・修了要件を確認したうえで、履修できる科目のシラバスをよく読み、学びたい内容や身に付けたい力に沿った科目を登録してください。

[履修登録の原則]

- 同一曜日同一講時に履修できる科目は1科目です。曜日講時が重複する複数の科目を履修登録することはできません。
(日程が重複する複数の集中授業も同時に履修登録できません)
- 単位を修得した科目を再度履修することはできません。
- 不合格になった科目は、再度履修登録することができます。
- 1学期に登録できる単位数には上限があり、それ以上は履修登録できません(P.49参照)。
- 各科目には開講最低人数基準が定められており、履修登録学生数が次の人数に満たない場合は、原則として当該科目を開講しません。
講義、語学、実習科目 5人／演習科目 3人
※履修登録の結果、登録した科目が開講されない場合、教務チームより登録した学生に連絡します。
- 上記いずれかにより、「セイカ・ポータル」上で履修エラーが出た場合は、速やかにエラー解除手続きを行ってください。
エラーを解消しないままでは、当該学期の全登録科目の単位が修得できません。

2. 履修登録から単位修得までの流れ

履修登録から単位修得までは以下の手順で進みます。1Q開始前には1Q開講科目・2Q開講科目(前期開講科目を含む)および通年科目を、3Q開始前には3Q開講科目・4Q開講科目(後期開講科目を含む)を登録してください。集中授業も同様です。なお、2Q・4Q開始前には、履修変更期間を設けます。



3. 履修登録手続き

履修登録手続きは、「セイカ・ポータル」で行います。手続きの際は以下の事項に注意してください。

- 各学期開講科目の詳細(科目担当者およびクラス、開講曜日講時など)は、『学習のてびき』のカリキュラムページに記載していません。「セイカ・ポータル」に掲示される「開講科目一覧」を参照してください。
- 登録期間内に手続きを行ってください。期間内に行わなければ、その学期の科目の受講資格は認められません。
- 履修登録期間終了後、正しく登録されているかどうか、自身で確認してください。誤った履修登録を放置すると、正しい科目の受講資格が認められず、単位が修得できなくなります。
- 必修科目は進級や卒業に関わるため、時間割に登録されているか必ず確認してください。
- 卒業制作など、成果に対して単位を認定する科目も履修登録が必要です。
- クラス指定のある授業科目は、指定されたクラスで履修登録してください。
- 一部科目においては、授業期間開始後に、選抜や申し込みにより受講生を決定する場合があります。

4. 抽選科目

施設設備の状況や学習計画を考慮し、受講できる人数に定員を設けている科目は、抽選によって受講生を決定します。受講を希望する場合は、抽選科目申込期間中に「セイカ・ポータル」にて手続きを行ってください。

5. 履修取消

授業の内容や難易度が学生の認識と違っていた場合などに、不合格などの評価によってGPA(P.57参照)が低下することを回避するために、学期途中で履修している科目の登録を取り消すことを認める制度です。履修取消の手続き方法や期間等の詳細は、各学期中に「セイカ・ポータル」でお知らせします。なお、履修を取り消した科目に替えて、別の科目を追加登録することはできません。また、必修科目等において、履修取消が認められない場合もあります。

6. 履修変更

2Q・4Qの開講科目について、前クォーターの学修状況などを踏まえ、開講前に、登録した科目の取り消しと一部の科目の追加登録を認める制度です。履修変更の手続き方法や期間等の詳細は、「セイカ・ポータル」でお知らせします。

1. 通常授業時間

1講時	2講時	3講時	4講時	5講時	6講時
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30

2. 休講・補講・休校

(1) 休講

病気など授業担当者の都合や、自然災害などに伴い、授業が行われないことを休講といいます。授業が休講になった場合は、「セイカ・ポータル」でお知らせします。また、担当教員から休講の連絡がなく、授業開始時間から30分経過しても授業が開始されないときは休講となる場合があります。

(2) 補講

授業が休講になった場合、授業回数の不足を補うために補講を行います。補講は原則各学期に設けられている「補講日」に行われますが、各科目の具体的な日時、教室については「セイカ・ポータル」でお知らせします。

(3) 休校

気象警報の発令および公共交通機関の運休などの理由により、すべての授業が行われないことを休校といいます。代替の授業日を設ける場合があります。

3. 暴風警報・特別警報・交通機関運休等による休校・休講措置

以下のいずれかに該当する場合、休校・休講措置がとられます。

(1) 気象庁が発表する気象警報において、「京都府南部」（もしくはその細分区域である「南丹・京丹波」、「京都・亀岡」、「山城中部」、「山城南部」のいずれかの地域）に暴風警報もしくは特別警報が発令されたとき。

[注意事項]

- 大雨洪水警報は休校・休講要件とはなりませんので注意してください。
- 特別警報の種類は問いません。特別警報は都道府県単位で発令されます。(1)は京都府に特別警報が発令された場合を指しますが、それ以外の地域に特別警報が発令された場合、発令地域にいる学生においては個別に公欠扱いとしますので、通学が可能になった後、教務チームに申し出てください。特別警報が発令された場合、発令地域にいる学生は、各自ただちに命を守る行動をとってください。

(2) JR 在来線（米原～神戸）、叡山電鉄（鞍馬線）、京都市営地下鉄、および京阪電鉄（本線）、阪急電鉄（京都線）、近畿日本鉄道（京都線）のいずれかが運休になり、なおかつバスなどの代替手段がないとき。

[注意事項]

- 交通機関での事故などによる一時的な運転見合わせの際には休校・休講措置をとりません。
- 上記指定以外の交通機関各線の運休は休校・休講要件とはなりません。

(3) その他の事情により、休校・休講が適切であると学長が判断するとき。

[休校・休講の判断基準]

- 気象警報、交通機関の運休状況を以下の時刻にて確認し、基準に従い判断してください。
- 気象警報、交通機関の運休状況は、警報解除、運行再開が発報された時刻が基準となります。何時に発報されたかを必ず確認し、基準に従ってください。

① 気象警報

基準時刻	条件	休校・休講の措置
午前 7時	警報が解除されている	平常授業実施
	警報が解除されていない	午前中休講
午前 9時	警報が解除されている	3講時より平常授業実施
	警報が解除されていない	終日休校

② 交通機関運行の状況

基準時刻	条件	休校・休講の措置
午前 7時	運行が再開されている	平常授業実施
	運行が再開されていない	午前中休講
午前 9時	運行が再開されている	3講時より平常授業実施
	運行が再開されていない	終日休校

※9:00よりも後に警報発令または運行休止となった場合は、その時点から休校となります。

4. 授業への参加

(1) 出席・欠席

授業への出席は、科目に定められた単位を修得するために必要な前提条件の一つです。授業を欠席すると、必要な学修機会を失い、各科目の目的、到達目標を達成できず、単位修得が認められないことがあります。

(2) 授業中のマナー

- ① 授業中の私語は禁止です。
- ② 遅刻はしないでください。やむを得ない事情で遅刻をした場合は、授業の妨げにならないよう静かに教室に入室してください。また、授業担当教員に断りなく途中退室はしないでください。
- ③ 授業担当教員の指示により、もしくは、授業担当教員の許可を得て授業のために使用する場合を除き、携帯電話・スマートフォン・PC・タブレット端末などの使用を禁止します。授業中は電源を切るか、マナーモードにしてください。
- ④ 特別な理由がある場合を除き、授業の撮影・録画・録音は原則禁止です。必要な場合は、必ず授業担当教員の許可を得てください。
- ⑤ 飲食は原則禁止としますが、授業担当教員の指示に従ってください。

5. 長期欠席になる場合

病気やそのほかのやむを得ない事由により長期間欠席せざるを得ない場合は、すみやかに教務チームと所属学科・コース・専攻の教員に連絡してください。科目担当者から医師による診断書などの証明書の提示が求められる場合があるため、証明書は各自手配しておいてください。何の連絡もなく、長期間の無断欠席が続くと、就学の意思がないものと判断されます。

6. 授業評価アンケート

本学では、学生の意見を取り入れながら授業改善に取り組んでいます。学期ごとに授業評価アンケートを実施しますので、履修している科目に対して責任ある評価を行い、率直な意見を聞かせてください。FD委員会(授業内容および方法の改善を図るための組織)で授業評価アンケートの結果を共有し、本学の教育計画に反映させていきます。

7. 公欠

授業欠席の理由が、本学の定める事由に該当する場合、公欠（公的な理由がある欠席）が認められる場合があります。以下の公欠の事由に該当する場合は、指定する書類・文書を持参のうえ、教務チームで「公欠届」を提出してください。科目担当者に対しては、手続き完了時に窓口で受け取る「公欠届」のコピーを手渡して事情を説明してください。※集中授業においては、その授業形態の性質により公欠が適用されないことがあります。

(1) 忌引

① 必要となる書類・文書 | 葬儀案内状

※提出が困難な場合は、保証人による理由書（書式自由）でもかまいません。
ただし、保証人の署名・捺印が必要となります。

② 届出の期限 | 忌引期間終了後1週間以内

③ 公欠期間 | 本人と故人との関係に応じて、右記の通りとします。

故人との関係	日数
1親等の血族（父母・子）または配偶者	7日
2親等の直系血族（自分の祖父母・兄弟姉妹）	3日
1親等の姻族（配偶者の父母）	
上記以外の3親等以内の血族（伯父母・叔父母・甥姪）	1日
2親等以内の姻族（配偶者の祖父母・兄弟姉妹）	

(2) 通学経路の交通機関が事故などにより不通になった場合

① 必要となる書類・文書 | 各種交通機関が発行する遅延・不通などの理由を証明する文書（延着証明書・遅延証明書など）

※延着証明書・遅延証明書は各種交通機関の駅で受け取ることができるほか、交通機関のホームページから入手できる場合もあります。

② 届出の期限 | 交通機関が遅延・不通となった日から1週間以内

(3) 教育実習・博物館実習・介護等体験

① 必要となる書類・文書 | 教育実習・博物館実習・介護等体験の日程がわかる書類（窓口で複写後、返却）

② 届出の期限 | 教育実習・博物館実習・介護等体験の始まる前

(4) 学校感染症

『学校保健安全法』に定める感染症は以下の通りです。また、公欠期間は『学校保健安全法施行規則』に定められた感染症の出席停止期間に準じます。

学校保健安全法に定める感染症

第一種：エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限り）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限り）及び特定鳥インフルエンザ（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成十年法律第百十四号）第六条第三項第六号に規定する特定鳥インフルエンザをいう。次号及び第十九条第二号イにおいて同じ）

二種：インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、新型コロナウイルス感染症（病原体が

ベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限り。次条第二号子において同じ。）、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎

第三種：コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第六条第七項から第九項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症は、前項の規定にかかわらず、第一種の感染症とみなす。

① 必要となる書類・文書 | 医師による診断書

② 届出の期限 | 出席停止期間後1週間以内

(5) 裁判員制度および検察審査会制度による場合

① 必要となる書類・文書 | 裁判所または検察審査会事務局が発行する証明書

② 届出の期限 | 裁判所または検察審査会での用務が終了した日から1週間以内

(6) 外国人留学生の在留申請等手続き

① 必要となる書類・文書 | ・入国管理局の申請受付票コピー ・新たに許可を受けた在留カード（窓口で複写後、返却）

② 届出の期限 | 申請手続き日から1週間以内

入国管理局の申請受付票コピーの場合：申請後1週間以内／新たに許可を受けた在留カードの許可年月日提示の場合：許可後1週間以内

③ 公欠期間 | 申請日（1日）および許可日（1日）

単位修得

1. 単位を修得するには

科目に定められた単位を修得するには、次の3点に取り組み、各科目において定められた評価基準を満たす必要があります。

- ① その科目の履修登録をしていること。
- ② その科目について、修得に必要な時間数分の授業に出席し、自学自習を行うこと。
- ③ 指定された筆記試験の受験、レポート・作品などの提出を行ない、定められた基準をクリアすること。

上記②③における学修の成果を「成績」として総合的に評価します。

2. 成績・単位修得状況の確認

(1) 成績、単位修得状況の確認方法

各学期に履修した科目の成績は、以下の時期に「セイカ・ポータル」で確認することができます。その学期までの単位修得状況も「セイカ・ポータル」で確認できますので、次の履修計画を立てるために、必ず確認してください。

クォーター開講科目	1Q:6月中旬	2Q:8月下旬	3Q:12月中旬	4Q:2月下旬
セメスター開講科目	前期:8月中旬		後期:2月下旬	

(2) 成績に関する問い合わせ

各科目の成績について疑問・質問がある場合は、成績公開日から1週間以内に「セイカ・ポータル」に掲示される所定の問い合わせフォームより問い合わせてください。結果は後日、教務チームより回答します。

(3) 学費支弁者への成績通知

学費支弁者は「セイカ・ポータル」を通じて学生の単位修得状況を確認することができます。

3. 成績評価基準

成績評価の基準は以下のとおりです。

	合格					不合格	
評価	S	A	B	C	N	F	K
点数	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	認定	59点以下	評価対象外

※成績評価「N」とは

「N」は認定という意味です。本学入学・編入学前に所属していた教育機関で、本学の科目と同等の学修を行ったと判断した場合や、外部の公的機関が実施する試験で一定の基準以上のスコアを取った場合(P.59)、大学コンソーシアム京都の単位互換科目を修得した場合など、本学における単位修得が認められた場合につけられます。

※成績評価「K」とは

「K」は評価対象外という意味です。授業の出席状況や受講態度が悪い、試験を受験しなかった等、担当教員が「受講放棄」と判断した場合につけられます。

4. GPA制度

(1) GPA制度とは

GPA (Grade Point Average) とは、履修科目の成績の平均を数値で表すもので、修得単位数という学修の“量”だけでなく、“質” (内容) を表す指標であり、学修の成果を総合的に判断するデータとなります。この数値を活用することで、学修の到達度が明確になり、自身の努力目標を具体的に設定できるといった効果が期待できます。

(2) GPAの算出方法

GPAは科目ごとの成績評価に対してグレードポイント(GP)をつけて、全履修登録科目の平均を算出します。成績を4点満点の基準で点数化し(S=4、A=3、B=2、C=1、F=0、K=0)、各科目の単位数を掛け合わせます。

GPAの計算式は以下の通りです。

$$\frac{(Sの単位数合計 \times 4) + (Aの単位数合計 \times 3) + (Bの単位数合計 \times 2) + (Cの単位数合計 \times 1)}{\text{履修登録科目すべての単位数合計 (N、未評価科目、資格課程専門科目を除く)}}$$

履修登録科目すべての単位数合計 (N、未評価科目、資格課程専門科目を除く)

※GPAは小数点第4位以下を四捨五入し、小数点第3位までの数値で表します。

(3) 履修取消

授業の内容や難易度が学生の認識と違っていた場合などに、不合格などの評価によってGPAが低下することを回避するために、学期途中で履修している科目の登録を取り消すことを認める制度です。履修取消の手続き方法や期間等の詳細は、各学期中に「セイカ・ポータル」でお知らせします。なお、履修を取り消した科目に替えて、別の科目を追加登録することはできません。また、履修取消が認められない場合もあります。

(4) GPAの運用

入学からの通算GPAは「セイカ・ポータル」で確認することができます。また、算出されたGPAは、海外の教育機関への留学や奨学金の受給などの判定の基礎資料として使われるほか、履修指導などに活用されます。

5. 各種試験およびレポート等における不正行為 (P.248 規程参照)

※「セイカ・ポータル」に掲載の「不正行為の取り扱いおよび防止に関するガイドライン」を併せて参照してください

(1) 各種試験およびレポート等とは

各種試験	授業科目において実施される試験、テスト
レポート	授業科目において実施されるレポート試験
課題作品・論文	授業科目において指示された課題作品、卒業論文・卒業制作、修士論文・修士作品、博士論文・博士作品

(2) 不正行為への処分

不正行為と判定した場合、行為の重大性や悪質性により、当該科目の成績評価を0点とする、または当該学期の全履修科目の成績評価を0点とするなどの処分を行います。

(3) 不正行為とは

本学における不正行為とは、学問に求められる誠実さや倫理を損ねる行為を指し、以下の行為が該当します。

- 剽窃・盗用
 - 他人の文章や作品、アイデアを適切な引用表示なしに自分のものとして使用する行為。
- 剽窃・盗用のほう助
 - 他人が剽窃・盗用を行うのを助ける行為。
- 捏造
 - 実際には存在しないデータや結果を作り出し、あたかも事実であるかのように見せかける行為。

● **改ざん**

元々存在するデータや結果を意図的に変更し、実際とは異なる内容にする行為。

● **試験実施時における不正行為**

試験中に不正に情報を取得または提供する行為や監督者の指示に従わない行為、その他公正な成績評価を妨げる行為。

● **教務委員会が不正と判断するその他の行為**

上記に該当しない場合であっても、教務委員会が不正と判断した場合には、不正行為として扱います。

6. 大学コンソーシアム京都単位互換制度

(1) 単位互換制度とは

大学コンソーシアム京都の単位互換制度は、京都地域の大学および短期大学が相互に単位互換協定を締結し、これらの大学に所属する学生が他大学の授業を受講し、修得した単位をその学生が所属する大学の単位として認定できるようにする制度です。約45の加盟大学が提供する特色ある科目を履修することにより、自分の興味関心や視野を広げることができます。

本学では、この制度で修得した単位を「大学コンソーシアム認定」として認定します(成績評価「N」)。ただし、卒業要件単位には含まれません。

(2) 出願手続

単位互換制度で提供される授業の履修を希望する学生(2年生・3年生のみ)は、春季オリエンテーション期間中に教務チーム窓口で必要な出願手続を行ってください。

7. 編入学による単位の認定

本学に編入学した場合、他大学等(短期大学等を含む)で修得した単位のうち、2年次編入学生は30単位を上限に、3年次編入学生は62単位を上限に卒業に必要な単位として認定します(成績評価「N」)。ただし、一部の単位が認定されない場合があります。

8. 入学前に修得した単位の認定

下に該当する学生は、他大学、短期大学等で修得した単位を本学で修得した単位として認定することがあります。

- ① 他大学、短期大学等を卒業し、1年次から本学に入学した場合
- ② 他大学、短期大学等を中途退学し、1年次から本学に入学した場合

本人の申請に基づき、修得した科目および単位内容を審査したうえで単位を認定します(成績評価「N」)。希望者は右の書類を揃えて期限までに教務チームへ提出してください。

なお認定単位数は、大学コンソーシアム京都単位互換制度、海外留学制度により認定される単位と併せて60単位を上限とします。

[提出書類]

- ① 出身大学、短期大学、高等専門学校または専修学校の既修得単位を証明する成績証明書または単位修得証明書
- ② 既修得科目のシラバス

[提出期限]

入学年度の4月20日

(本学の事務取扱日でないときは、直後の事務取扱日)

やむを得ない事由により期限までに書類が提出できない場合は、必ず提出期限までに教務チームへ相談してください。

[単位認定の時期]

入学年度の5月下旬

9. 外部の資格試験による語学科目単位認定

以下の資格試験によって語学科目の単位認定を行います。

● 単位認定基準

対象科目	外部試験種別	成績基準(スコア/級)	認定授業科目	認定単位数
英語	TOEIC (L&R)	550点以上	英語1 英語2 英語3 英語4	4単位
	TOEFL (iBT)	54点以上		
	TOEFL (ITP)	480点以上		
	IELTS	5点以上		
	実用英語技能検定	準1級以上		
	TOEIC (L&R)	500点以上	英語1 英語2	2単位
	TOEFL (iBT)	32点以上		
	TOEFL (ITP)	470点以上		
IELTS	4.5点以上			
その他	応相談			
日本語	日本語能力試験 (JLPT)	N1以上	日本語1 日本語2 日本語3 日本語4	4単位
	日本語能力試験 (JPT)	660点以上		

※申請日から遡って3年以内に受験したスコアを有効とします。各民間試験運営機関が定めるスコアに有効期間がある場合は、入学時点で有効であることを求めます。

※TOEIC (L&R)は、会場受験のみが対象となります。TOEIC (L&R IP) (オンライン)のスコアは認定の対象となりません。

※申請受付期間:9月及び2月 ※詳しい日程についてはセイカポータルにて事前にお知らせします。

● 申請手続きについて

- (1) 英語または日本語の単位認定申込書と外部試験の資格または成績証明書を期日までに教務チームに提出してください。
- (2) 申し込み受付後、認定を行います。ただし、担当教員による面談を行う場合があります(日本語は必ず面談を実施します)。

10. 転学部・転学科・転コース制度

この制度は、本学内での転籍を希望する学生が、選考試験に合格すれば、志願する学部・学科・コースの2年次、もしくは3年次に転籍することができるものです。募集を行う学部・学科・コースおよび募集人数は、在籍している学生数などを考慮し、毎年決定します(学部・学科・コースによっては受け入れができないことがあります)。出願手続きや日程、選考に関する詳細については、「セイカポータル」に掲載される「転学部・転学科・転コース試験出願要項」を確認してください。

試験の出願資格は以下の通りです。

● 2年次への転学部・転学科・転コース

本学に在籍している1年次修了者および年度末までに1年次修了見込みの学部生で、30単位以上修得または年度末までに修得見込みの者。

● 3年次への転学部・転学科・転コース

本学に在籍している2年次修了者および年度末までに2年次修了見込みの学部生で、62単位以上修得または年度末までに修得見込みの者。

科目表の見方

科目ナンバリングコード	各科目の対象とする学部・学科・コース、授業形態、履修可能な年次などを表したコードです。▶詳しくはP.48
科目名	その科目の名称を表しています。
必修／選択	その科目が必修科目か、選択必修科目か、選択科目かを表しています。▶詳しくはP.47
授業形態	授業の形態によって講義、演習、実習、学外実習、成果評定に分類しています。▶詳しくはP.47
単位数	その科目を修得することで得られる単位数を表しています。▶詳しくはP.49、56
配当年次	その科目を履修できる年次を表しています。
ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)との相関	その科目を修得した時に身につけることができる能力・資質を表しています。

※「学習のてびき」には、クラス名が記載されていません。「セイカ・ポータル」に揭示される「開講科目一覧」を参照してください。

例

科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
						DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
						知識と理解	創造的思考・視点と考察	技術・研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
Cca15001	キャリア1	必修	講義	1	1	●	●			
Cca25002	キャリア2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
Cca35003	キャリア3	選択	講義	1	3・4	●	●	●		●
Cca15011	職業研究	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
Cca15021	ベンチャー・ビジネス論	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●	●		●
Cca15031	スポーツとビジネス	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
Cca15041	表現活動と経済	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
Cca15051	クリエイティブの現場	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
Cca15061	日本の企業文化研究	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
Cca15071	ポートフォリオ実習1	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		●
Cca15072	ポートフォリオ実習2	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		●
Cca15081	コミュニケーション実践演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●		●	●	●
Cps24011	大学連携プログラム	選択	演習	2	2・3・4	●	●	●	●	●
Cps24021	インターンシップ1	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●	●	●
Cps24022	インターンシップ2	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●	●	●
Cps14031	海外ショートプログラム	選択	演習	2	1・2・3・4	●	●	●	●	●
Cps14041	国内ショートプログラム	選択	演習	2	1・2・3・4	●	●	●	●	●
Cps24051	産学公連携PBLプログラム1	選択	演習	2	2・3・4		●	●	●	●
Cps24052	産学公連携PBLプログラム2	選択	演習	2	2・3・4		●	●	●	●

6

カリキュラム Curriculum

P.062 全学共通カリキュラム

P.072 国際文化学部

P.096 メディア表現学部

P.110 芸術学部

P.118 デザイン学部

P.158 マンガ学部

全学共通カリキュラム

全学共通教育科目を学ぶ意味

本学では、学部の専門教育で学ぶ専門知や表現力を飛躍的に伸ばし、深めるために、すべての学部にも所属する学生がともに学ぶ全学共通教育科目を配置しています。哲学、芸術学、科学史、数学的思考法、統計的思考法などの科目の履修を通じて、ものごとの成り立ちや、世の中にある多くの価値観を知り、視野を広げるとともに、論理的に思考する力を養います。

私達人間はどのような存在なのか、どのように生きるべきなのか、私達人間が構成する社会とは何なのか、どのような課題があるのか、人間の脳や心の有り様はどうなっているのか、美しさとは何なのか、科学の発達は地球や生物にどのような影響を与えてきたのか等、専門教育と無縁に思える知識と教養は、実は専門分野の学びを深めることに役立つのです。

複数の視点から世界をとらえ、さまざまな手法で思考することは、自分の考えや企画を表現するとき、多様な他者とコミュニケーションをとるとき、あなたにとって豊かなヒントを運んでくれるでしょう。視野を広げ、考えることこそが、新たな可能性を探るための力を与え、表現に厚みを生むのです。

また、全学共通教育科目には「社会実践力育成プログラム」など、多様な他者と協働する力を養う科目も配置しています。全学共通教育で身につける「幅広い教養と知識」と専門教育で身につける「専門性」が融合した学びを活かす場として準備しています。

大学での学びは、長い時間を経てそれらが繋がり太く長い線となり、卒業した後の人生において意義のある財産となります。全学共通教育科目は、専門教育科目と共に重要な役割を果たす本学の学びの基盤です。是非積極的に履修してください。

全学共通教育科目

5学部1プログラムの全ての学生が履修する全学共通教育科目は「導入プログラム」「表現科目」「グローバル科目」「リベラルアーツ科目」「キャリア科目」「社会実践力育成プログラム」「マイナー科目」から構成されています。これらの科目を通して、グローバルな観点から思考し、リベラルアーツ（深く広い教養と見識）に基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働し、世界の様々な課題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間となる素地を形成することを目指します。

また京都精華大学では、4年間の学修を通じて

DP1	広い視野から複眼的に考察するための知識と理解力	知識と理解 knowledge & understanding
DP2	新しい文化と価値を発想するための創造的思考力	創造的思考・視点と考察 creative perspective & observation
DP3	変化し続ける社会で専門領域の学びを生かすための応用力	技術・研究と表現 skills / research & expression
DP4	地球規模の視点で社会的課題に取り組むための他者理解力と協働力	他者理解と協働 mutual understanding & collaboration
DP5	より良い社会を創るための主体的な行動力	社会への関心と行動 interests & action

の5つの力を培います。全学共通教育科目は科目毎にそのエッセンスが含まれており、これらの力の基盤を築きます。

カリキュラム（教育課程）の構成

科目に定められた単位を修得するには、各科目において定められた評価基準を満たす必要があります。

5学部1プログラムの全ての学生が履修する「**全学共通教育科目** (P.63～)」と
学部、学科ごとに編成された「**学部専門教育科目** (P.72～)」に分けて開設されています。

	科目区分		卒業に必要な単位数		卒業に要する単位数	
	区分	科目群	科目群ごと	区分ごと	小計	計
全学共通 教育科目 P.63～	必修	導入プログラム	2	24単位 以上	50単位 以上	124単位 以上
		表現科目	8			
		グローバル科目	5			
		リベラルアーツ科目	8			
		キャリア科目	1			
	選択必修	マイナー科目	10	10単位 以上		
選択	上記以外の科目	16	16単位 以上			
学部専門教育科目 P.72～			74	74単位 以上	74単位 以上	

科目区分	概要
導入プログラム	入学初年度に大学の理念や本学が有する5つの学部の学びについて理解することで、本学の学びの領域や姿勢、目的を理解します。
表現科目	大学での学びに必要な表現技術であるコミュニケーションスキル、リテラシー能力を伸ばすアカデミックスキル、観察力を身につけるためのデッサンなど、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部を置く京都精華大学ならではの形で、技術の習得に取り組む科目があります。必修科目である「コミュニケーションスキル1・2」「アカデミックスキル1・2」は初年次に、「アカデミックスキル3・4」は3年次に履修し、卒業制作や卒業論文に求められる構成力、表現力、論理力をきたえます。さらに、本学の持つ5つの学部それぞれの表現について専門的な知識を獲得するための科目も設置されています。
グローバル科目	「グローバルな大学」における学びとして、英語、日本語を含めた12言語の語学科目を置くとともに、現代の世界における諸問題を理解するための科目などを置いています。国内学生、日本に関心をもつ留学生双方にとって今後必要なスキルとして、日本語教育に触れる科目も配置しています。
リベラルアーツ科目	哲学、法学、政治学などの大学における学びの基盤となる教養科目に加え、シティズンシップ（市民権）やダイバーシティ（多様性）、クリエイティブシンキング、データサイエンス、プログラミング、AIなど、これからの社会において一層重要となる基礎的な素養を身につけるための科目を配置しています。
キャリア科目	就職活動に本格的に取り組む4年生になるまでに、身につけておくべき思考、態度などの修得をめざします。また、留学生に向けたキャリア教育の一環として、外国人留学生が日本の企業にスムーズに就職することができるよう、日本特有の企業文化を理解するための科目を配置しています。
社会実践力 育成プログラム	短期留学、インターンシップなどを通して、企業や行政と関わり、社会が抱える課題と向き合い、考える機会を持ちます。主な学習環境を学外とし、学内外のさまざまな人々とともに学ぶ中で、協働性、社会性を身につけることをめざします。これらの経験を通して学修への動機付けを高め、社会的に自立する経験を体感し、職業生活に必要な能力を育成します。
マイナー科目	各学部における専門科目に加え、現代社会において必要となるさまざまな専門分野を横断的に学修するために置かれた科目です。本学に置かれた5つの学部の分野と、和の伝統文化、ソーシャルビジネス、アフリカ・アジア、日本語教育から選択して学修します。自身の所属学部を超えて学修の幅を広げるにより、専門知を組み合わせた深いレベルでの学びをめざします。

マイナー科目の履修について

[学部マイナー科目]

学部ごとに、概論科目、歴史科目、リテラシー科目、特講科目の計6科目が設置されています。理解度を深めるためにまずは概論科目から履修を始め、最後に特講科目を履修することをお勧めします。

[特色マイナー科目]

現代社会において必要となる、和の伝統文化、ソーシャルビジネス、アフリカ・アジア、日本語教育の分野の科目を設置しています。演習科目は同一分野の概論科目を履修してから受講することをお勧めします。

分野		科目名	条件	備考
和の伝統文化	概論科目	和の伝統文化論	なし	
	演習・実習科目	京都の伝統産業実習	● 1年次または2年次夏までに、できるだけ「和の伝統文化論」の単位を修得すること	● 実習先の工房毎に定員や条件あり ● 希望者が定員を超えた場合は、志望理由書他によって選考
ソーシャルビジネス	概論科目	ファイナンス論	なし	
	演習・実習科目	ソーシャルビジネス演習1・2	● 3年次までにできるだけ「ファイナンス論」「イノベーション論」の単位を修得すること	● 希望者が定員を超えた場合は、抽選等によって選考
アフリカ・アジア	概論科目	アフリカ・アジア概論	なし	
	演習・実習科目	なし	なし	
日本語教育	概論科目	日本事情理解	なし	
	演習・実習科目	日本語教育演習1	● 事前に、同一分野の「日本事情理解」「言語と心理」「言語と社会」「日本語学」のうち、「日本事情理解」を含む3科目以上を修得すること	
		日本語教育演習2	● 事前に、「日本語教育演習1」の単位を修得すること	● 希望者が定員を超えた場合は、抽選等によって選考

マイナー修了認定について

「マイナー科目」は同一領域の科目を10単位修得した場合、その領域の修了認定書を発行します。

全学共通教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考・視点と考察	技術・研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
導入プログラム	Cip10001	フレッシュヤーズ・キャンプ	必修	演習	1	1	●			●	●
	Cip10003	クリエイティブ・ワークショップ	必修	講義	1	1	●		●		●
表現科目	Cet11001	コミュニケーションスキル1	必修	演習	1	1					●
	Cet11002	コミュニケーションスキル2	必修	演習	1	1			●		●
	Cet11011	アカデミックスキル1	必修	演習	1	1	●				●
	Cet11012	アカデミックスキル2	必修	演習	1	1	●				●
	Cet31013	アカデミックスキル3	必修	演習	1	3		●			●
	Cet31014	アカデミックスキル4	必修	演習	1	3	●	●	●	●	●
	Cet11021	デッサン1	必修	実習	1	1	●				
	Cet11022	デッサン2	選択	実習	1	1・2・3・4	●	●			
	Cet11023	デッサン3	選択	実習	1	1・2・3・4	●	●			
	Cet11024	デッサン4	選択	実習	1	1・2・3・4	●	●	●		
	Cet11031	グラフィックデザインソフトスキル	必修	演習	1	1			●		
	Cet11041	芸術学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cet11051	美学概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●
	Cet11061	現代美術概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●		
	Cet11071	美術史	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Cet11081	日本美術史	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Cet11091	東洋美術史	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Cet11111	西洋美術史	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Cet11121	工芸概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cet11131	デザイン論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cet11141	素材論	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Cet11151	音楽概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●				●
	Cet11161	ポピュラー音楽論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cet11171	身体表現論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cet11181	身体文化演習1	選択	演習	1	1・2・3・4	●				●
	Cet11182	身体文化演習2	選択	演習	1	1・2・3・4	●				●
	Cet11191	表現と社会	選択	講義	2	1・2・3・4			●		●
	Cet11201	表現と倫理	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●
Cet11211	表現と知的財産権	選択	講義	2	1・2・3・4	●					
Cet11221	写真技法	選択	演習	1	1・2・3・4	●					

全学共通教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関					
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	
							知識と理解	創造的思考・視点と考察	技術・研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動	
グローバル科目	Cgg22001	日本文化概論	必修	講義	1	2	●					
	Cgg12011	英語1	必修	演習	1	1	●	●		●	●	
	Cgg12012	英語2	必修	演習	1	1	●	●		●	●	
	Cgg12013	英語3	必修	演習	1	1	●	●		●	●	
	Cgg12014	英語4	必修	演習	1	1	●	●		●	●	
	Cgg12021	日本語1	必修	演習	1	1	●	●		●	●	
	Cgg12022	日本語2	必修	演習	1	1	●	●		●	●	
	Cgg12023	日本語3	必修	演習	1	1	●	●		●	●	
	Cgg12024	日本語4	必修	演習	1	1	●	●		●	●	
	Cgg22025	上級日本語1	選択	演習	1	2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg22026	上級日本語2	選択	演習	1	2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg22027	上級日本語3	選択	演習	1	2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg22028	上級日本語4	選択	演習	1	2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg22031	Business English	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●	●	●	
	Cgg22041	English discussion	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●	●	●	
	Cgg22051	Effective presentation	選択	演習	1	2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg22061	English for studying abroad	選択	演習	1	2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12071	中国語1	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12072	中国語2	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12081	韓国語1	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12082	韓国語2	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12091	フランス語1	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12092	フランス語2	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12101	タイ語	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12111	ベトナム語	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12121	インドネシア語	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12131	スワヒリ語	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12141	ドイツ語	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12151	スペイン語	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12161	イタリア語	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●		●	●	
	Cgg12171	サステナビリティと社会	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●	●	●	
	Cgg12181	現代社会の諸問題	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●	●	●	
	Cgg12191	海外ショートプログラム入門	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●			
Cgg12201	世界と食	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●					
Cgg12211	日本語学概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●				●		
Cgg12221	言語学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●					

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考・視点と考察	技術・研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
リベラルアーツ科目	Cla13001	自由論	必修	講義	1	1	●	●			●
	Cla13011	シティズンシップとダイバーシティ	必修	講義	1	1	●	●			●
	Cla13021	創造的思考法	必修	講義	1	1	●	●	●		
	Cla13031	情報と倫理	必修	講義	1	1	●	●	●		
	Cla23041	人権と教育	必修	講義	1	2	●	●	●	●	●
	Cla23051	グローバル化と社会	必修	講義	1	2	●	●			
	Cla23061	障害学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			
	Cla13071	哲学入門	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cla13081	政治学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cla13091	法学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cla13101	日本国憲法	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cla13111	物語論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cla13121	考古学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cla13131	民俗学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cla13141	情報科学概論	必修	講義	1	1	●		●		
	Cla23151	データサイエンス入門	必修	講義	1	2	●	●			
	Cla13161	統計的思考法	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●		
	Cla13171	プログラミング1	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●	●		
	Cla13172	プログラミング2	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●	●		
	Cla23173	プログラミング3	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Cla23174	プログラミング4	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Cla13181	情報テクノロジー1	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●		
	Cla13182	情報テクノロジー2	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●		
	Cla13191	人類と人工知能	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●		
	Cla13201	教職コンピュータ入門	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	Cla13211	自然科学概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cla13221	科学史	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cla13231	生物学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cla13241	数学的思考法	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●		
	Cla13251	行動心理学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Cla13261	スポーツ実習1	選択	実習	1	1・2・3・4				●	●
	Cla13262	スポーツ実習2	選択	実習	1	1・2・3・4				●	●

全学共通教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考・視点と考察	技術・研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
キャリア科目	Cca15001	キャリア1	必修	講義	1	1	●	●			
	Cca25002	キャリア2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Cca35003	キャリア3	選択	講義	1	3・4	●	●	●		●
	Cca15011	職業研究	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cca15021	ベンチャー・ビジネス論	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●	●		●
	Cca15031	スポーツとビジネス	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	Cca15041	表現活動と経済	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	Cca15051	クリエイティブの現場	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Cca15061	日本の企業文化研究	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	Cca15071	ポートフォリオ実習1	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		●
	Cca15072	ポートフォリオ実習2	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		●
	Cca15081	コミュニケーション実践演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●		●	●	●
社会実践力育成プログラム	Cps24011	大学連携プログラム	選択	演習	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Cps24021	インターンシップ1	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Cps24022	インターンシップ2	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Cps14031	海外ショートプログラム	選択	演習	2	1・2・3・4	●	●	●	●	●
	Cps14041	国内ショートプログラム	選択	演習	2	1・2・3・4	●	●	●	●	●
	Cps24051	産学公連携PBLプログラム1	選択	演習	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Cps24052	産学公連携PBLプログラム2	選択	演習	2	2・3・4	●	●	●	●	●

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5		
							知識と理解	創造的思考・視点と考察	技術・研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動		
マイナー科目(学部)	国際文化	Cmi26001	国際文化概論1	選択必修	講義	1	2・3・4	●					
		Cmi26011	国際文化史1	選択必修	講義	1	2・3・4	●	●				
		Cmi26021	国際文化リテラシー1	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi26022	国際文化リテラシー2	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi26031	国際文化特講1	選択必修	講義	2	2・3・4			●			
		Cmi26032	国際文化特講2	選択必修	講義	2	2・3・4				●	●	
	メディア表現	Cmi26041	メディア表現概論1	選択必修	講義	1	2・3・4	●					
		Cmi26051	メディア表現史1	選択必修	講義	1	2・3・4	●	●				
		Cmi26061	メディア表現リテラシー1	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi26062	メディア表現リテラシー2	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi26071	メディア表現特講1	選択必修	講義	2	2・3・4			●			
		Cmi26072	メディア表現特講2	選択必修	講義	2	2・3・4				●	●	
	芸術	Cmi26081	美術概論1	選択必修	講義	1	2・3・4	●					
		Cmi26091	美術史1	選択必修	講義	1	2・3・4	●	●				
		Cmi26101	美術リテラシー1	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi26102	美術リテラシー2	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi26111	美術特講1	選択必修	講義	2	2・3・4			●			
		Cmi26122	美術特講2	選択必修	講義	2	2・3・4				●	●	
	デザイン	Cmi26131	デザイン概論1	選択必修	講義	1	2・3・4	●					
		Cmi26141	デザイン史1	選択必修	講義	1	2・3・4	●	●				
		Cmi26151	デザインリテラシー1	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi26162	デザインリテラシー2	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi26171	デザイン特講1	選択必修	講義	2	2・3・4			●			
		Cmi26172	デザイン特講2	選択必修	講義	2	2・3・4				●	●	
マンガ	Cmi26181	マンガ概論1	選択必修	講義	1	2・3・4	●	●					
	Cmi26182	マンガ史1	選択必修	講義	1	2・3・4	●	●					
	Cmi26191	マンガリテラシー1	選択必修	講義	2	2・3・4	●	●					
	Cmi26192	マンガリテラシー2	選択必修	講義	2	2・3・4	●				●		
	Cmi26201	マンガ特講1	選択必修	講義	2	2・3・4			●				
	Cmi26202	マンガ特講2	選択必修	講義	2	2・3・4				●	●		

※マイナー科目から10単位以上履修すること(所属する学部の科目は含まれません)。P.64の「マイナー科目の履修について」をよく読んでから履修してください。

全学共通教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5		
							知識と理解	創造的思考・視点と考察	技術・研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動		
マイナー科目(特色)	和の伝統文化	Cmi17011	和の伝統文化論	選択必修	講義	1	1・2・3・4	●					
		Cmi27021	京都のまちづくり	選択必修	講義	1	2・3・4	●	●				
		Cmi27031	京都の伝統工芸講座1	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi27032	京都の伝統工芸講座2	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi27041	京都の習俗	選択必修	講義	2	2・3・4			●			
		Cmi27051	京都の伝統産業実習	選択必修	実習	2	2・3・4				●	●	
	ソーシャルビジネス	Cmi17061	ファイナンス論	選択必修	講義	1	1・2・3・4	●					
		Cmi27071	マーケティング論	選択必修	講義	1	2・3・4	●	●				
		Cmi27081	ビジネスモデル論	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi27091	イノベーション論	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi37101	ソーシャルビジネス演習1	選択必修	演習	2	3・4			●			
		Cmi37102	ソーシャルビジネス演習2	選択必修	演習	2	3・4				●	●	
	アフリカ・アジア	Cmi17111	アフリカ・アジア概論	選択必修	講義	1	1・2・3・4	●					
		Cmi27121	アフリカ・アジア史	選択必修	講義	1	2・3・4	●	●				
		Cmi27131	アフリカ・アジアアテラシー1	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi27142	アフリカ・アジアアテラシー2	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
		Cmi27151	アフリカ・アジア特講1	選択必修	講義	2	2・3・4			●			
		Cmi27152	アフリカ・アジア特講2	選択必修	講義	2	2・3・4				●	●	
	日本語教育	Cmi17161	日本事情理解	選択必修	講義	1	1・2・3・4	●					
		Cmi27171	言語と心理	選択必修	講義	1	2・3・4	●	●				
		Cmi27181	言語と社会	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●			
Cmi27191		日本語学	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●				
Cmi37201		日本語教育演習1	選択必修	演習	2	3・4			●				
Cmi37202		日本語教育演習2	選択必修	演習	2	3・4				●	●		

※マイナー科目から10単位以上履修すること(所属する学部/学科の科目は含まれません)。P.64の「マイナー科目の履修について」をよく読んでから履修してください。

ポリシーとカリキュラム構造

● 教育研究目的

国際文化学部の教育研究目的は、ヒト、モノ、情報が国境を超えて複雑に絡み合う現代社会の多様な課題の解決に貢献し、より良い共生社会の実現に寄与できる人間の育成です。アフリカとアジア、そして日本の京都を中心にグローバル／ローカル双方のアプローチから社会課題を理解し、地球規模の視野を持ち、体験的な学修を通して個別のテーマ研究を深めます。卒業時に身につけているべき要素を以下の5つとし、卒業要件を満たせばこれらを身につけたものと認め、学位を授与します。

● 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	自身をとりまく社会と、シティズンシップ及びヒューマニズムに関する基本的な知識と理解がある。	知識と理解 knowledge & understanding
DP2	グローバル化による社会的な事象を、複数の視点やアプローチから考察することができる。	視点と考察 diverse perspective & observation
DP3	グローバルスタディーズ、人文学のいずれかの領域の専門知識を持ち、特定のテーマ研究を深め他者に伝えることができる。	研究と表現 research & expression
DP4	多様な他者との違いを認め、協働して課題解決に取り組むことができる。	他者理解と協働 mutual understanding & collaboration
DP5	より良い社会を創る意欲を持ち、学びを応用して社会の課題解決に自ら取り組むことができる。	社会への関心と行動 interests & action

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

国際文化学部は、学位授与の方針を達成するために、全学共通教育科目、学部専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

学部専門教育科目では、

1年次には、基礎演習を通して基礎的な人文系の研究方法を学びつつ、各学科の基礎講義と学科共通の選択講義を通じて初歩的な理論を理解し、特にグローバルスタディーズ学科では海外短期フィールドワークを体験することによって、グローバル／ローカル双方の視点を獲得させます。

2年次以降は専攻に分かれ、各専門分野の重要な研究に触れるとともに、最新の研究成果を知ることによって、専門的知識を系統立てて習得させます。また、少人数の演習形式の授業を通じて、各専門分野の高度な研究手法・考察能力を体得させます。

3年次前半は国内外のフィールドでの主体的な調査・研究を遂行する必修のプログラムを経験することによって社会の課題を解決するための実践的な力を獲得させます。後半では各専門分野に関する講義を通して学識を深化させるとともに、特に人文学科では各専門領域の基本文献を精読することによって、既存の研究成果に対する批判的な分析能力と総合的な判断能力を習得させます。

最終年次には、グローバル／ローカル双方の視点のもとで、社会課題の解決法を自ら着想できる発想力、それを実践する行動力、その実践の中で他者と積極的に関わろうとする協働力が習得できているかを確認する機会として卒業論文とその内容に関する研究発表を必修とします。これにより、実践的かつ主体的に研究・調査を計画・遂行するとともに、その成果を社会に向けて学術的に表現する技法と作法を養います。

2. 教育方法

- (1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
- (3) 学修成果の可視化を通じて、学生の自律的な学修を支援します。

3. 学修成果の評価

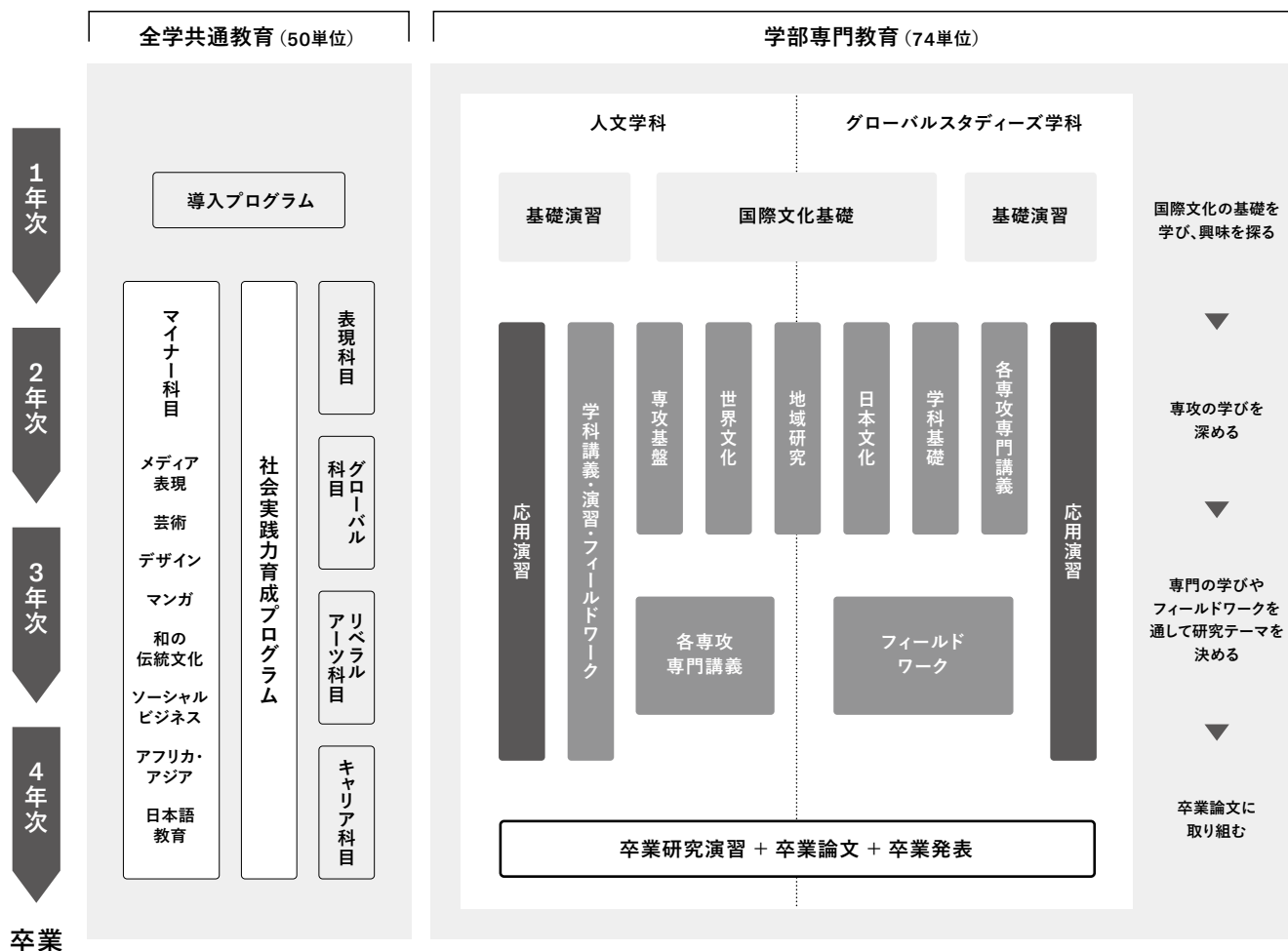
国際文化学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況により、総合的評価を行います。卒業論文(必修)は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。



国際文化学部 人文学科 文学専攻 卒業要件

科目区分	進級要件	必修科目				選択必修科目	選択科目	卒業に要する単位(計)	
		科目名称	配当年次	単位数	小計	小計			
全学共通教育科目	共通教育科目	導入プログラム	○ フレッシュヤーズ・キャンプ	1	1Q	1	24単位	16単位以上	50単位以上
		グローバル科目	○ クリエイティブ・ワークショップ	1	2Q	1			
			○ コミュニケーションスキル1	1	1Q	1			
			○ コミュニケーションスキル2	1	3Q	1			
			○ アカデミックスキル1	1	2Q	1			
			○ アカデミックスキル2	1	4Q	1			
			○ アカデミックスキル3	3	3Q	1			
			○ アカデミックスキル4	3	4Q	1			
			○ デッサン1	1	1Q	1			
		グローバル科目	○ グラフィックデザインソフトスキル	1	2Q	1			
			○ 日本文化概論	2	4Q	1			
			○ 英語1/日本語1	1	1Q	1			
			○ 英語2/日本語2	1	2Q	1			
		リベラルアーツ科目	○ 英語3/日本語3	1	3Q	1			
			○ 英語4/日本語4	1	4Q	1			
○ 自由論	1		3Q	1					
○ シティズンシップとダイバーシティ	1		4Q	1					
○ 創造的思考法	1		3Q	1					
○ 情報と倫理	1		1Q	1					
○ 人権と教育	2		3Q	1					
○ グローバル化と社会	2		2Q	1					
キャリア科目	○ 情報科学概論	1	2Q	1					
	○ データサイエンス入門	2	1Q	1					
○ キャリア1	1	1Q	1						
社会実践力育成プログラム									
マイナー科目					10単位以上(※)				
学部専門教育科目	専門演習科目	基礎演習科目	○ 基礎演習1	1	1Q	2	22単位	18単位以上	74単位以上
			○ 基礎演習2	1	2Q	2			
			○ 基礎演習3	1	3Q	2			
			○ 基礎演習4	1	4Q	2			
		学科講義・演習科目	○ 応用演習1	2	1Q	1			
			○ 応用演習2	2	2Q	1			
			○ 応用演習3	2	3Q	1			
			○ 応用演習4	2	4Q	1			
			● 応用演習5	3	1Q	1			
			● 応用演習6	3	2Q	1			
			● 応用演習7	3	3Q	1			
			● 応用演習8	3	4Q	1			
		卒業研究演習科目	○ 卒業研究演習1	4	1Q	1			
			○ 卒業研究演習2	4	2Q	1			
			○ 卒業研究演習3	4	3Q	1			
			○ 卒業論文	4	4Q	2			
		○ 卒業発表	4	4Q	1				
		国際文化基礎科目	○ 国際文化概論1	1	1Q	1			
			○ 国際文化概論2	1	2Q	1			
			○ 国際文化史1	1	3Q	1			
			○ 国際文化史2	1	4Q	1			
		学科講義・演習科目	○ 講読演習1	2	3Q	1			
○ 講読演習2	2		4Q	1					
● 講読演習3	3		3Q	1					
● 講読演習4	3		4Q	1					
○ 地域学1	2		1Q	1					
○ 地域学2	2		2Q	1					
○ 現場学1	2		3Q	1					
○ 現場学2	2		4Q	1					
● 長期フィールドワーク1	3		1Q	2					
● 長期フィールドワーク2	3		1Q	2					
● 長期フィールドワーク3	3	1Q	2						
専攻基盤科目	○ 文学概論	2	1Q	2					
	○ 日本文学研究1	2	2Q	2					
	○ 日本文学研究2	2	3Q	2					
文学講義科目					10単位以上(※)				
歴史講義科目									
社会講義科目									
日本文化講義科目									
地域研究科目									
世界文化科目									

(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を選択科目の単位とみなす。

進級要件
 〈1年次から2年次〉 1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程科目の単位を除く)。
 〈2年次から3年次/○印〉 ○全学共通1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。○学部専門1・2年次必修科目の28単位をすべて修得していること。
 〈3年次から4年次/●印〉 ●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。

国際文化学部 人文学科 歴史専攻 卒業要件

科目区分	必修科目					小計	選択必修科目 小計	選択科目 小計	卒業に要する 単位(計)
	進級 要件	科目名称	配当年次	単位数	小計				
全学共通教育科目	導入プログラム	○ フレッシュャーズ・キャンプ	1	1Q	1	24単位		16単位 以上	50 単位 以上
		○ クリエイティブ・ワークショップ	1	2Q	1				
	表現科目	○ コミュニケーションスキル1	1	1Q	1				
		○ コミュニケーションスキル2	1	3Q	1				
		○ アカデミックスキル1	1	2Q	1				
		○ アカデミックスキル2	1	4Q	1				
		○ アカデミックスキル3	3	3Q	1				
		○ アカデミックスキル4	3	4Q	1				
		○ デッサン1	1	1Q	1				
	グローバル科目	○ グラフィックデザインソフトスキル	1	2Q	1				
		○ 日本文化概論	2	4Q	1				
		○ 英語1/日本語1	1	1Q	1				
		○ 英語2/日本語2	1	2Q	1				
		○ 英語3/日本語3	1	3Q	1				
	リベラルアーツ科目	○ 英語4/日本語4	1	4Q	1				
○ 自由論		1	3Q	1					
○ シティズンシップとダイバーシティ		1	4Q	1					
○ 創造的思考法		1	3Q	1					
○ 情報と倫理		1	1Q	1					
○ 人権と教育		2	3Q	1					
○ グローバル化と社会		2	2Q	1					
キャリア科目	○ 情報科学概論	1	2Q	1					
	○ データサイエンス入門	2	1Q	1					
社会実践力育成プログラム	○ キャリア1	1	1Q	1					
マイナー科目						10単位以上(※)			
学部専門教育科目	基礎演習科目	○ 基礎演習1	1	1Q	2	22単位		16単位 以上	74 単位 以上
		○ 基礎演習2	1	2Q	2				
		○ 基礎演習3	1	3Q	2				
		○ 基礎演習4	1	4Q	2				
	応用演習科目	○ 応用演習1	2	1Q	1				
		○ 応用演習2	2	2Q	1				
		○ 応用演習3	2	3Q	1				
		○ 応用演習4	2	4Q	1				
		● 応用演習5	3	1Q	1				
		● 応用演習6	3	2Q	1				
		● 応用演習7	3	3Q	1				
		● 応用演習8	3	4Q	1				
	卒業研究演習科目	○ 卒業研究演習1	4	1Q	1				
		○ 卒業研究演習2	4	2Q	1				
		○ 卒業研究演習3	4	3Q	1				
○ 卒業論文		4	4Q	2					
○ 卒業発表		4	4Q	1					
国際文化基礎科目	○ 国際文化概論1	1	1Q	1	4単位		16単位 以上		
	○ 国際文化概論2	1	2Q	1					
	○ 国際文化史1	1	3Q	1					
	○ 国際文化史2	1	4Q	1					
学科講義・演習科目	○ 講読演習1	2	3Q	1	14単位				
	○ 講読演習2	2	4Q	1					
	● 講読演習3	3	3Q	1					
	● 講読演習4	3	4Q	1					
	○ 地域学1	2	1Q	1					
	○ 地域学2	2	2Q	1					
	○ 現場学1	2	3Q	1					
	○ 現場学2	2	4Q	1					
	● 長期フィールドワーク1	3	1Q	2					
	● 長期フィールドワーク2	3	1Q	2					
● 長期フィールドワーク3	3	1Q	2						
専攻基盤科目	○ 歴史学概論	2	1Q	2	6単位				
	○ 日本史研究1	2	2Q	2					
	○ 日本史研究2	2	3Q	2					
文学講義科目									
歴史講義科目						12単位以上(※)			
社会講義科目									
日本文化講義科目									
地域研究科目									
世界文化科目									

卒業に要する単位
124
単位以上

(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を選択科目の単位とみなす。

進級
要件

〈1年次から2年次〉 1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)。
 〈2年次から3年次/○印〉 ○全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。○学部専門の1・2年次必修科目の28単位をすべて修得していること。
 〈3年次から4年次/●印〉 ●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。

国際文化学部 人文学科 社会専攻 卒業要件

科目区分	進級要件	必修科目				小計	選択必修科目	選択科目	卒業に要する単位(計)
		科目名称	配当年次	単位数	小計		小計		
全学共通教育科目	共通教育科目	導入プログラム	○ フレッシュヤーズ・キャンプ	1	1Q	1	24単位	16単位以上	50単位以上
			○ クリエイティブ・ワークショップ	1	2Q	1			
		表現科目	○ コミュニケーションスキル1	1	1Q	1			
			○ コミュニケーションスキル2	1	3Q	1			
			○ アカデミックスキル1	1	2Q	1			
			○ アカデミックスキル2	1	4Q	1			
			○ アカデミックスキル3	3	3Q	1			
			○ アカデミックスキル4	3	4Q	1			
			○ デッサン1	1	1Q	1			
			○ グラフィックデザインソフトスキル	1	2Q	1			
		グローバル科目	○ 日本文化概論	2	4Q	1			
			○ 英語1/日本語1	1	1Q	1			
			○ 英語2/日本語2	1	2Q	1			
			○ 英語3/日本語3	1	3Q	1			
			○ 英語4/日本語4	1	4Q	1			
リベラルアーツ科目	○ 自由論	1	3Q	1					
	○ シティズンシップとダイバーシティ	1	4Q	1					
	○ 創造的思考法	1	3Q	1					
	○ 情報と倫理	1	1Q	1					
	○ 人権と教育	2	3Q	1					
	○ グローバル化と社会	2	2Q	1					
	○ 情報科学概論	1	2Q	1					
	○ データサイエンス入門	2	1Q	1					
キャリア科目	○ キャリア1	1	1Q	1					
社会実践力育成プログラム									
マイナー科目						10単位以上(※)			
学部専門教育科目	専門演習科目	基礎演習科目	○ 基礎演習1	1	1Q	2	22単位	14単位以上	74単位以上
			○ 基礎演習2	1	2Q	2			
			○ 基礎演習3	1	3Q	2			
			○ 基礎演習4	1	4Q	2			
		応用演習科目	○ 応用演習1	2	1Q	1			
			○ 応用演習2	2	2Q	1			
			○ 応用演習3	2	3Q	1			
			○ 応用演習4	2	4Q	1			
			● 応用演習5	3	1Q	1			
			● 応用演習6	3	2Q	1			
			● 応用演習7	3	3Q	1			
			● 応用演習8	3	4Q	1			
		卒業研究演習科目	○ 卒業研究演習1	4	1Q	1			
			○ 卒業研究演習2	4	2Q	1			
			○ 卒業研究演習3	4	3Q	1			
			○ 卒業論文	4	4Q	2			
			○ 卒業発表	4	4Q	1			
		国際文化基礎科目	○ 国際文化概論1	1	1Q	1			
			○ 国際文化概論2	1	2Q	1			
			○ 国際文化史1	1	3Q	1			
			○ 国際文化史2	1	4Q	1			
		学科講義・演習科目	○ 講読演習1	2	3Q	1			
○ 講読演習2	2		4Q	1					
● 講読演習3	3		3Q	1					
● 講読演習4	3		4Q	1					
○ 地域学1	2		1Q	1					
○ 地域学2	2		2Q	1					
○ 現場学1	2		3Q	1					
○ 現場学2	2		4Q	1					
● 長期フィールドワーク1	3		1Q	2					
● 長期フィールドワーク2	3		1Q	2					
● 長期フィールドワーク3	3	1Q	2						
専攻基盤科目	○ 現代社会論	2	1Q	2					
	○ 社会研究1	2	2Q	2					
	○ 社会研究2	2	3Q	2					
文学講義科目									
歴史講義科目									
社会講義科目						14単位以上(※)			
日本文化講義科目									
地域研究科目									
世界文化科目									

(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を選択科目の単位とみなす。

進級要件 <1年次から2年次> 1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)。
 <2年次から3年次/○印> ○全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。○学部専門の1・2年次必修科目の28単位をすべて修得していること。
 <3年次から4年次/●印> ●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。

国際文化学部 人文学科 日本文化専攻 卒業要件

科目区分	必修科目					小計	選択必修科目 小計	選択科目 小計	卒業に要する 単位(計)
	進級 要件	科目名称	配当年次	単位数	単位数				
全学共通教育科目	導入プログラム	○ フレッシュャーズ・キャンプ	1	1Q	1	24単位		16単位 以上	50 単位 以上
		○ グリエイティブ・ワークショップ	1	2Q	1				
	表現科目	○ コミュニケーションスキル1	1	1Q	1				
		○ コミュニケーションスキル2	1	3Q	1				
		○ アカデミックスキル1	1	2Q	1				
		○ アカデミックスキル2	1	4Q	1				
		○ アカデミックスキル3	3	3Q	1				
		○ アカデミックスキル4	3	4Q	1				
		○ デッサン1	1	1Q	1				
	グローバル科目	○ グラフィックデザインソフトスキル	1	2Q	1				
		○ 日本文化概論	2	4Q	1				
		○ 英語1/日本語1	1	1Q	1				
		○ 英語2/日本語2	1	2Q	1				
	リベラルアーツ科目	○ 英語3/日本語3	1	3Q	1				
○ 英語4/日本語4		1	4Q	1					
○ 自由論		1	3Q	1					
○ シティズンシップとダイバーシティ		1	4Q	1					
○ 創造的思考法		1	3Q	1					
○ 情報と倫理		1	1Q	1					
○ 人権と教育		2	3Q	1					
キャリア科目	○ グローバル化と社会	2	2Q	1					
	○ 情報科学概論	1	2Q	1					
社会実践力育成プログラム	○ データサイエンス入門	2	1Q	1					
マイナー科目	○ キャリア1	1	1Q	1	10単位以上(※)				
学部専門教育科目	基礎演習科目	○ 基礎演習1	1	1Q	2	22単位		28単位 以上	74 単位 以上
		○ 基礎演習2	1	2Q	2				
		○ 基礎演習3	1	3Q	2				
		○ 基礎演習4	1	4Q	2				
	応用演習科目	○ 応用演習1	2	1Q	1				
		○ 応用演習2	2	2Q	1				
		○ 応用演習3	2	3Q	1				
		○ 応用演習4	2	4Q	1				
		● 応用演習5	3	1Q	1				
		● 応用演習6	3	2Q	1				
		● 応用演習7	3	3Q	1				
		● 応用演習8	3	4Q	1				
	卒業研究演習科目	○ 卒業研究演習1	4	1Q	1				
		○ 卒業研究演習2	4	2Q	1				
○ 卒業研究演習3		4	3Q	1					
○ 卒業論文		4	4Q	2					
国際文化基礎科目	○ 卒業発表	4	4Q	1					
	○ 国際文化概論1	1	1Q	1					
	○ 国際文化概論2	1	2Q	1					
	○ 国際文化史1	1	3Q	1					
学科講義・演習科目	○ 国際文化史2	1	4Q	1					
	○ 講読演習1	2	3Q	1					
	○ 講読演習2	2	4Q	1					
	● 講読演習3	3	3Q	1					
	● 講読演習4	3	4Q	1					
	○ 地域学1	2	1Q	1					
	○ 地域学2	2	2Q	1					
	○ 現場学1	2	3Q	1					
	○ 現場学2	2	4Q	1					
	● 長期フィールドワーク1	3	1Q	2					
● 長期フィールドワーク2	3	1Q	2						
● 長期フィールドワーク3	3	1Q	2						
専攻基盤科目	○ 日本文化論	2	1Q	2					
	○ 日本文化研究1	2	2Q	2					
文学講義科目	○ 日本文化研究2	2	3Q	2					
歴史講義科目									
社会講義科目									
日本文化講義科目									
地域研究科目									
世界文化科目									

(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を選択科目の単位とみなす。

進級
要件

(1年次から2年次) 1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)。
 (2年次から3年次/○印) ○全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。○学部専門の1・2年次必修科目の28単位をすべて修得していること。
 (3年次から4年次/●印) ●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。

国際文化学部 人文学科 **カリキュラムマップ**

 専門演習科目
 学科講義・演習科目
 専攻基盤科目
 各専攻講義科目
 その他科目

1年次

人文学の基礎を学び、
興味の在り処を探る

基礎科目

基礎演習1~4

国際文化概論1・2
国際文化史1・2

2年次

専攻・ゼミを選び、
専門知識を学びながら、
フィールドワーク・研究の
テーマを見つける

文学専攻

応用演習1~4

文学概論
日本文学研究1・2

講読演習1・2

歴史専攻

応用演習1~4

歴史学概論
日本史研究1・2

講読演習1・2

社会専攻

応用演習1~4

現代社会論
社会研究1・2

講読演習1・2

日本文化専攻

応用演習1~4

日本文化論
日本文化研究1・2

講読演習1・2

地域学1・2 現場学1・2

選択必修科目 ※2~4年次に履修可

専門講義科目

日本語学特講
漢文学
口承文化論
古典文法
書誌学
日本文学史
批評理論
世界の文学1・2
説話・伝承史
言語文化論
比較文学
神話学
詩歌論
歌謡論

日本史
歴史地理学
京都の歴史
日本民衆史
日本地域史
日本社会史
日本・アジア関係史
西洋史
東洋史

社会学
社会調査法
ジェンダー論
経済学
NGO論
人間の安全保障
市民社会論
平和学
先住民族研究
国際開発論

文化社会学
文化政策論
日本の文化遺産
観光学総論
民芸論
日本の現代文化
日本芸能史
日本の風土
日本思想史
アイヌ文化論
南島文化論

国際文化基礎科目 学科講義科目 地域研究科目 世界文化科目

3年次

専攻を越えて
フィールドワークに
取り組み、自身の
研究テーマを固める

長期フィールドワーク1~3 応用演習5・6

応用演習7・8

講読演習3・4

応用演習7・8

講読演習3・4

応用演習7・8

講読演習3・4

応用演習7・8

講読演習3・4

4年次

これまでの学びをもとに
卒業研究に取り組む

卒業研究演習1~3
卒業論文

卒業研究演習1~3
卒業論文

卒業研究演習1~3
卒業論文

卒業研究演習1~3
卒業論文

卒業発表

国際文化学部 人文学科 文学専攻

「小説や物語を読んだり書いたりするのが好きで、将来は書店か出版関係の仕事に就きたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ	必修	1									2		
		クリエイティブ・ワークショップ	必修	1											
	表現科目		コミュニケーションスキル1	必修	1	表現と知的財産権	選択	2	アカデミックスキル3	必修	1				
			コミュニケーションスキル2	必修	1				アカデミックスキル4	必修	1				
			アカデミックスキル1	必修	1										
			アカデミックスキル2	必修	1										
			デッサン1	必修	1										
			グラフィックデザインソフトスキル	必修	1										
			美術史	選択	2										
			日本美術史	選択	2										
		表現と社会	選択	2											
	グローバル科目		英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1							
			英語2/日本語2	必修	1										
			英語3/日本語3	必修	1										
			英語4/日本語4	必修	1										
			言語学	選択	2										
	リベラルアーツ科目		自由論	必修	1	人権と教育	必修	1							
			シティズンシップとダイバーシティ	必修	1	グローバル化と社会	必修	1							
			創造的思考法	必修	1	データサイエンス入門	必修	1							
			情報と倫理	必修	1										
		情報科学概論	必修	1											
		日本国憲法	選択	2											
	物語論	選択	2												
キャリア科目	キャリア1	必修	1										1		
社会実践力育成プログラム				大学連携プログラム	選択	2							2		
マイナー科目		和の伝統文化論	選必	1	メディア表現概論1	選必	1	メディア表現特講2	選必	2					
				メディア表現史1	選必	1	言語と社会	選必	2						
				メディア表現リテラシー1	選必	2									
				マンガ史1	選必	1									
学部専門教育科目	基礎演習科目・応用演習科目・卒業研究演習科目	基礎演習1	必修	2	応用演習1	必修	1	応用演習5	必修	1	卒業研究演習1	必修	1		
		基礎演習2	必修	2	応用演習2	必修	1	応用演習6	必修	1	卒業研究演習2	必修	1		
		基礎演習3	必修	2	応用演習3	必修	1	応用演習7	必修	1	卒業研究演習3	必修	1		
		基礎演習4	必修	2	応用演習4	必修	1	応用演習8	必修	1	卒業論文	必修	2		
										卒業発表	必修	1			
	国際文化基礎科目		国際文化概論1	必修	1				国際文化特講2	選択	2				
			国際文化概論2	必修	1										
			国際文化史1	必修	1										
			国際文化史2	必修	1										
	専攻基盤科目				文学概論	必修	2								
					日本文学研究1	必修	2								
					日本文学研究2	必修	2								
	学科講義・演習科目		哲学概論	選択	2	講読演習1	必修	1	講読演習3	必修	1				
					講読演習2	必修	1	講読演習4	必修	1					
					地域学1	必修	1	長期フィールドワーク1	必修	2					
					地域学2	必修	1	長期フィールドワーク2	必修	2					
					現場学1	必修	1	長期フィールドワーク3	必修	2					
					現場学2	必修	1								
	文学講義科目・歴史講義科目・社会講義科目・日本文化講義科目・地域研究科目・世界文化科目				書誌学	選必	2	批評理論	選必	2					
					日本文学史	選必	2	世界の文学2	選必	2					
				神話学	選必	2	比較文学	選必	2						
				歌謡論	選必	2	詩歌論	選必	2						
				ジェンダー論	選択	2	グローバル化とメディア	選択	2						
				アイヌ文化論	選択	2									
				比較服飾文化論	選択	2									

国際文化学部 人文学科 歴史専攻

「日本、特に京都の歴史と文化に関心があり、将来は観光業に就きたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数			
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計		
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュヤーズ・キャンプ クリエイティブ・ワークショップ	必修 必修	1 1									2			
	表現科目	コミュニケーションスキル1 コミュニケーションスキル2 アカデミックスキル1 アカデミックスキル2 デッサン1 グラフィックデザインソフトスキル 現代美術概論 日本美術史	必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択 選択	1 1 1 1 1 1 2 2	表現と知的財産権	選択	2	アカデミックスキル3 アカデミックスキル4	必修 必修	1 1				14		
	グローバル科目	英語1/日本語1 英語2/日本語2 英語3/日本語3 英語4/日本語4 世界と食	必修 必修 必修 必修 選択	1 1 1 1 2	日本文化概論	必修	1	現代社会の諸問題	選択	2				9		
	リベラルアーツ科目	自由論 シティズンシップとダイバーシティ 創造的思考法 情報と倫理 情報科学概論 スポーツ実習1	必修 必修 必修 必修 必修 選択	1 1 1 1 1 1	人権と教育 グローバル化と社会 データサイエンス入門	必修 必修 必修	1 1 1							9		
	キャリア科目	キャリア1 職業研究 コミュニケーション実践演習	必修 選択 選択	1 2 1										4		
	社会実践力育成プログラム				産学公連携PBLプログラム1	選択	2							2		
	マイナー科目	和の伝統文化論 日本事情理解	選必 選必	1 1	メディア表現概論1 メディア表現リテラシー1 京都のまちづくり マーケティング論 言語と心理	選必 選必 選必 選必 選必	1 2 1 1 1	京都の習俗	選必	2				10	124	
	学部専門教育科目	基礎演習科目・ 応用演習科目・ 卒業研究演習科目	基礎演習1 基礎演習2 基礎演習3 基礎演習4	必修 必修 必修 必修	2 2 2 2	応用演習1 応用演習2 応用演習3 応用演習4	必修 必修 必修 必修	1 1 1 1	応用演習5 応用演習6 応用演習7 応用演習8	必修 必修 必修 必修	1 1 1 1	卒業研究演習1 卒業研究演習2 卒業研究演習3 卒業論文 卒業発表	必修 必修 必修 必修 必修	1 1 1 2 1	22	
		国際文化基礎科目	国際文化概論1 国際文化概論2 国際文化史1 国際文化史2	必修 必修 必修 必修	1 1 1 1										4	
		専攻基盤科目				歴史学概論 日本史研究1 日本史研究2	必修 必修 必修	2 2 2							6	
		学科講義・演習科目				講読演習1 講読演習2 地域学1 地域学2 現場学1 現場学2 古文書解読	必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択	1 1 1 1 1 1 2	講読演習3 講読演習4 長期フィールドワーク1 長期フィールドワーク2 長期フィールドワーク3	必修 必修 必修 必修 必修	1 1 2 2 2			16		
		文学講義科目・ 歴史講義科目・ 社会講義科目・ 日本文化講義科目・ 地域研究科目・ 世界文化科目				歴史地理学 日本民衆史 日本社会史 日本・アジア関係史 日本の現代文化 日本の風土 比較建築文化論	選必 選必 選必 選必 選択 選択 選択	2 2 2 2 2 2 2	京都の歴史 東洋史 観光学総論 グローバル化とメディア 世界文化遺産	選必 選必 選択 選択 選択	2 2 2 2 2	日本の文化遺産	選択	2	26	

国際文化学部 人文学科 社会専攻

「ソーシャルビジネスやNGOに関心があり、それらを通して日本社会の構造的問題に向き合っていきたい学生」

カリキュラム

国際文化学部 人文学科 (履修モデル)

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数				
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計			
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ クリエイティブ・ワークショップ	必修 必修	1 1									2				
	表現科目	コミュニケーションスキル1 コミュニケーションスキル2 アカデミックスキル1 アカデミックスキル2 デッサン1 グラフィックデザインソフトスキル 芸術学	必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択	1 1 1 1 1 1 2				アカデミックスキル3 アカデミックスキル4 表現と社会	必修 必修 選択	1 1 2				12			
		グローバル科目	英語1/日本語1 英語2/日本語2 英語3/日本語3 英語4/日本語4	必修 必修 必修 必修	1 1 1 1	日本文化概論 現代社会の諸問題	必修 選択	1 2							7		
			リベラル アーツ科目	自由論 シティズンシップとダイバーシティ 創造的思考法 情報と倫理 情報科学概論 政治学 日本国憲法	必修 必修 必修 必修 必修 選択 選択	1 1 1 1 1 2 2	人権と教育 グローバル化と社会 データサイエンス入門 哲学入門	必修 必修 必修 選択	1 1 1 2	情報テクノロジー2	選択	2				16	
				キャリア科目	キャリア1	必修	1									1	
				社会実践力 育成 プログラム	海外ショートプログラム	選択	2									2	
		マイナー科目					メディア表現特講1 メディア表現特講2 マンガ概論1 マンガ史1	選必 選必 選必 選必	2 2 1 1	ソーシャルビジネス演習1 言語と社会	選必 選必	2 2				10	124
	基礎演習 科目・ 応用演習 科目・ 卒業研究 演習科目			基礎演習1 基礎演習2 基礎演習3 基礎演習4	必修 必修 必修 必修	2 2 2 2	応用演習1 応用演習2 応用演習3 応用演習4	必修 必修 必修 必修	1 1 1 1	応用演習5 応用演習6 応用演習7 応用演習8	必修 必修 必修 必修	1 1 1 1	卒業研究演習1 卒業研究演習2 卒業研究演習3 卒業論文 卒業発表	必修 必修 必修 必修 必修	1 1 1 2 1	22	
	国際文化 基礎科目			国際文化概論1 国際文化概論2 国際文化史1 国際文化史2	必修 必修 必修 必修	1 1 1 1										4	
			専攻基盤 科目				現代社会論 社会研究1 社会研究2	必修 必修 必修	2 2 2						6		
		学科講義・ 演習科目					講読演習1 講読演習2 地域学1 地域学2 現場学1 現場学2 社会思想史	必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択	1 1 1 1 1 1 2	講読演習3 講読演習4 長期フィールドワーク1 長期フィールドワーク2 長期フィールドワーク3 倫理学 哲学概論	必修 必修 必修 必修 必修 選択 選択	1 1 2 2 2 2 2			20		
				文学講義科目・ 歴史講義科目・ 社会講義科目・ 日本文化 講義科目・ 地域研究科目・ 世界文化科目				社会学 社会調査法 市民社会論 先住民族研究	選必 選必 選必 選必	2 2 2 2	NGO論 人間の安全保障 国際開発論 日本思想史 グローバル化とメディア エイジング研究概論	選必 選必 選必 選択 選択 選択	2 2 2 2 2 2	ジェンダー論	選必	2	22

国際文化学部 人文学科 日本文化専攻

「日本の地域文化や美術・工芸に関心があり、卒業後は行政で文化財保護等に関する仕事に就きたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュヤーズ・キャンプ クリエイティブ・ワークショップ	必修 必修	1 1									2		
	表現科目	コミュニケーションスキル1	必修	1	東洋美術史	選択	2	アカデミックスキル3	必修	1	アカデミックスキル4	必修	1	16	
		コミュニケーションスキル2	必修	1				素材論	選択	2					
		アカデミックスキル1	必修	1											
		アカデミックスキル2	必修	1											
		デッサン1	必修	1											
		グラフィックデザインソフトスキル	必修	1											
		日本美術史	選択	2											
	工芸概論	選択	2												
	グローバル科目	英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1							5	
		英語2/日本語2	必修	1											
		英語3/日本語3	必修	1											
		英語4/日本語4	必修	1											
リベラルアーツ科目	自由論	必修	1	人権と教育	必修	1	民俗学	選択	2				10		
	シティズンシップとダイバーシティ	必修	1	グローバル化と社会	必修	1									
	創造的思考法	必修	1	データサイエンス入門	必修	1									
	情報と倫理	必修	1												
キャリア科目	キャリア1	必修	1	日本の企業文化研究	選択	1							2		
	社会実践力育成プログラム			国内ショートプログラム	選択	2							2		
マイナー科目	和の伝統文化論	選必	1	デザイン史1	選必	1	美術史1	選必	1				13		
				マンガ概論1	選必	1	京都のまちづくり	選必	1						
				京都の伝統工芸講座1	選必	2	京都の伝統工芸講座2	選必	2						
				京都の習俗	選必	2									
				ビジネスモデル論	選必	2									
学部専門教育科目	基礎演習科目・ 応用演習科目・ 卒業研究演習科目	基礎演習1	必修	2	応用演習1	必修	1	応用演習5	必修	1	卒業研究演習1	必修	1	22	
		基礎演習2	必修	2	応用演習2	必修	1	応用演習6	必修	1	卒業研究演習2	必修	1		
		基礎演習3	必修	2	応用演習3	必修	1	応用演習7	必修	1	卒業研究演習3	必修	1		
		基礎演習4	必修	2	応用演習4	必修	1	応用演習8	必修	1	卒業論文	必修	2		
	国際文化基礎科目	国際文化概論1	必修	1										6	
		国際文化概論2	必修	1											
		国際文化史1	必修	1											
		国際文化史2	必修	1											
	専攻基盤科目				日本文化論	必修	2							6	
					日本文化研究1	必修	2								
					日本文化研究2	必修	2								
	学科講義・演習科目	倫理学	選択	2	講読演習1	必修	1	講読演習3	必修	1				16	
					講読演習2	必修	1	講読演習4	必修	1					
					地域学1	必修	1	長期フィールドワーク1	必修	2					
					地域学2	必修	1	長期フィールドワーク2	必修	2					
					現場学1	必修	1	長期フィールドワーク3	必修	2					
				現場学2	必修	1									
文学講義科目・ 歴史講義科目・ 社会講義科目・ 日本文化講義科目・ 地域研究科目・ 世界文化科目				文化社会学	選択	2	観光学総論	選択	2				24		
				日本の文化遺産	選択	2	文化政策論	選択	2						
				日本芸能史	選択	2	日本の現代文化	選択	2						
				南島文化論	選択	2	日本思想史	選択	2						
				京都の歴史	選択	2	口承文化論	選択	2						
							書誌学	選択	2						
							比較服飾文化論	選択	2						

国際文化学部 人文学科 専門教育科目 科目一覧

専門演習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	視点と考察	研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
基礎演習科目	Khu10001	基礎演習1	必修	演習	2	1	●	●	●		
	Khu10002	基礎演習2	必修	演習	2	1	●	●	●	●	
	Khu10003	基礎演習3	必修	演習	2	1	●	●	●	●	●
	Khu10004	基礎演習4	必修	演習	2	1	●	●	●	●	●
応用演習科目	Khu20011	応用演習1	必修	演習	1	2	●	●	●	●	●
	Khu20012	応用演習2	必修	演習	1	2	●	●	●	●	●
	Khu20013	応用演習3	必修	演習	1	2	●	●	●	●	●
	Khu20014	応用演習4	必修	演習	1	2	●	●	●	●	●
	Khu30015	応用演習5	必修	演習	1	3	●	●	●	●	●
	Khu30016	応用演習6	必修	演習	1	3	●	●	●	●	●
	Khu30017	応用演習7	必修	演習	1	3	●	●	●	●	●
	Khu30018	応用演習8	必修	演習	1	3	●	●	●	●	●
卒業研究演習科目	Khu40031	卒業研究演習1	必修	演習	1	4	●	●	●		●
	Khu40032	卒業研究演習2	必修	演習	1	4	●	●	●		●
	Khu40033	卒業研究演習3	必修	演習	1	4	●	●	●		●
	Khu40041	卒業論文	必修	成果評定	2	4	●	●	●	●	●
	Khu40051	卒業発表	必修	演習	1	4			●	●	●

国際文化学部 人文学科 専門教育科目 科目一覧

専門講義・演習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	視点と考察	研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
国際文化基礎科目	Kgl11001	国際文化概論1	必修	講義	1	1	●	●			●
	Kgl11002	国際文化概論2	必修	講義	1	1	●	●	●		●
	Kgl11011	国際文化史1	必修	講義	1	1	●	●	●		●
	Kgl11012	国際文化史2	必修	講義	1	1	●	●	●		●
	Kgl11021	国際文化リテラシー1	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●		●
	Kgl11022	国際文化リテラシー2	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●		●
	Kgl21031	国際文化特講1	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl21032	国際文化特講2	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
専攻基盤科目	Khu22001	文学概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu22011	日本文学研究1	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●
	Khu22012	日本文学研究2	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●
	Khu22021	歴史学概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu22031	日本史研究1	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●
	Khu22032	日本史研究2	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●
	Khu22041	現代社会論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu22051	社会研究1	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●
	Khu22052	社会研究2	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●
	Khu22061	日本文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu22071	日本文化研究1	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●
	Khu22072	日本文化研究2	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●
学科講義・演習科目	Khu23001	講読演習1	必修	演習	1	2	●	●	●	●	
	Khu23002	講読演習2	必修	演習	1	2	●	●	●	●	●
	Khu33003	講読演習3	必修	演習	1	3	●	●	●	●	
	Khu33004	講読演習4	必修	演習	1	3	●	●	●	●	●
	Kgl23011	地域学1	必修	講義	1	2	●	●		●	●
	Kgl23012	地域学2	必修	講義	1	2	●	●		●	●
	Kgl23021	現場学1	必修	講義	1	2	●	●		●	●
	Kgl23022	現場学2	必修	講義	1	2	●	●		●	●
	Khu33011	長期フィールドワーク1	必修	演習	2	3	●	●		●	●
	Khu33012	長期フィールドワーク2	必修	演習	2	3	●	●		●	●
	Khu33013	長期フィールドワーク3	必修	演習	2	3	●	●		●	●
	Kgl13001	哲学概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●
	Kgl13011	倫理学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●
	Kgl13021	心理学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●
	Kgl13031	宗教学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl23081	書道	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●
	Kgl23121	古文書解読	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●
	Kgl23251	社会思想史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23271	自然地理学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	視点と考察	研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
文学講義科目	Khu23021	日本語学特講	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23041	漢文学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23051	口承文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23061	古典文法	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23071	書誌学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23091	日本文学史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23101	批評理論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23111	世界の文学1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23112	世界の文学2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu23031	説話・伝承史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu23041	言語文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu23051	比較文学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu23061	神話学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu23071	詩歌論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu23081	歌謡論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
歴史講義科目	Kgl23131	日本史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23141	歴史地理学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23151	京都の歴史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23161	日本民衆史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23171	日本地域史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23181	日本社会史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23191	日本・アジア関係史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23201	西洋史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23211	東洋史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
社会講義科目	Kgl23221	社会学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23231	社会調査法	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23241	ジェンダー論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23261	経済学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23281	NGO論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23301	人間の安全保障	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23311	市民社会論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23321	平和学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23351	先住民族研究	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23361	国際開発論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●

国際文化学部 人文学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	視点と考察	研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
日本文化講義科目	Kgl23371	文化社会学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23381	文化政策論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23391	日本の文化遺産	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23401	観光学総論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu23091	民芸論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu23101	日本の現代文化	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu23111	日本芸能史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu23121	日本の風土	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu23131	日本思想史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Khu23141	アイヌ文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
Khu23151	南島文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●	
地域研究科目	Kgl24411	地域研究入門	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24421	アフリカ地域研究1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24422	アフリカ地域研究2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24431	アジア地域研究1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24432	アジア地域研究2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24441	大洋州地域研究	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24451	アメリカ地域研究1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24452	アメリカ地域研究2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24561	欧州地域研究	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24571	世界の宗教	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl24581	アフリカ・アジア関係論	選択	講義	2	2・3・4	●	●		●	●
	Kgl24591	グローバル・ビジネス論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24501	グローバル化とメディア	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23291	地球環境学概論1	選択	講義	2	2・3・4	●	●		●	●
	Kgl33292	地球環境学概論2	選択	講義	2	3・4	●	●		●	●
	Kgl33293	地球環境学概論3	選択	講義	2	3・4	●	●		●	●
	Kgl33331	エイジング研究概論	選択	講義	2	3・4	●	●			●
Kgl33341	子ども学概論	選択	講義	2	3・4	●	●		●	●	
世界文化科目	Kgl23561	世界文化遺産	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl23571	アフリカ美術	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl23581	マテリアル・カルチャー概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23591	比較服飾文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23601	比較建築文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23611	民族音楽論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●

※各専攻において、必修および選択必修科目に指定している科目があります。所属専攻の卒業要件表で確認してください。

グローバルスタディーズ学科

グローバル関係専攻／
グローバル共生社会専攻／
アフリカ・アジア文化専攻

国際文化学部 グローバルスタディーズ学科 卒業要件

科目区分	必修科目					選択必修科目		進級要件	卒業に要する単位(計)	
	進級要件	科目名称	履修年次	単位数	小計	科目名称	小計			
全学共通教育科目	導入プログラム	○	フレッシュャーズ・キャンプ	1	1Q	1		24 単位	16 単位以上	50 単位以上
		○	クリエイティブ・ワークショップ	1	2Q	1				
	表現科目	○	コミュニケーションスキル1	1	1Q	1				
		○	コミュニケーションスキル2	1	3Q	1				
		○	アカデミックスキル1	1	2Q	1				
		○	アカデミックスキル2	1	4Q	1				
		○	アカデミックスキル3	3	3Q	1				
		○	アカデミックスキル4	3	4Q	1				
		○	デッサン1	1	1Q	1				
	グローバル科目	○	日本文化概論	2	4Q	1				
		○	英語1/日本語1	1	1Q	1				
		○	英語2/日本語2	1	2Q	1				
		○	英語3/日本語3	1	3Q	1				
リベラルアーツ科目	○	英語4/日本語4	1	4Q	1					
	○	自由論	1	3Q	1					
	○	シティズンシップとダイバーシティ	1	4Q	1					
	○	創造的思考法	1	3Q	1					
	○	情報と倫理	1	1Q	1					
	○	人権と教育	2	3Q	1					
	○	グローバル化と社会	2	2Q	1					
○	情報科学概論	1	2Q	1						
○	データサイエンス入門	2	1Q	1						
○	キャリア1	1	1Q	1						
キャリア科目										
社会実践力育成プログラム										
マイナー科目								10単位以上(※)		
学部専門教育科目	基礎演習科目	○	グローバルゼミ	1	1Q	2		22 単位	22 単位以上	74 単位以上
		○	海外短期フィールドワーク	1	2Q	2				
		○	基礎演習1	1	3Q	2				
		○	基礎演習2	1	4Q	2				
	応用演習科目	○	応用演習1	2	1Q	1				
		○	応用演習2	2	2Q	1				
		○	応用演習3	2	3Q	1				
		○	応用演習4	2	4Q	1				
		●	応用演習5	3	1Q	1				
		●	応用演習6	3	2Q	1				
		●	応用演習7	3	3Q	1				
		●	応用演習8	3	4Q	1				
	卒業研究演習科目	○	卒業研究演習1	4	1Q	1				
○		卒業研究演習2	4	2Q	1					
○		卒業研究演習3	4	3Q	1					
○		卒業論文	4	4Q	2					
国際文化基礎科目	○	卒業発表	4	4Q	1					
	○	国際文化概論1	1	1Q	1					
	○	国際文化概論2	1	2Q	1					
	○	国際文化史1	1	3Q	1					
	○	国際文化史2	1	4Q	1					
	フィールドワーク科目	○	フィールドワーク入門	2	2Q	2				
		○	フィールドワーク方法論	2	3Q	2				
		○	地域学1	2	1Q	1				
		○	地域学2	2	2Q	1				
		○	現場学1	2	3Q	1				
○		現場学2	2	4Q	1					
●		海外長期フィールドワーク1	3	1Q	2					
●		海外長期フィールドワーク2	3	1Q	2					
●		海外長期フィールドワーク3	3	1Q	2					
●		海外長期フィールドワーク4	3	2Q	2					
●	海外長期フィールドワーク5	3	2Q	2						
●	海外長期フィールドワーク6	3	2Q	2						
地域研究科目										
グローバル関係科目	○	地域研究入門								
グローバル共生社会科目	○	グローバル関係概論								
	○	グローバル歴史概論								
グローバル文化科目										
学科基礎講義科目										
日本文化科目										
								6単位以上(※)		

(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を選択科目の単位とみなす。

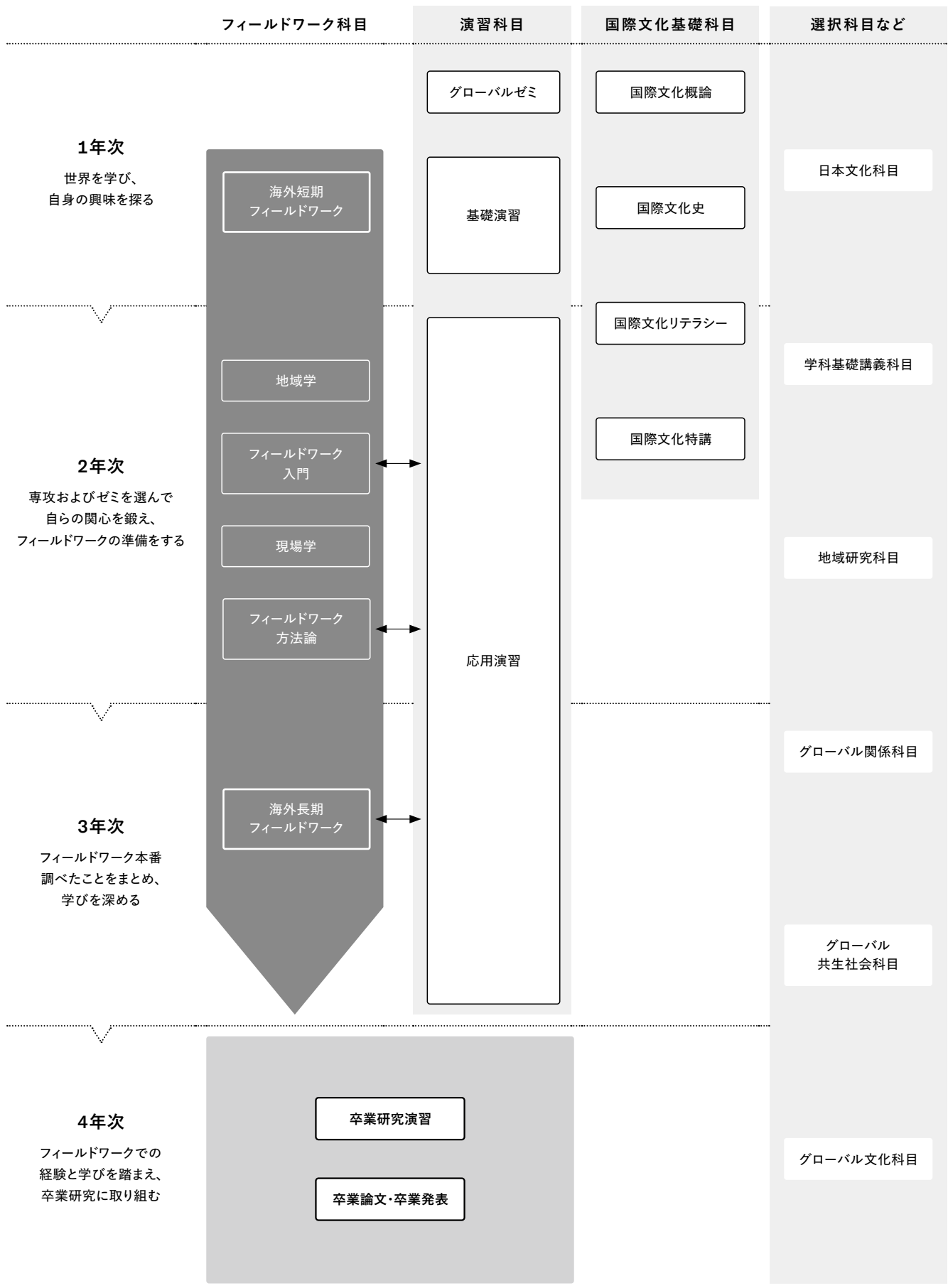
進級要件

- (1年次から2年次) 1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)。
- (2年次から3年次/○印) ○全学共通1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。
- 学部専門1・2年次必修科目の24単位をすべて修得していること。
- 学部専門2年次選択必修科目から6単位以上に修得していること。
- (3年次から4年次/●印) ●学部専門3年次必修科目の16単位をすべて修得していること。

カリキュラム

国際文化学部 人文学科(専門教育科目一覽)／グローバルスタディーズ学科(卒業要件)

国際文化学部 グローバルスタディーズ学科 **カリキュラムマップ**



国際文化学部 グローバルスタディーズ学科 履修モデル

国際文化学部 グローバルスタディーズ学科 グローバル関係専攻

「グローバルな課題の背景を学び、将来は国際展開するNGOなどで解決策を提案したい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ	必修	1									2		
		クリエイティブ・ワークショップ	必修	1											
	表現科目	コミュニケーションスキル1	必修	1			アカデミックスキル3	必修	1					9	
		コミュニケーションスキル2	必修	1			アカデミックスキル4	必修	1						
		アカデミックスキル1	必修	1											
		アカデミックスキル2	必修	1											
		デッサン1	必修	1											
		デッサン2	必修	1											
	グローバル科目	英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1	スワヒリ語	選択	1				10	
		英語2/日本語2	必修	1											
		英語3/日本語3	必修	1											
		英語4/日本語4	必修	1											
		フランス語1	選択	1											
		フランス語2	選択	1											
	リベラルアーツ科目	サステナビリティと社会	選択	2										15	
自由論		必修	1	人権と教育	必修	1									
シティズンシップとダイバーシティ		必修	1	グローバル化と社会	必修	1									
創造的思考法		必修	1	データサイエンス入門	必修	1									
情報と倫理		必修	1	民俗学	選択	2									
情報科学概論		必修	1	スポーツ実習1	選択	1									
キャリア科目	キャリア1	必修	1										2		
	表現活動と経済	選択	1												
社会実践力育成プログラム	国内ショートプログラム	選択	2										2		
マイナー科目	アフリカ・アジア概論	選必	1	アフリカ・アジアリテラシー1	選必	2							10	124	
	日本事情理解	選必	1	アフリカ・アジアリテラシー2	選必	2									
				アフリカ・アジア特講1	選必	2									
				アフリカ・アジア特講2	選必	2									
学部専門教育科目	基礎演習科目・応用演習科目・卒業研究演習科目	グローバルゼミ	必修	2	応用演習1	必修	1	応用演習5	必修	1	卒業研究演習1	必修	1	22	
		海外短期フィールドワーク	必修	2	応用演習2	必修	1	応用演習6	必修	1	卒業研究演習2	必修	1		
		基礎演習1	必修	2	応用演習3	必修	1	応用演習7	必修	1	卒業研究演習3	必修	1		
		基礎演習2	必修	2	応用演習4	必修	1	応用演習8	必修	1	卒業論文	必修	2		
	国際文化基礎科目		国際文化概論1	必修	1							卒業発表	必修	1	
			国際文化概論2	必修	1										8
			国際文化史1	必修	1										
			国際文化史2	必修	1										
			国際文化リテラシー1	選択	2										
	フィールドワーク科目		国際文化リテラシー2	選択	2										
						フィールドワーク入門	必修	2	海外長期フィールドワーク1	必修	2			24	
					フィールドワーク方法論	必修	2	海外長期フィールドワーク2	必修	2					
				地域学1	必修	1	海外長期フィールドワーク3	必修	2						
				地域学2	必修	1	海外長期フィールドワーク4	必修	2						
				現場学1	必修	1	海外長期フィールドワーク5	必修	2						
				現場学2	必修	1	海外長期フィールドワーク6	必修	2						
地域研究科目・グローバル関係科目・グローバル共生社会科目・グローバル文化科目・学科基礎講義科目・日本文化科目					フランス語圏事情理解	選択	1	フランス語圏経済理解	選択	1			20		
					フランス語圏文化理解	選択	1	フランス語圏のメディア	選択	1					
					グローバル関係概論	選必	2	地域研究特講	選択	2	アフリカ・アジア関係論	選択		2	
					グローバルヒストリー概論	選必	2	ポストコロナル概論	選択	2					
					比較社会学	選必	2	市民社会論	選択	2					
				アフリカ地域研究1	選択	2									
				グローバルヒストリー特講	選択	2									
				ジェンダー論	選択	2									

カリキュラム

国際文化学部 グローバルスタディーズ学科(カリキュラムマップ/履修モデル)

国際文化学部 グローバルスタディーズ学科 グローバル共生社会専攻

「東南アジア諸国に関心があり、同地域への進出企業やNGO、日本国内の多文化共生事業に携わる仕事に就きたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュヤーズ・キャンプ クリエイティブ・ワークショップ	必修 必修	1 1									2		
	表現科目	コミュニケーションスキル1 コミュニケーションスキル2 アカデミックスキル1 アカデミックスキル2 デッサン1 グラフィックデザインソフトスキル 表現と社会 ポピュラー音楽論	必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択 選択	1 1 1 1 1 1 2 2			アカデミックスキル3 アカデミックスキル4	必修 必修	1 1				12		
	グローバル科目	英語1/日本語1 英語2/日本語2 英語3/日本語3 英語4/日本語4 タイ語/ベトナム語/インドネシア語	必修 必修 必修 必修 選択	1 1 1 1 1	日本文化概論	必修	1						6		
	リベラルアーツ科目	自由論 シティズンシップとダイバーシティ 創造的思考法 情報と倫理 情報科学概論 スポーツ実習1 政治学	必修 必修 必修 必修 必修 選択 選択	1 1 1 1 1 1 2	人権と教育 グローバル化と社会 データサイエンス入門 民俗学	必修 必修 必修 選択	1 1 1 2						13		
	キャリア科目	キャリア1 日本の企業文化研究	必修 選択	1 1	表現活動と経済	選択	1						3		
	社会実践力育成プログラム	国内ショートプログラム	選択	2									2		
	マイナー科目	和の伝統文化論 アフリカ・アジア概論 日本事情理解	選必 選必 選必	1 1 1	京都の伝統工芸講座1 アフリカ・アジア史 アフリカ・アジアリテラシー1 アフリカ・アジアリテラシー2 アフリカ・アジア特講2	選必 選必 選必 選必 選必	2 1 2 2 2						12	124	
	学部専門教育科目	基礎演習科目・ 応用演習科目・ 卒業研究演習科目	グローバルゼミ 海外短期フィールドワーク 基礎演習1 基礎演習2	必修 必修 必修 必修	2 2 2 2	応用演習1 応用演習2 応用演習3 応用演習4	必修 必修 必修 必修	1 1 1 1	応用演習5 応用演習6 応用演習7 応用演習8	必修 必修 必修 必修	1 1 1 1	卒業研究演習1 卒業研究演習2 卒業研究演習3 卒業論文 卒業発表	必修 必修 必修 必修 必修	1 1 1 2 1	22
		国際文化基礎科目	国際文化概論1 国際文化概論2 国際文化史1 国際文化史2 国際文化リテラシー1 国際文化リテラシー2	必修 必修 必修 必修 選択 選択	1 1 1 1 2 2	国際文化特講1 国際文化特講2	選択 選択	2 2						12	
		フィールドワーク科目				フィールドワーク入門 フィールドワーク方法論 地域学1 地域学2 現場学1 現場学2	必修 必修 必修 必修 必修 必修	2 2 1 1 1 1	海外長期フィールドワーク1 海外長期フィールドワーク2 海外長期フィールドワーク3 海外長期フィールドワーク4 海外長期フィールドワーク5 海外長期フィールドワーク6	必修 必修 必修 必修 必修 必修	2 2 2 2 2 2			20	
		地域研究科目・ グローバル関係科目・ グローバル共生社会科目・ グローバル文化科目・ 学科基礎講義科目・ 日本文化科目				国際開発論 グローバル・ビジネス論 グローバル化とメディア アジア地域研究1 アジア地域研究2 マイノリティ研究概論 NGO論	選必 選必 選必 選択 選択 選択 選択	2 2 2 2 2 2 2	地域研究特講 先住民研究 地球環境学概論1	選択 選択 選択	2 2 2			20	

国際文化学部 グローバルスタディーズ学科 アフリカ・アジア文化専攻

「アフリカやアジアの文化を学び、新たな視点を国内外のさまざまな仕事に取り入れていきたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ	必修	1									2		
		クリエイティブ・ワークショップ	必修	1											
	表現科目	コミュニケーションスキル1	必修	1				アカデミックスキル3	必修	1					
		コミュニケーションスキル2	必修	1				アカデミックスキル4	必修	1					
		アカデミックスキル1	必修	1											
		アカデミックスキル2	必修	1											
		デッサン1	必修	1											
		グラフィックデザインソフトスキル	必修	1											
		表現と社会	選択	2											
	表現と倫理	選択	2												
	グローバル科目	英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1								
		英語2/日本語2	必修	1	世界と食	選択	2								
		英語3/日本語3	必修	1											
		英語4/日本語4	必修	1											
		フランス語1	選択	1											
		フランス語2	選択	1											
	リベラルアーツ科目	自由論	必修	1	人権と教育	必修	1								
		シティズンシップとダイバーシティ	必修	1	グローバル化と社会	必修	1								
		創造的思考法	必修	1	データサイエンス入門	必修	1								
情報と倫理		必修	1	行動心理学	選択	2									
情報科学概論		必修	1												
民俗学		選択	2												
哲学入門	選択	2													
キャリア科目	キャリア1	必修	1										1		
社会実践力育成プログラム	国内ショートプログラム	選択	2										2		
マイナー科目				マーケティング論	選必	1	ソーシャルビジネス演習1	選必	2	ビジネスモデル論	選必	2			
				アフリカ・アジア史	選必	1	アフリカ・アジアリテラシー1	選必	2	イノベーション論	選必	2		10	
学部専門教育科目	基礎演習科目・応用演習科目・卒業研究演習科目	グローバルゼミ	必修	2	応用演習1	必修	1	応用演習5	必修	1	卒業研究演習1	必修	1		
		海外短期フィールドワーク	必修	2	応用演習2	必修	1	応用演習6	必修	1	卒業研究演習2	必修	1		
		基礎演習1	必修	2	応用演習3	必修	1	応用演習7	必修	1	卒業研究演習3	必修	1		
		基礎演習2	必修	2	応用演習4	必修	1	応用演習8	必修	1	卒業論文	必修	2		
										卒業発表	必修	1		1	
	国際文化基礎科目	国際文化概論1	必修	1	国際文化特講1	選択	2								
		国際文化概論2	必修	1	国際文化特講2	選択	2								
		国際文化史1	必修	1											
		国際文化史2	必修	1											
		国際文化リテラシー1	選択	2											
	国際文化リテラシー2	選択	2												
	フィールドワーク科目				フィールドワーク入門	必修	2	海外長期フィールドワーク1	必修	2					
					フィールドワーク方法論	必修	2	海外長期フィールドワーク2	必修	2					
					地域学1	必修	1	海外長期フィールドワーク3	必修	2					
					地域学2	必修	1	海外長期フィールドワーク4	必修	2					
					現場学1	必修	1	海外長期フィールドワーク5	必修	2					
					現場学2	必修	1	海外長期フィールドワーク6	必修	2					
	地域研究科目・グローバル関係科目・グローバル共生社会科目・グローバル文化科目・学科基礎講義科目・日本文化科目				地域研究入門	選必	2	地域研究特講	選択	2	マテリアル・カルチャー概論	選択	2		
					世界の宗教	選必	2	アフリカ地域研究2	選択	2					
				グローバル・ビジネス論	選必	2	民族音楽論	選択	2						
				アフリカ地域研究1	選択	2									
				多国籍企業論	選択	2									
			比較服飾文化論	選択	2										

国際文化学部 グローバルスタディーズ学科 専門教育科目 科目一覧

専門演習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	視点と考察	研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
基礎演習科目	Kgs10001	グローバルゼミ	必修	演習	2	1	●	●	●	●	
	Kgs10002	海外短期フィールドワーク	必修	演習	2	1	●	●		●	●
	Kgs10003	基礎演習1	必修	演習	2	1	●	●	●	●	●
	Kgs10004	基礎演習2	必修	演習	2	1	●	●	●	●	●
応用演習科目	Kgs20011	応用演習1	必修	演習	1	2	●	●	●	●	●
	Kgs20012	応用演習2	必修	演習	1	2	●	●	●	●	●
	Kgs20013	応用演習3	必修	演習	1	2	●	●	●	●	●
	Kgs20014	応用演習4	必修	演習	1	2	●	●	●	●	●
	Kgs30015	応用演習5	必修	演習	1	3	●	●	●	●	●
	Kgs30016	応用演習6	必修	演習	1	3	●	●	●	●	●
	Kgs30017	応用演習7	必修	演習	1	3	●	●	●	●	●
	Kgs30018	応用演習8	必修	演習	1	3	●	●	●	●	●
卒業研究演習科目	Kgs40031	卒業研究演習1	必修	演習	1	4	●	●	●		●
	Kgs40032	卒業研究演習2	必修	演習	1	4	●	●	●		●
	Kgs40033	卒業研究演習3	必修	演習	1	4	●	●	●		●
	Kgs40041	卒業論文	必修	成果評定	2	4	●	●	●		
	Kgs40051	卒業発表	必修	演習	1	4			●	●	●

専門講義・専門演習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	視点と考察	研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
国際文化基礎科目	Kgl11001	国際文化概論1	必修	講義	1	1	●	●			●
	Kgl11002	国際文化概論2	必修	講義	1	1	●	●	●		●
	Kgl11011	国際文化史1	必修	講義	1	1	●	●	●		●
	Kgl11012	国際文化史2	必修	講義	1	1	●	●	●		●
	Kgl11021	国際文化リテラシー1	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●		●
	Kgl11022	国際文化リテラシー2	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●		●
	Kgl21031	国際文化特講1	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl21032	国際文化特講2	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
フィールドワーク科目	Kgs22011	Business English	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		●
	Kgs22021	English discussion	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgs22031	Effective presentation	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●	●	
	Kgs22041	English for studying abroad	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgs22051	フランス語圏事情理解	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgs22061	フランス語圏文化理解	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgs22071	フランス語圏経済理解	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgs22081	フランス語圏のメディア	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgs22091	フィールドワーク入門	必修	講義	2	2	●	●			●
	Kgs22101	フィールドワーク方法論	必修	講義	2	2	●	●			●
	Kgl23011	地域学1	必修	講義	1	2	●	●		●	●
	Kgl23012	地域学2	必修	講義	1	2	●	●		●	●
	Kgl23021	現場学1	必修	講義	1	2	●	●		●	●
	Kgl23022	現場学2	必修	講義	1	2	●	●		●	●
	Kgs32111	海外長期フィールドワーク1	必修	演習	2	3	●	●	●	●	●
	Kgs32112	海外長期フィールドワーク2	必修	演習	2	3	●	●	●	●	●
	Kgs32113	海外長期フィールドワーク3	必修	演習	2	3	●	●	●	●	●
	Kgs32114	海外長期フィールドワーク4	必修	演習	2	3	●	●	●	●	●
Kgs32115	海外長期フィールドワーク5	必修	演習	2	3	●	●	●	●	●	
Kgs32116	海外長期フィールドワーク6	必修	演習	2	3	●	●	●	●	●	
地域研究科目	Kgl24411	地域研究入門	選択必修	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgs24001	地域研究特講	選択	講義	2	3・4	●	●			●
	Kgl24421	アフリカ地域研究1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24422	アフリカ地域研究2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24431	アジア地域研究1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24432	アジア地域研究2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24451	アメリカ地域研究1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24452	アメリカ地域研究2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24441	大洋州地域研究	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24561	欧州地域研究	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●

国際文化学部 グローバルスタディーズ学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	視点と考察	研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
グローバル関係科目	Kgs23001	グローバル関係概論	選択必修	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgs23011	グローバルヒストリー概論	選択必修	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgs23021	グローバルヒストリー特講	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgs23031	多国籍企業論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgs23041	社会運動論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl24571	世界の宗教	選択必修	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl24581	アフリカ・アジア関係論	選択	講義	2	2・3・4	●	●		●	●
	Kgs23051	国際政治学	選択	講義	2	2・3・4	●	●		●	●
	Kgs23061	国際社会の法秩序	選択	講義	2	2・3・4	●	●		●	●
	Kgs33071	人口動態論	選択	講義	2	3・4	●	●		●	●
	Kgs33081	人口政策論	選択	講義	2	3・4	●	●		●	●
Kgs23091	比較社会学	選択必修	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●	
グローバル共生社会科目	Kgl23351	先住民研究	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgs23101	ポストコロナル概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23361	国際開発論	選択必修	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgs23111	マイノリティ研究概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24591	グローバル・ビジネス論	選択必修	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24501	グローバル化とメディア	選択必修	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl33331	エイジング研究概論	選択	講義	2	3・4	●	●			●
	Kgl33341	子ども学概論	選択	講義	2	3・4	●	●		●	●
	Kgl23291	地球環境学概論1	選択	講義	2	2・3・4	●	●		●	●
	Kgl33292	地球環境学概論2	選択	講義	2	3・4	●	●		●	●
	Kgl33293	地球環境学概論3	選択	講義	2	3・4	●	●		●	●
	Kgl23281	NGO論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23321	平和学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23311	市民社会論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
Kgl23301	人間の安全保障	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●	
グローバル文化科目	Kgl23401	観光学総論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23111	世界の文学1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23112	世界の文学2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23561	世界文化遺産	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl23571	アフリカ美術	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl23581	マテリアル・カルチャー概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23611	民族音楽論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23591	比較服飾文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23601	比較建築文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●

※全専攻において、選択必修科目に指定している科目があります。卒業要件表で確認してください。

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	視点と考察	研究と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
学科基礎講義科目	Kgl13001	哲学概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●
	Kgl13011	倫理学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●
	Kgl13021	心理学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●
	Kgl23221	社会学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23231	社会調査法	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23261	経済学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23101	批評理論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23241	ジェンダー論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl13031	宗教学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl23251	社会思想史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23271	自然地理学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23381	文化政策論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23371	文化社会学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23201	西洋史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23211	東洋史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
日本文化科目	Kgl23131	日本史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23171	日本地域史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23181	日本社会史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23191	日本・アジア関係史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23391	日本の文化遺産	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23141	歴史地理学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23151	京都の歴史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23161	日本民衆史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23091	日本文学史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23041	漢文学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23051	口承文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23071	書誌学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23061	古典文法	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23081	書道	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●
	Kgl23121	古文書解読	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●

ポリシーとカリキュラム構造

● 教育研究目的

メディア表現学部の教育研究目的は、変化し続ける科学技術と社会が抱える課題の解決に表現を通して寄与できる人間の育成です。メディアと情報技術に関する広範な知識と専門的な表現技能を教授し、コンテンツの制作やメディア、プラットフォームの設計によって新しい価値を創造できる力を養います。卒業時に身につけているべき要素を以下の5つとし、卒業要件を満たせばこれらを身につけたものと認め、学位を授与します。

● 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	メディアと情報(技術)に関する基本的な知識と理解がある。	知識と理解 knowledge & understanding
DP2	デザイン思考とアート思考を用い、答えがない課題に対し創造的に取り組むことができる。	創造的思考と考察 creative thinking & observation
DP3	メディア表現領域の専門知識と制作技能を身につけている。	技術と表現 skills & expression
DP4	多様な他者との違いを認め、協働して課題解決に取り組むことができる。	他者理解と協働 mutual understanding & collaboration
DP5	より良い社会を創る意欲を持ち、学びを応用して社会の課題解決に自ら取り組むことができる。	社会への関心と行動 interests & action

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

メディア表現学部は、学位授与の方針を達成するために、全学共通教育科目、学部専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

学部専門教育科目では、

1年次は、プログラミングやICT、コンピュータネットワークの基礎知識・技法に加えて、対象となる物事の見え方を身につけます。

2年次は、ICTやメディア、コンテンツを活用する力をつけ、企業等でのインターンシップを通して社会の現状を体験します。

3年次は、ICTやメディア、コンテンツを活用する力を磨き、社会課題解決プロジェクト科目を通して実践的に社会実装の方法を学びます。

4年次は、卒業論文・制作により、社会課題やビジネス課題の解決につながるイノベティブな実践を行います。

2. 教育方法

- (1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
- (3) 学修成果の可視化を通じて、学生の自律的な学修を支援します。

3. 学修成果の評価

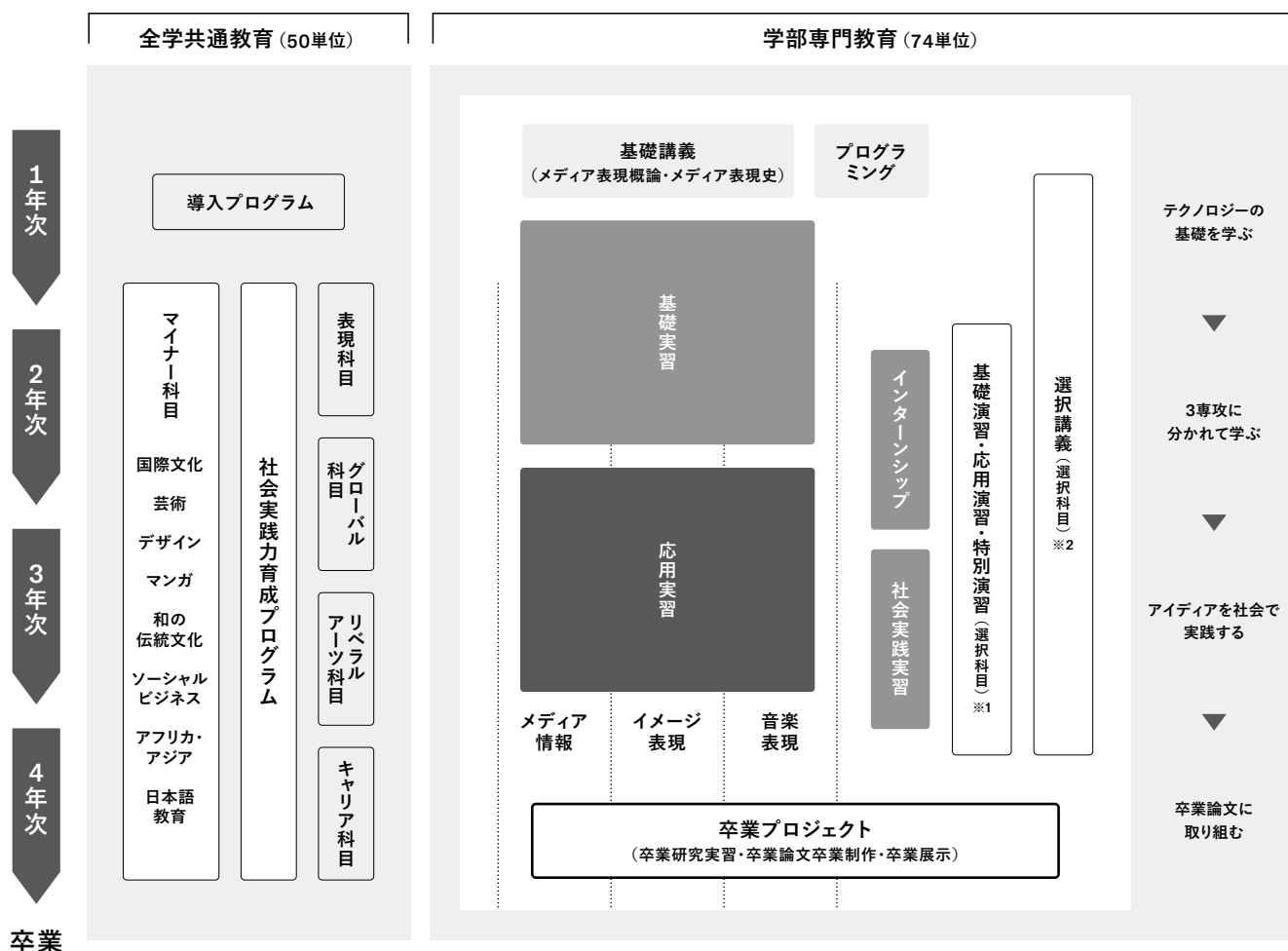
メディア表現学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況により、総合的評価を行います。卒業論文・制作(必修)は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。



※1 3専攻と共通分野の内容を横断的に履修

※2 3専攻の専門分野に関わる講義、メディア表現に関する各論、メディア表現リテラシー、メディア表現特講から履修

メディア表現学科

メディア情報専攻／
イメージ表現専攻／音楽表現専攻

メディア表現学部 メディア表現学科 卒業要件

科目区分	必修科目					選択必修科目			選択科目	卒業に要する単位(計)				
	進級要件	科目名称	配当年次	単位数	小計	進級要件	科目名称	単位数	小計		小計			
全学共通教育科目	導入プログラム	○ フレッシュヤーズ・キャンプ	1	1Q	1	28 単位				10 単位以上	50 単位以上			
		○ クリエイティブ・ワークショップ	1	2Q	1									
	表現科目	○ コミュニケーションスキル1	1	1Q	1									
		○ コミュニケーションスキル2	1	3Q	1									
		○ アカデミックスキル1	1	2Q	1									
		○ アカデミックスキル2	1	4Q	1									
		○ アカデミックスキル3	3	3Q	1									
		○ アカデミックスキル4	3	4Q	1									
	グローバル科目	○ デッサン1	1	1Q	1									
		○ グラフィックデザインソフトスキル	1	2Q	1									
		○ 日本文化概論	2	4Q	1									
		○ 英語1/日本語1	1	1Q	1									
	リベラルアーツ科目	○ 英語2/日本語2	1	2Q	1									
		○ 英語3/日本語3	1	3Q	1									
		○ 英語4/日本語4	1	4Q	1									
○ 自由論		1	3Q	1										
○ シティズンシップとダイバーシティ		1	4Q	1										
○ 創造的思考法		1	3Q	1										
○ 情報と倫理		1	1Q	1										
○ 人権と教育		2	3Q	1										
○ グローバル化と社会		2	2Q	1										
○ 情報科学概論		1	2Q	1										
キャリア科目	○ データサイエンス入門	2	1Q	1										
	○ プログラミング1	1	3Q	1										
	○ プログラミング2	1	4Q	1										
	○ プログラミング3	2	1Q	1										
社会実践力育成プログラム	○ プログラミング4	2	2Q	1										
	○ キャリア1	1	1Q	1										
マイナー科目														
学部専門教育科目	基礎実習科目	○ インターンシップ1				38 単位					124 単位以上			
		○ インターンシップ2										2	2	2単位以上(※)
		応用実習科目	○ 基礎実習1	1	1Q							2		
			○ 基礎実習2	1	2Q							2		
			○ 基礎実習3	1	3Q							2		
			○ 基礎実習4	1	4Q							2		
	○ 基礎実習5		2	1Q	2									
	○ 基礎実習6		2	2Q	2									
	卒業実習科目		○ 応用実習1	2	3Q							2		
			○ 応用実習2	2	4Q							2		
			● 応用実習3	3	1Q							2		
			● 応用実習4	3	2Q							2		
		● 社会実践実習1	3	1Q	1									
		● 社会実践実習2	3	2Q	1									
	メディア表現基盤科目	● 社会実践実習3	3	3Q	1									
		● 社会実践実習4	3	4Q	1									
		● 応用実習5	3	3Q	2									
		● 応用実習6	3	4Q	2									
	メディア情報講義・演習科目	○ 卒業研究実習1	4	1Q	2									
		○ 卒業研究実習2	4	2Q	2									
○ 卒業研究実習3		4	3Q	2										
○ 卒業論文・卒業制作		4	4Q	2										
イメージ表現講義・演習科目	○ 卒業展示	4	4Q	2										
	○ メディア表現概論1	1	1Q	1										
	○ メディア表現概論2	1	2Q	1										
	○ メディア表現史1	1	3Q	1										
音楽表現講義・演習科目	○ メディア表現史2	1	4Q	1										
	○ 4単位													
	○ 32単位以上													
	○ 学科共通講義・演習科目													

(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位分を選択科目の修得単位とみなす。

進級要件	〈1年次から2年次〉	1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)。
	〈2年次から3年次/○印〉	○全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。○「プログラミング1~4」の4単位をすべて修得していること。 ○学部専門の1・2年次必修科目の20単位をすべて修得していること。
	〈3年次から4年次/●印〉	●全学共通の「インターンシップ1」または「インターンシップ2」から2単位以上修得していること。 ●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。

	プログラミング	基幹実習(必修科目)	メディア制作	ビジネス構想	メディア・リテラシー	学部共通
	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラミングを習得し、目的に応じたコードが書ける ●論理的な思考、構想、企画ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●IT技術、知識を習得し、メディア制作、ビジネス構想ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●Webサイト構築、IoTプロダクトの制作ができる ●総合的な制作能力を備える 	<ul style="list-style-type: none"> ●テクノロジーを用いた新たな価値創造の理論を習得する ●データに基づいたビジネス構想ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●メディア情報を読み解く知識を身につける ●データ活用のための基礎力を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ●メディア表現を通じた新たな価値創造、社会と接続する活動ができるようになる
1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング1 ・プログラミング2 	<p>・基礎実習1~4 創造・表現・論理的思考の基礎を学ぶ</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・文化産業論 ・文化政策論 ・広告メディア論 ・教育メディア論 ・サウンドスケープ論 ・ゲームデザイン論 ・メディアアート論 ・ウェブデザイン論 ・コンピュータとネットワーク論 ・サブカルチャーとメディア
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング3 ・プログラミング4 	<p>メディア制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HTML ・Web/アプリデザイン <p>ビジネス構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス構想 ・データ分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン基礎(1・2) ・電子工作(基礎・応用) ・サーバサイド(基礎・応用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア分析(1・2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアデザイン理論(1・2) ・メディア工学(1・2) ・メディア技術論(1・2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツビジネス1~3 ・ソーシャルメディア論 ・インターンシップ1/2
3年次		<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナール 	<ul style="list-style-type: none"> ・IoT(基礎1・2) ・クラウドコンピューティング(1・2、実践1・2) ・Webサービス企画 ・Webサービス開発 		<ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツ分析 ・展示実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会実践実習1~4 ・メディア産業研究 ・プラットフォーム研究 ・最先端テクノロジー研究 ・アンケート調査 ・インタビュー調査 ・ブランディング ・ソーシャルマーケティング ・データ・ドリブンマーケティング ・ビジネスプラン構想 ・チームマネジメント ・サービスデザイン ・プレゼンテーション ・ファシリテーション ・クリエイティブライティング ・フィールドリサーチ ・PR応用
4年次	<p>↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓</p> <p>各自のテーマ研究・制作 卒業プロジェクト</p>					
<p>卒業時の到達目標 > IT、デジタルの知識を用いて自発的に企画・制作ができる。論理的思考・創造的思考を身につける。高いコミュニケーション能力を備えプロジェクト管理、他者との協業ができる。</p>						

メディア表現学部 メディア表現学科 イメージ表現専攻 **カリキュラムマップ**

	プログラミング	基幹実習(必修科目)	デザイン	映像	インタラクション	企画	学部共通
	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラミングを習得し、目的に応じたコードが書ける ●論理的な思考、構想、企画ができる 		<ul style="list-style-type: none"> ●情報を視覚的に伝える方法と技術を学ぶ ●デザイン手法から開発し、新しいメディアを包括的に創造する力を得る 	<ul style="list-style-type: none"> ●映像制作の一通りを実践できる技術を習得する ●メディアの特性に応じた映像演出方法を理解し、制作することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●表現に入出力を組み合わせ、リアルタイムに処理する技術を学ぶ ●操作によって生じる意味を理解し、新しい体験を作り上げる力を養う 	<ul style="list-style-type: none"> ●アイデアを出すための技法を複数習得し、使えるようにする ●表現の素材を組み合わせ操作し、組み合わせることで、他者に効果的に伝えられるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ●メディア表現を通じた新たな価値創造、社会と接続する活動ができるようになる
1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング1 ・プログラミング2 		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎実習1~4 創造・表現・論理的思考の基礎を学ぶ 				<ul style="list-style-type: none"> ・文化産業論 ・文化政策論 ・広告メディア論 ・教育メディア論 ・サウンドスケープ論 ・ゲームデザイン論 ・メディアアート論 ・ウェブデザイン論 ・コンピュータとネットワーク論 ・サブカルチャーとメディア
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング3 ・プログラミング4 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフィックデザイン基礎 ・映像基礎 ・編集・企画 ・VR/AR ・グラフィックデザイン応用 ・メディアアート 	<ul style="list-style-type: none"> ・画像工学1・2 ・モーショングラフィック 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像技術論1・2 ・3D表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像理論1・2 ・ゲーム表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像分析1・2 ・編集と構成 ・ストーリー企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツビジネス1~3 ・ソーシャルメディア論 ・インターンシップ1/2
3年次		<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナール 	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・ビジュアライゼーション ・ファブリケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配信 ・拡張映像表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・空間映像表現 ・先端表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロトタイピング ・アートとインターネット 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会実践実習1~4 ・メディア産業研究 ・プラットフォーム研究 ・最先端テクノロジー研究 ・アンケート調査 ・インタビュー調査 ・ブランディング ・ソーシャルマーケティング ・データドリブンマーケティング ・ビジネスプラン構想 ・チームマネジメント ・サービスデザイン ・プレゼンテーション ・ファシリテーション ・クリエイティブライティング ・フィールドリサーチ ・PR応用
4年次	<ul style="list-style-type: none"> 各自のテーマ研究・制作 卒業プロジェクト 						
	卒業時の到達目標 > コンピュータと各種機器を用いる技術を身につけ、視覚的表現を思い通りに制作できる。新たな表現の可能性を継続的に模索する思考力を身につける。既存の枠組みに収まることなく、未知のジャンルを創出する。						

メディア表現学部 メディア表現学科 音楽表現専攻 **カリキュラムマップ**

	プログラミング	基幹実習(必修科目)	音楽制作	エンジニア	サウンド・デザイン	身体性	学部共通
	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラミングを習得し、目的に応じたコードが書ける ●論理的な思考、構想、企画ができる 		<ul style="list-style-type: none"> ●音楽のさまざまなスタイルを形式面から理解できる ●求められる役割に応じた曲を作ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●音の物理的・心理的特性をふまえて響きをコントロールできる ●受け取られる状況に合わせて音を編集できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●音とテクノロジーの関係を理解し、自身の取り組みに応用できる ●目的に応じて音の響きをデザインできる 	<ul style="list-style-type: none"> ●音を操るための身体感覚を養う ●音を介したコミュニケーションを引き出せるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ●メディア表現を通じた新たな価値創造、社会と接続する活動ができるようになる
1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング1 ・プログラミング2 		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎実習1~4 <p>創造・表現・論理的思考の基礎を学ぶ</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・文化産業論 ・文化政策論 ・広告メディア論 ・教育メディア論 ・サウンドスケープ論 ・ゲームデザイン論 ・メディアアート論 ・ウェブデザイン論 ・コンピュータとネットワーク論 ・サブカルチャーとメディア
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング3 ・プログラミング4 	<ul style="list-style-type: none"> ・DTM ・レコーディング ・作曲 ・サウンドプログラミング ・フィールドワーク ・文献購読 ・リリックビデオ制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽分析1・2 ・音楽理論1・2 ・作曲法 	<ul style="list-style-type: none"> ・音響工学1・2 ・ミキシング 	<ul style="list-style-type: none"> ・音響技術論1・2 ・音響合成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソルフェージュ ・リズム合奏 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツビジネス1~3 ・ソーシャルメディア論 ・インターンシップ1/2
3年次		<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナール 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像と音楽 ・編曲法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームサウンド ・MA 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果音 ・音楽プログラミング 	<ul style="list-style-type: none"> ・トラックメイキング 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会実践実習1~4 ・メディア産業研究 ・プラットフォーム研究 ・最先端テクノロジー研究 ・アンケート調査 ・インタビュー調査 ・ブランディング ・ソーシャルマーケティング ・データ・ドリブンマーケティング ・ビジネスプラン構想 ・チームマネジメント ・サービスデザイン ・プレゼンテーション ・ファシリテーション ・クリエイティブライティング ・フィールドリサーチ ・PR応用
4年次	<p>↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓</p> <p>各自のテーマ研究・制作</p> <p>卒業プロジェクト</p>						
卒業時の到達目標		<p>> 社会において音楽や音の表現に求められる役割を理解し、そこに貢献するべく主体的に関与することができる。音とメディアの関係を理解し、人々を結びつけるメディアの一種として音を扱うことができる。</p>					

メディア表現学部 メディア表現学科 履修モデル

● **メディア表現学部 メディア表現学科 メディア情報専攻**

「プログラミング、データサイエンスの知識を持ち、メディア情報・クリエイティブ系で、社会に対し新たな価値の創造を目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ クリエイティブ・ワークショップ	必修 必修	1 1									2		
	表現科目	コミュニケーションスキル1	必修	1			アカデミックスキル3	必修	1					8	
		コミュニケーションスキル2	必修	1			アカデミックスキル4	必修	1						
		アカデミックスキル1	必修	1											
		アカデミックスキル2	必修	1											
		デッサン1	必修	1											
		グラフィックデザインソフトスキル	必修	1											
	グローバル科目	英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1			Effective Presentation	選択	1		8	
		英語2/日本語2	必修	1	Business English	選択	1								
		英語3/日本語3	必修	1	ベトナム語	選択	1								
		英語4/日本語4	必修	1											
	リベラルアーツ科目	自由論	必修	1	グローバル化と社会	必修	1	数学的思考法	選択	2				14	
		シティズンシップとダイバーシティ	必修	1	データサイエンス入門	必修	1								
		創造的思考法	必修	1	人権と教育	必修	1								
情報と倫理		必修	1	プログラミング3	必修	1									
情報科学概論		必修	1	プログラミング4	必修	1									
プログラミング1		必修	1												
キャリア科目	キャリア1	必修	1	キャリア2	選択	1							2		
	社会実践力育成プログラム			インターンシップ1	必修	2							4		
マイナー科目				海外ショートプログラム	選択	2								10	124
			マーケティング論	選択	1	ソーシャルビジネス演習1	選択	2							
			ビジネスモデル論	選択	2	ソーシャルビジネス演習2	選択	2							
			イノベーション論	選択	2										
学部専門教育科目	基礎実習科目・応用実習科目・卒業実習科目	基礎実習1	必修	2	基礎実習5	必修	2	応用実習3	必修	2	卒業研究実習1	必修	2	38	
		基礎実習2	必修	2	基礎実習6	必修	2	応用実習4	必修	2	卒業研究実習2	必修	2		
		基礎実習3	必修	2	応用実習1	必修	2	社会実践実習1	必修	1	卒業研究実習3	必修	2		
		基礎実習4	必修	2	応用実習2	必修	2	社会実践実習2	必修	1	卒業論文・卒業制作	必修	2		
							社会実践実習3	必修	1	卒業展示	必修	2			
							社会実践実習4	必修	1						
	メディア表現基礎科目	メディア表現概論1	必修	1	基礎演習11(デザイン基礎1)	選択	1	基礎演習15(IoT基礎)	選択	1	特別演習9(クラウドコンピューティング実践1)	選択	1	20	
		メディア表現概論2	必修	1	基礎演習12(デザイン基礎2)	選択	1	基礎演習16(IoT応用)	選択	1	特別演習10(クラウドコンピューティング実践2)	選択	1		
		メディア表現史1	必修	1	基礎演習13(電子工作基礎)	選択	1	応用演習15(Webサービス企画)	選択	1					
		メディア表現史2	必修	1	基礎演習14(サーバサイド基礎)	選択	1	応用演習16(Webサービス開発)	選択	1					
		メディア表現リテラシー1	選択	2	応用演習11(電子工作応用)	選択	1	応用演習13(クラウドコンピューティング1)	選択	1					
					応用演習12(サーバサイド応用)	選択	1	応用演習14(クラウドコンピューティング2)	選択	1					
	メディア情報講義演習科目・イメージ表現講義演習科目・音楽表現講義演習科目・学科共通講義演習科目	メディア研究概論	選択	1	メディア工学1(統計の基礎)	選択	1	基礎演習17(定量調査)	選択	1				18	
		広告メディア論	選択	2	メディア工学2(数学)	選択	1	基礎演習18(定性調査)	選択	1					
					メディア分析1(デジタルマーケティング)	選択	1	特別演習13(サービスデザイン)	選択	1					
					メディア分析2(デジタルマーケティング)	選択	1	基礎演習22(ビジネスプラン)	選択	1					
					メディア技術論1(サイトデザイン)	選択	1	特別演習7(コンテンツ分析)	選択	1					
					メディア技術論2(サイトデザイン)	選択	1	特別演習8(展示実践)	選択	1					
					メディアデザイン理論1	選択	1								
					メディアデザイン理論2	選択	1								
			コンテンツビジネス3(ビジネスモデル)	選択	1										

メディア表現学部 メディア表現学科 イメージ表現専攻

「新しい映像メディア、ウェブサービスなどで企画立案し、自ら初期のコンテンツを作ることができるディレクター、編集者をを目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ	必修	1									2		
		クリエイティブ・ワークショップ	必修	1											
	表現科目	コミュニケーションスキル1	必修	1	表現と知的財産権	選択	2	アカデミックスキル3	必修	1					
		コミュニケーションスキル2	必修	1	表現と社会	選択	2	アカデミックスキル4	必修	1					
		アカデミックスキル1	必修	1				現代美術概論	選択	2					
		アカデミックスキル2	必修	1											
		デッサン1	必修	1											
	グローバル科目	グラフィックデザインソフトスキル	必修	1											
		英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1	Business English	選択	1					
		英語2/日本語2	必修	1				Effective presentation	選択	1					
		英語3/日本語3	必修	1											
	リベラル アーツ科目	英語4/日本語4	必修	1											
		自由論	必修	1	グローバル化と社会	必修	1								
		シティズンシップとダイバーシティ	必修	1	データサイエンス入門	必修	1								
		創造的思考法	必修	1	人権と教育	必修	1								
		情報と倫理	必修	1	プログラミング3	必修	1								
情報科学概論		必修	1	プログラミング4	必修	1									
キャリア 科目	プログラミング1	必修	1												
	プログラミング2	必修	1												
社会実践力 育成 プログラム	キャリア1	必修	1	クリエイティブの現場	選択	2	ポートフォリオ実習1	選択	1						
				インターンシップ1	選択	2	ベンチャー・ビジネス論	選択	1						
マイナー科目				デザイン概論1	選択	1	美術概論1	選択	1	美術特講1	選択	2			
				デザイン史1	選択	1	美術史1	選択	1						
							デザイン特講1	選択	2						
学部専門教育科目	基礎実習 科目・ 応用実習 科目・ 卒業実習 科目	基礎実習1	必修	2	基礎実習5	必修	2	応用実習3	必修	2	卒業研究実習1	必修	2		
		基礎実習2	必修	2	基礎実習6	必修	2	応用実習4	必修	2	卒業研究実習2	必修	2		
		基礎実習3	必修	2	応用実習1	必修	2	社会実践実習1	必修	1	卒業研究実習3	必修	2		
		基礎実習4	必修	2	応用実習2	必修	2	社会実践実習2	必修	1	卒業論文・卒業制作	必修	2		
								社会実践実習3	必修	1	卒業展示	必修	2		
								社会実践実習4	必修	1					
	メディア表現 基盤科目							応用実習5	必修	2					
								応用実習6	必修	2					
		メディア表現概論1	必修	1	メディア表現特講1	選択	2	基礎演習(配信)	選択	1	特別演習(プロトタイプング)	選択	1		
		メディア表現概論2	必修	1	メディア表現特講2	選択	2	応用演習(アートとインターネット)	選択	1					
		メディア表現史1	必修	1	基礎演習(3D表現)	選択	1	応用演習(空間映像表現)	選択	1					
	メディア表現史2	必修	1	基礎演習(編集と構成)	選択	1	応用演習(データ・ビジュアライゼーション)	選択	1						
	メディア表現リテラシー1	選択	2	基礎演習(ストーリー企画)	選択	1	応用演習(アプリケーション)	選択	1						
	メディア表現リテラシー2	選択	2	応用演習(モーショングラフィック)	選択	1	特別演習(拡張映像表現)	選択	1						
	メディア情報 講義演習科目・ イメージ表現 講義演習科目・ 音楽表現 講義演習科目・ 学科共通 講義演習科目	映像研究概論	選択	1	映像理論1	選択	1	コンテンツビジネス1	選択	1					
		メディア・アート論	選択	2	映像理論2	選択	1	コンテンツビジネス2	選択	1					
				画像工学1	選択	1	映像分析1	選択	1						
				画像工学2	選択	1	映像分析2	選択	1						
				映像技術論1	選択	1									
			映像技術論2	選択	1										

● **メディア表現学部 メディア表現学科 音楽表現専攻**

「映像、ゲームなどの音楽や効果音を担うサウンド・デザイナーを目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ	必修	1									2		
		クリエイティブ・ワークショップ	必修	1											
	表現科目		コミュニケーションスキル1	必修	1	音楽概論	選択	2	アカデミックスキル3	必修	1				
			コミュニケーションスキル2	必修	1	ポピュラー音楽論	選択	2	アカデミックスキル4	必修	1				
			アカデミックスキル1	必修	1										
			アカデミックスキル2	必修	1										
			デッサン1	必修	1										
			グラフィックデザインソフトスキル	必修	1										
		芸術学	選択	2											
	グローバル科目		英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1							
			英語2/日本語2	必修	1										
			英語3/日本語3	必修	1										
			英語4/日本語4	必修	1										
	リベラルアーツ科目		自由論	必修	1	グローバル化と社会	必修	1							
			シティズンシップとダイバーシティ	必修	1	データサイエンス入門	必修	1							
			創造的思考法	必修	1	人権と教育	必修	1							
			情報と倫理	必修	1	プログラミング3	必修	1							
			情報科学概論	必修	1	プログラミング4	必修	1							
			プログラミング1	必修	1										
			プログラミング2	必修	1										
キャリア科目		キャリア1	必修	1	クリエイティブの現場	選択	2								
		職業研究	選択	1											
社会実践力育成プログラム				インターンシップ1	必修	2							2		
マイナー科目				マンガ概論1	選択	1	マンガリテラシー1	選択	2	マンガ特講1	選択	2			
				マンガ史1	選択	1	マンガリテラシー2	選択	2						
				マーケティング論	選択	1	デザイン概論1	選択	1						
学部専門教育科目	基礎実習科目・ 応用実習科目・ 卒業実習科目		基礎実習1	必修	2	基礎実習5	必修	2	応用実習3	必修	2	卒業研究実習1	必修	2	
			基礎実習2	必修	2	基礎実習6	必修	2	応用実習4	必修	2	卒業研究実習2	必修	2	
			基礎実習3	必修	2	応用実習1	必修	2	社会実践実習1	必修	1	卒業研究実習3	必修	2	
			基礎実習4	必修	2	応用実習2	必修	2	社会実践実習2	必修	1	卒業論文・卒業制作	必修	2	
								社会実践実習3	必修	1	卒業展示	必修	2		
								社会実践実習4	必修	1					
	メディア表現 基礎科目		メディア表現概論1	必修	1	基礎演習(UI/UX)	選択	1	メディア表現特講1	選択	2	特別演習(音楽プログラミング)	選択	1	
			メディア表現概論2	必修	1	基礎演習(コンテンツ分析)	選択	1	メディア表現特講2	選択	2				
			メディア表現史1	必修	1	基礎演習(電子工作基礎)	選択	1	応用演習(効果音)	選択	1				
			メディア表現史2	必修	1	基礎演習(サーバサイド基礎)	選択	1	応用演習(映像と音楽)	選択	1				
			メディア表現リテラシー1	選択	2	基礎演習(ビジネスプラン)	選択	1	応用演習(MA)	選択	1				
			メディア表現リテラシー2	選択	2	応用演習(電子工作応用)	選択	1	応用演習(ゲームサウンド)	選択	1				
	メディア情報 講義演習科目・ イメージ表現 講義演習科目・ 音楽表現 講義演習科目・ 学科共通 講義演習科目		音楽研究概論	選択	1	メディア工学1(統計の基礎)	選択	1	ゲームデザイン論	選択	2	メディアミックス論	選択	2	
			映像研究概論	選択	1	メディア工学2(数学)	選択	1	音楽技術論1	選択	1				
						メディア分析1(デジタルマーケティング)	選択	1	音楽技術論2	選択	1				
						メディア分析2(デジタルマーケティング)	選択	1							
						メディア技術論1(サイトデザイン)	選択	1							
						文化産業論	選択	2							

メディア表現学部 メディア表現学科 履修モデル

メディア表現学部 メディア表現学科 ※共通分野の教員ゼミを履修する場合

「在学中に新しいメディアの開発と社会実装を経験した上で、テレビ局で新しいコンテンツプラットフォームの事業運営を希望する学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ	必修	1									2		
		クリエイティブ・ワークショップ	必修	1											
	表現科目		コミュニケーションスキル1	必修	1			アカデミックスキル3	必修	1				10	
			コミュニケーションスキル2	必修	1			アカデミックスキル4	必修	1					
			アカデミックスキル1	必修	1			表現と知的財産権	選択	2					
			アカデミックスキル2	必修	1										
			デッサン1	必修	1										
	グローバル科目		英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1	Business English	選択	1			6	
			英語2/日本語2	必修	1										
			英語3/日本語3	必修	1										
			英語4/日本語4	必修	1										
	リベラルアーツ科目		自由論	必修	1	グローバル化と社会	必修	1						12	
			シティズンシップとダイバーシティ	必修	1	データサイエンス入門	必修	1							
			創造的思考法	必修	1	人権と教育	必修	1							
			情報と倫理	必修	1	プログラミング3	必修	1							
			情報科学概論	必修	1	プログラミング4	必修	1							
			プログラミング1	必修	1										
	キャリア科目		キャリア1	必修	1			ベンチャービジネス論	選択	1				3	
								表現活動と経済	選択	1					
	社会実践力育成プログラム					インターンシップ1	必修	2	大学連携プログラム	選択	2			6	
					インターンシップ2	選択	2								
マイナー科目					ビジネスモデル論	選択	2	ソーシャルビジネス演習1	選択	2			11	124	
							ソーシャルビジネス演習2	選択	2						
							イノベーション論	選択	2						
							デザイン特講1	選択	2						
							ファイナンス論	選択	1						
学部専門教育科目	基礎実習科目・ 応用実習科目・ 卒業実習科目	基礎実習1	必修	2	基礎実習5	必修	2	応用実習3	必修	2	卒業研究実習1	必修	2	38	
		基礎実習2	必修	2	基礎実習6	必修	2	応用実習4	必修	2	卒業研究実習2	必修	2		
		基礎実習3	必修	2	応用実習1	必修	2	社会実践実習1	必修	1	卒業研究実習3	必修	2		
		基礎実習4	必修	2	応用実習2	必修	2	社会実践実習2	必修	1	卒業論文・卒業制作	必修	2		
								社会実践実習3	必修	1	卒業展示	必修	2		
								社会実践実習4	必修	1					
	メディア表現 基礎科目	メディア表現概論1	必修	1	メディア表現特講1	選択	2	基礎演習(プレゼンテーション)	選択	1				22	
		メディア表現概論2	必修	1	メディア表現特講2	選択	2	基礎演習(クリエイティブライティング)	選択	1					
		メディア表現史1	必修	1	メディア表現リテラシー2	選択	2	基礎演習(アンケート調査)	選択	1					
		メディア表現史2	必修	1	基礎演習(メディア産業研究)	選択	1	応用演習(ソーシャルマーケティング)	選択	1					
		メディア表現リテラシー1	選択	2	基礎演習(インタビュー調査)	選択	1	特別演習(データドリブンマーケティング)	選択	1					
					基礎演習(ビジネスプラン構想)	選択	1	特別演習(サービスデザイン)	選択	1					
	メディア情報 講義演習科目・ イメージ表現 講義演習科目・ 音楽表現 講義演習科目・ 学科共通 講義演習科目	メディア研究概論	選択	1	コンテンツビジネス1(マーケティング)	選択	1	メディアミックス論	選択	2				14	
		文化産業論	選択	2	コンテンツビジネス2(ブランディング)	選択	1								
		広告メディア論	選択	2	メディア工学1	選択	1								
					メディア工学2	選択	1								
					メディア分析1(デジタルマーケティング)	選択	1								
					メディア分析2(デジタルマーケティング)	選択	1								
					メディア技術論1	選択	1								

メディア表現学部 メディア表現学科 専門教育科目 科目一覧

専門実習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	Tmc10001	基礎実習1	必修	実習	2	1	●	●		●	●
	Tmc10002	基礎実習2	必修	実習	2	1	●	●		●	●
	Tmc10003	基礎実習3	必修	実習	2	1	●	●		●	●
	Tmc10004	基礎実習4	必修	実習	2	1	●	●		●	●
	Tmc20005	基礎実習5	必修	実習	2	2	●	●		●	●
	Tmc20006	基礎実習6	必修	実習	2	2	●	●		●	●
応用実習科目	Tmc20011	応用実習1	必修	実習	2	2		●	●	●	●
	Tmc20012	応用実習2	必修	実習	2	2		●	●	●	●
	Tmc30013	応用実習3	必修	実習	2	3		●	●	●	●
	Tmc30014	応用実習4	必修	実習	2	3		●	●	●	●
	Tmc30021	社会実践実習1	必修	実習	1	3		●		●	●
	Tmc30022	社会実践実習2	必修	実習	1	3		●		●	●
	Tmc30023	社会実践実習3	必修	実習	1	3		●		●	●
	Tmc30024	社会実践実習4	必修	実習	1	3		●		●	●
	Tmc30015	応用実習5	必修	実習	2	3		●	●	●	●
	Tmc30016	応用実習6	必修	実習	2	3		●	●	●	●
卒業実習科目	Tmc40031	卒業研究実習1	必修	実習	2	4		●	●	●	●
	Tmc40032	卒業研究実習2	必修	実習	2	4		●	●	●	●
	Tmc40033	卒業研究実習3	必修	実習	2	4		●	●	●	●
	Tmc40041	卒業論文・卒業制作	必修	成果 評定	2	4		●	●	●	●
	Tmc40051	卒業展示	必修	実習	2	4		●	●	●	●

専門講義・演習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
メディア表現基礎科目	Tmc11001	メディア表現概論1	必修	講義	1	1	●	●			
	Tmc11002	メディア表現概論2	必修	講義	1	1	●	●			
	Tmc11011	メディア表現史1	必修	講義	1	1	●				
	Tmc11012	メディア表現史2	必修	講義	1	1	●				
	Tmc11021	メディア表現リテラシー1	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc11022	メディア表現リテラシー2	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc21031	メディア表現特講1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			
	Tmc21032	メディア表現特講2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			
	Tmc22001	基礎演習1(ソルフェージュ)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22002	基礎演習2(作曲法)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22003	基礎演習3(ミキシング)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22004	基礎演習4(音響合成)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22005	基礎演習5(PA)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22006	基礎演習6(配信)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22007	基礎演習7(3D表現)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22008	基礎演習8(編集と構成)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22009	基礎演習9(ストーリー企画)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22010	基礎演習10(ゲーム表現)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22011	基礎演習11(デザイン基礎1)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22012	基礎演習12(デザイン基礎2)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22013	基礎演習13(電子工作基礎)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22014	基礎演習14(サーバサイド基礎)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22015	基礎演習15(IoT基礎1)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22016	基礎演習16(IoT基礎2)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22017	基礎演習17(アンケート調査)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22018	基礎演習18(インタビュー調査)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc22019	基礎演習19(メディア産業研究)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	●
	Tmc22020	基礎演習20(プレゼンテーション)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	●
	Tmc22021	基礎演習21(クリエイティブライティング)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	●
	Tmc22022	基礎演習22(ビジネスプラン構想)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	●
	Tmc23001	応用演習1(リズム合奏)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc33002	応用演習2(映像と音楽)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc33003	応用演習3(効果音)	選択	演習	1	3・4			●	●	
Tmc33004	応用演習4(ゲームサウンド)	選択	演習	1	3・4			●	●		
Tmc33005	応用演習5(MA)	選択	演習	1	3・4			●	●		
Tmc23006	応用演習6(モーショングラフィック)	選択	演習	1	2・3・4			●	●		
Tmc33007	応用演習7(ファブリケーション)	選択	演習	1	3・4			●	●		
Tmc33008	応用演習8(データ・ビジュアライゼーション)	選択	演習	1	3・4			●	●		

メディア表現学部 メディア表現学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
メディア表現基盤科目	Tmc33009	応用演習9(アートとインターネット)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc33010	応用演習10(空間映像表現)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc23011	応用演習11(電子工作応用)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc23012	応用演習12(サーバサイド応用)	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Tmc33013	応用演習13(クラウドコンピューティング1)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc33014	応用演習14(クラウドコンピューティング2)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc33015	応用演習15(Webサービス企画)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc33016	応用演習16(Webサービス開発)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc33017	応用演習17(プラットフォーム研究)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc33018	応用演習18(フィールドリサーチ)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc33019	応用演習19(ブランディング)	選択	演習	1	3・4			●	●	●
	Tmc33020	応用演習20(ソーシャルマーケティング)	選択	演習	1	3・4			●	●	●
	Tmc33021	応用演習21(チームマネジメント)	選択	演習	1	3・4			●	●	●
	Tmc33022	応用演習22(ファシリテーション)	選択	演習	1	3・4			●	●	●
	Tmc34001	特別演習1(トラックメイキング)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc34002	特別演習2(編曲法)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc34003	特別演習3(音楽プログラミング)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc34004	特別演習4(プロトタイピング)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc34005	特別演習5(拡張映像技法)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc34006	特別演習6(先端表現)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc34007	特別演習7(コンテンツ分析)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc34008	特別演習8(展示実践)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc34009	特別演習9(クラウドコンピューティング実践1)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc34010	特別演習10(クラウドコンピューティング実践2)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc34011	特別演習11(最先端テクノロジー研究)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc34012	特別演習12(データドリブンマーケティング)	選択	演習	1	3・4			●	●	
	Tmc34013	特別演習13(サービスデザイン)	選択	演習	1	3・4			●	●	●
	Tmc34014	特別演習14(PR応用)	選択	演習	1	3・4			●	●	●
音楽表現講義科目	Tmc15001	音楽研究概論	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	Tmc25011	音楽理論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25012	音楽理論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25021	音響工学1	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25022	音響工学2	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25031	音楽分析1	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25032	音楽分析2	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25041	音響技術論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25042	音響技術論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
イメージ表現講義科目	Tmc15051	映像研究概論	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	Tmc25061	映像理論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25062	映像理論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25071	画像工学1	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25072	画像工学2	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25081	映像分析1	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25082	映像分析2	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25091	映像技術論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
Tmc25092	映像技術論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●			
メディア情報講義科目	Tmc15101	メディア研究概論	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	Tmc25111	メディアデザイン理論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25112	メディアデザイン理論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25121	メディア工学1	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25122	メディア工学2	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25131	メディア分析1	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25132	メディア分析2	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
	Tmc25141	メディア技術論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●		
Tmc25142	メディア技術論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●	●			
学科共通講義科目	Tmc26001	コンテンツビジネス1(マーケティング)	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Tmc26002	コンテンツビジネス2(ブランディング)	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Tmc26003	コンテンツビジネス3(ビジネスモデル)	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Tmc16011	サウンドスケープ論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16021	メディアアート論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16031	ゲームデザイン論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16041	ウェブデザイン論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16051	コンピュータ&ネットワーク論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16061	サブカルチャーとメディア	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16071	文化産業論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16081	文化政策論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16091	広告メディア論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16101	教育メディア論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc26111	メディアミックス論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			
Tmc26121	ソーシャルメディア論	選択	講義	2	2・3・4	●	●				

ポリシーとカリキュラム構造

● 教育研究目的

芸術学部の教育研究目的は、自立した思考力によって新たな表現を創造するアーティストの資質を備えた、より良き社会人として生きる人間の育成です。多様な芸術表現の在り方を共有し、専門性の探求と領域横断的な交流により、主体的かつ創造的な価値を社会に対して提案できる力を養います。卒業時に身につけているべき要素を以下の5つとし、卒業要件を満たせばこれらを身につけたものと認め、学位を授与します。

● 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	芸術と文化の多様性に関する基本的な知識と理解がある。	知識と理解 knowledge & understanding
DP2	領域と技法を超えた多角的な視点から対象の本質をとらえ、自ら問題点を見つけ創造的に取り組むことができる。	創造的思考と考察 creative thinking & observation
DP3	芸術領域の専門知識と制作技能、および他者の心に訴え行動を喚起する造形力を身につけている。	技術と表現 skills & expression
DP4	多様な他者との違いを認め、協働して課題解決に取り組むことができる。	他者理解と協働 mutual understanding & collaboration
DP5	より良い社会を創る意欲を持ち、学びを応用して社会の課題解決に自ら取り組むことができる。	社会への関心と行動 interests & action

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

芸術学部は、学位授与の方針を達成するために、全学共通教育科目、学部専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

学部専門教育科目では、

1年次には造形表現に必要な表現の多様性を学び、各分野の基礎知識を幅広く身につける科目を開講します。

2年次は各自の専門分野に重要なアートシーンに触れるとともに、専門的な知識・技法・考察能力を身につける科目を開講します。

3年次は専門を深化させると共に、創造的表現能力、総合的判断能力、実践的コミュニケーション力を養う科目を開講します。

最終年次には、探究を自律的に計画・遂行し、その成果を公共的・学術的に表現する技法と作法を養います。

2. 教育方法

- (1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
- (3) 学修成果の可視化を通じて、学生の自律的な学修を支援します。

3. 学修成果の評価

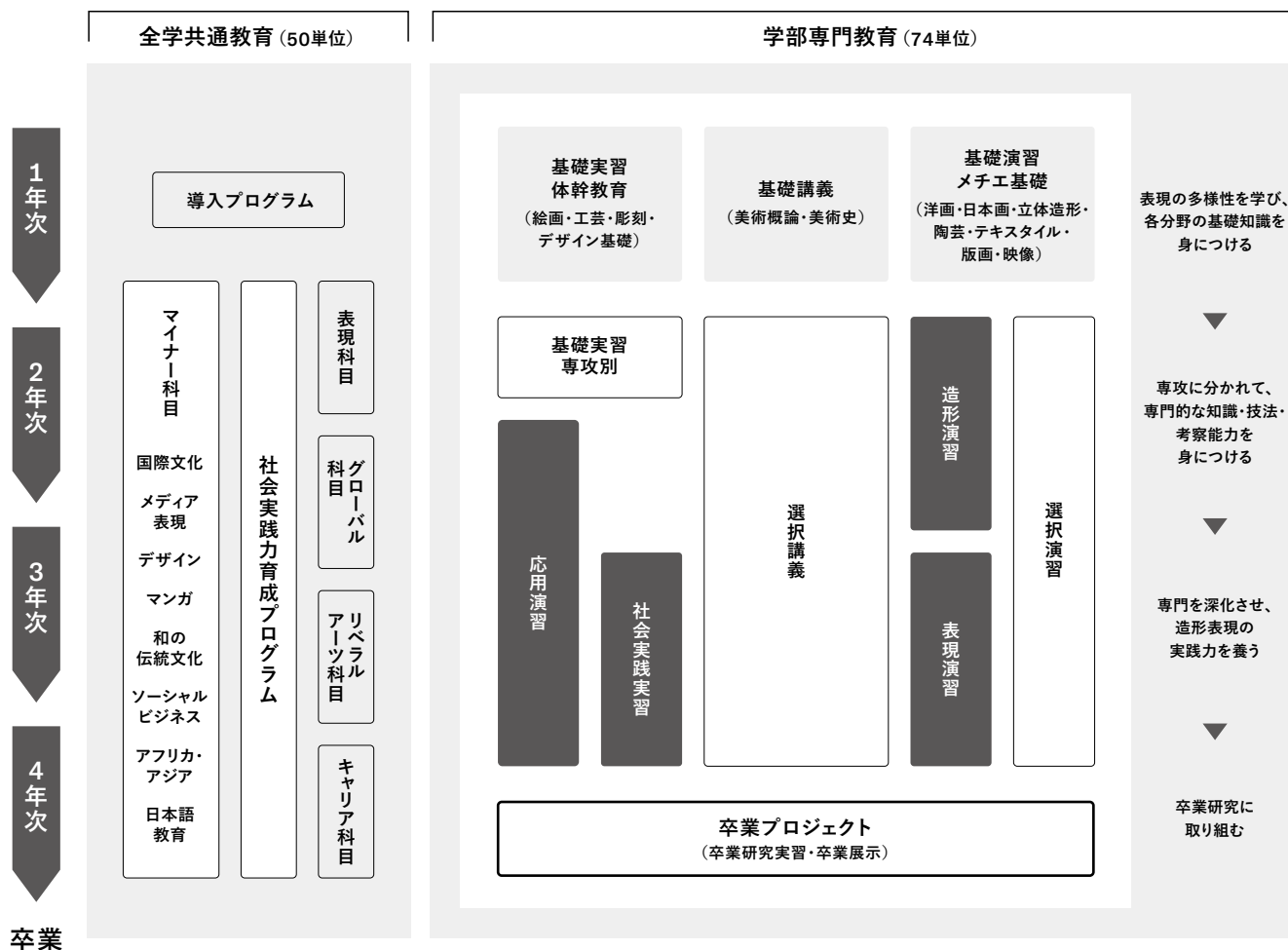
芸術学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況により、総合的評価を行います。卒業論文・制作（必修）は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。



卒業

造形学科

洋画専攻／日本画専攻／立体造形専攻／
陶芸専攻／テキスタイル専攻／版画専攻／映像専攻

芸術学部 造形学科 卒業要件

科目区分	進級要件	必修科目				小計	選択必修科目	選択科目	卒業に要する単位(計)
		科目名称	配当年次	単位数	小計		小計		
全学共通教育科目	導入プログラム	○	フレッシュヤーズ・キャンプ	1	1Q	1	24単位	16単位以上	50単位以上
		○	クリエイティブ・ワークショップ	1	2Q	1			
	表現科目	○	コミュニケーションスキル1	1	1Q	1			
		○	コミュニケーションスキル2	1	3Q	1			
		○	アカデミックスキル1	1	2Q	1			
		○	アカデミックスキル2	1	4Q	1			
		○	アカデミックスキル3	3	3Q	1			
		○	アカデミックスキル4	3	4Q	1			
		○	デッサン1	1	1Q	1			
	グローバル科目	○	グラフィックデザインソフトスキル	1	2Q	1			
		○	日本文化概論	2	4Q	1			
		○	英語1/日本語1	1	1Q	1			
		○	英語2/日本語2	1	2Q	1			
		○	英語3/日本語3	1	3Q	1			
	リベラルアーツ科目	○	英語4/日本語4	1	4Q	1			
		○	自由論	1	3Q	1			
○		シティズンシップとダイバーシティ	1	4Q	1				
○		創造的思考法	1	3Q	1				
○		情報と倫理	1	1Q	1				
○		人権と教育	2	3Q	1				
○		グローバル化と社会	2	2Q	1				
キャリア科目	○	情報科学概論	1	2Q	1				
	○	データサイエンス入門	2	1Q	1				
社会実践力育成プログラム	○	キャリア1	1	1Q	1	10単位以上(※)			
マイナー科目									
学部専門教育科目	基礎実習科目	○	芸術基礎実習1	1	1Q	2	38単位		74単位以上
		○	芸術基礎実習2	1	2Q	2			
		○	芸術基礎実習3	1	3Q	2			
		○	芸術基礎実習4	1	4Q	2			
		○	芸術基礎実習5	2	1Q	2			
		○	芸術基礎実習6	2	2Q	2			
	応用実習科目	○	芸術基礎実習6	2	2Q	2			
		○	芸術応用実習1	2	3Q	2			
		○	芸術応用実習2	2	4Q	2			
		●	芸術応用実習3	3	1Q	2			
		●	芸術応用実習4	3	2Q	2			
		●	芸術社会実践実習1	3	1Q	1			
		●	芸術社会実践実習2	3	2Q	1			
		●	芸術社会実践実習3	3	3Q	1			
		●	芸術社会実践実習4	3	4Q	1			
		●	芸術応用実習5	3	3Q	2			
	●	芸術応用実習6	3	4Q	2				
	卒業実習科目	○	卒業研究実習1	4	1Q	2			
		○	卒業研究実習2	4	2Q	2			
○		卒業研究実習3	4	3Q	2				
○		卒業論文・卒業制作	4	4Q	2				
○		卒業展示	4	4Q	2				
専門講義・演習科目	芸術学部 基礎科目	○	美術概論1	1	1Q	1	4単位	32単位以上	
		○	美術概論2	1	2Q	1			
	芸術学部 共通科目	○	美術史1	1	3Q	1			
		○	美術史2	1	4Q	1			

(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を選択科目の単位とみなす。

進級要件
 〈1年次から2年次〉 1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)。
 〈2年次から3年次/○印〉 ○全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。○学部専門の1・2年次必修科目の20単位をすべて修得していること。
 〈3年次から4年次/●印〉 ●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。

	必修専門授業	選択スキル授業
<p>1年次</p> <p>造形表現を学ぶための基礎的な能力を鍛える「基礎講義科目」と「体幹教育」、多様な技術や表現手段を体験する「基礎演習(メチエ基礎)」により、「基礎・体験・道標」を軸に表現することの「おもしろさ」と基礎となる能力を養う。</p>	<p>基礎講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術概論1・2 ・美術史1・2 <p>体幹教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術基礎実習1~4 <p>[絵画・工芸 彫刻・デザイン]</p>	<p>メチエ基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習1~8 <p>[洋画・日本画・立体造形・陶芸 テキスタイル・版画・映像]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(美術リテラシー1・2)
<p>2年次より専攻に所属(洋画・日本画・立体造形・陶芸・テキスタイル・版画・映像)</p>		
<p>2年次</p> <p>1年次で身に付けた能力を基礎に、7つの領域(専攻)の中から自身が興味・関心ある専攻を選択。専門教育への基礎的な導入実践によってメチエ、表現力、思考力を磨く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術基礎実習5・6 ・芸術応用実習1・2 	<p>基礎講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術特講1・2 ・美術史特論1~4 ・美術工芸史1~4 ・現代社会システム論1・2 ・芸術表象論1・2 ・芸術と哲学1・2 ・美術解剖学1・2 ・視覚認知論1・2 ・芸術と精神分析1・2 ・現代芸術論1・2 ・アートマネジメント論1・2 ・美術評論1・2 ・作品と空間 ・表現研究特講 <p>演習科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形演習1~8 ・表現研究1~4 ・現代アートP演習1・2 ・ドローイング1・2 ・工芸1~4 ・図法製図1・2 ・造形研究1~4 ・映像メディア表現1~4 ・写真表現1・2
<p>3年次</p> <p>2年次に引き続き、所属する専攻の専門教育をさらに実践する。技術力、表現力、思考力を深めるとともに創造力と社会への発信力を養い、自身の専門性、造形表現における方向性を確認していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術応用実習3~6 ・芸術社会実践実習1~4 	
<p>4年次</p> <p>各教員が開講するゼミを選択し、3年間の学びで培った能力をさらに先鋭化させる。研究を集大成としての卒業研究に開花させていきながら、自身を社会へと繋げていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究実習1~3 ・卒業論文・卒業制作 ・卒業展示 	

芸術学部 造形学科 履修モデル



芸術学部 造形学科

「教養と実践力を備えたアーティストを目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	合計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ クリエイティブ・ワークショップ	必修 必修	1 1									2	124	
	表現科目	コミュニケーションスキル1	必修	1	日本美術史	選択	2	アカデミックスキル3	必修	1					17
		コミュニケーションスキル2	必修	1	東洋美術史	選択	2	アカデミックスキル4	必修	1					
		アカデミックスキル1	必修	1	西洋美術史	選択	2	工芸概論	選択	2					
		アカデミックスキル2	必修	1	写真技法	選択	1								
		デッサン1	必修	1											
	グローバル科目	グラフィックデザインソフトスキル	必修	1											5
		英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1								
		英語2/日本語2	必修	1											
		英語3/日本語3	必修	1											
	リベラルアーツ科目	英語4/日本語4	必修	1											8
		自由論	必修	1	グローバル化と社会	必修	1								
		シティズンシップとダイバーシティ	必修	1	データサイエンス入門	必修	1								
		創造的思考法	必修	1	人権と教育	必修	1								
キャリア科目	情報と倫理	必修	1										2		
	情報科学概論	必修	1												
キャリア科目	キャリア1	必修	1				ポートフォリオ実習1	選択	1				2		
社会実践力育成プログラム				(社会実践力育成プログラム)	選択	2							2		
マイナー科目				和の伝統文化論	選択	1	日本語学	選択	1				14		
				京都の伝統工芸講座1	選択	2	デザインリテラシー1	選択	2						
				京都の伝統工芸講座2	選択	2	デザインリテラシー2	選択	2						
							京都の伝統産業実習	選択	2						
							デザイン概論1	選択	1						
							デザイン概論2	選択	1						
学部専門教育科目	基礎実習科目・応用実習科目・卒業実習科目	芸術基礎実習1	必修	2	芸術基礎実習5	必修	2	芸術応用実習3	必修	2	卒業研究実習1	必修	2	38	
		芸術基礎実習2	必修	2	芸術基礎実習6	必修	2	芸術応用実習4	必修	2	卒業研究実習2	必修	2		
		芸術基礎実習3	必修	2	芸術応用実習1	必修	2	芸術社会実践実習1	必修	1	卒業研究実習3	必修	2		
		芸術基礎実習4	必修	2	芸術応用実習2	必修	2	芸術社会実践実習2	必修	1	卒業論文・卒業制作	必修	2		
								芸術社会実践実習3	必修	1	卒業展示	必修	2		
								芸術社会実践実習4	必修	1					
	芸術学部基盤科目	美術概論1	必修	1	美術特講1	選択	2							8	
		美術概論2	必修	1	美術特講2	選択	2								
		美術史1	必修	1											
		美術史2	必修	1											
	芸術学部共通科目	基礎演習1	選択	1	造形演習1	選択	1	表現演習1	選択	1	表現研究特講	選択	1	28	
		基礎演習2	選択	1	造形演習2	選択	1	表現演習2	選択	1					
		基礎演習3	選択	1	造形演習3	選択	1	表現演習3	選択	1					
		基礎演習4	選択	1	造形演習4	選択	1	表現演習4	選択	1					
基礎演習5		選択	1	造形演習5	選択	1	表現演習5	選択	1						
基礎演習6		選択	1	造形演習6	選択	1	表現演習6	選択	1						
基礎演習7		選択	1	造形演習7	選択	1	表現演習7	選択	1						
基礎演習8		選択	1	造形演習8	選択	1	表現演習8	選択	1						
			現代アートプロジェクト演習1	選択	1	現代社会システム論1	選択	1							
			現代アートプロジェクト演習2	選択	1										

芸術学部 造形学科 専門教育科目 科目一覧

専門実習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	Afa10001	芸術基礎実習1	必修	実習	2	1		●		●	
	Afa10002	芸術基礎実習2	必修	実習	2	1		●		●	
	Afa10003	芸術基礎実習3	必修	実習	2	1		●		●	
	Afa10004	芸術基礎実習4	必修	実習	2	1		●		●	
	Afa20005	芸術基礎実習5	必修	実習	2	2			●		
	Afa20006	芸術基礎実習6	必修	実習	2	2			●		
応用実習科目	Afa20011	芸術応用実習1	必修	実習	2	2			●		
	Afa20012	芸術応用実習2	必修	実習	2	2			●		
	Afa30013	芸術応用実習3	必修	実習	2	3	●		●		
	Afa30014	芸術応用実習4	必修	実習	2	3	●		●		
	Afa30021	芸術社会実践実習1	必修	実習	1	3		●		●	●
	Afa30022	芸術社会実践実習2	必修	実習	1	3		●		●	●
	Afa30023	芸術社会実践実習3	必修	実習	1	3		●		●	●
	Afa30024	芸術社会実践実習4	必修	実習	1	3		●		●	●
	Afa30015	芸術応用実習5	必修	実習	2	3			●		
	Afa30016	芸術応用実習6	必修	実習	2	3			●		
卒業実習科目	Afa40021	卒業研究実習1	必修	実習	2	4		●	●		
	Afa40022	卒業研究実習2	必修	実習	2	4		●	●		
	Afa40023	卒業研究実習3	必修	実習	2	4		●	●		
	Afa40031	卒業論文・卒業制作	必修	成果評定	2	4		●	●		
	Afa40041	卒業展示	必修	実習	2	4		●		●	●

専門講義・演習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
芸術学部基礎科目	Afa11001	美術概論1	必修	講義	1	1	●				
	Afa11002	美術概論2	必修	講義	1	1	●				
	Afa11011	美術史1	必修	講義	1	1	●				
	Afa11012	美術史2	必修	講義	1	1	●				
	Afa11021	美術リテラシー1	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Afa11022	美術リテラシー2	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Afa21031	美術特講1	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Afa21032	美術特講2	選択	講義	2	2・3・4	●				

芸術学部 造形学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
芸術学部共通科目	Afa22001	美術史特論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22002	美術史特論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22003	美術史特論3	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22004	美術史特論4	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22011	美術工芸史1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22012	美術工芸史2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22013	美術工芸史3	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22014	美術工芸史4	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22021	現代社会システム論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22022	現代社会システム論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22031	芸術表象論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22032	芸術表象論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22041	芸術と哲学1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22042	芸術と哲学2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22051	美術解剖学1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22052	美術解剖学2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22061	視覚認知論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22062	視覚認知論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22071	芸術と精神分析1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22072	芸術と精神分析2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa32081	現代芸術論1	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa32082	現代芸術論2	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa32091	アートマネジメント論1	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa32092	アートマネジメント論2	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa32101	美術評論1	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa32102	美術評論2	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa32111	作品と空間	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa42112	表現研究特講	選択	講義	1	4	●				
	Afa13001	基礎演習1	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Afa13002	基礎演習2	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Afa13003	基礎演習3	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Afa13004	基礎演習4	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
Afa13005	基礎演習5	選択	演習	1	1・2・3・4			●			
Afa13006	基礎演習6	選択	演習	1	1・2・3・4			●			
Afa13007	基礎演習7	選択	演習	1	1・2・3・4			●			
Afa13008	基礎演習8	選択	演習	1	1・2・3・4			●			
Afa23011	造形演習1	選択	演習	1	2・3・4			●			
Afa23012	造形演習2	選択	演習	1	2・3・4			●			

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
芸術学部共通科目	Afa23013	造形演習3	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa23014	造形演習4	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa23015	造形演習5	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa23016	造形演習6	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa23017	造形演習7	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa23018	造形演習8	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa23021	表現研究1	選択	演習	1	2・3・4		●			
	Afa23022	表現研究2	選択	演習	1	2・3・4		●			
	Afa23023	表現研究3	選択	演習	1	2・3・4		●			
	Afa23024	表現研究4	選択	演習	1	2・3・4		●			
	Afa23031	現代アートプロジェクト演習1	選択	演習	1	2・3・4		●		●	●
	Afa23032	現代アートプロジェクト演習2	選択	演習	1	2・3・4		●		●	●
	Afa23041	ドローイング1	選択	演習	1	2・3・4		●		●	
	Afa23042	ドローイング2	選択	演習	1	2・3・4		●		●	
	Afa23051	工芸1	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa23052	工芸2	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa23053	工芸3	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa23054	工芸4	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa23061	図法製図1	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa23062	図法製図2	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa23071	造形研究1	選択	演習	1	2・3・4		●			
	Afa23072	造形研究2	選択	演習	1	2・3・4		●			
	Afa23073	造形研究3	選択	演習	1	2・3・4		●			
	Afa23074	造形研究4	選択	演習	1	2・3・4		●			
	Afa23081	映像メディア表現1	選択	演習	1	2・3・4		●			
	Afa23082	映像メディア表現2	選択	演習	1	2・3・4		●			
	Afa23083	映像メディア表現3	選択	演習	1	2・3・4		●			
	Afa23084	映像メディア表現4	選択	演習	1	2・3・4		●			
	Afa23091	写真表現1	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa23092	写真表現2	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Afa33101	表現演習1	選択	演習	1	3・4			●		
	Afa33102	表現演習2	選択	演習	1	3・4			●		
	Afa33103	表現演習3	選択	演習	1	3・4			●		
	Afa33104	表現演習4	選択	演習	1	3・4			●		
	Afa33105	表現演習5	選択	演習	1	3・4			●		
	Afa33106	表現演習6	選択	演習	1	3・4			●		
	Afa33107	表現演習7	選択	演習	1	3・4			●		
	Afa33108	表現演習8	選択	演習	1	3・4			●		

ポリシーとカリキュラム構造

● 教育研究目的

デザイン学部の教育研究目的は、デザインによって論理的思考と感性を同時にバランス良く表現できる人間の育成です。モノやコト、社会やコミュニケーションなどデザインの領域が広がっている現代社会において、時代に即した新しい価値を創造する力を養います。卒業時に身につけているべき要素を以下の5つとし、卒業要件を満たせばこれらを身につけたものと認め、学位を授与します。

● 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	デザインに関する基本的な知識と理解がある。	知識と理解 knowledge & understanding
DP2	デザインシンキングを用いて様々な課題を見つけ出し、それらをデザインによって解決することができる。	創造的思考と考察 creative thinking & observation
DP3	他者に了解可能なデザインを表現する技術を身につけている。	技術と表現 skills & expression
DP4	多様な他者との違いを認め、協働して課題解決に取り組むことができる。	他者理解と協働 mutual understanding & collaboration
DP5	より良い社会を創る意欲を持ち、学びを応用して社会の課題解決に自ら取り組むことができる。	社会への関心と行動 interests & action

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

デザイン学部は、学位授与の方針を達成するために、全学共通教育科目、学部専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

学部専門教育科目では、

1年次にはデザインの初歩的な理論や方法を学び、各分野の基礎知識を幅広く身につける科目を開講します。

2年次はデザインにおける各自の専門分野の重要な諸研究や事例に触れるとともに、最新の研究成果や専門的な知識・技法・考察能力を身につける科目を開講します。

3年次はデザインの学識を深化させると共に、批判的分析能力、総合的判断能力、実践的コミュニケーション力を養う科目を開講します。

最終年次には、探究を自律的に計画・遂行し、その成果を公共的・学術的に表現する技法と作法を養うために卒業制作・卒業論文を課します。

2. 教育方法

- (1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
- (3) 学修成果の可視化を通じて、学生の自律的な学修を支援します。

3. 学修成果の評価

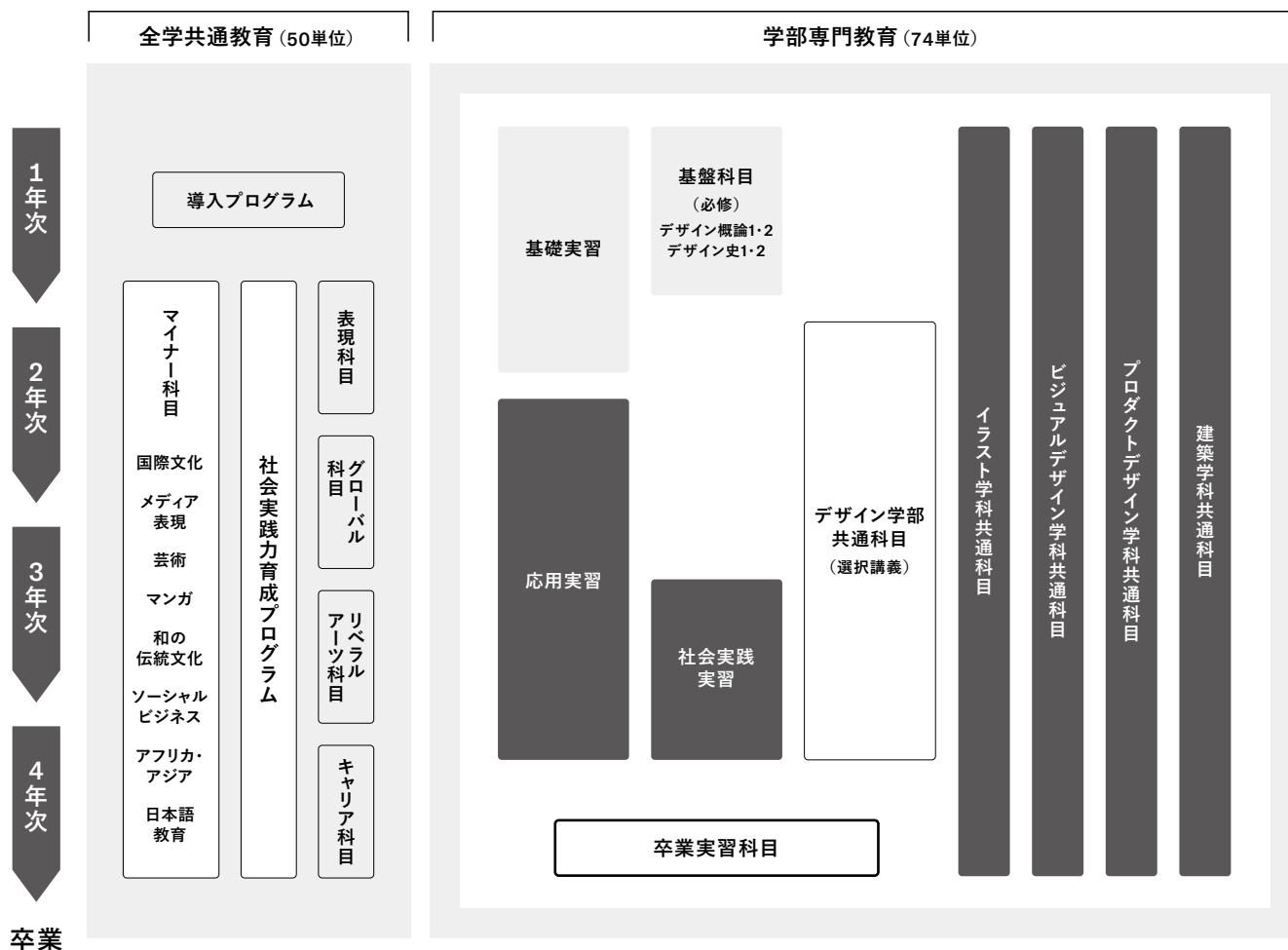
デザイン学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況により、総合的評価を行います。卒業論文・制作（必修）は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。



デザイン学部 共通専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
デザイン学部基礎科目	Dfd11001	デザイン概論1	必修	講義	1	1	●				
	Dfd11002	デザイン概論2	必修	講義	1	1	●				
	Dfd11011	デザイン史1	必修	講義	1	1	●				
	Dfd11012	デザイン史2	必修	講義	1	1	●				
	Dfd11021	デザインリテラシー1	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	Dfd11022	デザインリテラシー2	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	Dfd21031	デザイン特講1	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Dfd21032	デザイン特講2	選択	講義	2	2・3・4	●				
デザイン学部共通科目	Dfd22101	デザイン特講3	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22102	デザイン特講4	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22111	家具史1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22112	家具史2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22121	写真史1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22122	写真史2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22131	印刷論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22132	印刷論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22141	写真論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22142	写真論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22151	色彩学1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22152	色彩学2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22161	視覚文化論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22162	視覚文化論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22171	ユニバーサルデザイン論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22172	ユニバーサルデザイン論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22181	デザインマネージメント論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22182	デザインマネージメント論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22191	ランドスケープデザイン論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22192	ランドスケープデザイン論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22201	商品開発論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22202	商品開発論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22211	デザイン英語1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22212	デザイン英語2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22213	デザイン英語3	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22214	デザイン英語4	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22221	近代空間論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22222	近代空間論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22231	インテリアデザイン論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22232	インテリアデザイン論2	選択	講義	1	2・3・4	●				

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
デザイン学部共通科目	Dfd22241	デザイン法規概論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22242	デザイン法規概論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22251	人間生活工学1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22252	人間生活工学2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22261	ファッション史1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22262	ファッション史2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22271	アパレル素材論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22272	アパレル素材論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22281	ファッション論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22282	ファッション論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22291	日本服飾史1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22292	日本服飾史2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22301	サステナブル・ファッション1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22302	サステナブル・ファッション2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Dfd22311	まちづくりデザイン1	選択	講義	1	2・3・4	●				
Dfd22312	まちづくりデザイン2	選択	講義	1	2・3・4	●					

イラスト学科 イラストコース

デザイン学部 イラスト学科 イラストコース 卒業要件

科目区分	進級要件	必修科目				小計	選択必修科目	選択科目	卒業に要する単位(計)
		科目名称	配当年次	単位数	小計		小計		
全学共通教育科目	共通教育科目	導入プログラム	○ フレッシュヤーズ・キャンプ	1	1Q	1	24単位	16単位以上	50単位以上
			○ クリエイティブ・ワークショップ	1	2Q	1			
		表現科目	○ コミュニケーションスキル1	1	1Q	1			
			○ コミュニケーションスキル2	1	3Q	1			
			○ アカデミックスキル1	1	2Q	1			
			○ アカデミックスキル2	1	4Q	1			
			○ アカデミックスキル3	3	3Q	1			
			○ アカデミックスキル4	3	4Q	1			
			○ デッサン1	1	1Q	1			
			○ グラフィックデザインソフトスキル	1	2Q	1			
		グローバル科目	○ 日本文化概論	2	4Q	1			
			○ 英語1/日本語1	1	1Q	1			
			○ 英語2/日本語2	1	2Q	1			
			○ 英語3/日本語3	1	3Q	1			
			○ 英語4/日本語4	1	4Q	1			
リベラルアーツ科目	○ 自由論	1	3Q	1					
	○ シティズンシップとダイバーシティ	1	4Q	1					
	○ 創造的思考法	1	3Q	1					
	○ 情報と倫理	1	1Q	1					
	○ 人権と教育	2	3Q	1					
	○ グローバル化と社会	2	2Q	1					
	○ 情報科学概論	1	2Q	1					
	○ データサイエンス入門	2	1Q	1					
キャリア科目	○ キャリア1	1	1Q	1					
社会実践力育成プログラム									
マイナー科目						10単位以上(※)			
学部専門教育科目	専門実習科目	基礎実習科目	○ イラスト基礎実習1	1	1Q	2	38単位		74単位以上
			○ イラスト基礎実習2	1	2Q	2			
			○ イラスト基礎実習3	1	3Q	2			
			○ イラスト基礎実習4	1	4Q	2			
			○ イラスト基礎実習5	2	1Q	2			
			○ イラスト基礎実習6	2	2Q	2			
		応用実習科目	○ イラスト応用実習1	2	3Q	2			
			○ イラスト応用実習2	2	4Q	2			
			● イラスト応用実習3	3	1Q	2			
			● イラスト応用実習4	3	2Q	2			
			● イラスト社会実践実習1	3	1Q	1			
			● イラスト社会実践実習2	3	2Q	1			
			● イラスト社会実践実習3	3	3Q	1			
			● イラスト社会実践実習4	3	4Q	1			
			● イラスト応用実習5	3	3Q	2			
			● イラスト応用実習6	3	4Q	2			
		卒業実習科目	○ 卒業研究実習1	4	1Q	2			
			○ 卒業研究実習2	4	2Q	2			
○ 卒業研究実習3	4		3Q	2					
○ 卒業論文・卒業制作	4		4Q	2					
	○ 卒業展示	4	4Q	2					
デザイン学部 基盤科目	○ デザイン概論1	1	1Q	1	4単位		32単位以上		
	○ デザイン概論2	1	2Q	1					
	○ デザイン史1	1	3Q	1					
	○ デザイン史2	1	4Q	1					
デザイン学部 共通科目									
イラスト学科 共通科目									

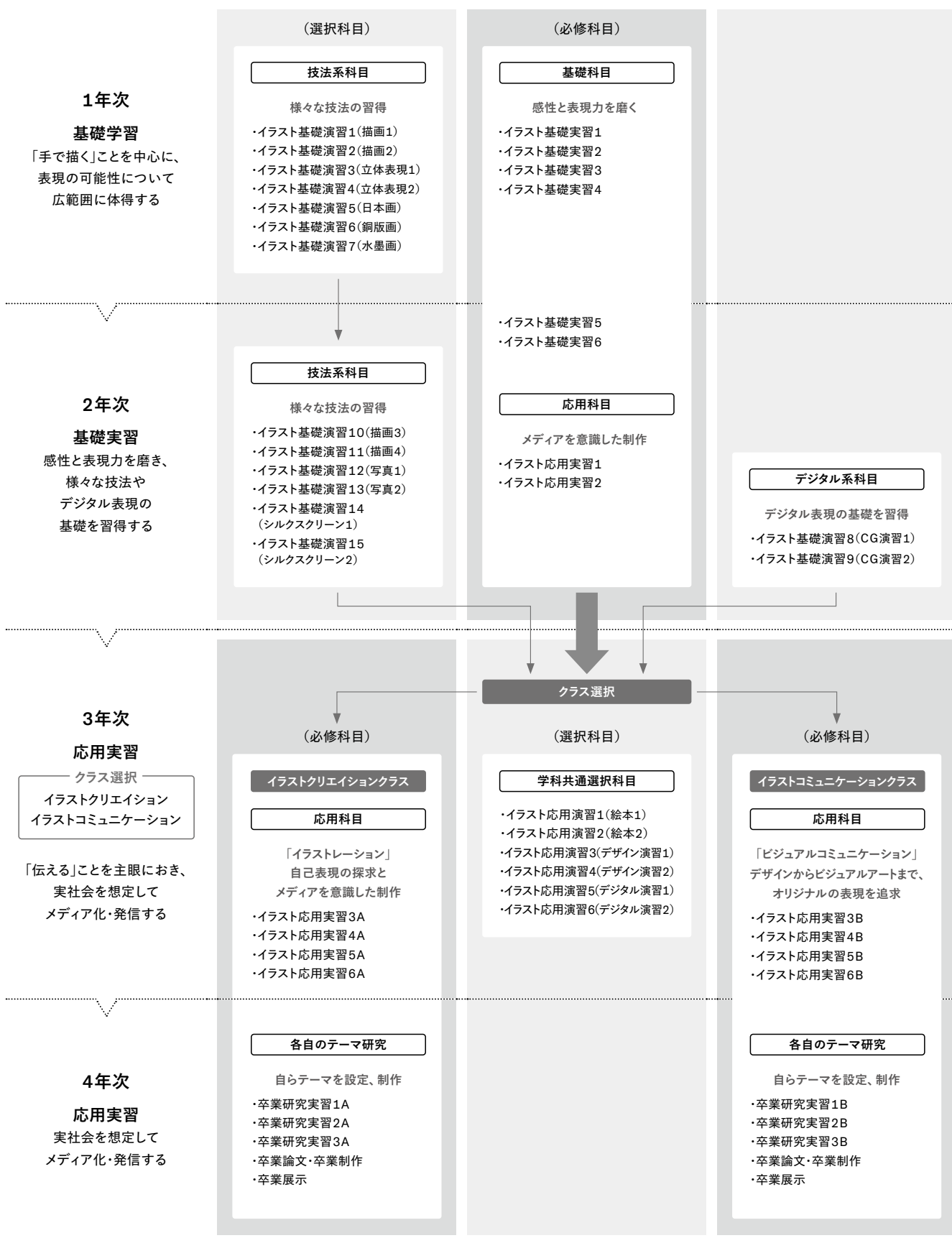
(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位分を選択科目の修得単位とみなす。

進級要件
 〈1年次から2年次〉 1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)。
 〈2年次から3年次/○印〉 ○全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。○学部専門の1・2年次必修科目の20単位をすべて修得していること。
 〈3年次から4年次/●印〉 ●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。

デザイン学部 イラスト学科 イラストコース カリキュラムマップ

教育目標

- 「描くこと」と「伝えること」をイラストの本質とし、様々なメディアにおけるビジュアルコミュニケーションも「描く」行為の延長と捉え、カリキュラムを配置する。
- 1、2年次では「描くこと」を中心に取り組み、多様な技法に触れ、豊かなイメージや感性を養う。
- 3、4年次では自己の表現を深めると同時に、実践的な科目を通してメディアの特性を理解し、「伝えること」を学ぶ。



カリキュラム
デザイン学部 イラスト学科 イラストコース (卒業要件 / カリキュラムマップ)

デザイン学部 イラスト学科

「表現力と知性を養い、イラストレーターや絵心を生かした職業を目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュヤーズ・キャンプ クリエイティブ・ワークショップ	必修 必修	1 1									2		
	表現科目	コミュニケーションスキル1	必修	1	現代美術概論	選択	2	アカデミックスキル3	必修	1	西洋美術史	選択	2	16	
		コミュニケーションスキル2	必修	1	芸術学	選択	2	アカデミックスキル4	必修	1					
		アカデミックスキル1	必修	1				デザイン論	選択	2					
		アカデミックスキル2	必修	1											
		デッサン1	必修	1											
		グラフィックデザインソフトスキル	必修	1											
	グローバル科目	英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1	Business English	選択	1				7	
		英語2/日本語2	必修	1				English discussion	選択	1					
		英語3/日本語3	必修	1											
		英語4/日本語4	必修	1											
	リベラルアーツ科目	自由論	必修	1	グローバル化と社会	必修	1							9	
		シティズンシップとダイバーシティ	必修	1	データサイエンス入門	必修	1								
		創造的思考法	必修	1	人権と教育	必修	1								
情報と倫理		必修	1	創造的思考法	必修	1									
情報科学概論		必修	1												
キャリア科目	キャリア1	必修	1	キャリア2	選択	1						2			
社会実践力育成プログラム				インターンシップ1	選択	2	インターンシップ2	選択	2				4		
マイナー科目	和の伝統文化論	選択	1	メディア表現概論1	選択	1	メディア表現特講1	選択	2	マーケティング論	選択	1	10		
				美術特講1	選択	2	イノベーション論	選択	2						
							国際文化概論1	選択	1						
学部専門教育科目	基礎実習科目・ 応用実習科目・ 卒業実習科目	イラスト基礎実習1	必修	2	イラスト基礎実習5	必修	2	イラスト応用実習3	必修	2	卒業研究実習1	必修	2	38	124
		イラスト基礎実習2	必修	2	イラスト基礎実習6	必修	2	イラスト応用実習4	必修	2	卒業研究実習2	必修	2		
		イラスト基礎実習3	必修	2	イラスト応用実習1	必修	2	イラスト社会実践実習1	必修	1	卒業研究実習3	必修	2		
		イラスト基礎実習4	必修	2	イラスト応用実習2	必修	2	イラスト社会実践実習2	必修	1	卒業論文・卒業制作	必修	2		
								イラスト社会実践実習3	必修	1	卒業展示	必修	2		
								イラスト社会実践実習4	必修	1					
	デザイン学部 基盤科目	デザイン概論1	必修	1										4	
		デザイン概論2	必修	1											
		デザイン史1	必修	1											
		デザイン史2	必修	1											
	専門 選択科目 (講義・演習)	イラスト基礎演習1	選択	1	イラスト基礎演習8	選択	1	イラスト応用演習1	選択	1	デザインマネジメント論1	選択	1	32	
		イラスト基礎演習2	選択	1	イラスト基礎演習9	選択	1	イラスト応用演習2	選択	1	商品開発論1	選択	1		
		イラスト基礎演習3	選択	1	イラスト基礎演習10	選択	1	イラスト応用演習4	選択	1	ユニバーサルデザイン論1	選択	1		
		イラスト基礎演習4	選択	1	イラスト基礎演習11	選択	1	イラスト応用演習5	選択	1					
		イラスト基礎演習5	選択	1	イラスト基礎演習12	選択	1	デザイン特講3	選択	1					
		イラスト基礎演習6	選択	1	イラスト基礎演習13	選択	1	デザイン特講4	選択	1					
		イラスト基礎演習7	選択	1	イラスト基礎演習14	選択	1	デザイン英語3	選択	1					
					イラスト基礎演習15	選択	1	デザイン英語4	選択	1					
					デザイン特講1	選択	2								
					デザイン特講2	選択	2								
					デザイン英語1	選択	1								
					デザイン英語2	選択	1								

デザイン学部 イラスト学科 **イラストコース 専門教育科目 科目一覧**

専門実習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	Dii10001	イラスト基礎実習1	必修	実習	2	1	●	●			
	Dii10002	イラスト基礎実習2	必修	実習	2	1	●	●			
	Dil10003	イラスト基礎実習3	必修	実習	2	1	●	●			
	Dil10004	イラスト基礎実習4	必修	実習	2	1	●	●			
	Dii20005	イラスト基礎実習5	必修	実習	2	2	●	●	●		
	Dii20006	イラスト基礎実習6	必修	実習	2	2	●	●	●		
応用実習科目	Dil20011	イラスト応用実習1	必修	実習	2	2	●	●	●		
	Dii20012	イラスト応用実習2	必修	実習	2	2	●	●	●		
	Dii30013	イラスト応用実習3	必修	実習	2	3	●	●	●		●
	Dil30014	イラスト応用実習4	必修	実習	2	3	●	●	●	●	●
	Dil30021	イラスト社会実践実習1	必修	実習	1	3	●			●	●
	Dii30022	イラスト社会実践実習2	必修	実習	1	3	●			●	●
	Dii30023	イラスト社会実践実習3	必修	実習	1	3	●			●	●
	Dil30024	イラスト社会実践実習4	必修	実習	1	3	●			●	●
	Dil30015	イラスト応用実習5	必修	実習	2	3	●	●	●		●
	Dii30016	イラスト応用実習6	必修	実習	2	3	●	●	●	●	●
卒業実習科目	Dii40031	卒業研究実習1	必修	実習	2	4	●	●	●		●
	Dil40032	卒業研究実習2	必修	実習	2	4	●	●	●		●
	Dil40033	卒業研究実習3	必修	実習	2	4	●	●	●		●
	Dil40041	卒業論文・卒業制作	必修	成果評定	2	4	●	●	●	●	●
	Dil40051	卒業展示	必修	実習	2	4	●	●	●	●	●

デザイン学部 イラスト学科 イラストコース 専門教育科目 科目一覧

専門講義・演習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
イラスト学科 共通科目	Dil13001	イラスト基礎演習1	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Dil13002	イラスト基礎演習2	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Dil13003	イラスト基礎演習3	選択	演習	1	1・2・3・4		●	●		
	Dil13004	イラスト基礎演習4	選択	演習	1	1・2・3・4		●	●		
	Dil13005	イラスト基礎演習5	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Dil13006	イラスト基礎演習6	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Dil13007	イラスト基礎演習7	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Dil23008	イラスト基礎演習8	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Dil23009	イラスト基礎演習9	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Dil23010	イラスト基礎演習10	選択	演習	1	2・3・4		●	●		
	Dil23011	イラスト基礎演習11	選択	演習	1	2・3・4		●	●		
	Dil23012	イラスト基礎演習12	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Dil23013	イラスト基礎演習13	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Dil23014	イラスト基礎演習14	選択	演習	1	2・3・4		●	●		
	Dil23015	イラスト基礎演習15	選択	演習	1	2・3・4		●	●		
	Dil33021	イラスト応用演習1	選択	演習	1	3・4	●	●	●		
	Dil33022	イラスト応用演習2	選択	演習	1	3・4	●	●	●		
	Dil33023	イラスト応用演習3	選択	演習	1	3・4	●	●	●		●
	Dil33024	イラスト応用演習4	選択	演習	1	3・4	●	●	●		●
	Dil33025	イラスト応用演習5	選択	演習	1	3・4	●		●		
	Dil33026	イラスト応用演習6	選択	演習	1	3・4	●		●		
	Dil33031	アートマネジメント論1	選択	講義	1	3・4	●				
	Dil33032	アートマネジメント論2	選択	講義	1	3・4	●				
Dfd23011	基礎立体・彫塑	選択	演習	2	2・3・4			●			
Dfd23021	工芸	選択	演習	2	2・3・4			●			

ビジュアルデザイン学科

グラフィックデザインコース/
デジタルクリエイションコース

デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 卒業要件

科目区分	進級要件	必修科目				小計	選択必修科目 小計	選択科目 小計	卒業に要する 単位(計)
		科目名称	配当年次	単位数					
全学共通教育科目	共通教育科目	○ 導入プログラム	○ フレッシュャーズ・キャンプ	1	1Q	1	24単位	16単位以上	50単位以上
			○ クリエイティブ・ワークショップ	1	2Q	1			
		○ 表現科目	○ コミュニケーションスキル1	1	1Q	1			
			○ コミュニケーションスキル2	1	3Q	1			
			○ アカデミックスキル1	1	2Q	1			
			○ アカデミックスキル2	1	4Q	1			
			○ アカデミックスキル3	3	3Q	1			
			○ アカデミックスキル4	3	4Q	1			
			○ デッサン1	1	1Q	1			
		○ グラフィックデザインソフトスキル	1	2Q	1				
		○ グローバル科目	○ 日本文化概論	2	4Q	1			
			○ 英語1/日本語1	1	1Q	1			
			○ 英語2/日本語2	1	2Q	1			
			○ 英語3/日本語3	1	3Q	1			
○ 英語4/日本語4	1		4Q	1					
○ リベラルアーツ科目	○ 自由論	1	3Q	1					
	○ シティズンシップとダイバーシティ	1	4Q	1					
	○ 創造的思考法	1	3Q	1					
	○ 情報と倫理	1	1Q	1					
	○ 人権と教育	2	3Q	1					
	○ グローバル化と社会	2	2Q	1					
	○ 情報科学概論	1	2Q	1					
○ データサイエンス入門	2	1Q	1						
○ キャリア科目	○ キャリア1	1	1Q	1					
○ 社会実践力育成プログラム									
○ マイナー科目						10単位以上(※)			
学部専門教育科目	専門実習科目	○ 基礎実習科目	○ ビジュアルデザイン基礎実習1	1	1Q	2	38単位	74単位以上	卒業に要する単位 124単位以上
			○ ビジュアルデザイン基礎実習2	1	2Q	2			
			○ ビジュアルデザイン基礎実習3	1	3Q	2			
			○ ビジュアルデザイン基礎実習4	1	4Q	2			
			○ ビジュアルデザイン基礎実習5	2	1Q	2			
			○ ビジュアルデザイン基礎実習6	2	2Q	2			
		○ 応用実習科目	○ ビジュアルデザイン応用実習1	2	3Q	2			
			○ ビジュアルデザイン応用実習2	2	4Q	2			
			● ビジュアルデザイン応用実習3	3	1Q	2			
			● ビジュアルデザイン応用実習4	3	2Q	2			
			● ビジュアルデザイン社会実践実習1	3	1Q	1			
			● ビジュアルデザイン社会実践実習2	3	2Q	1			
			● ビジュアルデザイン社会実践実習3	3	3Q	1			
			● ビジュアルデザイン社会実践実習4	3	4Q	1			
			● ビジュアルデザイン応用実習5	3	3Q	2			
			● ビジュアルデザイン応用実習6	3	4Q	2			
		○ 卒業実習科目	○ 卒業研究実習1	4	1Q	2			
			○ 卒業研究実習2	4	2Q	2			
			○ 卒業研究実習3	4	3Q	2			
			○ 卒業論文・卒業制作	4	4Q	2			
	○ 卒業展示	4	4Q	2					
○ デザイン学部 基盤科目	○ デザイン概論1	1	1Q	1	4単位	32単位以上			
	○ デザイン概論2	1	2Q	1					
	○ デザイン史1	1	3Q	1					
	○ デザイン史2	1	4Q	1					
○ デザイン学部 共通科目									
○ ビジュアルデザイン学科 共通科目									

(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位分を選択科目の修得単位とみなす。

進級要件

〈1年次から2年次〉 1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)。
 〈2年次から3年次/○印〉 ○全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。○学部専門の1・2年次必修科目の20単位をすべて修得していること。
 〈3年次から4年次/●印〉 ●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。

カリキュラム

デザイン学部 イラスト学科 イラストコース(専門教育科目一覽)/ビジュアルデザイン学科(卒業要件)

	必修専門授業	選択スキル授業
1年次 基礎学習	ビジュアルデザイン学科リレー授業 ドローイング&素材表現 キャラクターデザイン アイデア&プレゼンテーション コミュニケーションデザイン&ネットリテラシー	ビジュアルデザイン学科共通 デザインスキル授業 Adobeソフトスキル 動画スキル プログラム プリント
	コース毎の基礎授業 グラフィックデザイン基礎 デジタルクリエイション基礎	
2年次 コースの特性を活かした 基礎学習	グラフィックデザイン 画像 グラフィックアート/パターンデザイン フォトグラフィック 文字 レタリング/文字組み/タイポグラフィ コミュニケーション 広告/ポスター/エディトリアル	ビジュアルデザイン学科共通 デザインスキル授業 写真 書字 DTP Web プログラミング
	デジタルクリエイション ブランニング アイデア/ブランニング/プレゼンテーション ムービー モーショングラフィクス/3DCG/アニメーション インタラクティブ ゲーム&アプリ/Web/インスタレーション	
3年次 応用学習 社会に発信力のある デザイン力を身につける	プロジェクト授業(前期) インタラクティブデザイン イラスト/ムービー&グラフィックス 文字とデザイン/広告/模様	ビジュアルデザイン学科共通 デザインスキル授業 写真 DTP Web 3DCG ことばデザイン プリンティング グラフィックデザイン コピー&デザイン キャラクターデザイン
	プロジェクト授業(後期) ゲームアプリ/コンセプト&メイキング ビジュアルプロダクト フィールドデザイン/ソーシャルブック ビジュアルデザイン研究	
4年次 応用学習 4年間の経験と特技を 活かした学習	テーマ研究/卒業制作	

デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 履修モデル

デザイン学部 ビジュアルデザイン学科
 「技能だけでなく知識にも秀でたグラフィックデザイナーを目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数				
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計			
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ クリエイティブ・ワークショップ	必修 必修	1 1									2				
	表現科目	コミュニケーションスキル1 コミュニケーションスキル2	必修 必修	1 1				アカデミックスキル3 アカデミックスキル4	必修 必修	1 1				8			
		アカデミックスキル1 アカデミックスキル2	必修 必修	1 1													
		デッサン1 グラフィックデザインソフトスキル	必修 必修	1 1													
		グローバル科目	英語1/日本語1 英語2/日本語2 英語3/日本語3 英語4/日本語4	必修 必修 必修 必修	1 1 1 1	日本文化概論 Business English English discussion	必修 選択 選択	1 1 1						7			
		リベラル アーツ科目	自由論 シティズンシップとダイバーシティ 創造的思考法 情報と倫理 情報科学概論	必修 必修 必修 必修 必修	1 1 1 1 1	グローバル化と社会 データサイエンス入門 人権と教育 プログラミング3 プログラミング4 情報テクノロジー1 情報テクノロジー2	必修 必修 必修 選択 選択 選択 選択	1 1 1 1 1 2 2	行動心理学	選択	2				16		
	キャリア 科目	キャリア1	必修	1			クリエイティブの現場	選択	2					3			
	社会実践力 育成 プログラム				産学公連携PBLプログラム1	選択	2	大学連携プログラム	選択	2				4			
	マイナー科目				美術概論1 メディア表現概論1	選択 選択	1 1	ソーシャルビジネス演習1 ソーシャルビジネス演習2	選択 選択	2 2	ビジネスモデル論 イノベーション論	選択 選択	2 2	10	124		
	学部専門教育科目	基礎実習 科目・ 応用実習 科目・ 卒業実習 科目	ビジュアルデザイン基礎実習1 ビジュアルデザイン基礎実習2 ビジュアルデザイン基礎実習3 ビジュアルデザイン基礎実習4	必修 必修 必修 必修	2 2 2 2	ビジュアルデザイン基礎実習5 ビジュアルデザイン基礎実習6 ビジュアルデザイン応用実習1 ビジュアルデザイン応用実習2	必修 必修 必修 必修	2 2 2 2	ビジュアルデザイン応用実習3 ビジュアルデザイン応用実習4 ビジュアルデザイン社会実践実習1 ビジュアルデザイン社会実践実習2 ビジュアルデザイン社会実践実習3 ビジュアルデザイン社会実践実習4 ビジュアルデザイン応用実習5 ビジュアルデザイン応用実習6	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	2 2 1 1 1 1 2 2	卒業研究実習1 卒業研究実習2 卒業研究実習3 卒業論文・卒業制作 卒業展示	必修 必修 必修 必修 必修	2 2 2 2 2	38		
			デザイン学部 基盤科目	デザイン概論1 デザイン概論2 デザイン史1 デザイン史2	必修 必修 必修 必修	1 1 1 1									4		
			専門 選択科目 (講義・演習)	デザインスキル選択実習1 デザインスキル選択実習2 デザインスキル選択実習3 デザインスキル選択実習4 デザインスキル選択実習5 デザインスキル選択実習6 デザインスキル選択実習7	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	1 1 1 1 1 1 1	デザインスキル選択実習8 デザインスキル選択実習9 デザインスキル選択実習10 デザインスキル選択実習11 デザインスキル選択実習12 デザインスキル選択実習13 デザインスキル選択実習14 デザインスキル選択実習15	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	1 1 1 1 1 1 1 1	デザインスキル応用実習1 デザインスキル応用実習2 デザインスキル応用実習3 デザインスキル応用実習4 デザイン特講3 デザイン特講4 写真史1 写真史2	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	1 1 1 1 1 1 1 1	デザインスキル応用実習5 デザインスキル応用実習6 デザインスキル応用実習7 デザインスキル応用実習8 色彩学1	選択 選択 選択 選択 選択	1 1 1 1 1	32	
							デザインリテラシー1 デザインリテラシー2	選択 選択	2 2								

カリキュラム
デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 (カリキュラムマップ/履修モデル)

デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 専門教育科目 科目一覧

専門実習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	Dvd10001	ビジュアルデザイン基礎実習1	必修	実習	2	1	●		●		
	Dvd10002	ビジュアルデザイン基礎実習2	必修	実習	2	1	●		●		
	Dvd10003	ビジュアルデザイン基礎実習3	必修	実習	2	1	●		●		
	Dvd10004	ビジュアルデザイン基礎実習4	必修	実習	2	1	●		●		
	Dvd20005	ビジュアルデザイン基礎実習5	必修	実習	2	2	●		●		
	Dvd20006	ビジュアルデザイン基礎実習6	必修	実習	2	2	●		●		
応用実習科目	Dvd20011	ビジュアルデザイン応用実習1	必修	実習	2	2		●	●	●	
	Dvd20012	ビジュアルデザイン応用実習2	必修	実習	2	2		●	●	●	
	Dvd30013	ビジュアルデザイン応用実習3	必修	実習	2	3		●	●	●	
	Dvd30014	ビジュアルデザイン応用実習4	必修	実習	2	3		●	●	●	
	Dvd30021	ビジュアルデザイン社会実践実習1	必修	実習	1	3		●	●	●	●
	Dvd30022	ビジュアルデザイン社会実践実習2	必修	実習	1	3		●	●	●	●
	Dvd30023	ビジュアルデザイン社会実践実習3	必修	実習	1	3		●	●	●	●
	Dvd30024	ビジュアルデザイン社会実践実習4	必修	実習	1	3		●	●	●	●
	Dvd30015	ビジュアルデザイン応用実習5	必修	実習	2	3		●	●		
	Dvd30016	ビジュアルデザイン応用実習6	必修	実習	2	3		●	●		
卒業実習科目	Dvd40031	卒業研究実習1	必修	実習	2	4		●	●		●
	Dvd40032	卒業研究実習2	必修	実習	2	4		●	●		●
	Dvd40033	卒業研究実習3	必修	実習	2	4		●	●		●
	Dvd40041	卒業論文・卒業制作	必修	成果 評定	2	4	●	●	●		●
	Dvd40051	卒業展示	必修	実習	2	4	●	●	●	●	●

専門講義・演習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
ビジュアルデザイン学科共通科目	Dvd13001	デザインスキル選択実習1	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dvd13002	デザインスキル選択実習2	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dvd13003	デザインスキル選択実習3	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dvd13004	デザインスキル選択実習4	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dvd13005	デザインスキル選択実習5	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dvd13006	デザインスキル選択実習6	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dvd13007	デザインスキル選択実習7	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dvd23008	デザインスキル選択実習8	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dvd23009	デザインスキル選択実習9	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	Dvd23010	デザインスキル選択実習10	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	Dvd23011	デザインスキル選択実習11	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	Dvd23012	デザインスキル選択実習12	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	Dvd23013	デザインスキル選択実習13	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	Dvd23014	デザインスキル選択実習14	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	Dvd23015	デザインスキル選択実習15	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	Dvd33021	デザインスキル応用実習1	選択	実習	1	3・4		●	●	●	
	Dvd33022	デザインスキル応用実習2	選択	実習	1	3・4		●	●	●	
	Dvd33023	デザインスキル応用実習3	選択	実習	1	3・4		●	●	●	
	Dvd33024	デザインスキル応用実習4	選択	実習	1	3・4		●	●	●	
	Dvd33025	デザインスキル応用実習5	選択	実習	1	3・4		●	●	●	
	Dvd33026	デザインスキル応用実習6	選択	実習	1	3・4		●	●	●	
	Dvd33027	デザインスキル応用実習7	選択	実習	1	3・4		●	●	●	
	Dvd33028	デザインスキル応用実習8	選択	実習	1	3・4		●	●	●	
Dfd23011	基礎立体・彫塑	選択	演習	2	2・3・4			●			
Dfd23021	工芸	選択	演習	2	2・3・4			●			

デザイン学部 プロダクトデザイン学科 卒業要件

科目区分	進級要件	必修科目				選択必修科目	選択科目	卒業に要する単位(計)	
		科目名称	配当年次	単位数	小計	小計	小計		
全学共通教育科目	共通教育科目	導入プログラム	○ フレッシュヤーズ・キャンプ	1	1Q	1	24単位	16単位以上	50単位以上
		表現科目	○ クリエイティブ・ワークショップ	1	2Q	1			
			○ コミュニケーションスキル1	1	1Q	1			
			○ コミュニケーションスキル2	1	3Q	1			
			○ アカデミックスキル1	1	2Q	1			
			○ アカデミックスキル2	1	4Q	1			
			○ アカデミックスキル3	3	3Q	1			
			○ アカデミックスキル4	3	4Q	1			
		グローバル科目	○ デッサン1	1	1Q	1			
			○ グラフィックデザインソフトスキル	1	2Q	1			
			○ 日本文化概論	2	4Q	1			
			○ 英語1/日本語1	1	1Q	1			
		リベラルアーツ科目	○ 英語2/日本語2	1	2Q	1			
			○ 英語3/日本語3	1	3Q	1			
○ 英語4/日本語4	1		4Q	1					
○ 自由論	1		3Q	1					
○ シティズンシップとダイバーシティ	1		4Q	1					
○ 創造的思考法	1		3Q	1					
○ 情報と倫理	1		1Q	1					
○ 人権と教育	2		3Q	1					
○ グローバル化と社会	2		2Q	1					
○ 情報科学概論	1		2Q	1					
○ データサイエンス入門	2	1Q	1						
キャリア科目	○ キャリア1	1	1Q	1					
社会実践力育成プログラム									
マイナー科目					10単位以上(※)				
学部専門教育科目	専門実習科目	基礎実習科目	○ プロダクトデザイン基礎実習1	1	1Q	2	38単位	74単位以上	124単位以上
			○ プロダクトデザイン基礎実習2	1	2Q	2			
			○ プロダクトデザイン基礎実習3	1	3Q	2			
			○ プロダクトデザイン基礎実習4	1	4Q	2			
			○ プロダクトデザイン基礎実習5	2	1Q	2			
			○ プロダクトデザイン基礎実習6	2	2Q	2			
		応用実習科目	○ プロダクトデザイン応用実習1	2	3Q	2			
			○ プロダクトデザイン応用実習2	2	4Q	2			
			● プロダクトデザイン応用実習3	3	1Q	2			
			● プロダクトデザイン応用実習4	3	2Q	2			
			● プロダクトデザイン社会実践実習1	3	1Q	1			
			● プロダクトデザイン社会実践実習2	3	2Q	1			
			● プロダクトデザイン社会実践実習3	3	3Q	1			
			● プロダクトデザイン社会実践実習4	3	4Q	1			
			● プロダクトデザイン応用実習5	3	3Q	2			
			● プロダクトデザイン応用実習6	3	4Q	2			
		卒業実習科目	○ 卒業研究実習1	4	1Q	2			
			○ 卒業研究実習2	4	2Q	2			
			○ 卒業研究実習3	4	3Q	2			
○ 卒業論文・卒業制作	4		4Q	2					
デザイン学部 基礎科目	○ 卒業展示	4	4Q	2					
	○ デザイン概論1	1	1Q	1	4単位	32単位以上			
	○ デザイン概論2	1	2Q	1					
	○ デザイン史1	1	3Q	1					
○ デザイン史2	1	4Q	1						
デザイン学部 共通科目									
プロダクトデザイン学科 共通科目									

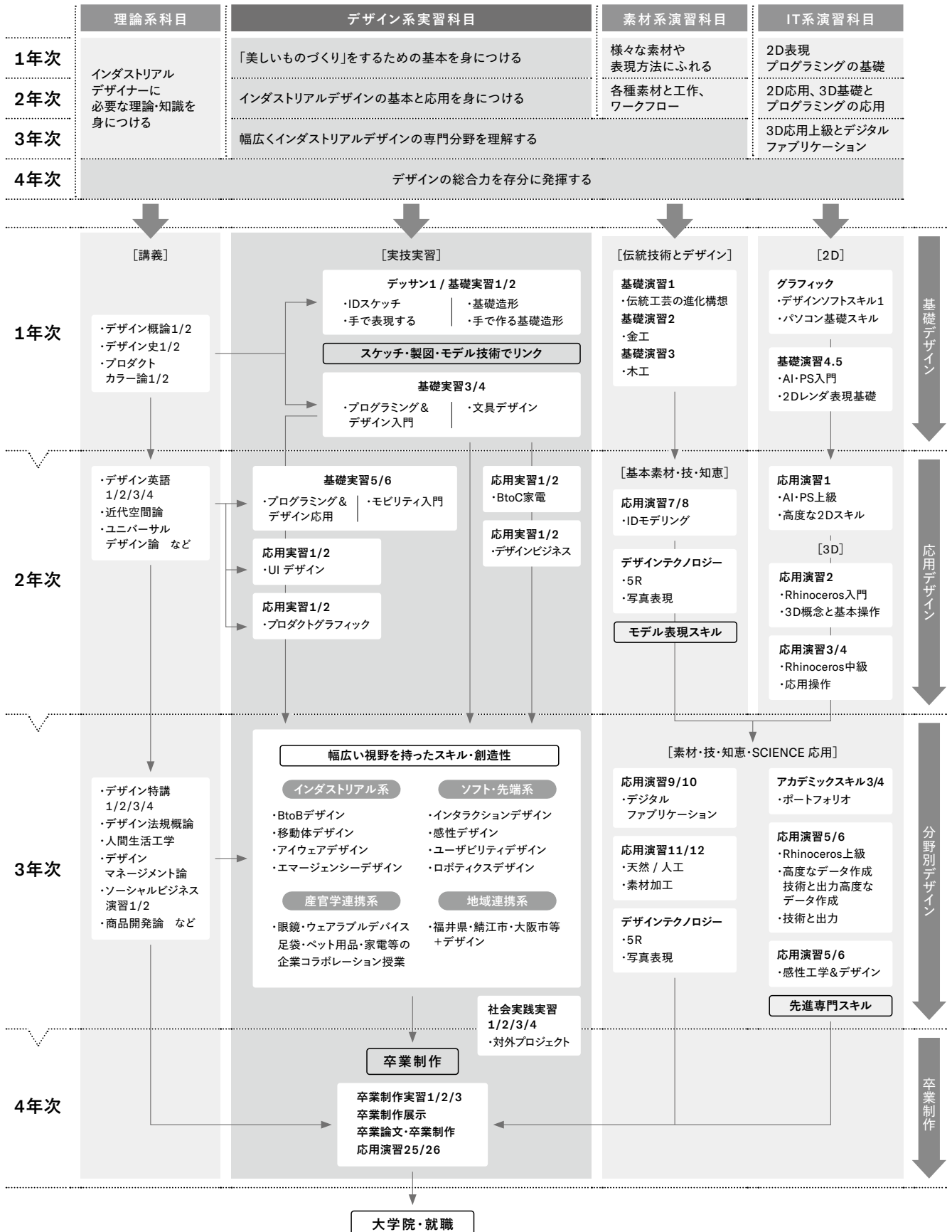
(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位分を選択科目の修得単位とみなす。

進級要件
 (1年次から2年次) 1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)。
 (2年次から3年次/○印) ○全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。○学部専門の1・2年次必修科目の20単位をすべて修得していること。
 (3年次から4年次/●印) ●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。

デザイン学部 プロダクトデザイン学科 プロダクトコミュニケーションコース カリキュラムマップ

教育目標

- 日々変化する国際環境や産業構造に適應し、時代に即応したインダストリアルデザインを探究する。
- ビジネスとして時代が必要とするサービスを創出し、人々の生活や社会に貢献するインダストリアルデザイナーを育成する。
- 地球環境の変化に機敏に反応し、サステナブルな社会と豊かな人間性を育むものづくりを探究する。
- 京都に立地する大学として、京都が有する「伝承」「先進」「環境」のDNAをデザインと言う行為の中に息づかせ、世界に発信する。

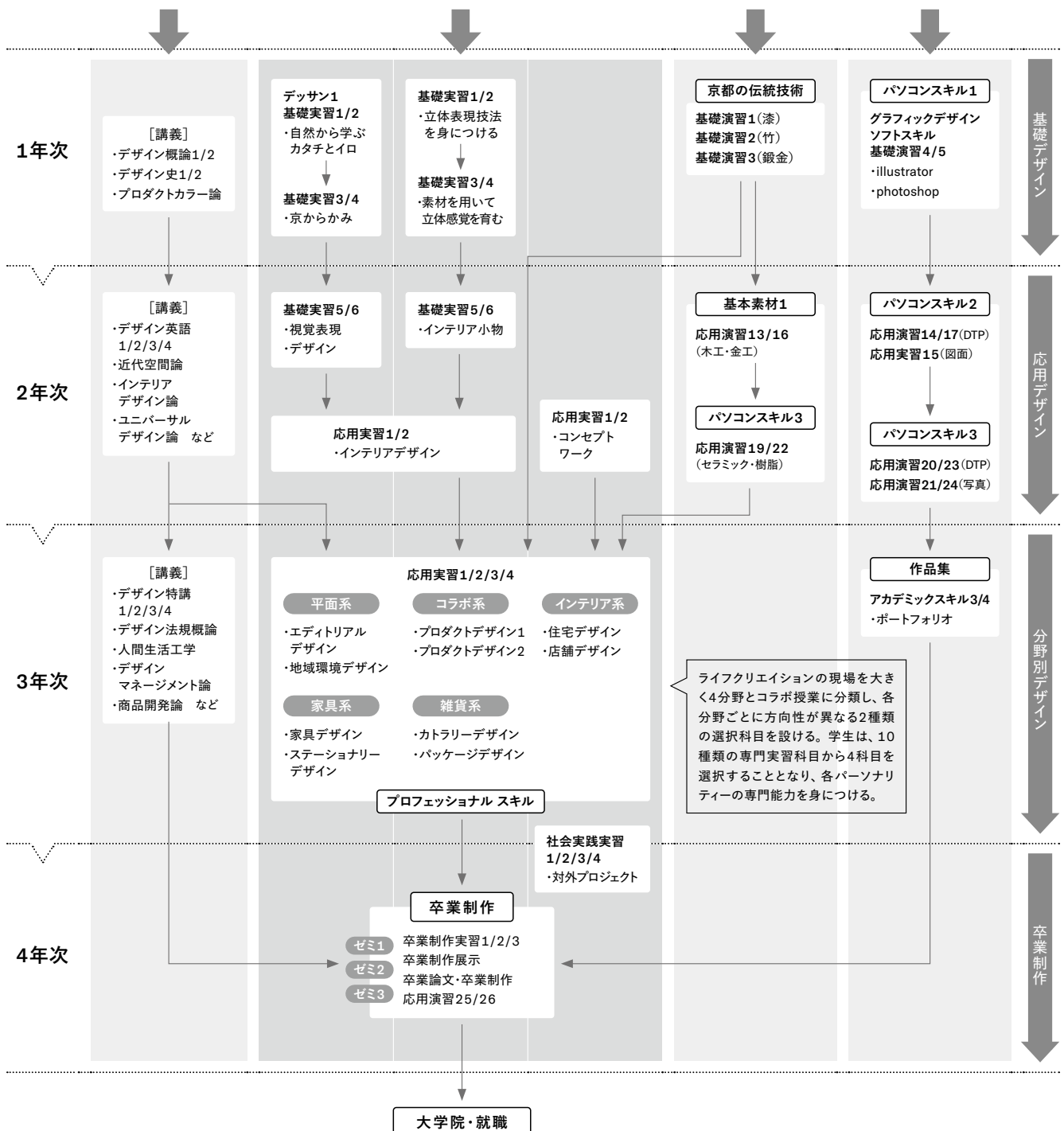


デザイン学部 プロダクトデザイン学科 ライフクリエイションコース カリキュラムマップ

教育目標

- 「デザインする」ことの楽しみを知る。
- 私たちのより良い生活を創造する「住まいとくらし(インテリアデザインと生活クリエイト)」のデザインを学ぶ。
- 平面と立体(2次元と3次元)を繋ぐデザインを学ぶことが、このコースの特長。
- 京都に立地する大学として、京都が有する「伝統」「先進」「環境」のDNAをデザインという行為の中に息づかせ、世界に発信する。

	理論系科目	デザイン系実習科目 平面系実習科目 立体系実習科目 企画系実習科目	素材系演習科目	IT系演習科目
	1年次	ライフクリエイションに必要な理論・知識を身につける	「デザインする心」を身につける	京都の伝統工芸
2年次		ライフクリエイションの基本と応用を身につける	各種素材の造形	パソコンと写真
3年次		幅広いライフクリエイションの専門分野を理解する		ポートフォリオ
4年次		デザインの総合力を発揮する		

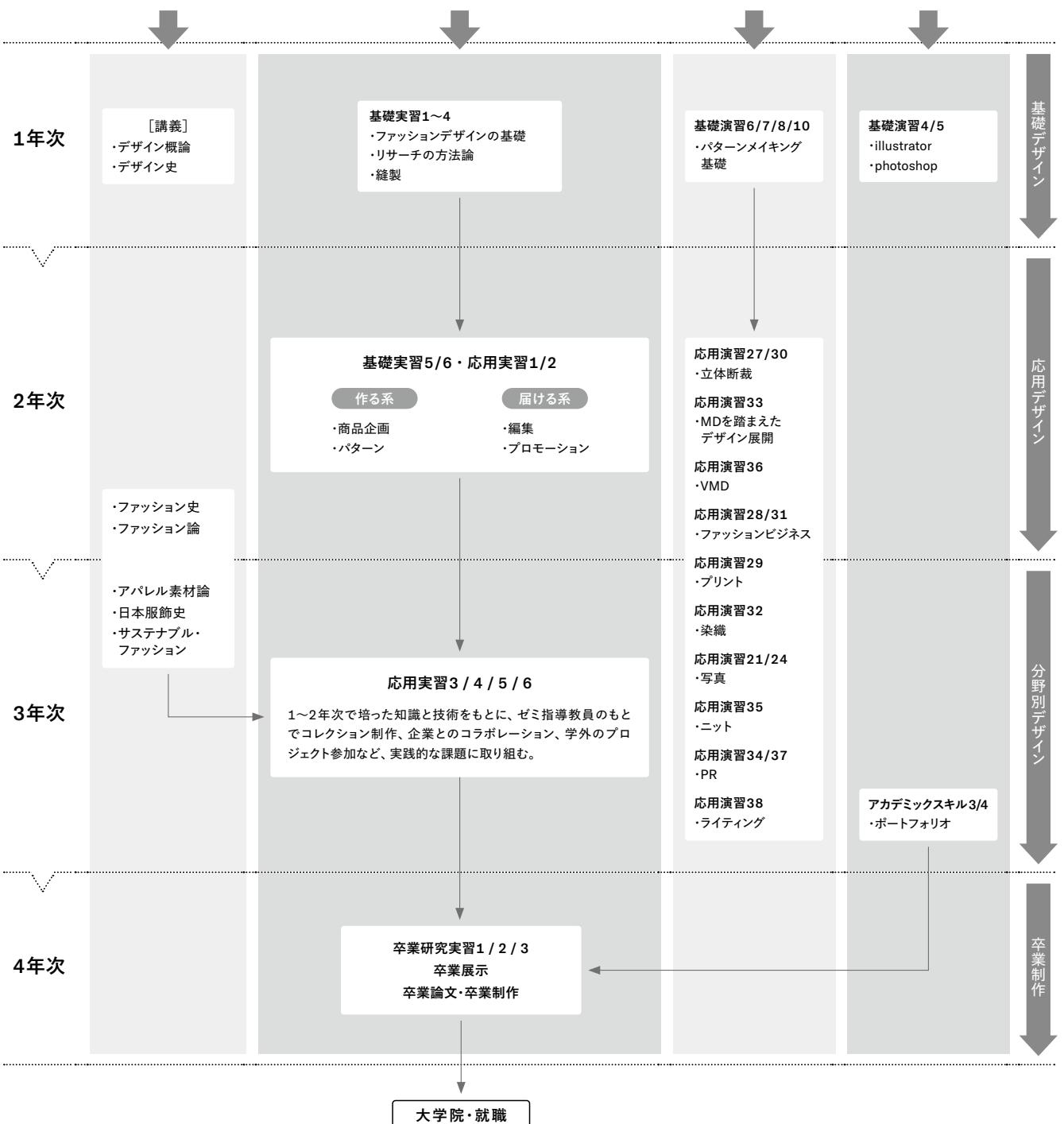


デザイン学部 プロダクトデザイン学科 ファッションコース カリキュラムマップ

教育目標

- ビジネスとして時代が必要とする商品を創り出し、かつ社会に貢献するファッションデザイナーを育てる。
- 日々変化する国際環境や産業構造をふまえ、時代に合ったファッションデザインを探究する。
- 地球環境の変化に敏感に反応し、サステナブルな社会と豊かな人間性を育むものづくりを研究する。
- 京都に立地する大学として、京都が有する「伝承」「先進」「環境」のDNAをデザインという行為の中に息づかせ、社会に発信する。

	理論系科目	デザイン系実習科目	素材系演習科目	IT系演習科目
1年次		「デザインとはなにか」を理解する	縫製やパターンの基礎知識を身につける	グラフィックソフトの基礎
2年次	ファッションデザイナーに必要な理論・知識を身につける	ファッションデザインの基本と応用を身につける	さまざまな素材や表現方法に触れる	写真撮影の基礎や加工
3年次		幅広いファッションの専門分野を理解する		
4年次		デザインの総合力を発揮する		



デザイン学部 プロダクトデザイン学科
 「社会性の備わったプロダクトデザイナーを目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数			
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計		
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュヤーズ・キャンプ クリエイティブ・ワークショップ	必修 必修	1 1									2			
	表現科目	コミュニケーションスキル1	必修	1	表現と社会	選択	2	アカデミックスキル3	必修	1	アカデミックスキル4	必修	1	10		
		コミュニケーションスキル2	必修	1												
		アカデミックスキル1	必修	1												
		アカデミックスキル2	必修	1												
		デッサン1	必修	1												
		グラフィックデザインソフトスキル	必修	1												
	グローバル科目	英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1	言語学	選択	2				8		
		英語2/日本語2	必修	1	スペイン語	選択	1									
		英語3/日本語3	必修	1												
		英語4/日本語4	必修	1												
	リベラル アーツ科目	自由論	必修	1	グローバル化と社会	必修	1				哲学入門	選択	2	12		
		シティズンシップとダイバーシティ	必修	1	データサイエンス入門	必修	1									
創造的思考法		必修	1	人権と教育	必修	1										
情報と倫理		必修	1													
情報科学概論		必修	1													
プログラミング1 プログラミング2		選択 選択	1 1													
キャリア 科目	キャリア1	必修	1	キャリア2	選択	1	キャリア3	選択	1				3			
社会実践力 育成 プログラム				インターンシップ1	選択	2				インターンシップ2	選択	2	4			
マイナー科目	和の伝統文化論	選択	1	京都の伝統工芸講座1	選択	2	ソーシャルビジネス1	選択	2				11			
				京都の伝統工芸講座2	選択	2	ソーシャルビジネス2	選択	2							
							京都の伝統産業実習	選択	2							
学部専門教育科目	基礎実習 科目・ 応用実習 科目・ 卒業実習 科目	プロダクトデザイン基礎実習1	必修	2	プロダクトデザイン基礎実習5	必修	2	プロダクトデザイン応用実習3	必修	2	卒業研究実習1	必修	2	38	124	
		プロダクトデザイン基礎実習2	必修	2	プロダクトデザイン基礎実習6	必修	2	プロダクトデザイン応用実習4	必修	2	卒業研究実習2	必修	2			
		プロダクトデザイン基礎実習3	必修	2	プロダクトデザイン応用実習1	必修	2	プロダクトデザイン社会実践実習1	必修	1	卒業研究実習3	必修	2			
		プロダクトデザイン基礎実習4	必修	2	プロダクトデザイン応用実習2	必修	2	プロダクトデザイン社会実践実習2	必修	1	卒業論文・卒業制作	必修	2			
								プロダクトデザイン社会実践実習3	必修	1	卒業展示	必修	2			
								プロダクトデザイン社会実践実習4	必修	1						
	デザイン学部 基盤科目	デザイン概論1	必修	1										4		
		デザイン概論2	必修	1												
		デザイン史1	必修	1												
		デザイン史2	必修	1												
	専門 選択科目 (講義・演習)	PD基礎演習1	選択	1	PD応用演習7	選択	1	PD応用演習5	選択	1	PD応用演習25	選択	1	32		
		PD基礎演習2	選択	1	PD応用演習8	選択	1	PD応用演習6	選択	1	PD応用演習26	選択	1			
		PD基礎演習3	選択	1	PD応用演習1	選択	1	PD応用演習9	選択	1						
		PD基礎演習4	選択	1	PD応用演習2	選択	1	PD応用演習10	選択	1						
		PD基礎演習5	選択	1	PD応用演習3	選択	1	PD応用演習11	選択	1						
		プロダクトカラー論1	選択	1	PD応用演習4	選択	1	PD応用演習12	選択	1						
		プロダクトカラー論2	選択	1	ファッション史	選択	1	デザインマネージメント論1	選択	1						
					ユニバーサルデザイン論	選択	1	商品開発論1	選択	1						
					インテリアデザイン論	選択	1	ファッション論1	選択	1						
					デザイン英語1	選択	1	アパレル素材論1	選択	1						
				デザイン英語2	選択	1										
				デザイン英語3	選択	1										
				デザイン英語4	選択	1										

デザイン学部 プロダクトデザイン学科 専門教育科目 科目一覧

専門実習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	Dpd10001	プロダクトデザイン基礎実習1	必修	実習	2	1	●		●		
	Dpd10002	プロダクトデザイン基礎実習2	必修	実習	2	1	●		●		
	Dpd10003	プロダクトデザイン基礎実習3	必修	実習	2	1	●	●	●		
	Dpd10004	プロダクトデザイン基礎実習4	必修	実習	2	1	●	●	●		
	Dpd20005	プロダクトデザイン基礎実習5	必修	実習	2	2	●	●	●		
	Dpd20006	プロダクトデザイン基礎実習6	必修	実習	2	2	●	●	●		
応用実習科目	Dpd20011	プロダクトデザイン応用実習1	必修	実習	2	2	●	●	●		
	Dpd20012	プロダクトデザイン応用実習2	必修	実習	2	2	●	●	●		
	Dpd30013	プロダクトデザイン応用実習3	必修	実習	2	3	●	●	●	●	
	Dpd30014	プロダクトデザイン応用実習4	必修	実習	2	3	●	●	●	●	
	Dpd30021	プロダクトデザイン社会実践実習1	必修	実習	1	3		●	●	●	●
	Dpd30022	プロダクトデザイン社会実践実習2	必修	実習	1	3		●	●	●	●
	Dpd30023	プロダクトデザイン社会実践実習3	必修	実習	1	3		●	●	●	●
	Dpd30024	プロダクトデザイン社会実践実習4	必修	実習	1	3		●	●	●	●
	Dpd30015	プロダクトデザイン応用実習5	必修	実習	2	3		●	●	●	●
	Dpd30016	プロダクトデザイン応用実習6	必修	実習	2	3		●	●	●	●
卒業実習科目	Dpd40031	卒業研究実習1	必修	実習	2	4		●	●	●	●
	Dpd40032	卒業研究実習2	必修	実習	2	4		●	●	●	●
	Dpd40033	卒業研究実習3	必修	実習	2	4		●	●	●	●
	Dpd40041	卒業論文・卒業制作	必修	成果評定	2	4		●	●	●	●
	Dpd40051	卒業展示	必修	実習	2	4		●	●	●	●

デザイン学部 プロダクトデザイン学科 専門教育科目 科目一覧

専門講義・演習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
プロダクトデザイン学科共通科目	Dpd13001	プロダクトカラー論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	Dpd13002	プロダクトカラー論2	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	Dpd13101	プロダクトデザイン基礎演習1	選択	演習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dpd13102	プロダクトデザイン基礎演習2	選択	演習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dpd13103	プロダクトデザイン基礎演習3	選択	演習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dpd13104	プロダクトデザイン基礎演習4	選択	演習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dpd13105	プロダクトデザイン基礎演習5	選択	演習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dpd13106	プロダクトデザイン基礎演習6	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Dpd13107	プロダクトデザイン基礎演習7	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Dpd13108	プロダクトデザイン基礎演習8	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Dpd13109	プロダクトデザイン基礎演習9	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Dpd13110	プロダクトデザイン基礎演習10	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Dpd23201	プロダクトデザイン応用演習1	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Dpd23202	プロダクトデザイン応用演習2	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Dpd23203	プロダクトデザイン応用演習3	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Dpd23204	プロダクトデザイン応用演習4	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Dpd33205	プロダクトデザイン応用演習5	選択	演習	1	3・4	●	●	●		
	Dpd33206	プロダクトデザイン応用演習6	選択	演習	1	3・4	●	●	●		
	Dpd33207	プロダクトデザイン応用演習7	選択	演習	1	3・4	●	●	●		
	Dpd33208	プロダクトデザイン応用演習8	選択	演習	1	3・4	●	●	●		
	Dpd33209	プロダクトデザイン応用演習9	選択	演習	1	3・4	●	●	●		
	Dpd33210	プロダクトデザイン応用演習10	選択	演習	1	3・4	●	●	●		
	Dpd23211	プロダクトデザイン応用演習11	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		●
	Dpd23212	プロダクトデザイン応用演習12	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		●
	Dpd23213	プロダクトデザイン応用演習13	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Dpd23214	プロダクトデザイン応用演習14	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
Dpd23215	プロダクトデザイン応用演習15	選択	演習	1	2・3・4	●		●			
Dpd23216	プロダクトデザイン応用演習16	選択	演習	1	2・3・4	●		●			
Dpd23217	プロダクトデザイン応用演習17	選択	演習	1	2・3・4	●		●			
Dpd23218	プロダクトデザイン応用演習18	選択	演習	1	2・3・4	●		●			
Dpd23229	プロダクトデザイン応用演習19	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●			
Dpd23220	プロダクトデザイン応用演習20	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●			
Dpd23221	プロダクトデザイン応用演習21	選択	演習	1	2・3・4	●		●			
Dpd23222	プロダクトデザイン応用演習22	選択	演習	1	2・3・4	●		●			
Dpd23223	プロダクトデザイン応用演習23	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●			
Dpd23224	プロダクトデザイン応用演習24	選択	演習	1	2・3・4	●		●			
Dpd43225	プロダクトデザイン応用演習25	選択	演習	1	4		●	●		●	
Dpd43226	プロダクトデザイン応用演習26	選択	演習	1	4		●	●		●	

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
製品デザイン学科共通科目	Dpd23227	プロダクトデザイン応用演習27	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Dpd23228	プロダクトデザイン応用演習28	選択	演習	1	2・3・4		●			●
	Dpd23239	プロダクトデザイン応用演習29	選択	演習	1	2・3・4		●	●		
	Dpd23230	プロダクトデザイン応用演習30	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Dpd23231	プロダクトデザイン応用演習31	選択	演習	1	2・3・4		●			●
	Dpd23232	プロダクトデザイン応用演習32	選択	演習	1	2・3・4		●	●		
	Dpd23233	プロダクトデザイン応用演習33	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Dpd23234	プロダクトデザイン応用演習34	選択	演習	1	2・3・4		●			●
	Dpd23235	プロダクトデザイン応用演習35	選択	演習	1	2・3・4			●		●
	Dpd23236	プロダクトデザイン応用演習36	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Dpd23237	プロダクトデザイン応用演習37	選択	演習	1	2・3・4		●			●
	Dpd23238	プロダクトデザイン応用演習38	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Dpd13011	建築計画	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Dpd13021	一般構造	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Dpd23031	西洋建築史	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	Dpd23041	住環境論	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	Dpd13051	日本建築史	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Dpd23061	建築力学	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Dpd33071	環境工学	選択	講義	2	3・4	●				
	Dpd23081	近現代建築史	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Dpd23091	建築構造	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Dpd33101	設備工学	選択	講義	2	3・4	●				
	Dpd23111	伝統建築工法	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Dpd13121	建築構法演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dpd33141	建築法規演習1	選択	演習	1	3・4	●		●		
	Dpd33142	建築法規演習2	選択	演習	1	3・4	●		●		
	Dpd33151	材料実験1	選択	演習	1	3・4	●	●	●	●	
	Dpd33152	材料実験2	選択	演習	1	3・4	●	●	●	●	
	Dpd33161	施工演習1	選択	演習	1	3・4	●		●		
	Dpd33162	施工演習2	選択	演習	1	3・4	●		●		
	Dpd23171	測量演習	選択	演習	2	2・3・4	●		●		
	Dpd33181	積算演習	選択	演習	2	3・4	●		●		

ライフクリエイションコース 二級建築士・木造建築士資格取得指定科目一覧

指定科目の分類	指定科目	単位数	配当年次	二級建築士・木造建築士	
建築設計製図	プロダクトデザイン応用演習18	1	2～4	3単位以上	
	プロダクトデザイン応用実習3	2	3		
	プロダクトデザイン応用実習4	2	3		
	プロダクトデザイン応用実習5	2	3		
	プロダクトデザイン応用実習6	2	3		
建築計画 建築環境工学 建築設備	建築計画	2	1～4	2単位以上	
	日本建築史	2	1～4		
	近現代建築史	2	2～4		
	住環境論	2	2～4		
	西洋建築史	2	2～4		
	環境工学	2	3～4		
	設備工学	2	3～4		
構造力学 建築一般構造 建築材料	建築構造	2	2～4	3単位以上	
	建築力学	2	2～4		
	一般構造	2	1～4		
	建築構法演習	1	1～4		
	材料実験1	1	3～4		
	材料実験2	1	3～4		
建築生産	伝統建築工法	2	2～4	1単位以上	
	施工演習1	1	3～4		
	施工演習2	1	3～4		
	積算演習	2	3～4		
建築法規	建築法規演習1	1	3～4	1単位以上	
	建築法規演習2	1	3～4		
その他	プロダクトカラー論1	1	1～4	適宜	
	プロダクトカラー論2	1	1～4		
	インテリアデザイン論1	1	2～4		
	インテリアデザイン論2	1	2～4		
	プロダクトデザイン応用演習15	1	2～4		
	プロダクトデザイン応用演習20	1	2～4		
	プロダクトデザイン応用演習23	1	2～4		
	ランドスケープデザイン論1	1	2～4		
	ランドスケープデザイン論2	1	2～4		
	人間生活工学1	1	2～4		
	まちづくりデザイン1	1	2～4		
	まちづくりデザイン2	1	2～4		
	測量演習	2	2～4		
	修得単位数 総合計				
0年					40単位以上
1年					30単位以上
2年					20単位以上

建築学科 建築コース

デザイン学部 建築学科 卒業要件

科目区分	必修科目						選択必修科目	選択科目	卒業に要する 単位(計)
	進級要件	科目名称	配当年次	単位数	小計	小計	小計		
全学共通教育科目	導入プログラム	<input type="radio"/> フレッシュャーズ・キャンプ	1	1Q	1	24単位	16単位以上	50単位以上	
		<input type="radio"/> クリエイティブ・ワークショップ	1	2Q	1				
	表現科目	<input type="radio"/> コミュニケーションスキル1	1	1Q	1				
		<input type="radio"/> コミュニケーションスキル2	1	3Q	1				
		<input type="radio"/> アカデミックススキル1	1	2Q	1				
		<input type="radio"/> アカデミックススキル2	1	4Q	1				
		<input type="radio"/> アカデミックススキル3	3	3Q	1				
		<input type="radio"/> アカデミックススキル4	3	4Q	1				
		<input type="radio"/> デッサン1	1	1Q	1				
	グローバル科目	<input type="radio"/> グラフィックデザインソフトスキル	1	2Q	1				
		日本文化概論	2	4Q	1				
		<input type="radio"/> 英語1/日本語1	1	1Q	1				
<input type="radio"/> 英語2/日本語2		1	2Q	1					
<input type="radio"/> 英語3/日本語3		1	3Q	1					
リベラルアーツ科目	<input type="radio"/> 英語4/日本語4	1	4Q	1					
	<input type="radio"/> 自由論	1	3Q	1					
	<input type="radio"/> シティズンシップとダイバーシティ	1	4Q	1					
	<input type="radio"/> 創造的思考法	1	3Q	1					
	<input type="radio"/> 情報と倫理	1	1Q	1					
	<input type="radio"/> 人権と教育	2	3Q	1					
	<input type="radio"/> グローバル化と社会	2	2Q	1					
	<input type="radio"/> 情報科学概論	1	2Q	1					
	<input type="radio"/> データサイエンス入門	2	1Q	1					
	<input type="radio"/> キャリア1	1	1Q	1					
キャリア科目									
社会実践力育成プログラム									
マイナー科目						10単位以上(*)			
学部専門教育科目	基礎実習科目	<input type="radio"/> 建築基礎実習1	1	1Q	2	38単位	74単位以上		
		<input type="radio"/> 建築基礎実習2	1	2Q	2				
		<input type="radio"/> 建築基礎実習3	1	3Q	2				
		<input type="radio"/> 建築基礎実習4	1	4Q	2				
		<input type="radio"/> 建築基礎実習5	2	1Q	2				
		<input type="radio"/> 建築基礎実習6	2	2Q	2				
	応用実習科目	<input type="radio"/> 建築応用実習1	2	3Q	2				
		<input type="radio"/> 建築応用実習2	2	4Q	2				
		● 建築応用実習3	3	1Q	2				
		● 建築応用実習4	3	2Q	2				
		● 建築社会実践実習1	3	1Q	1				
		● 建築社会実践実習2	3	2Q	1				
		● 建築社会実践実習3	3	3Q	1				
		● 建築社会実践実習4	3	4Q	1				
		● 建築応用実習5	3	3Q	2				
		● 建築応用実習6	3	4Q	2				
	卒業実習科目	卒業研究実習1	4	1Q	2				
卒業研究実習2		4	2Q	2					
卒業研究実習3		4	3Q	2					
卒業論文・卒業制作		4	4Q	2					
卒業展示		4	4Q	2					
デザイン学部 基盤科目	<input type="radio"/> デザイン概論1	1	1Q	1	4単位	32単位以上			
	<input type="radio"/> デザイン概論2	1	2Q	1					
	<input type="radio"/> デザイン史1	1	3Q	1					
	<input type="radio"/> デザイン史2	1	4Q	1					
デザイン学部 共通科目									
建築学科 共通科目									

(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位分を選択科目の修得単位とみなす。

進級要件

- ①1年次から2年次) 1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)。
- ②2年次から3年次/○印) ○全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。○学部専門の1・2年次必修科目の20単位をすべて修得していること。
- ③3年次から4年次/●印) ●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。

カリキュラム

デザイン学部 建築学科(資格取得指定科目一覽) / 建築学科 建築コース(卒業要件)

デザイン学部 建築学科 建築コース **カリキュラムマップ**

	学部共通	専門理論	設計実技	技能・表現	
1年次	1Q	・デザイン概論1	・身体空間論	・建築基礎実習1	
	2Q	・デザイン概論2	・建築計画	・建築基礎実習2	
	3Q	・デザイン史1	・一般構造	・建築基礎実習3	・建築構法演習
	4Q	・デザイン史2	・日本建築史	・建築基礎実習4	・コンピューター演習
2年次	1Q	・西洋建築史 ・住環境論	・建築基礎実習5	・建築材料演習1	
	2Q	・仮想空間論	・建築基礎実習6	・建築材料演習2 ・測量演習(集中)	
			フィールドワーク・インターンシップ		
	3Q	・まちづくりデザイン1	・建築力学 ・近現代建築史	・建築応用実習1	・仮想空間演習1
	4Q	・まちづくりデザイン2	・建築構造 ・伝統建築工法	・建築応用実習2	・仮想空間演習2
3年次			フィールドワーク・インターンシップ		
	1Q	・デザイン特講1	・環境工学	・建築応用実習3	・材料実験1 ・建築社会実践実習1
	2Q		・設備工学	・建築応用実習4	・材料実験2 ・建築社会実践実習2
			フィールドワーク・インターンシップ		
	3Q	・デザインリテラシー1		・建築応用実習5	・建築法規演習1 ・施工演習1 ・建築社会実践実習3
	4Q	・デザインリテラシー2		・建築応用実習6	・建築法規演習2 ・施工演習2 ・建築社会実践実習4 ・積算演習(集中)
4年次			フィールドワーク・インターンシップ		
	1Q			・卒業研究実習1	
	2Q	・デザイン特講2		・卒業研究実習2	
	3Q			・卒業研究実習3	・【建築士資格取得講座】
	4Q		・卒業論文・卒業制作 ・卒業展示	・【建築士資格取得講座】	

デザイン学部 建築学科 建築コース 履修モデル

デザイン学部 建築学科
「広い知識を有する国際的な建築家志望の学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数				
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計			
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ	必修	1									2				
		クリエイティブ・ワークショップ	必修	1													
	表現科目	コミュニケーションスキル1	必修	1	デッサン2	選択	1	アカデミックスキル3	必修	1				9			
		コミュニケーションスキル2	必修	1				アカデミックスキル4	必修	1							
		アカデミックスキル1	必修	1													
		アカデミックスキル2	必修	1													
		デッサン1	必修	1													
	グローバル科目	英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1	スペイン語	選択	1	Business English	選択	1	12			
		英語2/日本語2	必修	1				世界と食	選択	2	English Discussion	選択	1				
		英語3/日本語3	必修	1							Effective Presentation	選択	1				
		英語4/日本語4	必修	1							English for studying abroad	選択	1				
	リベラルアーツ科目	自由論	必修	1	グローバル化と社会	必修	1							8			
		シティズンシップとダイバーシティ	必修	1	データサイエンス入門	必修	1										
		創造的思考法	必修	1	人権と教育	必修	1										
		情報と倫理	必修	1													
	キャリア科目	キャリア1	必修	1										1			
		社会実践力育成プログラム						海外ショートプログラム	選択	2				4			
	マイナー科目	和の伝統文化論	選択	1	京都のまちづくり	選択	1	京都の習俗	選択	2	アフリカアジア史	選択	1	14			
					京都の伝統工芸講座1	選択	2				京都の伝統産業実習	選択	2				
					京都の伝統工芸講座2	選択	2				美術概論	選択	1				
				美術リテラシー1	選択	1											
				美術リテラシー2	選択	1											
学部専門教育科目	基礎実習科目・応用実習科目・卒業実習科目	建築基礎実習1	必修	2	建築基礎実習5	必修	2	建築応用実習3	必修	2	卒業研究実習1	必修	2	38	137		
		建築基礎実習2	必修	2	建築基礎実習6	必修	2	建築応用実習4	必修	2	卒業研究実習2	必修	2				
		建築基礎実習3	必修	2	建築応用実習1	必修	2	建築応用実習5	必修	2	卒業研究実習3	必修	2				
		建築基礎実習4	必修	2	建築応用実習2	必修	2	建築応用実習6	必修	2	卒業論文・卒業制作	必修	2				
	デザイン学部基盤科目							建築社会実践実習1	必修	1	卒業展示	必修	2				
								建築社会実践実習2	必修	1							
								建築社会実践実習3	必修	1							
								建築社会実践実習4	必修	1							
	専門選択科目(講義・演習)	デザイン概論1	必修	1										4			
		デザイン概論2	必修	1													
		デザイン史1	必修	1													
		デザイン史2	必修	1													
		身体空間論	選択	1	西洋建築史	選択	2	環境工学	選択	2	ランドスケープデザイン論1	選択	1	45			
		建築計画	選択	2	住環境論	選択	2	材料実験1	選択	1	ランドスケープデザイン論2	選択	1				
		一般構造	選択	2	仮想空間論	選択	2	材料実験2	選択	1							
		建築構法演習	選択	1	近現代建築史	選択	2	設備工学	選択	2							
		日本建築史	選択	2	建築力学	選択	2	建築法規演習1	選択	1							
		コンピューター演習	選択	1	伝統建築工法	選択	2	建築法規演習2	選択	1							
					まちづくりデザイン1	選択	1	施工演習1	選択	1							
					まちづくりデザイン2	選択	1	施工演習2	選択	1							
				建築構造	選択	2	積算演習	選択	2								
				建築材料演習1	選択	1											
				建築材料演習2	選択	1											
				仮想空間演習1	選択	1											
			仮想空間演習2	選択	1												
			測量演習	選択	2												

カリキュラム
デザイン学部 建築学科 建築コース(カリキュラムマップ/履修モデル)

デザイン学部 建築学科 建築コース 専門教育科目 科目一覧

専門実習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	Dar10001	建築基礎実習1	必修	実習	2	1		●	●		
	Dar10002	建築基礎実習2	必修	実習	2	1		●	●		
	Dar10003	建築基礎実習3	必修	実習	2	1		●	●		●
	Dar10004	建築基礎実習4	必修	実習	2	1		●	●		●
	Dar20005	建築基礎実習5	必修	実習	2	2		●	●		●
	Dar20006	建築基礎実習6	必修	実習	2	2		●	●		●
応用実習科目	Dar20011	建築応用実習1	必修	実習	2	2		●	●		●
	Dar20012	建築応用実習2	必修	実習	2	2		●	●		●
	Dar30013	建築応用実習3	必修	実習	2	3		●	●	●	●
	Dar30014	建築応用実習4	必修	実習	2	3		●	●	●	●
	Dar30021	建築社会実践実習1	必修	実習	1	3			●	●	●
	Dar30022	建築社会実践実習2	必修	実習	1	3			●	●	●
	Dar30023	建築社会実践実習3	必修	実習	1	3			●	●	●
	Dar30024	建築社会実践実習4	必修	実習	1	3			●	●	●
	Dar30015	建築応用実習5	必修	実習	2	3		●	●	●	●
	Dar30016	建築応用実習6	必修	実習	2	3		●	●	●	●
卒業実習科目	Dar40031	卒業研究実習1	必修	実習	2	4		●	●	●	●
	Dar40032	卒業研究実習2	必修	実習	2	4		●	●	●	●
	Dar40033	卒業研究実習3	必修	実習	2	4		●	●	●	●
	Dar40041	卒業論文・卒業制作	必修	成果 評定	2	4		●	●	●	●
	Dar40051	卒業展示	必修	実習	2	4			●	●	

専門講義・演習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
建築学科共通科目	Dar13011	身体空間論	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	Dar13021	建築計画	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Dar13031	一般構造	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Dar23041	西洋建築史	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	Dar23051	仮想空間論	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	Dar23061	住環境論	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	Dar13071	日本建築史	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Dar23081	建築力学	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Dar33091	環境工学	選択	講義	2	3・4	●				
	Dar23101	近現代建築史	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Dar23111	建築構造	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Dar33121	設備工学	選択	講義	2	3・4	●				
	Dar23131	伝統建築工法	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Dar13141	建築構法演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dar13151	コンピューター演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dar23161	仮想空間演習1	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Dar23162	仮想空間演習2	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Dar23171	建築材料演習1	選択	演習	1	2・3・4	●		●	●	
	Dar23172	建築材料演習2	選択	演習	1	2・3・4	●		●	●	
	Dar33181	建築法規演習1	選択	演習	1	3・4	●		●		
	Dar33182	建築法規演習2	選択	演習	1	3・4	●		●		
	Dar33191	材料実験1	選択	演習	1	3・4	●	●	●	●	
	Dar33192	材料実験2	選択	演習	1	3・4	●	●	●	●	
	Dar33201	施工演習1	選択	演習	1	3・4	●		●		
Dar33202	施工演習2	選択	演習	1	3・4	●		●			
Dar23211	測量演習	選択	演習	2	2・3・4	●		●			
Dar33221	積算演習	選択	演習	2	3・4	●		●			

建築学科 建築士資格取得指定科目一覧

指定科目の分類	指定科目	単位数	配当年次	一級建築士		二級建築士・木造建築士	
				必要実務経験年数	必要単位数	必要実務経験年数	必要単位数
建築設計製図	建築基礎実習3	2	1	7単位以上	3単位以上		
	建築基礎実習4	2	1				
	建築基礎実習5	2	2				
	建築基礎実習6	2	2				
	建築応用実習1	2	2				
	建築応用実習2	2	2				
	建築応用実習3	2	3				
	建築応用実習4	2	3				
	建築応用実習5	2	3				
	建築応用実習6	2	3				
建築計画	建築計画	2	1~4	7単位以上	2単位以上		
	日本建築史	2	1~4				
	近現代建築史	2	2~4				
	住環境論	2	2~4				
	西洋建築史	2	2~4				
建築環境工学	環境工学	2	3~4	2単位以上			
建築設備	設備工学	2	3~4	2単位以上			
構造力学	建築構造	2	2~4	4単位以上			
	建築力学	2	2~4				
建築一般構造	一般構造	2	1~4	3単位以上			3単位以上
	建築構法演習	1	1~4				
建築材料	材料実験1	1	3~4	2単位以上			
	材料実験2	1	3~4				
	建築材料演習1	1	2~4				
	建築材料演習2	1	2~4				
建築生産	伝統建築工法	2	2~4	2単位以上			1単位以上
	施工演習1	1	3~4				
	施工演習2	1	3~4				
	積算演習	2	3~4				
建築法規	建築法規演習1	1	3~4	1単位以上			1単位以上
	建築法規演習2	1	3~4				
その他	コンピューター演習	1	1~4	適宜			適宜
	まちづくりデザイン1	1	2~4				
	まちづくりデザイン2	1	2~4				
	測量演習	2	2~4				
	ランドスケープデザイン論1	1	2~4				
	ランドスケープデザイン論2	1	2~4				
	京都のまちづくり	1	2~4				
修得単位数 総合計				必要な実務経験年数	必要単位数	必要な実務経験年数	必要単位数
				2年	60単位以上	0年	40単位以上
				3年	50単位以上	1年	30単位以上
				4年	40単位以上	2年	20単位以上

人間環境デザインプログラム

人間環境デザインプログラム 卒業要件

科目区分	進級要件	必修科目					選択必修科目	選択科目	卒業に要する単位(計)								
		科目名称	配当年次	単位数	小計	小計	小計										
全学共通教育科目	共通教育科目	導入プログラム	○ フレッシュャーズ・キャンプ ○ クリエイティブ・ワークショップ	1 1	1Q 2Q	1 1	24単位	16単位以上	50単位以上								
		表現科目	○ コミュニケーションスキル1 ○ コミュニケーションスキル2 ○ アカデミックスキル1 ○ アカデミックスキル2 ○ アカデミックスキル3 ○ アカデミックスキル4	1 1 1 1	1Q 3Q 2Q 4Q	1 1 1 1											
			グローバル科目	○ デッサン1 ○ グラフィックデザインソフトスキル	1 1	1Q 2Q				1 1							
				○ 日本文化概論 ○ 英語1/日本語1 ○ 英語2/日本語2 ○ 英語3/日本語3 ○ 英語4/日本語4	2 1 1 1 1	4Q 1Q 2Q 3Q 4Q				1 1 1 1 1							
				リベラルアーツ科目	○ 自由論 ○ シティズンシップとダイバーシティ ○ 創造的思考法 ○ 情報と倫理 ○ 人権と教育 ○ グローバル化と社会 ○ 情報科学概論 ○ データサイエンス入門	1 1 1 1 2 2 1 2				3Q 4Q 3Q 1Q 3Q 2Q 2Q 1Q	1 1 1 1 1 1 1 1						
					キャリア科目	○ キャリア1				1	1Q	1					
			社会実践力育成プログラム														
			マイナー科目								10単位以上(※)						
		学部専門教育科目	専門実習科目		基礎実習科目	○ 建築基礎実習1 ○ 建築基礎実習2 ○ 建築基礎実習3 ○ 建築基礎実習4 ○ 建築基礎実習5 ○ 建築基礎実習6				1 1 1 1 2 2	1Q 2Q 3Q 4Q 1Q 2Q	2 2 2 2 2 2	38単位	74単位以上	124単位以上		
						応用実習科目				○ 建築応用実習1 ○ 建築応用実習2 ● 建築応用実習3 ● 建築応用実習4 ● 建築社会実践実習1 ● 建築社会実践実習2 ● 建築社会実践実習3 ● 建築社会実践実習4 ● 建築応用実習5 ● 建築応用実習6	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3	3Q 4Q 1Q 2Q 1Q 2Q 3Q 4Q 3Q 4Q				2 2 2 2 1 1 1 1 2 2	
				卒業実習科目						卒業研究実習1 卒業研究実習2 卒業研究実習3 卒業論文・卒業制作 卒業展示	4 4 4 4 4	1Q 2Q 3Q 4Q 4Q				2 2 2 2 2	
										専門講義・演習科目	デザイン学部 基盤科目	○ デザイン概論1/国際文化概論1 ○ デザイン概論2/国際文化概論2 ○ デザイン史1/国際文化史1 ○ デザイン史2/国際文化史2				1 1 1 1	1Q 2Q 3Q 4Q
				デザイン学部共通科目													32単位以上
				建築学科共通科目													
人間環境デザインプログラム科目																	

(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位分を選択科目の修得単位とみなす。

進級要件

〈1年次から2年次〉 1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)。
 〈2年次から3年次/○印〉 ○全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。○学部専門の1・2年次必修科目の20単位をすべて修得していること。
 〈3年次から4年次/●印〉 ●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。

人間環境デザインプログラム カリキュラムマップ

	デザイン(他)学部共通	専門演習・実習	専門理論	プログラム科目	技能(資格)・表現
1年次	教養とスキル	建築基礎の理解		自然と環境の理解	
2年次	社会の基礎知識	建築基本と応用の習得	社会・コミュニティ建築・ 歴史・空間の専門知	フィールド調査の準備	建築スキル・ 資格の学び (二級建築士資格)
3年次	国内外の社会体験	専門分野の理解と社会的応用		長期インターンシップ	
4年次	社会へとつながる力	問いと課題の総合力と表現		課題発見・解決の研究・制作	
1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン概論1~2 (国際文化概論1~2) ・デザイン史1~2 (国際文化史1~2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築基礎実習1~4 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体空間論 ・建築計画 ・近現代建築史 ・日本建築史 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境演習 ・国内インターンシップ ・CAD実習1~2 (CAD基礎) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般構造 ・建築工法演習1~2 ・まちづくり論1~2
		<ul style="list-style-type: none"> ・国内SP(地域実習/集中)/海外SP(地域実習/集中) 			
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・社会学 ・社会調査法 ・まちづくりデザイン ・他学部科目 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築基礎実習5~6 ・建築応用実習1~2 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築力学/建築構造 ・住環境論/仮想空間論 ・伝統建築工法 ・西洋建築史 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学 1~2 ・現場学 1~2 ・CAD実習 3~4 (3D, BIM) 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮想空間演習1~2 ・測量演習 ・コンピューター演習 1~3
3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインリテラシー ・他学部科目 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築応用実習3~6 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境/NGO/コミュニティ講義系科(指定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築社会実践実習 1~4 アカデミック・表現スキル 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統建築工法(環境工学)(設備工学)
		<ul style="list-style-type: none"> 長期インターンシップ1~6 			
4年次	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン特講 1~2 ・他学部科目 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究実習1~3 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学部講義系科目(選択) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学部講義系科目(選択) 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料実験1~2 ・建築法規演習1~2 ・施工演習1~2/積算演習 【建築士資格取得講座】
		<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文・卒業制作/卒業展示 			

人間環境デザインプログラム 履修モデル

人間環境デザインプログラム

「企画力・行動力と建築の技術力を備え持った地域環境のリ・デザインできる専門家」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ	必修	1									2		
		クリエイティブ・ワークショップ	必修	1											
	表現科目	コミュニケーションスキル1	必修	1	デッサン2	選択	1	アカデミックスキル3	必修	1					
		コミュニケーションスキル2	必修	1	デッサン3	選択	1	アカデミックスキル4	必修	1					
		アカデミックスキル1	必修	1	デッサン4	選択	1								
		アカデミックスキル2	必修	1											
		デッサン1	必修	1											
		グラフィックデザインソフトスキル	必修	1											
	グローバル科目	英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1	サステナビリティと社会	選択	2					
		英語2/日本語2	必修	1	Business English	選択	1	現代社会の諸問題	選択	2					
		英語3/日本語3	必修	1	English discussion	選択	1								
		英語4/日本語4	必修	1	English for studying abroad	選択	1								
		海外ショートプログラム入門	選択	1											
	リベラルアーツ科目	自由論	必修	1	グローバル化と社会	必修	1								
		シティズンシップとダイバーシティ	必修	1	データサイエンス入門	必修	1								
		創造的思考法	必修	1	人権と教育	必修	1								
		情報と倫理	必修	1											
		情報科学概論	必修	1											
	キャリア科目	キャリア1	必修	1										1	
社会実践力育成プログラム				海外ショートプログラム	選択	2				産学公連携PBLプログラム1	選択	2	4		
マイナー科目	和の伝統文化論	選択	1	マンガ概論1	選択	1	マンガ特講2	選択	2	メディア表現史1	選択	1			
				マンガ特講1	選択	2				アフリカ・アジアリテラシー1	選択	2	11		
				マンガ史1	選択	1				美術史1	選択	1			
学部専門教育科目	基礎実習科目・応用実習科目・卒業実習・演習科目	建築基礎実習1	必修	2	建築基礎実習5	必修	2	建築応用実習3	必修	2	卒業研究実習1	必修	2		
		建築基礎実習2	必修	2	建築基礎実習6	必修	2	建築応用実習4	必修	2	卒業研究実習2	必修	2		
		建築基礎実習3	必修	2	建築応用実習1	必修	2	建築社会実践実習1	必修	1	卒業研究実習3	必修	2		
		建築基礎実習4	必修	2	建築応用実習2	必修	2	建築社会実践実習2	必修	1	卒業論文・卒業制作	必修	2		
								建築社会実践実習3	必修	1	卒業展示	必修	2	38	
								建築社会実践実習4	必修	1					
	人間環境デザイン基盤科目(選択必修のみ)	国際文化概論1	選択	1	地域学1	選択	1	長期インターンシップ1	選択	2					
		国際文化概論2	選択	1	地域学2	選択	1	長期インターンシップ2	選択	2					
		国際文化史1	選択	1	現場学1	選択	1	長期インターンシップ3	選択	2					
		国際文化史2	選択	1	現場学2	選択	1	長期インターンシップ4	選択	2					
								長期インターンシップ5	選択	2					
								長期インターンシップ6	選択	2					
	専門選択科目(講義・演習)	自然環境演習	選択	1	マンガ業界論1	選択	1	アートマネジメント論1	選択	1	建築力学	選択	2		
		建築計画	選択	2	マンガ業界論2	選択	1	アートマネジメント論2	選択	1	建築法規演習1	選択	1		
		建築構法演習	選択	1	コンテンツビジネス1	選択	1	メディア産業論1	選択	1	施工演習1	選択	1		
		日本建築史	選択	2	コンテンツビジネス2	選択	1	グローバルヒストリー概論	選択	2	西洋建築史	選択	2		
		コンピュータ演習	選択	1	デザイン英語1	選択	1	地球環境学概論1	選択	2					
		国内インターンシップ	選択	1	デザイン英語2	選択	1	グローバル関係概論	選択	2					

カリキュラム

人間環境デザインプログラム(カリキュラムマップ/履修モデル)

人間環境デザインプログラム 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関					
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動	
人間環境デザイン基盤科目	Kgl11001	国際文化概論1	選択必修	講義	1	1	●	●			●	
	Kgl11002	国際文化概論2	選択必修	講義	1	1	●	●	●		●	
	Kgl11011	国際文化史1	選択必修	講義	1	1	●	●	●		●	
	Kgl11012	国際文化史2	選択必修	講義	1	1	●	●	●		●	
	Kgl11021	国際文化リテラシー1	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●		●	
	Kgl11022	国際文化リテラシー2	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●		●	
	Kgl21031	国際文化特講1	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●	
	Kgl21032	国際文化特講2	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●	
	Dfd11001	デザイン概論1	選択必修	講義	1	1	●					
	Dfd11002	デザイン概論2	選択必修	講義	1	1	●					
	Dfd11011	デザイン史1	選択必修	講義	1	1	●					
	Dfd11012	デザイン史2	選択必修	講義	1	1	●					
	Dfd11021	デザインリテラシー1	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			
	Dfd11022	デザインリテラシー2	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			
	Dfd21031	デザイン特講1	選択	講義	2	2・3・4	●					
	Dfd21032	デザイン特講2	選択	講義	2	2・3・4	●					
	Dhe11001	自然環境演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●	●				
	Dhe21101	地域学1	選択	講義	1	2・3・4	●	●		●	●	
	Dhe21102	地域学2	選択	講義	1	2・3・4	●	●		●	●	
	Dhe21111	現場学1	選択	講義	1	2・3・4	●	●		●	●	
	Dhe21112	現場学2	選択	講義	1	2・3・4	●	●		●	●	
	Dhe11011	国内インターンシップ	選択	演習	1	1・2・3・4	●		●	●		
	Dhe31021	長期インターンシップ1	選択	演習	2	3・4	●		●	●		
	Dhe31022	長期インターンシップ2	選択	演習	2	3・4	●		●	●		
	Dhe31023	長期インターンシップ3	選択	演習	2	3・4	●		●	●		
	Dhe31024	長期インターンシップ4	選択	演習	2	3・4	●		●	●		
	Dhe31025	長期インターンシップ5	選択	演習	2	3・4	●		●	●		
	Dhe31026	長期インターンシップ6	選択	演習	2	3・4	●		●	●		
	基礎実習科目	Dhe10001	建築基礎実習1	必修	実習	2	1		●	●		
		Dhe10002	建築基礎実習2	必修	実習	2	1		●	●		
Dhe10003		建築基礎実習3	必修	実習	2	1		●	●		●	
Dhe10004		建築基礎実習4	必修	実習	2	1		●	●		●	
Dhe20005		建築基礎実習5	必修	実習	2	2		●	●		●	
Dhe20006		建築基礎実習6	必修	実習	2	2		●	●		●	
応用実習科目	Dhe20001	建築応用実習1	必修	実習	2	2		●	●		●	
	Dhe20002	建築応用実習2	必修	実習	2	2		●	●		●	
	Dhe30003	建築応用実習3	必修	実習	2	3		●	●	●	●	
	Dhe30004	建築応用実習4	必修	実習	2	3		●	●	●	●	

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
応用実習科目	Dhe30011	建築社会実践実習1	必修	実習	1	3			●	●	●
	Dhe30012	建築社会実践実習2	必修	実習	1	3			●	●	●
	Dhe30013	建築社会実践実習3	必修	実習	1	3			●	●	●
	Dhe30014	建築社会実践実習4	必修	実習	1	3			●	●	●
	Dhe30005	建築応用実習5	必修	実習	2	3		●	●	●	●
	Dhe30006	建築応用実習6	必修	実習	2	3		●	●	●	●
卒業実習科目	Dhe40021	卒業研究実習1	必修	実習	2	4		●	●	●	●
	Dhe40022	卒業研究実習2	必修	実習	2	4		●	●	●	●
	Dhe40023	卒業研究実習3	必修	実習	2	4		●	●	●	●
	Dhe40031	卒業論文・卒業制作	必修	成果 評定	2	4		●	●	●	●
	Dhe40041	卒業展示	必修	実習	2	4			●	●	
建築学科共通科目	Dar13011	身体空間論	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	Dar13021	建築計画	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Dar13031	一般構造	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Dar23041	西洋建築史	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	Dar23051	仮想空間論	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	Dar23061	住環境論	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	Dar13071	日本建築史	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	Dar23081	建築力学	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Dar33091	環境工学	選択	講義	2	3・4	●				
	Dar23101	近現代建築史	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Dar23111	建築構造	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Dar33121	設備工学	選択	講義	2	3・4	●				
	Dar23131	伝統建築工法	選択	講義	2	2・3・4	●				
	Dar13141	建築構法演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dar13151	コンピューター演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●		●		
	Dar23161	仮想空間演習1	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Dar23162	仮想空間演習2	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Dar23171	建築材料演習1	選択	演習	1	2・3・4	●		●	●	
	Dar23172	建築材料演習2	選択	演習	1	2・3・4	●		●	●	
	Dar33181	建築法規演習1	選択	演習	1	3・4	●		●		
	Dar33182	建築法規演習2	選択	演習	1	3・4	●		●		
	Dar33191	材料実験1	選択	演習	1	3・4	●	●	●	●	
	Dar33192	材料実験2	選択	演習	1	3・4	●	●	●	●	
	Dar33201	施工演習1	選択	演習	1	3・4	●		●		
Dar33202	施工演習2	選択	演習	1	3・4	●		●			
Dar23211	測量演習	選択	演習	2	2・3・4	●		●			
Dar33221	積算演習	選択	演習	2	3・4	●		●			

人間環境デザインプログラム 専門教育科目 科目一覧

人間環境デザインプログラム科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
グローバル地域研究科目	Kgl24411	地域研究入門	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgs24001	地域研究特講	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24421	アフリカ地域研究1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24422	アフリカ地域研究2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24431	アジア地域研究1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24432	アジア地域研究2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24451	アメリカ地域研究1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24452	アメリカ地域研究2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24441	大洋州地域研究	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24561	欧州地域研究	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
グローバル関係科目	Kgs23001	グローバル関係概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgs23011	グローバルヒストリー概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgs23021	グローバルヒストリー特講	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgs23031	多国籍企業論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgs23041	社会運動論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl24571	世界の宗教	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl24581	アフリカ・アジア関係論	選択	講義	2	2・3・4	●	●		●	●
	Kgs23051	国際政治学	選択	講義	2	2・3・4	●	●		●	●
	Kgs23061	国際社会の法秩序	選択	講義	2	2・3・4	●	●		●	●
	Kgs33071	人口動態論	選択	講義	2	3・4	●	●		●	●
	Kgs33081	人口政策論	選択	講義	2	3・4	●	●		●	●
	Kgs23091	比較社会学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
グローバル共生社会科目	Kgl23351	先住民民族研究	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgs23101	ポストコロナル概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23361	国際開発論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgs23111	マイノリティ研究概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24591	グローバル・ビジネス論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl24501	グローバル化とメディア	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl33331	エイジング研究概論	選択	講義	2	3・4	●	●			●
	Kgl33341	子ども学概論	選択	講義	2	3・4	●	●		●	●
	Kgl23291	地球環境学概論1	選択	講義	2	2・3・4	●	●		●	●
	Kgl33292	地球環境学概論2	選択	講義	2	3・4	●	●		●	●
	Kgl33293	地球環境学概論3	選択	講義	2	3・4	●	●		●	●
	Kgl23281	NGO論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23321	平和学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23311	市民社会論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23301	人間の安全保障	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
グローバル文化科目	Kgl23401	観光学総論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23111	世界の文学1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23112	世界の文学2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23561	世界文化遺産	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl23571	アフリカ美術	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl23581	マテリアル・カルチャー概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23611	民族音楽論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23591	比較服飾文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23601	比較建築文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
グローバル基礎講義科目	Kgl13001	哲学概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●
	Kgl13011	倫理学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●
	Kgl13021	心理学	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●
	Kgl23221	社会学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23231	社会調査法	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23261	経済学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23101	批評理論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23241	ジェンダー論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl13031	宗教学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●	●
	Kgl23251	社会思想史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23271	自然地理学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23381	文化政策論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23371	文化社会学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23201	西洋史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23211	東洋史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
日本文化科目	Kgl23131	日本史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23171	日本地域史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23181	日本社会史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23191	日本・アジア関係史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23391	日本の文化遺産	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23141	歴史地理学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23151	京都の歴史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23161	日本民衆史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23091	日本文学史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23041	漢文学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23051	口承文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23071	書誌学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23061	古典文法	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	Kgl23081	書道	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●
	Kgl23121	古文書解説	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		●

人間環境デザインプログラム 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
【メディア表現講義科目】	Tmc11002	メディア表現概論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Tmc11012	メディア表現史2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Tmc26001	コンテンツビジネス1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Tmc26002	コンテンツビジネス2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Tmc26003	コンテンツビジネス3	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Tmc16011	サウンドスケープ論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16021	メディアアート論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16031	ゲームデザイン論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16041	ウェブデザイン論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16051	コンピュータ&ネットワーク論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16061	サブカルチャーとメディア	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16071	文化産業論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16081	メディア文化政策論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16091	広告メディア論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc16101	教育メディア論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Tmc26111	メディアミックス論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			
	Tmc26121	ソーシャルメディア論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			
【芸術講義科目】	Afa11002	美術概論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa11012	美術史2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22001	美術史特論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22002	美術史特論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22003	美術史特論3	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22004	美術史特論4	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22011	美術工芸史1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22012	美術工芸史2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22013	美術工芸史3	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22014	美術工芸史4	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22021	現代社会システム論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22022	現代社会システム論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22031	芸術表象論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22032	芸術表象論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22041	芸術と哲学1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22042	芸術と哲学2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22051	美術解剖学1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22052	美術解剖学2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22061	視覚認知論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Afa22062	視覚認知論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
Afa22071	芸術と精神分析1	選択	講義	1	2・3・4	●					
Afa22072	芸術と精神分析2	選択	講義	1	2・3・4	●					

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
【芸術講義科目】	Afa32081	現代芸術論1	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa32082	現代芸術論2	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa32091	アートマネジメント論1	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa32092	アートマネジメント論2	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa32101	美術評論1	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa32102	美術評論2	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa32111	作品と空間	選択	講義	1	3・4	●				
	Afa42112	表現研究特講	選択	講義	1	4	●				
【マンガ講義科目】	Mfm11002	マンガ概論2	選択	講義	1	2・3・4		●			●
	Mfm11012	マンガ史2	選択	講義	1	2・3・4	●				●
	Mfm22001	マンガ史3	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22002	マンガ史4	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22011	メディア産業論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Mfm22012	メディア産業論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Mfm22021	キャラクター造形論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Mfm22022	キャラクター造形論2	選択	講義	1	2・3・4	●			●	
	Mfm22023	キャラクター造形論3	選択	講義	1	2・3・4	●			●	
	Mfm22024	キャラクター造形論4	選択	講義	1	2・3・4		●	●		
	Mfm22031	アニメーション作品作家研究1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22032	アニメーション作品作家研究2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22033	アニメーション作品作家研究3	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22034	アニメーション作品作家研究4	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22041	マンガ業界論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Mfm22042	マンガ業界論2	選択	講義	1	2・3・4	●				●
	Mfm22051	海外コミックマンガ論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22052	海外コミックマンガ論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22061	比較マンガ論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22062	比較マンガ論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22071	新世代マンガ総合講座1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			●
	Mfm22072	新世代マンガ総合講座2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			●
	Mfm22081	日本アニメーション史1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22082	日本アニメーション史2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22091	世界アニメーション史1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22092	世界アニメーション史2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22101	IP研究1	選択	講義	1	2・3・4	●			●	●
	Mfm22102	IP研究2	選択	講義	1	2・3・4	●			●	●
Mfm22103	IP研究3	選択	講義	1	2・3・4	●			●	●	
Mfm22104	IP研究4	選択	講義	1	2・3・4	●			●	●	

人間環境デザインプログラム 建築士資格取得指定科目一覧

指定科目の分類	指定科目	単位数	配当年次	一級建築士		二級建築士・木造建築士	
				必要実務経験年数	必要単位数	必要実務経験年数	必要単位数
建築設計製図	建築基礎実習3	2	1	7単位以上	3単位以上		
	建築基礎実習4	2	1				
	建築基礎実習5	2	2				
	建築基礎実習6	2	2				
	建築応用実習1	2	2				
	建築応用実習2	2	2				
	建築応用実習3	2	3				
	建築応用実習4	2	3				
	建築応用実習5	2	3				
	建築応用実習6	2	3				
建築計画	建築計画	2	1~4	7単位以上	2単位以上		
	日本建築史	2	1~4				
	近現代建築史	2	2~4				
	住環境論	2	2~4				
	西洋建築史	2	2~4				
建築環境工学	環境工学	2	3~4	2単位以上			
建築設備	設備工学	2	3~4	2単位以上			
構造力学	建築構造	2	2~4	4単位以上			
	建築力学	2	2~4				
建築一般構造	一般構造	2	1~4	3単位以上			3単位以上
	建築構法演習	1	1~4				
建築材料	材料実験1	1	3~4	2単位以上			
	材料実験2	1	3~4				
	建築材料演習1	1	2~4				
	建築材料演習2	1	2~4				
建築生産	伝統建築工法	2	2~4	2単位以上			1単位以上
	施工演習1	1	3~4				
	施工演習2	1	3~4				
	積算演習	2	3~4				
建築法規	建築法規演習1	1	3~4	1単位以上			1単位以上
	建築法規演習2	1	3~4				
その他	コンピューター演習	1	1~4	適宜	適宜		
	まちづくりデザイン1	1	2~4				
	まちづくりデザイン2	1	2~4				
	測量演習	2	2~4				
	ランドスケープデザイン論1	1	2~4				
	ランドスケープデザイン論2	1	2~4				
	京都のまちづくり	1	2~4				
修得単位数 総合計				2年	60単位以上	0年	40単位以上
				3年	50単位以上	1年	30単位以上
				4年	40単位以上	2年	20単位以上

ポリシーとカリキュラム構造

● 教育研究目的

マンガ学部の教育研究目的は、社会に存在する様々な課題解決にマンガやアニメーションの技術、表現力を用いて挑んでいける人間の育成です。マンガやアニメーションを中心とした種々の表現する力を身につけ、時代の変化や技術の進歩に即応し広く社会に貢献できる力を養います。卒業時に身につけているべき要素を以下の5つとし、卒業要件を満たせばこれらを身につけたものと認め、学位を授与します。

● 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	日々進化するマンガあるいはアニメーションに関する基本的な知識と理解がある。	知識と理解 knowledge & understanding
DP2	マンガやアニメーションが持つ新たな表現の可能性を探求し、デジタルネットワークを含めた未知なる表現領域を拓いてゆくことができる。	創造的思考と考察 creative thinking & observation
DP3	アナログ・デジタルを問わずマンガあるいはアニメーションについての専門知識と自己を表現できる制作技術を身につけている。	技術と表現 skills & expression
DP4	多様な他者との違いを認め、協働して課題解決に取り組むことができる。	他者理解と協働 mutual understanding & collaboration
DP5	より良い社会を創る意欲を持ち、学びを応用して社会の課題解決に自ら取り組むことができる。	社会への関心と行動 interests & action

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

マンガ学部は、学位授与の方針を達成するために、全学共通教育科目、学部専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせさせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

学部専門教育科目では、

1年次には、マンガ、アニメーション領域の初歩的な知識や制作技法を包括的に学び、各分野の基礎知識を幅広く身につける科目を開講します。

2年次は各専門分野における重要な作品や最新の技術に触れる科目、専門的な知識・技法・考察能力を身につける科目を開講します。

3年次は各専門に沿った技術・知識をより深化させると共に、作品制作に必要となる実践的能力、作成した作品を検証、分析、練磨する能力を養う科目を開講します。

最終年次には、探究を自律的に計画・遂行し、その成果を公共的・学術的に表現する技法と作法を養うために卒業制作・卒業論文を課します。

2. 教育方法

- (1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
- (3) 学修成果の可視化を通じて、学生の自律的な学修を支援します。

3. 学修成果の評価

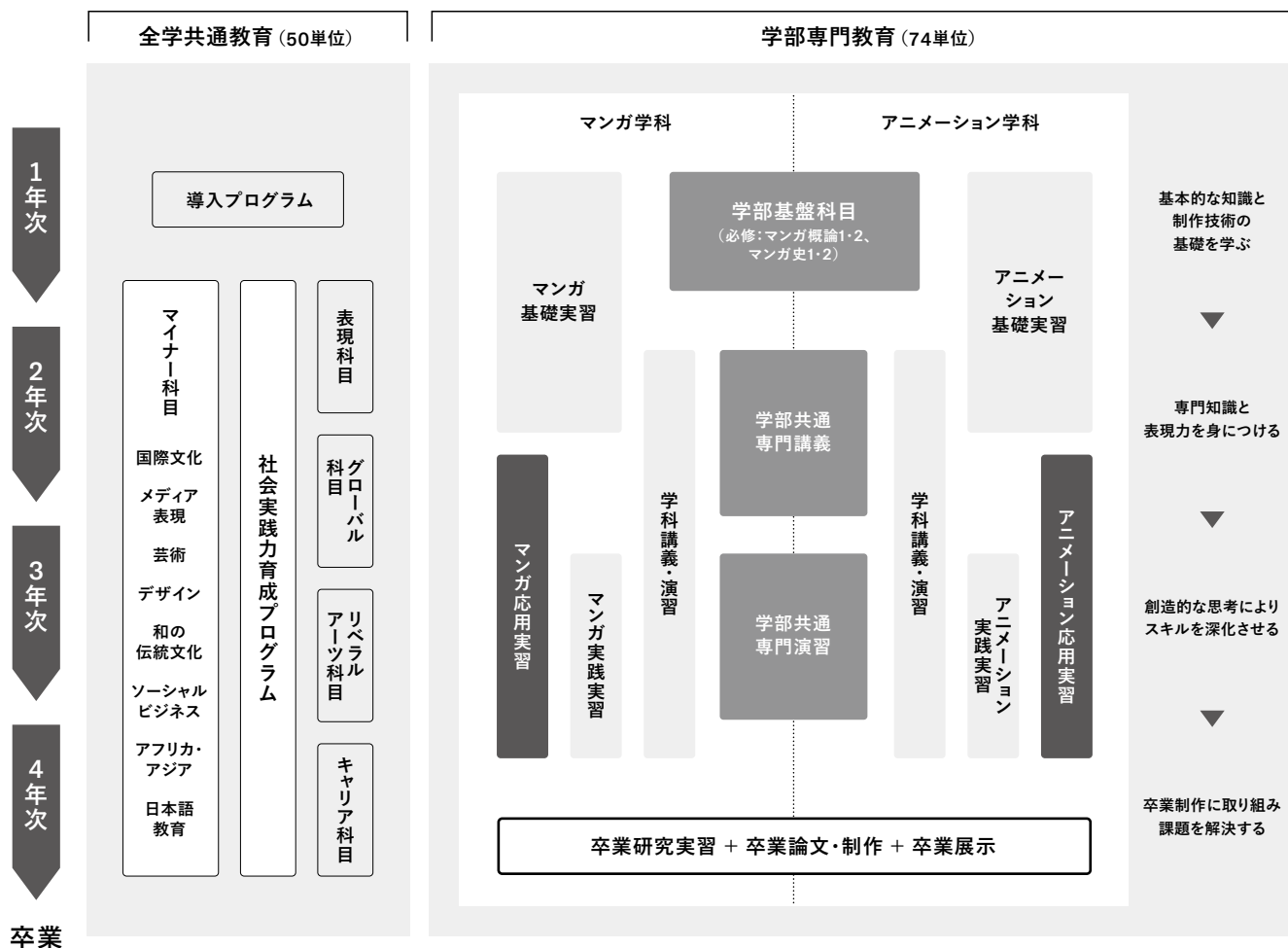
マンガ学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況により、総合的評価を行います。卒業論文・制作(必修)は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。



卒業

マンガ学部 共通専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
マンガ学部 基盤科目	Mfm11001	マンガ概論1	必修	講義	1	1	●	●			
	Mfm11002	マンガ概論2	必修	講義	1	1		●			●
	Mfm11011	マンガ史1	必修	講義	1	1	●	●			
	Mfm11012	マンガ史2	必修	講義	1	1	●				●
	Mfm11021	マンガリテラシー1	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	Mfm11022	マンガリテラシー2	選択	講義	2	1・2・3・4	●				●
	Mfm21031	マンガ特講1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			
	Mfm21032	マンガ特講2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			
マンガ学部 共通科目	Mfm22001	マンガ史3	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22002	マンガ史4	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22011	メディア産業論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Mfm22012	メディア産業論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Mfm22021	キャラクター造形論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Mfm22022	キャラクター造形論2	選択	講義	1	2・3・4	●			●	
	Mfm22023	キャラクター造形論3	選択	講義	1	2・3・4	●			●	
	Mfm22024	キャラクター造形論4	選択	講義	1	2・3・4		●	●		
	Mfm22031	アニメーション作品作家研究1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22032	アニメーション作品作家研究2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22033	アニメーション作品作家研究3	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22034	アニメーション作品作家研究4	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22041	マンガ業界論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Mfm22042	マンガ業界論2	選択	講義	1	2・3・4	●				●
	Mfm22051	海外コミックマンガ論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22052	海外コミックマンガ論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22061	比較マンガ論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22062	比較マンガ論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22071	新世代マンガ総合講座1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			●
	Mfm22072	新世代マンガ総合講座2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			●
	Mfm22081	日本アニメーション史1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22082	日本アニメーション史2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22091	世界アニメーション史1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22092	世界アニメーション史2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mfm22101	IP研究1	選択	講義	1	2・3・4	●			●	●
	Mfm22102	IP研究2	選択	講義	1	2・3・4	●			●	●
	Mfm22103	IP研究3	選択	講義	1	2・3・4	●			●	●
	Mfm22104	IP研究4	選択	講義	1	2・3・4	●			●	●
	Mfm22111	イラスト講座1	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Mfm22112	イラスト講座2	選択	演習	1	2・3・4			●		

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
マンガ学部 共通科目	Mfm22121	コラボレーション演習1	選択	演習	1	2・3・4				●	●
	Mfm22122	コラボレーション演習2	選択	演習	1	2・3・4				●	●
	Mfm22123	コラボレーション演習3	選択	演習	1	2・3・4				●	●
	Mfm22124	コラボレーション演習4	選択	演習	1	2・3・4				●	●
	Mfm22131	絵本技法1	選択	演習	1	2・3・4		●	●		
	Mfm22132	絵本技法2	選択	演習	1	2・3・4		●	●		
	Mfm22133	絵本技法3	選択	演習	1	2・3・4		●	●		
	Mfm22134	絵本技法4	選択	演習	1	2・3・4		●	●		
	Mfm22141	シナリオ技法1	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Mfm22142	シナリオ技法2	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Mfm22143	シナリオ技法3	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Mfm22144	シナリオ技法4	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Mfm22151	実用マンガ演習1	選択	演習	1	2・3・4			●		●
	Mfm22152	実用マンガ演習2	選択	演習	1	2・3・4			●		●
	Mfm22161	ゲーム作画演習1	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Mfm22162	ゲーム作画演習2	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Mfm22163	ゲーム作画演習3	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Mfm22164	ゲーム作画演習4	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Mfm22171	人体研究1	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mfm22172	人体研究2	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
Mfm22173	人体研究3	選択	演習	1	2・3・4	●		●			
Mfm22174	人体研究4	選択	演習	1	2・3・4	●		●			

マンガ学科

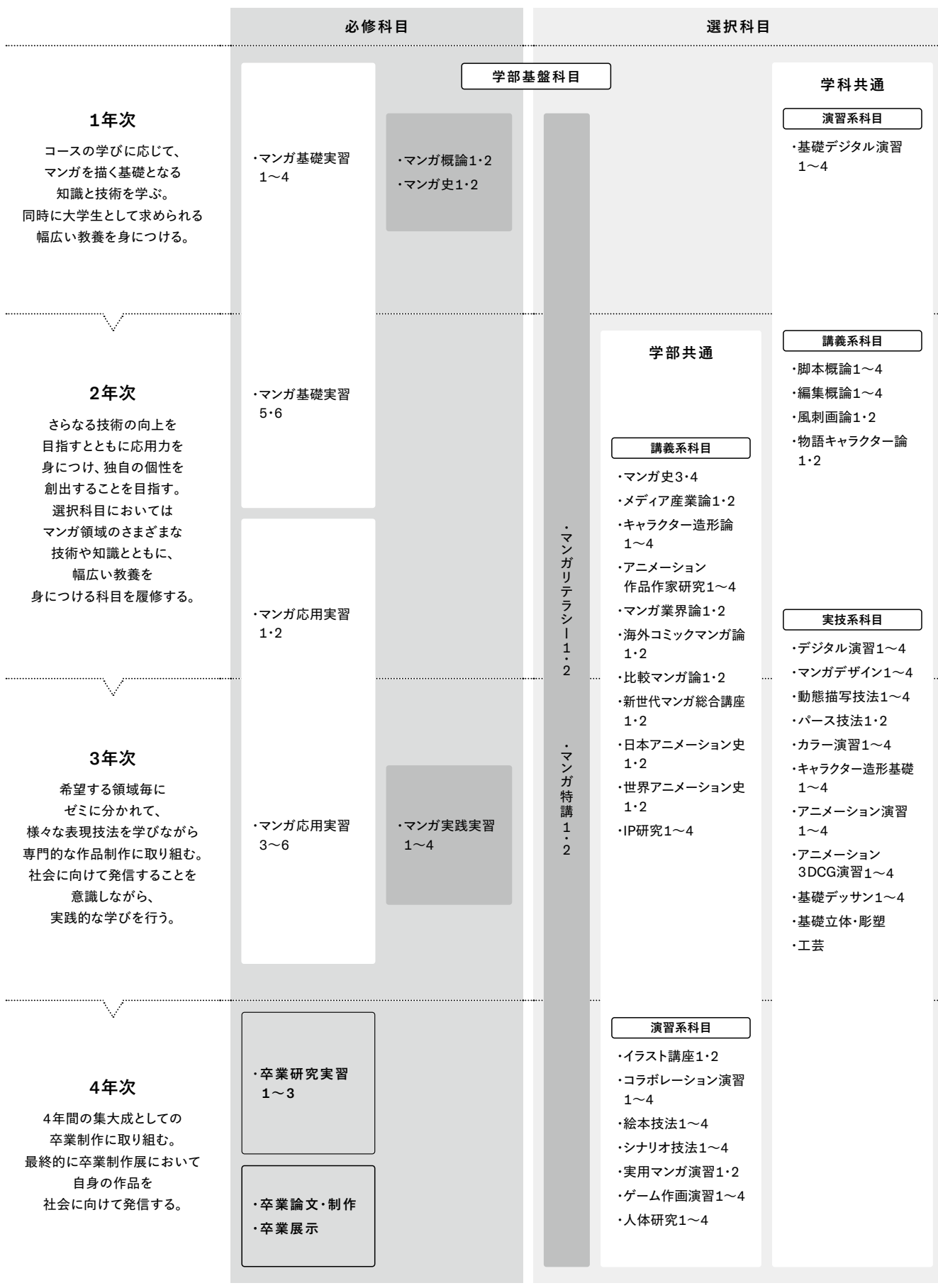
カートゥーンコース／ストーリーマンガコース／
新世代マンガコース／キャラクターデザインコース

マンガ学部 マンガ学科 卒業要件

科目区分	進級要件	必修科目				選択必修科目	選択科目	卒業に要する単位(計)	
		科目名称	配当年次	単位数	小計	小計	小計		
全学共通教育科目	共通教育科目	導入プログラム	○ フレッシュヤーズ・キャンプ	1	1Q	1	24単位	16単位以上	50単位以上
		表現科目	○ クリエイティブ・ワークショップ	1	2Q	1			
			○ コミュニケーションスキル1	1	1Q	1			
			○ コミュニケーションスキル2	1	3Q	1			
			○ アカデミックスキル1	1	2Q	1			
			○ アカデミックスキル2	1	4Q	1			
			○ アカデミックスキル3	3	3Q	1			
			○ アカデミックスキル4	3	4Q	1			
		グローバル科目	○ デッサン1	1	1Q	1			
			○ グラフィックデザインソフトスキル	1	2Q	1			
			○ 日本文化概論	2	4Q	1			
			○ 英語1/日本語1	1	1Q	1			
		リベラルアーツ科目	○ 英語2/日本語2	1	2Q	1			
			○ 英語3/日本語3	1	3Q	1			
			○ 英語4/日本語4	1	4Q	1			
○ 自由論	1		3Q	1					
○ シティズンシップとダイバーシティ	1		4Q	1					
○ 創造的思考法	1		3Q	1					
○ 情報と倫理	1		1Q	1					
○ 人権と教育	2		3Q	1					
○ グローバル化と社会	2		2Q	1					
○ 情報科学概論	1		2Q	1					
キャリア科目	○ データサイエンス入門	2	1Q	1					
	○ キャリア1	1	1Q	1					
社会実践力育成プログラム									
マイナー科目					10単位以上(※)				
学部専門教育科目	専門実習科目	基礎実習科目	○ マンガ基礎実習1	1	1Q	2	38単位	74単位以上	124単位以上
			○ マンガ基礎実習2	1	2Q	2			
			○ マンガ基礎実習3	1	3Q	2			
			○ マンガ基礎実習4	1	4Q	2			
			○ マンガ基礎実習5	2	1Q	2			
			○ マンガ基礎実習6	2	2Q	2			
		応用実習科目	○ マンガ応用実習1	2	3Q	2			
			○ マンガ応用実習2	2	4Q	2			
			● マンガ応用実習3	3	1Q	2			
			● マンガ応用実習4	3	2Q	2			
			● マンガ実践実習1	3	1Q	1			
			● マンガ実践実習2	3	2Q	1			
		卒業実習科目	● マンガ実践実習3	3	3Q	1			
			● マンガ実践実習4	3	4Q	1			
			● マンガ応用実習5	3	3Q	2			
● マンガ応用実習6	3		4Q	2					
○ 卒業研究実習1	4		1Q	2					
卒業論文・卒業制作	○ 卒業研究実習2	4	2Q	2					
	○ 卒業研究実習3	4	3Q	2					
	○ 卒業論文・卒業制作	4	4Q	2					
	○ 卒業展示	4	4Q	2					
専門講義・演習科目	マンガ学部 基盤科目	○ マンガ概論1	1	1Q	1	4単位	32単位以上		
		○ マンガ概論2	1	2Q	1				
		○ マンガ史1	1	3Q	1				
○ マンガ史2	1	4Q	1						
マンガ学部 共通科目									
マンガ学部 共通科目									

(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位分を選択科目の修得単位とみなす。

進級要件	〈1年次から2年次〉	1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)。
	〈2年次から3年次/○印〉	○全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。○学部専門の1・2年次必修科目の20単位をすべて修得していること。
	〈3年次から4年次/●印〉	●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。



マンガ学部 マンガ学科 履修モデル



マンガ学部 マンガ学科

「アートと教養をむすびつけた深みのある作品を描くマンガ家志望の学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ クリエイティブ・ワークショップ	必修 必修	1 1									2		
	表現科目	コミュニケーションスキル1	必修	1	現代美術概論	選択	2	アカデミックスキル3	必修	1	表現と倫理	選択	2		
		コミュニケーションスキル2	必修	1				アカデミックスキル4	必修	1					
		アカデミックスキル1	必修	1											
		アカデミックスキル2	必修	1											
		デッサン1	必修	1											
	グローバル科目	グラフィックデザインソフトスキル	必修	1											
		英語1/日本語1	必修	1	日本文化概論	必修	1								
		英語2/日本語2	必修	1	現代社会の諸問題	選択	2								
		英語3/日本語3	必修	1											
	リベラル アーツ科目	英語4/日本語4	必修	1											
		自由論	必修	1	グローバル化と社会	必修	1								
		シティズンシップとダイバーシティ	必修	1	データサイエンス入門	必修	1								
		創造的思考法	必修	1	人権と教育	必修	1								
		情報と倫理	必修	1											
		情報科学概論	必修	1											
		障害論	選択	2											
	キャリア 科目	民俗学	選択	2											
		生物学	選択	2											
	キャリア 科目	キャリア1	必修	1				ポートフォリオ実習1	選択	1					
社会実践力 育成 プログラム							ポートフォリオ実習2	選択	1						
マイナー科目				国内ショートプログラム (工芸イベント運営体験)	選択	2									
				美術概論1	選択	1	美術特講1	選択	2						
				美術史1	選択	1	美術特講2	選択	2						
				美術リテラシー1	選択	2									
			美術リテラシー2	選択	2										
学部専門教育科目	基礎実習 科目・ 応用実習 科目・ 卒業実習 科目	マンガ基礎実習1	必修	2	マンガ基礎実習5	必修	2	マンガ応用実習3	必修	2	卒業研究実習1	必修	2		
		マンガ基礎実習2	必修	2	マンガ基礎実習6	必修	2	マンガ応用実習4	必修	2	卒業研究実習2	必修	2		
		マンガ基礎実習3	必修	2	マンガ応用実習1	必修	2	マンガ応用実習5	必修	2	卒業研究実習3	必修	2		
		マンガ基礎実習4	必修	2	マンガ応用実習2	必修	2	マンガ応用実習6	必修	2	卒業論文・卒業制作	必修	2		
							マンガ実践実習1	必修	1	卒業展示	必修	2			
							マンガ実践実習2	必修	1						
							マンガ実践実習3	必修	1						
							マンガ実践実習4	必修	1						
	マンガ 学部 基盤科目	マンガ概論1	必修	1											
		マンガ概論2	必修	1											
		マンガ史1	必修	1											
		マンガ史2	必修	1											
	専門 選択科目 (講義・演習)	基礎デジタル演習1	選択	1	キャラクター造形論1	選択	1	マンガ業界論1	選択	1	世界アニメーション史1	選択	1		
		基礎デジタル演習2	選択	1	キャラクター造形論2	選択	1	マンガ業界論2	選択	1	世界アニメーション史2	選択	1		
					キャラクター造形論3	選択	1	シナリオ技法1	選択	1	実用マンガ演習1	選択	1		
					キャラクター造形論4	選択	1	シナリオ技法2	選択	1	実用マンガ演習2	選択	1		
					海外コミックマンガ論1	選択	1	シナリオ技法3	選択	1					
					海外コミックマンガ論2	選択	1	シナリオ技法4	選択	1					
					脚本概論1	選択	1	カラー演習1	選択	1					
					脚本概論2	選択	1	カラー演習2	選択	1					
				脚本概論3	選択	1	カラー演習3	選択	1						
				脚本概論4	選択	1	カラー演習4	選択	1						
				マンガデザイン1	選択	1	物語キャラクター論1	選択	1						
				マンガデザイン2	選択	1	物語キャラクター論2	選択	1						
			マンガデザイン3	選択	1										
			マンガデザイン4	選択	1										

マンガ学部 マンガ学科 専門教育科目 科目一覧

マンガ学科共通 専門講義・演習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
マンガ学科共通科目	Mdm23001	脚本概論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mdm23002	脚本概論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mdm23003	脚本概論3	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mdm23004	脚本概論4	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mdm23011	編集概論1	選択	講義	1	2・3・4	●				●
	Mdm23012	編集概論2	選択	講義	1	2・3・4	●				●
	Mdm23013	編集概論3	選択	講義	1	2・3・4	●				●
	Mdm23014	編集概論4	選択	講義	1	2・3・4	●				●
	Mdm23021	風刺画論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mdm23022	風刺画論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mdm23031	物語キャラクター論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	Mdm23032	物語キャラクター論2	選択	講義	1	2・3・4		●			
	Mdm13041	基礎デジタル演習1	選択	演習	1	1・2・3・4	●				
	Mdm13042	基礎デジタル演習2	選択	演習	1	1・2・3・4	●				
	Mdm13043	基礎デジタル演習3	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Mdm13044	基礎デジタル演習4	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Mdm23051	デジタル演習1	選択	演習	1	2・3・4	●				
	Mdm23052	デジタル演習2	選択	演習	1	2・3・4	●				
	Mdm23053	デジタル演習3	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Mdm23054	デジタル演習4	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Mdm23061	マンガデザイン1	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Mdm23062	マンガデザイン2	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Mdm23063	マンガデザイン3	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Mdm23064	マンガデザイン4	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Mdm23071	動態描写技法1	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23072	動態描写技法2	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23073	動態描写技法3	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23074	動態描写技法4	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23081	パース技法1	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23082	パース技法2	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23091	カラー演習1	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23092	カラー演習2	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23093	カラー演習3	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23094	カラー演習4	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23101	キャラクター造形基礎1	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Mdm23102	キャラクター造形基礎2	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Mdm23103	キャラクター造形基礎3	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Mdm23104	キャラクター造形基礎4	選択	演習	1	2・3・4	●	●	●		
	Mdm23111	アニメーション演習1	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Mdm23112	アニメーション演習2	選択	演習	1	2・3・4			●	●	

マンガ学部 マンガ学科 専門教育科目 科目一覧

マンガ学科共通 専門講義・演習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
マンガ学科共通科目	Mdm23113	アニメーション演習3	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Mdm23114	アニメーション演習4	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	Mdm23121	アニメーション3DCG演習1	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23122	アニメーション3DCG演習2	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23123	アニメーション3DCG演習3	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23124	アニメーション3DCG演習4	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Mdm23131	基礎デッサン1	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Mdm23132	基礎デッサン2	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Mdm23133	基礎デッサン3	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Mdm23134	基礎デッサン4	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Mfm23011	基礎立体・彫塑	選択	演習	2	2・3・4			●		
	Mfm23021	工芸	選択	演習	2	2・3・4			●		

カートゥーンコース 専門実習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	Mct10001	マンガ基礎実習1	必修	実習	2	1	●		●		
	Mct10002	マンガ基礎実習2	必修	実習	2	1	●		●		
	Mct10003	マンガ基礎実習3	必修	実習	2	1	●		●		
	Mct10004	マンガ基礎実習4	必修	実習	2	1	●		●		
	Mct20005	マンガ基礎実習5	必修	実習	2	2	●		●		
	Mct20006	マンガ基礎実習6	必修	実習	2	2	●		●		
応用実習科目	Mct20011	マンガ応用実習1	必修	実習	2	2		●	●		
	Mct20012	マンガ応用実習2	必修	実習	2	2		●	●		
	Mct30013	マンガ応用実習3	必修	実習	2	3		●	●		
	Mct30014	マンガ応用実習4	必修	実習	2	3		●	●		
	Mct30015	マンガ応用実習5	必修	実習	2	3		●	●		
	Mct30016	マンガ応用実習6	必修	実習	2	3		●	●		
	Mct30021	マンガ実践実習1	必修	実習	1	3				●	●
	Mct30022	マンガ実践実習2	必修	実習	1	3				●	●
	Mct30023	マンガ実践実習3	必修	実習	1	3				●	●
	Mct30024	マンガ実践実習4	必修	実習	1	3				●	●
卒業実習科目	Mct40031	卒業研究実習1	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Mct40032	卒業研究実習2	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Mct40033	卒業研究実習3	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Mct40041	卒業論文・卒業制作	必修	成果評定	2	4	●	●	●		
	Mct40051	卒業展示	必修	実習	2	4				●	●

ストーリーマンガコース 専門実習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	Msm10001	マンガ基礎実習1	必修	実習	2	1	●		●		
	Msm10002	マンガ基礎実習2	必修	実習	2	1	●		●		
	Msm10003	マンガ基礎実習3	必修	実習	2	1	●		●		
	Msm10004	マンガ基礎実習4	必修	実習	2	1	●		●		
	Msm20005	マンガ基礎実習5	必修	実習	2	2	●		●		
	Msm20006	マンガ基礎実習6	必修	実習	2	2	●		●		
応用実習科目	Msm20011	マンガ応用実習1	必修	実習	2	2		●	●		
	Msm20012	マンガ応用実習2	必修	実習	2	2		●	●		
	Msm30013	マンガ応用実習3	必修	実習	2	3		●	●		
	Msm30014	マンガ応用実習4	必修	実習	2	3		●	●		
	Msm30015	マンガ応用実習5	必修	実習	2	3		●	●		
	Msm30016	マンガ応用実習6	必修	実習	2	3		●	●		
	Msm30021	マンガ実践実習1	必修	実習	1	3				●	●
	Msm30022	マンガ実践実習2	必修	実習	1	3				●	●
	Msm30023	マンガ実践実習3	必修	実習	1	3				●	●
	Msm30024	マンガ実践実習4	必修	実習	1	3				●	●
卒業実習科目	Msm40031	卒業研究実習1	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Msm40032	卒業研究実習2	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Msm40033	卒業研究実習3	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Msm40041	卒業論文・卒業制作	必修	成果 評定	2	4	●	●	●		
	Msm40051	卒業展示	必修	実習	2	4				●	●

新世代マンガコース 専門実習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	Mng10001	マンガ基礎実習1	必修	実習	2	1	●		●		
	Mng10002	マンガ基礎実習2	必修	実習	2	1	●		●		
	Mng10003	マンガ基礎実習3	必修	実習	2	1	●		●		
	Mng10004	マンガ基礎実習4	必修	実習	2	1	●		●		
	Mng20005	マンガ基礎実習5	必修	実習	2	2	●		●		
	Mng20006	マンガ基礎実習6	必修	実習	2	2	●		●		
応用実習科目	Mng20011	マンガ応用実習1	必修	実習	2	2		●	●		
	Mng20012	マンガ応用実習2	必修	実習	2	2		●	●		
	Mng30013	マンガ応用実習3	必修	実習	2	3		●	●		
	Mng30014	マンガ応用実習4	必修	実習	2	3		●	●		
	Mng30015	マンガ応用実習5	必修	実習	2	3		●	●		

マンガ学部 マンガ学科 専門教育科目 科目一覧

新世代マンガコース 専門実習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
応用実習科目	Mng30016	マンガ応用実習6	必修	実習	2	3		●	●		
	Mng30021	マンガ実践実習1	必修	実習	1	3				●	●
	Mng30022	マンガ実践実習2	必修	実習	1	3				●	●
	Mng30023	マンガ実践実習3	必修	実習	1	3				●	●
	Mng30024	マンガ実践実習4	必修	実習	1	3				●	●
卒業実習科目	Mng40031	卒業研究実習1	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Mng40032	卒業研究実習2	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Mng40033	卒業研究実習3	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Mng40041	卒業論文・卒業制作	必修	成果評定	2	4	●	●	●		
	Mng40051	卒業展示	必修	実習	2	4				●	●

キャラクターデザインコース 専門実習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	Mcd10001	マンガ基礎実習1	必修	実習	2	1	●		●		
	Mcd10002	マンガ基礎実習2	必修	実習	2	1	●		●		
	Mcd10003	マンガ基礎実習3	必修	実習	2	1	●		●		
	Mcd10004	マンガ基礎実習4	必修	実習	2	1	●		●		
	Mcd20005	マンガ基礎実習5	必修	実習	2	2	●		●		
	Mcd20006	マンガ基礎実習6	必修	実習	2	2	●		●		
応用実習科目	Mcd20011	マンガ応用実習1	必修	実習	2	2		●	●		
	Mcd20012	マンガ応用実習2	必修	実習	2	2		●	●		
	Mcd30013	マンガ応用実習3	必修	実習	2	3		●	●		
	Mcd30014	マンガ応用実習4	必修	実習	2	3		●	●		
	Mcd30015	マンガ応用実習5	必修	実習	2	3		●	●		
	Mcd30016	マンガ応用実習6	必修	実習	2	3		●	●		
	Mcd30021	マンガ実践実習1	必修	実習	1	3				●	●
	Mcd30022	マンガ実践実習2	必修	実習	1	3				●	●
	Mcd30023	マンガ実践実習3	必修	実習	1	3				●	●
	Mcd30024	マンガ実践実習4	必修	実習	1	3				●	●
卒業実習科目	Mcd40031	卒業研究実習1	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Mcd40032	卒業研究実習2	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Mcd40033	卒業研究実習3	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Mcd40041	卒業論文・卒業制作	必修	成果評定	2	4	●	●	●		
	Mcd40051	卒業展示	必修	実習	2	4				●	●

アニメーション学科 アニメーションコース

マンガ学部 アニメーション学科 卒業要件

科目区分	必修科目					小計	選択必修科目 小計	選択科目 小計	卒業に要する 単位(計)
	進級 要件	科目名称	配当年次	単位数	小計				
全学共通教育科目	導入プログラム	○ フレッシュャーズ・キャンプ	1	1Q	1	24単位		16単位 以上	50 単位 以上
		○ クリエイティブ・ワークショップ	1	2Q	1				
	表現科目	○ コミュニケーションスキル1	1	1Q	1				
		○ コミュニケーションスキル2	1	3Q	1				
		○ アカデミックスキル1	1	2Q	1				
		○ アカデミックスキル2	1	4Q	1				
		○ アカデミックスキル3	3	3Q	1				
		○ アカデミックスキル4	3	4Q	1				
		○ デッサン1	1	1Q	1				
	グローバル科目	○ グラフィックデザインソフトスキル	1	2Q	1				
		○ 日本文化概論	2	4Q	1				
		○ 英語1/日本語1	1	1Q	1				
		○ 英語2/日本語2	1	2Q	1				
		○ 英語3/日本語3	1	3Q	1				
リベラルアーツ科目	○ 英語4/日本語4	1	4Q	1					
	○ 自由論	1	3Q	1					
	○ シティズンシップとダイバーシティ	1	4Q	1					
	○ 創造的思考法	1	3Q	1					
	○ 情報と倫理	1	1Q	1					
	○ 人権と教育	2	3Q	1					
	○ グローバル化と社会	2	2Q	1					
キャリア科目	○ 情報科学概論	1	2Q	1					
	○ データサイエンス入門	2	1Q	1					
社会実践力育成プログラム	○ キャリア1	1	1Q	1					
マイナー科目						10単位以上(※)			
学部専門教育科目	基礎実習科目	○ アニメーション基礎実習1	1	1Q	2	38単位		74 単位 以上	124 単位 以上
		○ アニメーション基礎実習2	1	2Q	2				
		○ アニメーション基礎実習3	1	3Q	2				
		○ アニメーション基礎実習4	1	4Q	2				
		○ アニメーション基礎実習5	2	1Q	2				
		○ アニメーション基礎実習6	2	2Q	2				
	応用実習科目	○ アニメーション応用実習1	2	3Q	2				
		○ アニメーション応用実習2	2	4Q	2				
		● アニメーション応用実習3	3	1Q	2				
		● アニメーション応用実習4	3	2Q	2				
		● アニメーション実践実習1	3	1Q	1				
		● アニメーション実践実習2	3	2Q	1				
		● アニメーション実践実習3	3	3Q	1				
		● アニメーション実践実習4	3	4Q	1				
		● アニメーション応用実習5	3	3Q	2				
		● アニメーション応用実習6	3	4Q	2				
	卒業実習科目	○ 卒業研究実習1	4	1Q	2				
		○ 卒業研究実習2	4	2Q	2				
		○ 卒業研究実習3	4	3Q	2				
○ 卒業論文・卒業制作		4	4Q	2					
○ 卒業展示		4	4Q	2					
マンガ学部 基盤科目	○ マンガ概論1	1	1Q	1	4単位		32単位 以上		
	○ マンガ概論2	1	2Q	1					
	○ マンガ史1	1	3Q	1					
	○ マンガ史2	1	4Q	1					
マンガ学部 共通科目									
アニメーション学科 共通科目									

(※) 同一科目区分内の選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位分を選択科目の修得単位とみなす。

進級
要件

〈1年次から2年次〉 1年次終了時に総修得単位数が10単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)。
 〈2年次から3年次/○印〉 ○全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること。○学部専門の1・2年次必修科目の20単位をすべて修得していること。
 〈3年次から4年次/●印〉 ●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。

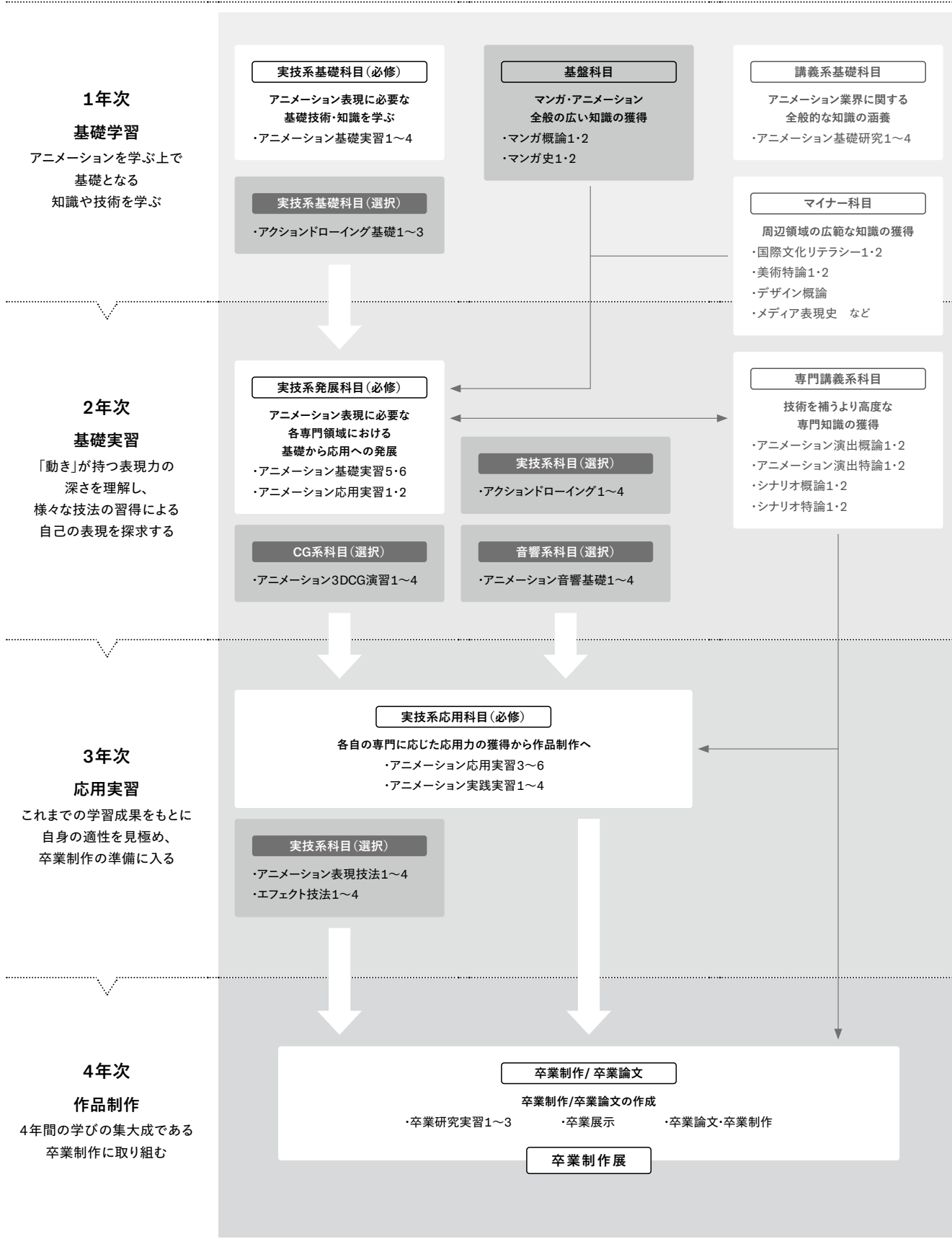
カリキュラム

マンガ学部 マンガ学科(専門教育科目一覽)/アニメーション学科(卒業要件)

マンガ学部 アニメーション学科 カリキュラムマップ

教育目標

- 観察をとおし「動き」の本質を理解した上で、動きの持つ言語性、芝居の重要性にも着目する。また、それを作画、CG、ストップモーション等様々な表現手法で伝える基本的な技術・知識の習得を目指す。
- プロダクションのみならず作品制作に必要なプリプロダクション、ポストプロダクション領域も含めた全般的な技術・知識の獲得も重視し、作品制作を俯瞰的に見ることのできる能力を身につける。



マンガ学部 アニメーション学科 履修モデル



マンガ学部 アニメーション学科

「基本的なアニメート能力を身につけ、将来アニメーション業界で仕事に就きたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数			
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計		
全学共通教育科目	導入プログラム	フレッシュャーズ・キャンプ クリエイティブ・ワークショップ	必修 必修	1 1									2			
	表現科目	コミュニケーションスキル1 コミュニケーションスキル2 アカデミックスキル1 アカデミックスキル2 デッサン1 グラフィックデザインソフトスキル	必修 必修 必修 必修 必修 必修	1 1 1 1 1 1	美学概論	選択	2	アカデミックスキル3 アカデミックスキル4 表現と知的財産権	必修 必修 選択	1 1 2				12		
		グローバル科目	英語1/日本語1 英語2/日本語2 英語3/日本語3 英語4/日本語4 海外ショートプログラム入門	必修 必修 必修 必修 選択	1 1 1 1 2	日本文化概論 English discussion	必修 選択	1 1						8		
			リベラルアーツ科目	自由論 シティズンシップとダイバーシティ 創造的思考法 情報と倫理 情報科学概論	必修 必修 必修 必修 必修	1 1 1 1 1	グローバル化と社会 データサイエンス入門 人権と教育 身体表現論	必修 必修 必修 選択	1 1 1 2	人類と人工知能	選択	2			12	
				キャリア科目	キャリア1	必修	1			クリエイティブの現場	選択	2			3	
				社会実践力育成プログラム				海外ショートプログラム (shared Campus)	選択	2					2	
				マイナー科目				メディア表現概論1 メディア表現史1 アフリカ・アジア史	選択 選択 選択	1 1 1	メディア表現特講1 メディア表現特講2 アフリカ・アジアリテラシー1 アフリカ・アジアリテラシー2	選択 選択 選択 選択	2 2 2 2			11
	基礎実習科目・ 応用実習科目・ 卒業実習科目	アニメーション基礎実習1 アニメーション基礎実習2 アニメーション基礎実習3 アニメーション基礎実習4			必修 必修 必修 必修	2 2 2 2	アニメーション基礎実習5 アニメーション基礎実習6 アニメーション応用実習1 アニメーション応用実習2	必修 必修 必修 必修	2 2 2 2	アニメーション応用実習3 アニメーション応用実習4 アニメーション実践実習1 アニメーション実践実習2 アニメーション実践実習3 アニメーション実践実習4 アニメーション応用実習5 アニメーション応用実習6	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	2 2 1 1 1 1 2 2	卒業研究実習1 卒業研究実習2 卒業研究実習3 卒業論文・卒業制作 卒業展示	必修 必修 必修 必修 必修	2 2 2 2 2	38
		マンガ学部 基盤科目	マンガ概論1 マンガ概論2 マンガ史1 マンガ史2		必修 必修 必修 必修	1 1 1 1										4
			学部専門教育科目 専門 選択科目 (講義・演習)	アニメーション基礎研究1 アニメーション基礎研究2 アニメーション基礎研究3 アニメーション基礎研究4 アクションドローイング基礎1 アクションドローイング基礎2 アクションドローイング基礎3	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	1 1 1 1 1 1 1	アニメーション3DCG演習1 アニメーション3DCG演習2 アニメーション3DCG演習3 アニメーション3DCG演習4 アクションドローイング1 アクションドローイング2 アクションドローイング3 アクションドローイング4 アニメーション演出概論1 アニメーション演出概論2 アニメーション演出概論3 アニメーション演出概論4 人体研究1 人体研究2 人体研究3 人体研究4	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	日本アニメーション史1 日本アニメーション史2 世界アニメーション史1 世界アニメーション史2 ゲーム作画演習1 エフェクト技法1 エフェクト技法2 エフェクト技法3 エフェクト技法4	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	1 1 1 1 1 1 1 1 1			32	

カリキュラム
マンガ学部 アニメーション学科 (カリキュラムマップ/履修モデル)

マンガ学部 アニメーション学科 専門教育科目 科目一覧

専門実習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	他者理解と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	Man10001	アニメーション基礎実習1	必修	実習	2	1	●		●		
	Man10002	アニメーション基礎実習2	必修	実習	2	1	●		●		
	Man10003	アニメーション基礎実習3	必修	実習	2	1	●		●		
	Man10004	アニメーション基礎実習4	必修	実習	2	1	●		●		
	Man20005	アニメーション基礎実習5	必修	実習	2	2	●	●	●		
	Man20006	アニメーション基礎実習6	必修	実習	2	2	●	●	●		
応用実習科目	Man20001	アニメーション応用実習1	必修	実習	2	2		●	●		
	Man20002	アニメーション応用実習2	必修	実習	2	2		●	●		
	Man30003	アニメーション応用実習3	必修	実習	2	3		●	●		
	Man30004	アニメーション応用実習4	必修	実習	2	3		●	●		
	Man30011	アニメーション実践実習1	必修	実習	1	3		●		●	●
	Man30012	アニメーション実践実習2	必修	実習	1	3		●		●	●
	Man30013	アニメーション実践実習3	必修	実習	1	3		●		●	●
	Man30014	アニメーション実践実習4	必修	実習	1	3		●		●	●
	Man30005	アニメーション応用実習5	必修	実習	2	3		●	●		
	Man30006	アニメーション応用実習6	必修	実習	2	3		●	●		
卒業実習科目	Man40021	卒業研究実習1	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Man40022	卒業研究実習2	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Man40023	卒業研究実習3	必修	実習	2	4	●	●	●		
	Man40031	卒業論文・卒業制作	必修	成果 評定	2	4	●	●	●		
	Man40041	卒業展示	必修	実習	2	4			●	●	●

専門講義・演習科目

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	履修 年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考 と考察	技術と表現	他者理解 と協働	社会への 関心と行動
アニメーション学科共通科目	Man13001	アニメーション基礎研究1	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	Man13002	アニメーション基礎研究2	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	Man13003	アニメーション基礎研究3	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	Man13004	アニメーション基礎研究4	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	Man13011	アクションドローイング基礎1	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Man13012	アクションドローイング基礎2	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Man13013	アクションドローイング基礎3	選択	演習	1	1・2・3・4			●		
	Man23021	アニメーション演出概論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Man23022	アニメーション演出概論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Man23033	アニメーション演出特論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Man23034	アニメーション演出特論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Man23041	シナリオ概論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Man23042	シナリオ概論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Man23051	シナリオ特論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Man23052	シナリオ特論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	Man23061	アニメーション3DCG演習1	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Man23062	アニメーション3DCG演習2	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Man23063	アニメーション3DCG演習3	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Man23064	アニメーション3DCG演習4	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Man23071	アニメーション音響基礎1	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Man23072	アニメーション音響基礎2	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Man23073	アニメーション音響基礎3	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Man23074	アニメーション音響基礎4	選択	演習	1	2・3・4	●		●		
	Man23081	アクションドローイング1	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Man23082	アクションドローイング2	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Man23083	アクションドローイング3	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Man23084	アクションドローイング4	選択	演習	1	2・3・4			●		
	Man33091	アニメーション表現技法1	選択	演習	1	3・4			●		
	Man33092	アニメーション表現技法2	選択	演習	1	3・4			●		
	Man33093	アニメーション表現技法3	選択	演習	1	3・4			●		
	Man33094	アニメーション表現技法4	選択	演習	1	3・4			●		
	Man33111	エフェクト技法1	選択	演習	1	3・4			●		
Man33112	エフェクト技法2	選択	演習	1	3・4			●			
Man33113	エフェクト技法3	選択	演習	1	3・4			●			
Man33114	エフェクト技法4	選択	演習	1	3・4			●			
Mfm23011	基礎立体・彫塑	選択	演習	2	2・3・4			●			
Mfm23021	工芸	選択	演習	2	2・3・4			●			

7

大学院 Graduate School

- P.176 人文学研究科 修士課程
- P.180 芸術研究科 博士前期課程
- P.184 デザイン研究科 修士課程
- P.188 マンガ研究科 博士前期課程
- P.194 博士前期課程・修士課程 様式見本
- P.195 博士前期課程・修士課程 カリキュラム構成／科目一覧
- P.196 博士前期課程・修士課程 科目一覧
- P.198 芸術研究科 博士後期課程
- P.202 マンガ研究科 博士後期課程

人文学研究科 修士課程

教育方針

● 育成人材像

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働し、世界の様々な問題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間。

● 教育研究目的

人文学研究科修士課程の教育研究目的は、多角的な視座と追究的な思考をもって物事を認識するとともに、絶えず自己に立ち戻り問い直しながら理解を深め、そうした人文知をもってより良い社会の創出に資することのできる研究者ないし高度専門職業人を育成することです。主体的かつ開かれた創造的な思考力を発揮し、他者と相互に価値を共有しながら新たな価値を社会に見出し表明する力を養います。所定の修了要件をみたし、かつディプロマ・ポリシーに定める5つの能力を修得した者に学位(修士:人文学)を授与します。

● ディプロマ・ポリシー

人文学研究科修士課程を修了した者は、本学カリキュラムを通じて身につけた次の5つの能力をもって、各専門分野を牽引する人材として活躍することが期待されます。

知識と理解	専門分野における新旧の研究成果を熟知するとともに、それによって培われた知性と人間性で社会の発展に貢献できる。
創造的思考と考察	対象を深く考察し既成の枠組みにとらわれない位置づけを試み、複数の視点から問題の本質と問題解決の方向・方法を探ることができる。
技術と表現	各分野での確固たる技術に立脚した追究によって価値観の枠組みを問い直し、社会の関心を得ることができる。
視点と協働	多様な価値観のもとで他者と協調しながら課題解決に取り組むことができる。
社会への関心と行動	高度なコミュニケーション、課題設定などを通して、専門性に立脚しつつ総合的な観点から社会や文化の発展に貢献することができる。

● カリキュラム・ポリシー

人文学研究科修士課程は、学士課程の教育をさらに発展させ、ディプロマ・ポリシーに基づく学位授与を達成するために、共通基盤科目、専門特講科目、専門研究科目を体系的に編成し、講義と演習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

共通基盤科目

共通基盤科目では、各自の専門分野を社会とのかかわりのなかに位置づけ、新しい価値観を見出し表明するのに欠かせない基礎的な能力を高める科目群を配置しています。それらを通じて、プレゼンテーション、英語読解、社会調査、論文執筆などの実践的方法を学ぶことができます。また、PBL(Project-Based Learning)型演習によって高度な社会実践力を養うことができます。

専門特講科目

専門特講科目は、人文学の諸領域に関する高度な専門的講義で構成されています。一定の条件のもと、他研究科の講義を受講することも可能です。他の分野・ジャンルに関する歴史、理論、現代社会とのかかわりについて深く学際的に学ぶことで、一層高度な知性やより高い水準での協働を領域横断的に育むことができます。

専門研究科目

専門研究科目では、学士課程よりもさらに専門的な知識や技法を習得することを目的としています。より専門的な特殊講義を通じて人文学における研究に慣熟する一方、継続的な演習を通じて自身の研究を進めていきます。指導教員を中心とした指導体制のもと、計画書の定期的な提出、各研究室での個別指導、ゼミ報告の実施によって研究の進捗を可視化し、2年間で修士論文の作成を目指します。

修士論文については、2年次前期末および後期中ごろに実施される修士論文中間報告会を通じて、他分野の教員を交えた段階的な指導とチェックの機会が設けられています。また、2年次後期末に実施される修士論文最終報告会は口頭試験を兼ねており、その後、主査と副査からなる学位審査会において厳正に判定され、修了可否についての最終的な評価が下されます。

修了要件

科目区分	修了要件	
共通基盤科目	必修2単位を含む6単位以上	左記30単位以上を修得のうえ 修士論文を提出し 学位審査に合格すること
専門特講科目	人文学研究科から4単位以上および 他研究科から2単位以上、計8単位以上	
専門研究科目	必修8単位を含む16単位以上	

学位審査スケジュール

年次	時期	行事・提出物
1年	4月上旬	◇全研究科合同オリエンテーション ◇人文学研究科オリエンテーション
	8月上旬	◆修士論文中間報告会(前期)
	10月下旬	◆修士論文中間報告会(後期)
	2月上旬	◆修士論文最終報告会 ※2年生の報告を聴講
2年	4月上旬	◇人文学研究科オリエンテーション
	8月上旬	◆修士論文中間報告会(前期)
	10月下旬	◆修士論文中間報告会(後期)
	12月上旬	「学位申請書(修士論文最終題目届)」提出
	1月中旬	「修士論文」提出 「修士論文要旨(和文・英文双方)」提出
	2月上旬	◆修士論文最終報告会 ◆学位審査会
	2月下旬	「修士論文」【完全版】提出 「論文要旨(和文・英文双方)」【完全版】提出
3月20日	◆学位授与式	

※具体的な日程や提出方法は、各年度の始めにお知らせします。

研究指導体制

①指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

②指導体制

指導教員(主査)1名+副査2名=計3名

指導教員(主査)は1年次前期末、副査は2年次前期中に決定します。

1年次前期中は「人文学合同演習」の担当者がアドバイザー教員として1年生を指導し、1年次後期には前期末に決定した指導教員(主査)が「人文学基礎演習」で1年生を指導します。2年次では、「人文学演習1」(前期)および「人文学演習2」(後期)で、指導教員が学位論文の主査として修士論文作成にむけて2年生を指導します。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

各種行事における評価・判定

課程の修了に向け、以下の報告会および審査会が開かれます。

1年次:修士論文中間報告会(前期)、修士論文中間報告会(後期)、修士論文最終報告会

2年次:修士論文中間報告会(前期)、修士論文中間報告会(後期)、修士論文最終報告会、学位審査会

これらの行事では、ルーブリック評価により、評価・判定を行いません。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

機関リポジトリへの登録

学位審査に合格した修士論文もしくは修士論文要旨は機関リポジトリに登録掲載します。

本要領は、本学大学院人文学研究科修士課程に在籍する学生の学位論文に関する研究指導および論文提出等について、本学大学院学則および本学大学院学位規程に基づき、実施に必要な要項を定める。

(1) 課程修了までの流れ

- 学生は、修士論文を在学期間内に提出し、審査を受けなくてはならない。
- 修士論文に関する研究指導は、大学院の研究指導を担当する教員がおこなう。
- 修士論文は、学生の独自性と当該研究分野についての広い理解を示すものでなければならない。
- 学生は、学位申請書、修士論文および修士論文要旨を指定された期日までに、指定された窓口へ提出しなければならない。
- 修士論文が提出された場合は、学位審査委員会を設け、審査をおこなう。
- 学位審査委員会は、提出された修士論文の内容に関する研究分野の専任指導教員(主査)と、研究科委員会において認定された2名以上の専任教員等(副査)により組織する。研究科委員会が必要と認めた場合は、本学教員・他大学教員・研究所の所員等、人文学研究科に所属しない者を審査委員に加えることができる。ただし、学外者の審査委員は、原則1名までとする。
- 学生は、修士論文の審査に先立ち、自らの研究成果を内外に発表するため、研究発表会(修士論文最終報告会)において発表しなければならない。
- 最終試験は、修士論文を提出した者に対し、提出された論文を中心として口頭または筆記によりおこなう。
- 修士論文の審査および最終試験は、学位審査委員がおこなう。その可否は、学位審査委員会の報告に基づき、研究科委員会の議を経て、決定する。
- 課程修了の認定を受けた者の修士論文は、修士論文集という形で社会に公表し、また情報館において永久保存する。

(2) 修士論文について

①使用言語

- 修士論文の執筆用語は原則日本語とする。ただし、指導教員が適当と認めた場合、人文学研究科委員会の承認を経て、日本語以外の言語を用いることができる。

②書式

- 白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。
- マイクロソフトWord形式での提出を原則とする。
- 横書き(1頁の字数は40字×40行)を基本とし、必要に応じて縦書きを認める。
- 枚数の制限は設けない。
- 外表紙、中表紙および本文の形式については様式2・4(P.194)を参照すること。
- 副本はコピー機による複写を可とする。
- 複写は片面とし、鮮明で支障なく読めるものであること。
- 正本、副本ともにフラットファイルに綴じられていること。
- 指導教員の署名を必要とする。
- 以上の書式以外で作成された論文は受け付けない。

③提出

- 提出期限は1月中旬を基本とし、研究科委員会で決定し、通知する。
- まずは、データ(Wordファイル)を所定のフォームより提出すること。
- その後、正本1部、副本3部を教務チーム窓口へ提出すること。
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

(3) 修士論文要旨について

①使用言語および書式

- 要旨は和文・英文双方で作成すること。和文は1,000字、英文は300words程度とする。
- 表紙および本文は様式3・4(P.194)を参照し、本文は修士論文と同一の書式とする。

②提出

- 提出期限は修士論文の提出期限と同様とする。
- まずは、データ(Wordファイル)を所定のフォームより提出すること。
- その後、修士論文とは別紙にした修士論文要旨の表紙および本文の正本1部、副本3部を教務チーム窓口へ提出すること。
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

芸術研究科 博士前期課程

教育方針

● 育成人材像

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働し、世界の様々な問題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間。

● 教育研究目的

芸術研究科博士前期課程の教育研究目的は、高度な技法と思考をもって独創的な表現を創造するアーティストないしは高度専門職業人の育成です。主体的な創造性を発揮し、他者と協働することで新たな価値を社会に向けて創出する力を養います。所定の修了要件をみたし、かつ5つの能力(ディプロマ・ポリシー)を習得した者に学位(修士:芸術)を授与します。

● ディプロマ・ポリシー

芸術研究科博士前期課程を修了した者は、本学カリキュラムを通じて身につけた次の5つの能力をもって、各専門分野を牽引する人材として活躍することが期待されます。

知識と理解	専門分野における新旧の研究制作の成果を熟知するとともに、それによって培われた知性と人間性で社会の発展に貢献できる。
創造的思考と考察	対象をより深く考察することができ、複数の視点から芸術や美術教育に関する問題解決の方法を探ることができる。
技術と表現	各分野での確固たる技術に立脚した表現で現代社会の共感・関心を得ることができる。
視点と協働	多様な価値観のもとで他者と協調しながら芸術や社会に関わる課題解決に取り組むことができる。
社会への関心と行動	高度なコミュニケーション、課題設定などを通じて、総合的な観点から、広く社会や教育の発展に貢献することができる。

● カリキュラム・ポリシー

芸術研究科博士前期課程は、学士課程の教育をさらに発展させ、学位授与(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、共通基盤科目、専門特講科目、専門研究科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

共通基盤科目

共通基盤科目では、各自の専門分野を社会とのかかわりのなかに位置づけ、新しい価値観を創出するのに欠かせない基礎的な能力を高める科目群を配置しています。それらを通じて、プレゼンテーション、英語読解、作品調査、展示手法などの実践的方法を学ぶことができます。また、PBL(Project-Based Learning)型演習によって高度な社会実践力を養うことができます。

専門特講科目

専門特講科目は、芸術理論、美術史、現代アートに関する高度な専門的講義で構成されています。一定の条件のもと、他研究科の講義を受講することも可能です。他の分野・ジャンルに関する歴史、理論、現代社会とのかかわりについて深く学ぶことで、一層高度な知性やより高い水準での協働を領域横断的に育むことができます。

専門研究科目

専門研究科目では、学士課程よりもさらに専門的な知識や技法を習得することを目的としています。複数教員による指導体制のもと、計画書の定期的な提出、8つの専攻での個別指導、ゼミ報告の実施によって研究制作の進捗を可視化し、2年間での修士論文ないしは修士作品の作成を目指します。

修士論文ないしは修士作品については、2年次に8専攻合同で実施される中間発表を通じて、他専攻の教員を交えた段階的な指導とチェックの機会が設けられています。また、2年次2月の学位審査会では、修士論文および修士作品について、専攻を異にする複数教員によってルーブリック評価が実施されます。その厳格な運用を通じて、提出作品の可否について判定が下されます。

修了要件

科目区分	修了要件	
共通基盤科目	必修2単位を含む6単位以上	左記30単位以上を修得のうえ 修士論文または修士作品を提出し 学位審査に合格すること
専門特講科目	芸術研究科から4単位以上および 他研究科から2単位以上、計8単位以上	
専門研究科目	必修16単位以上	

学位審査スケジュール

年次	時期	行事・提出物
1年	4月上旬	◇全研究科合同オリエンテーション ◇芸術研究科オリエンテーション
	8月上旬	◆中間報告会 ※2年生の報告を聴講
	2月中旬	◆最終発表会 ※2年生の発表を聴講
2年	4月上旬	◇芸術研究科オリエンテーション
	8月上旬	◆中間報告会
	12月上旬	「学位申請書(修士論文・修士作品最終題目届)」提出
	1月中旬	「修士論文」または「修士作品」提出 「修士論文要旨」または「修士作品要旨」提出
	2月中旬	◆最終発表会 ◆学位審査会 ◆修了制作展
	3月20日	◆学位授与式

※具体的な日程や提出方法は、各年度の始めにお知らせします。

研究指導体制

①指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

②指導体制

指導教員(主査)1名+副査2名=計3名

指導教員は1年次4月のオリエンテーション時に、副査は2年次前期中に決定します。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

各種行事における評価・判定

課程の修了に向け、以下の報告会および審査会が開かれます。

1年次:なし ※2年次の報告会および発表会を聴講

2年次:中間報告会、最終発表会、学位審査会

これらの行事では、ルーブリック評価により、評価・判定を行いません。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

機関リポジトリへの登録

学位審査に合格した修士論文もしくは修士論文要旨、修士作品もしくは修士作品要旨は機関リポジトリに登録掲載します。

(1) 修士論文・作品について

【修士論文】

①使用言語

論文の執筆用語は原則として日本語とする。ただし、研究分野の性質上、あるいは研究成果を発表するうえでの必要性に鑑み、研究科委員会において認められた場合のみ英語での論文執筆を可とする。英語で論文を執筆する場合は、論文提出時に必ず日本語訳を添付すること。

②書式

- 白紙A4サイズに黒インクで印刷のこと。
- PC使用可。
- 横書き（特に和文の縦書きを希望する場合は、研究指導教員と協議のうえ、研究科長に届け出ること）。
- 使用言語を日本語とする場合は400字詰め原稿50枚以上（注釈・資料を除く）、またはPC使用の場合はA4用紙で20,000字以上（10.5ポイント、1行40字、40行、注釈・資料を除く）とすること。
- 使用言語を英語とする場合は原則 PCを使用し、11,000words以上（注釈・資料を除く）とすること。またA4用紙にダブルスペースにより作成すること。
- 目次の頁を設けること。
- 本文には下段中央に頁数を付与すること。ただし、目次、参考文献、資料等には頁数を付与しないか、別立てで頁数を付与すること。
- 脚注は各頁毎、あるいは各章毎、あるいは本文の最後にまとめる形式のいずれかにすること。
- 本文と注は通しで頁数を付与すること。
- 表紙および本文の形式については、様式2・4(P.194)を参照すること。
- 表紙には研究指導教員の署名・捺印を必要とする。
- 副本は、複写を可とする。
- 複写は片面または両面いずれも可とする。ただし、鮮明で支障なく読めるものであること。
- 以上の書式以外で作成された論文は受け付けない。

③提出

- 提出期限は1月中旬を基本とし、研究科委員会で決定し、通知する。
- まずは、データ（Wordファイル）を所定のフォームより提出すること。
- その後、正本1部、副本3部をそれぞれファイリングのうえ、教務チーム窓口へ提出すること。
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

【修士作品】

- 提出期限は1月中旬を基本とし、研究科委員会で決定し、通知する。
 - 以下2点を教務チーム窓口へ提出すること。
1. 表紙（様式2）：1部
 2. 修士作品の概要がわかるもの（右記、参考例を参照）：1部
- ※1、2は白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。1は研究指導教員の署名・捺印を必要とする。
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

(2) 修士論文・作品要旨について

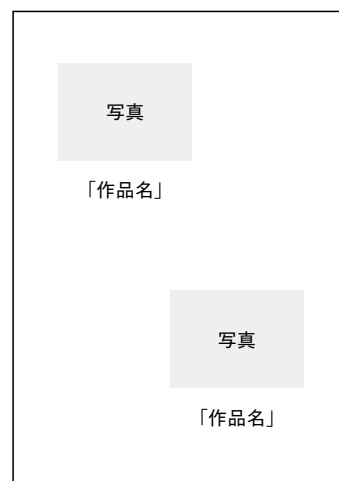
①使用言語および書式

- 要旨の表紙は様式3(P.194)、要旨の本文は様式4(P.194)の書式に従うこと。
- 要旨の本文の文字数は以下の通りとする。
修士論文要旨：日本語2,000字程度または英語1,100words程度
修士作品要旨：日本語800字程度または英語440words程度
- 白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。

②提出

- 提出期限は修士論文・作品の提出期限と同様とする。
- まずは、データ（Wordファイル）を所定のフォームより提出すること。
- その後、以下を教務チーム窓口へ提出すること。
修士論文要旨：表紙および本文の正本1部、副本3部
修士作品要旨：表紙および本文の正本1部
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

参考例



※写真の掲載数は任意とする。
写真の下部にはタイトル、サイズ等を掲載。

デザイン研究科 修士課程

教育方針

● 育成人材像

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働し、世界の様々な問題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間。

● 教育研究目的

デザイン研究科修士課程の教育研究目的は、高度な技法と思考をもって独創的な表現を創造するデザイナーないしデザイン理論研究者の育成です。主体的な創造性を発揮し、他者と協働することで新たな価値を社会に向けて創出する力を養います。所定の修了要件をみたし、かつ5つの能力(ディプロマ・ポリシー)を習得した者に学位(修士:芸術)を授与します。

● ディプロマ・ポリシー

修士課程を修了した者は、本学カリキュラムを通じて身につけた次の5つの能力をもって、各専門分野を牽引する人材として活躍することが期待されます。

知識と理解	専門分野における新旧の研究制作の成果を熟知するとともに、それによって培われた知性と人間性で社会の発展に貢献できる。
創造的思考と考察	対象をより深く考察することができ、複数の視点から問題解決の方法を探ることができる。
技術と表現	各分野での確固たる技術に立脚した表現で社会の共感・関心を得ることができる。
視点と協働	多様な価値観のもとで他者と協調しながら課題解決に取り組むことができる。
社会への関心と行動	高度なコミュニケーション、課題設定などを通して、総合的な社会な観点から社会や教育の発展に貢献することができる。

● カリキュラム・ポリシー

デザイン研究科修士課程は、学士課程の教育をさらに発展させ、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、共通基盤科目、専門特講科目、専門研究科目を体系的に編成し、講義と演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

共通基盤科目

共通基盤科目では、各自の専門分野を社会とのかかわりのなかに位置づけ、新しい価値観を創出するのに欠かせない基礎的な能力を高める科目群を配置しています。それらを通じて、プレゼンテーション、英語読解、作品調査などの実践的方法を学ぶことができます。また、PBL(Project-Based Learning)型演習によって高度な社会実践力を養うことができます。

専門特講科目

専門特講科目は、各領域に関する高度な専門的講義で構成されています。一定の条件のもと、他研究科の講義を受講することが可能です。他の分野・ジャンルに関する歴史、理論、現代社会とのかかわりについて深く学ぶことで、一層高度な知性やより高い水準での協働を領域横断的に育むことができます。

専門研究科目

専門研究科目では、学士課程よりもさらに専門的な知識や技法を習得することを目的としています。複数教員による指導体制のもと、計画書の定期的な提出、2つの専攻(デザイン専攻と建築専攻)での個別指導、ゼミ報告の実施によって研究制作の進捗を可視化し、2年間で修士作品ないしは修士論文の作成を目指します。

修士作品ないしは修士論文については、2年次8月に実施される中間報告会を通じて、他領域の教員を交えた段階的な指導とチェックの機会が設けられています。また、2年次2月に実施される学位審査会では、複数教員が参加するルーブリック評価による厳正な判定が実施され、修了可否についての最終的な評価が下されます。

修了要件

科目区分	修了要件	
共通基盤科目	必修2単位を含む6単位以上	左記30単位以上を修得のうえ 修士論文または修士作品を提出し 学位審査に合格すること
専門特講科目	デザイン研究科から4単位以上および 他研究科から2単位以上、計8単位以上	
専門研究科目	必修16単位以上	

学位審査スケジュール

年次	時期	行事・提出物
1年	4月上旬	◇全研究科合同オリエンテーション ◇デザイン研究科オリエンテーション
	8月上旬	◆中間報告会 ※2年生の報告を聴講
	2月中旬	◆最終発表会 ※2年生の発表を聴講
2年	4月上旬	◇デザイン研究科オリエンテーション
	8月上旬	◆中間報告会
	12月上旬	「学位申請書(修士論文・修士作品最終題目届)」提出
	1月中旬	「修士論文」または「修士作品」提出 「修士論文要旨」または「修士作品要旨」提出
	2月中旬	◆最終発表会 ◆学位審査会 ◆修了制作展
	3月20日	◆学位授与式

※具体的な日程や提出方法は、各年度の始めにお知らせします。

研究指導体制

①指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

②指導体制

〈デザイン専攻〉

指導教員(主査)1名+副査2名=計3名

指導教員および副査は1年次4月のオリエンテーションにて決定します。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

〈建築専攻〉

指導教員(主査)1名+副査2名=計3名

指導教員(主査)は1年次後期末、副査は2年次前期末に、それぞれ面談のうえ、決定します。

1年次では、「建築研究1,2」にて、短期課題を課し、各担当教員が指導します。2年次では、「建築研究3,4」にて、指導教員(主査)が修士作品および研究報告書作成にむけて指導します。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

各種行事における評価・判定

課程の修了に向け、以下の報告会および審査会が開かれます。

1年次:なし ※2年次の報告会および発表会を聴講

2年次:中間報告会、最終発表会、学位審査会

これらの行事では、ルーブリック評価により、評価・判定を行ないます。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

機関リポジトリへの登録

学位審査に合格した修士論文もしくは修士論文要旨、修士作品もしくは修士作品要旨は京都精華大学機関リポジトリに登録掲載します。

(1) 修士論文・作品について

【修士論文】

①使用言語

論文の執筆用語は原則として日本語とする。ただし、研究分野の性質上、あるいは研究成果を発表するうえでの必要性に鑑み、研究科委員会において認められた場合のみ英語での論文執筆を可とする。英語で論文を執筆する場合は、論文提出時に必ず日本語訳を添付すること。

②書式

- 白紙A4サイズに黒インクで印刷のこと。
- PC使用可。
- 横書き（特に和文の縦書きを希望する場合は、研究指導教員と協議のうえ、研究科長に届け出ること）。
- 使用言語を日本語とする場合は400字詰め原稿50枚以上（注釈・資料を除く）、またはPC使用の場合はA4用紙で20,000字以上（10.5ポイント、1行40字、40行、注釈・資料を除く）とすること。
- 使用言語を英語とする場合は原則 PCを使用し、11,000words以上（注釈・資料を除く）とすること。またA4用紙にダブルスペースにより作成すること。
- 目次の頁を設けること。
- 本文には下段中央に頁数を付与すること。ただし、目次、参考文献、資料等には頁数を付与しないか、別立てで頁数を付与すること。
- 脚注は各頁毎、あるいは各章毎、あるいは本文の最後にまとめる形式のいずれかにすること。
- 本文と注は通しで頁数を付与すること。
- 表紙および本文の形式については、様式2・4(P.194)を参照すること。
- 表紙には研究指導教員の署名・捺印を必要とする。
- 副本は、複写を可とする。
- 複写は片面または両面いずれも可とする。ただし、鮮明で支障なく読めるものであること。
- 以上の書式以外で作成された論文は受け付けない。

③提出

- 提出期限は1月中旬を基本とし、研究科委員会で決定し、通知する。
- まずは、データ（Wordファイル）を所定のフォームより提出すること。
- その後、正本1部、副本3部をそれぞれファイリングのうえ、教務チーム窓口へ提出すること。
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

【修士作品】

- 提出期限は1月中旬を基本とし、研究科委員会で決定し、通知する。
 - 以下2点を教務チーム窓口へ提出すること。
1. 表紙（様式2）：1部
 2. 修士作品の概要がわかるもの（右記、参考例を参照）：1部
- ※1、2は白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。1は研究指導教員の署名・捺印を必要とする。
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

(2) 修士論文・作品要旨について

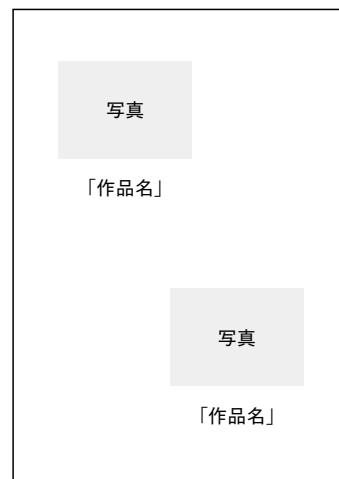
①使用言語および書式

- 要旨の表紙は様式3(P.194)、要旨の本文は様式4(P.194)の書式に従うこと。
- 要旨の本文の文字数は以下の通りとする。
修士論文要旨：日本語2,000字程度または英語1,100words程度
修士作品要旨：日本語800字程度または英語440words程度
- 白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。

②提出

- 提出期限は修士論文・作品の提出期限と同様とする。
- まずは、データ（Wordファイル）を所定のフォームより提出すること。
- その後、以下を教務チーム窓口へ提出すること。
修士論文要旨：表紙および本文の正本1部、副本3部
修士作品要旨：表紙および本文の正本1部
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

参考例



※写真の掲載数は任意とする。
写真の下部にはタイトル、サイズ等を掲載。

マンガ研究科 博士前期課程

教育方針

● 育成人材像

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働し、世界の様々な問題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間。

● 教育研究目的

マンガ研究科博士前期課程の教育研究目的は、高度な技法と思考をもって独創的な表現を創造するアーティストないしは高度専門職業人の育成です。主体的な創造性を発揮し、他者と協働することで新たな価値を社会に向けて創出する力を養います。所定の修了要件をみたし、かつ5つの能力(ディプロマ・ポリシー)を習得した者に学位(修士:芸術)を授与します。

● ディプロマ・ポリシー

マンガ研究科博士前期課程を修了した者は、本学カリキュラムを通じて身に付けた次の5つの能力をもって、各専門分野を牽引する人材として活躍することが期待されます。

知識と理解	専門分野における新旧の制作ないし研究の成果を熟知するとともに、それによって培われた知性と人間性で社会の発展に貢献できる。
創造的思考と考察	対象をより深く考察することができ、複数の視点からマンガやアニメーション教育に関する問題解決の方法を探ることができる。
技術と表現	各分野での確固たる技術に立脚した表現で現代社会の共感・関心を得ることができる。
視点と協働	多様な価値観のもとで他者と協調しながらマンガやアニメーションさらには社会に関わる課題解決に取り組むことができる。
社会への関心と行動	高度なコミュニケーション、課題設定などを通して、総合的な観点から広く社会や教育の発展に貢献することができる。

● カリキュラム・ポリシー

マンガ研究科博士前期課程は、学士課程の教育をさらに発展させ、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、共通基盤科目、専門特講科目、専門研究科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

共通基盤科目

共通基盤科目では、各自の専門分野を社会とのかかわりのなかに位置づけ、新しい価値観を創出するのに欠かせない基礎的な能力を高める科目群を配置しています。それらを通じて、プレゼンテーション、英語読解、作品調査、展示手法などの実践的方法を学ぶことができます。また、PBL(Project-Based Learning)型演習によって高度な社会実践力を養うことができます。

専門特講科目

専門特講科目は、マンガ理論に関する高度な専門的講義で構成されています。一定の条件のもと、他研究科の講義を受講することが可能です。他の分野・ジャンルに関する歴史、理論、現代社会とのかかわりについて深く学ぶことで、一層高度な知性やより高い水準での協働を領域横断的に育むことができます。

専門研究科目

専門研究科目では、学士課程よりもさらに専門的な知識や技法を習得することを目的としています。複数教員による指導体制のもと、計画書の定期的な提出、ゼミにおける報告や発表によって研究制作の進捗を可視化し、2年間で修士論文の執筆ないしは修士作品の制作を目指します。

修士論文ないしは修士作品については、2年次前期に実施される中間報告会を通じて、複数の教員を交えた段階的な指導とチェックの機会が設けられています。また、2年次後期に実施される学位審査会では、修士論文および修士作品について、複数教員によって評価が実施されます。その厳格な運用を通じて、提出作品および論文の可否について判定が下されます。

修了要件

科目区分	修了要件	
共通基盤科目	必修2単位を含む6単位以上	左記30単位以上を修得のうえ 修士論文または修士作品を提出し 学位審査に合格すること
専門特講科目	マンガ研究科から4単位以上および 他研究科から2単位以上、計8単位以上	
専門研究科目	必修16単位以上	

学位審査スケジュール

年次	時期	行事・提出物
1年	4月上旬	◇全研究科合同オリエンテーション ◇マンガ研究科オリエンテーション・主査の決定
	8月上旬	◆構想報告会（公開） ※2年生の報告を聴講
	11月中旬	◆中間報告会（公開） ※2年生の報告を聴講
	2月上旬	◆学位審査会 ※2年生の発表を聴講
2年	4月上旬	◇マンガ研究科オリエンテーション
	6月下旬	副査の決定・報告
	8月上旬	◆構想報告会（公開）
	11月中旬	◆中間報告会（公開）
	12月上旬	「学位申請書（修士論文・修士作品最終題目届）」提出
	1月中旬	「修士論文」または「修士作品」提出 「修士論文要旨」または「修士作品要旨」提出
	2月上旬	◆学位審査会（公開）
	2月中旬	◆修了制作展（修士作品のみ）
	3月20日	◆学位授与式

※具体的な日程や提出方法は、各年度の始めにお知らせします。

研究指導体制

①指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

②指導体制

指導教員(主査)1名+副査2名=計3名

指導教員は1年次4月のオリエンテーション時に、副査は2年次前期中に決定します。

また、理論系においては、2年次前期中に指導教員を変更できる機会があります。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

各種行事における評価・判定

課程の修了に向け、以下の報告会および審査会が開かれます。

1年次:なし ※2年次の報告会および発表会を聴講

2年次:構想報告会、中間報告会、学位審査会

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

機関リポジトリへの登録

学位審査に合格した修士論文もしくは修士論文要旨、修士作品もしくは修士作品要旨は京都精華大学機関リポジトリに登録掲載します。

(1) マンガ研究科修士論文・修士作品の学位審査基準

① 修士論文の学位審査基準

- 当該論文に独創的な問題設定があり、当該領域の先行研究を踏まえたうえで、当該領域の学術的発展に貢献していること。
- 当該論文が調査研究や資料の把握において学問の倫理に従っていること。
- 当該論文が（アニメーションやその他の隣接ジャンルを含む）広義のマンガ文化を主な研究対象としながら、他研究領域に対しても開かれた論述をしていること。

② 修士作品の学位審査基準

- 当該作品が独創的または普遍的な表現領域の可能性を探索し、社会に対して自らの深い思考が具体化されていること。
- 当該作品が表現方法・内容において社会に対して明確なコンセプトを持ち、それに沿ったテーマと素材、技法を選択し、制作されていること。
- 当該作品が多角的視点と想像力に基づき、柔軟で応用力のある制作技術や高度な作法を用い、十分な完成度が認められること。

(2) 修士論文の提出について

① 使用言語

- 論文の執筆言語は原則として日本語とする。ただし、研究分野の性質上、あるいは研究成果を発表する上での必要性に鑑み、研究科委員会において認められた場合のみ英語での執筆を可とする。

② 書式

- 白紙A4サイズに黒インクで印刷のこと。
- PC使用が望ましい。
- 横書き（特に和文の縦書きを希望する場合は、研究指導教員と協議の上、研究科長に届け出ること）。
- 使用言語を日本語とする場合は400字詰め原稿50枚以上（注釈・資料を含む）、またはPC使用の場合はA4用紙で20,000字以上（注釈・資料を含む。文書全体の書式設定において、1行あたりの文字数を40字、1ページあたりの行数を40行に指定のうえ、本文の文字サイズを11ポイント、注釈の文字サイズを9ポイントに設定）とすること。
- 使用言語を英語とする場合は原則PCを使用し、11,000words以上（注釈・資料を含む）とすること。
- また、使用言語を英語とする場合、フォントはTimesNewRomanを使用し、12ポイントとしたうえで、A4用紙1ページあたり35行で作成すること。
- 目次の頁を設けること。
- 本文には下段中央に頁数を付与すること。目次、参考文献、資料等にも頁数を付与すること。
- 図版にはキャプションを付ける。その中には、通し番号と出典（ページ数も含む）を挙げる。キャプションに加え、「参考文献」一覧の直後に、キャプションの全データを含む「図版一覧」を載せる。
- 注記は、脚注または文末注のいずれかにすること。本文と注は通しで頁数を付与すること。注記の書式、参考文献一覧、引用の方法については[マンガ研究科修士論文執筆細則]を参照。
- 表紙および本文の形式については、様式2・4(P.194)を参照すること。表紙には研究指導教員の署名・捺印を必要とする。
- 副本は、コピー機による複写を可とする。
- 複写は片面または両面いずれも可とする。ただし、鮮明で支障なく読めるものであること。
- 以上の書式以外で作成された論文は受け付けない。

③ 提出について

- 正本1部、副本3部をファイリングして提出すること。あわせてそのデータを提出すること。データのフォーマットは、マイクロソフトWordまたはリッチテキスト形式を指定する。Word形式以外の図版などに関しては、提出前に問い合わせること。
- 所定の期限を過ぎた論文および関係書類は受け付けない。
- 修士論文および修士論文要旨の公開に応じる場合は許諾書を記入すること。

④ 修士論文要旨の提出について

- 修士論文要旨を1部提出すること。
- 要旨は日本語で作成すること。ただし、英語での論文執筆の場合、英語の要旨に加え、日本語の要旨も作成すること。
- 和文の場合は2,000字程度、英文の場合は1,100words程度とし、A4用紙を使用すること。
- 要旨は複写でもよい。
- 表紙および本文の様式3・4(P.194)を参照し、本文は修士論文と同一の書式とする。
- 要旨は修士論文とは別に指定された期日までに提出すること。
- 所定の期限を過ぎた要旨は受け付けない。
- 提出時には要旨とあわせてそのデータを提出すること。データはWordで作成すること。

(3) 修士作品の提出について

① 修士作品の提出

- 所定の期日までに以下2点を提出すること。
 1. 表紙(様式2):1部
 2. 修士作品の概要がわかるもの(右記、参考例を参照):1部

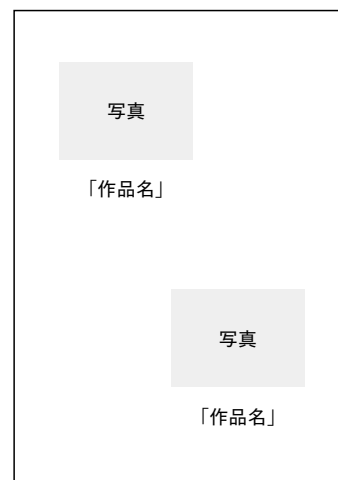
※1、2は白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。
※1には研究指導教員の署名・捺印を必要とする。

② 修士作品の要旨の提出

- 要旨の表紙は様式3(P.194)、要旨の本文は様式4(P.194)の書式に従うこと。
- 要旨の本文の文字数は以下のとおりとする。
修士作品要旨:日本語800字程度または英語440words程度
- 所定の期日までに以下3点を提出すること。
 1. 表紙(様式3):1部
 2. 本文(様式4):1部
 3. データ:1点

※1、2は白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。

参考例



※写真の掲載数は任意とする。
写真の下部にはタイトル、サイズ等を掲載。

(1) 本文

章、節、等々の項目を分けた構成とする。本文中の見出しは左揃えを原則とする。

(2) 修士論文の提出について

- ① 文章は、原則として常用漢字を用い、かなづかいは現代かなづかいと新送りがなに従うものとする。ただし、特別の事由(引用など)があるときは、この限りではない。
- ② 句読点は、'、' および '。' とする。
- ③ カギカッコの用法は以下のとおり。
「 」: (マンガ) 作品名、論文名あるいは引用文の表示に用いる。
『 』: 文中における書名、(マンガ誌を含む) 誌(紙) 名の表示に用いる。
- ④ 数字、ローマ字は半角文字とする。
- ⑤ 外国の固有名詞: 文中初出の人名は、必要に応じてフルネームをカタカナ書きし(ミドルネームの頭文字は原語のままでよい)、その後() で原綴りを付記する。地名、研究機関名等もこれに準ずる。

(3) 文献の直接・間接引用

引用は、目的上正当な範囲に限ること。また必ず出典を(頁数に至まで) 明示すること。本文中および注の文中に下記のように入れる。

[著者名または編者名 □ 刊行年 : 頁数]

- 例: 吉村 2001 : 299;
例: ベルント編 2010 : 2

同一文献から何度も引用する場合も、ibid、上掲書などとせず、上記方式の表記をくりかえす。

(4) 注

注は脚注の機能を使って本文中の当該事項の後に表記し、番号順にする。なお、本文と注とはポイントが異なり、本文を11p、注を9pとする。注には、(本文中行う) 出典表記以外の情報を入れる。(例えば、「～参照」、また補足的解説など)

(5) 図表

図表に番号を付けて、この番号を本文中にも、図表のキャプションにもあげる。本文中で図版の説明をする際、対応する図版を明示する。「図1」、「表3」のように表す。図表のタイトルはキャプションの形で、図の場合は図の下に、表の場合は表の上につける。他の文献から図版を引用する場合には、キャプションの末尾に出典を必ず明示する。出典の記載法は、引用文献の場合に準ずる(引用は公正な慣行に従い、引用の目的上正当な範囲に限ること)。

表記例) 番号、タイトル、出典(頁数を含む)

図版のキャプション(番号、タイトル、出典を含む一覧)は、一括して原稿の最後(つまり文献一覧後)にまとめ、番号順に記載する。

(6) 参考文献

(この参考文献という言葉を用いる。参考文献、引用文献、文献等は不可。)

参考文献一覧は論文末に一括して作成する。参考文献とは、本文中または注において引用などの形で使用したもの(文献、ウェブサイトなど)を指す。マンガ作品を別の一覧にする。

- ① 文献の配列は著者姓名のアルファベット順か、五十音順とする。外国人についても姓名とする。
例: Berndt, Jaqueline または
ベルント、ジャクリーヌ [ベルント・ジャクリーヌは不可]
- ② 記載は以下のようにする。
外国語の雑誌および単行本は題名をイタリックとする。
 - a) 雑誌論文の場合、著者名(改行)、年号、「論文名」、「誌名」、巻(号)、頁数の順とする。
馬淵東一
1935「高砂族の系譜」『民族学研究』1(1), pp.1-16.
HOWELL, Signe
1985 *Formal Speech Act as One Discourse. In: Man*, 21(1), pp.79-101.
 - b) 論文集に掲載されている論文の場合、著者名(改行)、年号、「論題」、「論文集名」、編者名、出版社、頁数(最初～最終)の順とする。
蒲生正男
1949「奄美の民俗・社会」『日本民族学大系』12、大間知篤三、岡正雄、桜田勝徳、関敬吾、最上孝敬編、平凡社、pp.7-21.
MEAD, Margaret
1955 *Implication of Insight-II. In: Childhood in Contemporary Cultures*. Margaret
MEAD and Martha WOLFENSTEIN, eds, pp.449-461.
University of Chicago Press.
 - c) 単行本の場合、著者名(改行)、年号、「書名」、出版社の順とする。
岩淵功一
2001『トランスナショナル・ジャパン』岩波書店
IWABUCHI Koichi
2002 *Recentering Globalization: Popular Culture and Japanese Transnationalism*. Duke University Press
 - d) マンガ作品の場合、マンガ家または原作者・作画者、「題名」『連載雑誌名』(初出年号)、論文に使用した単行本版の出版社、出版年の順とする。
二ノ宮和子「のだめカンタービレ」『KISS』(2001-2010)、全25巻、講談社(コミックスKiss)、2002年～2010年

様式見本

※様式についての詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

様式1 | 学位申請書(最終題目届)見本

_____年____月____日

京都精華大学大学院
_____研究科長 殿

学位申請書

京都精華大学学位規程第5条の規定により、下記の修士論文または修士作品および関係書類を添えて申請いたします。

記

修士論文・修士作品題目
「 _____ 」

概略 (作品にあつては、その解説も記入すること)

研究科： _____ 専攻： _____ 分野 (領域)： _____

学籍番号： _____ 氏名： _____ 印

指導教員承認印 _____ 印

以上

様式2 | 論文・作品題名(表紙)見本

論文・作品題名

京都精華大学大学院 研究科 専攻 分野 (領域)

提出日付： _____

学籍番号： _____

氏 名： _____ 印

研究指導教員名： _____ 印

様式3 | 要旨・(表紙)見本

修士論文・作品要旨

論文・作品題名

京都精華大学大学院 研究科 専攻 分野 (領域)

提出日付： _____

学籍番号： _____

氏 名： _____ 印

様式4 | 本文見本

※Title, Chapter, etc. の区切りに当たる場合の上端余白は、
和文では、3.5cm
英文では、5.0cm を目安とする。

※約 2.5cm

※約 2.5cm

※約 2.5cm

※約 2.5cm

カリキュラム構成／科目一覧

カリキュラム構成

京都精華大学大学院の教育課程の大きな特長は、研究科や領域、そして作家／研究者の違いも超えて、立場の異なる者が交流しながら学ぶことです。まず、4研究科を横断する「共通基盤科目」では、表現の根本思想・哲学を学ぶ「表現特論」、表現の創造過程を学び多様なイメージ形成能力の育成をはかる「知的創造特論」のほか、社会に展開するプロジェクトを運営するための企画力を養う科目、実際に学外団体とのコラボレーションを行う実践的な科目など、社会と連携したプログラムが設置されています。また、各研究科の専門的な講義科目である「専門特講科目」においては、個々の研究テーマに沿って他研究科の科目を受講することができます。「専門研究科目」では、各領域において各自の研究テーマに沿った作品制作、理論研究を行います。

人文学研究科	芸術研究科	デザイン研究科	マンガ研究科
共通基盤科目			
<ul style="list-style-type: none"> ・表現特論 ・知的創造特論 ・プロジェクト企画演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトワーク演習1 ・プロジェクトワーク演習2 ・プレゼンテーション演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・学術論文演習1 ・学術論文演習2 ・原書講読1 ・原書講読2 	
専門特講科目			
<ul style="list-style-type: none"> ・表象領域特講1 ・表象領域特講2 ・表象領域特講3 ・表象領域特講4 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術理論特講 ・表現領域特講1 ・表現領域特講2 ・表現領域特講3 ・表現領域特講4 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン理論特講 ・創造領域特講1 ・創造領域特講2 ・創造領域特講3 ・創造領域特講4 	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガ理論特講 ・マンガ領域特講1 ・マンガ領域特講2 ・マンガ領域特講3 ・マンガ領域特講4
専門研究科目			
<ul style="list-style-type: none"> ・人文学合同演習 ・人文学基礎演習 ・人文学演習1 ・人文学演習2 ・人文学特殊講義1 ・人文学特殊講義2 ・人文学特殊講義3 ・人文学特殊講義4 ・人文学特殊講義5 ・人文学特殊講義6 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術研究1 ・芸術研究2 ・芸術研究3 ・芸術研究4 	<div style="background-color: #cccccc; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">デザイン専攻</div> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン研究1 ・デザイン研究2 ・デザイン研究3 ・デザイン研究4 <div style="background-color: #cccccc; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">建築専攻</div> <ul style="list-style-type: none"> ・建築研究1 ・建築研究2 ・建築研究3 ・建築研究4 ・建築設計特講 ・先端建築技術特講 ・建築家倫理特講 ・建築構造演習 ・建築設備演習 ・建築設計監理演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガ研究1 ・マンガ研究2 ・マンガ研究3 ・マンガ研究4

博士前期課程・修士課程 科目一覧

共通基盤科目

区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
全研究科共通	GMC50015	表現特論	選択	講義	2	1・2	●	●	●		
	GMC50115	知的創造特論	必修	講義	2	1	●	●		●	●
	GMC50215	プロジェクト企画演習	選択	演習	2	1・2				●	●
	GMC50315	プロジェクトワーク演習1	選択	演習	2	1・2				●	●
	GMC50325	プロジェクトワーク演習2	選択	演習	2	1・2		●		●	●
	GMC50415	プレゼンテーション演習	選択	演習	2	1・2			●		●
	GMC50515	学術論文演習1	選択	演習	2	1・2	●	●	●	●	
	GMC50525	学術論文演習2	選択	演習	2	1・2	●	●	●		●
	GMC50615	原書講読1	選択	講義	2	1・2	●	●			
GMC50625	原書講読2	選択	講義	2	1・2	●	●				

専門特講科目

区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
人文学研究科	GMH50115	表象領域特講1	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMH50125	表象領域特講2	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMH50135	表象領域特講3	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMH50145	表象領域特講4	選択	講義	2	1・2	●	●			
芸術研究科	GMA50015	芸術理論特講 ※ ¹	必修	講義	2	1・2	●		●		●
	GMA50115	表現領域特講1	選択	講義	2	1・2		●	●		
	GMA50125	表現領域特講2	選択	講義	2	1・2		●	●		
	GMA50135	表現領域特講3	選択	講義	2	1・2			●	●	
	GMA50145	表現領域特講4	選択	講義	2	1・2		●	●		
デザイン研究科	GMD50015	デザイン理論特講 ※ ²	必修	講義	2	1・2	●	●	●		
	GMD50115	創造領域特講1	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMD50125	創造領域特講2	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMD50135	創造領域特講3	選択	講義	2	1・2	●	●			●
	GMD50145	創造領域特講4	選択	講義	2	1・2	●	●			●
マンガ研究科	GMM50015	マンガ理論特講 ※ ³	必修	講義	2	1・2	●	●			
	GMM50115	マンガ領域特講1	選択	講義	2	1・2		●	●		
	GMM50125	マンガ領域特講2	選択	講義	2	1・2	●		●	●	
	GMM50135	マンガ領域特講3	選択	講義	2	1・2		●			●
	GMM50145	マンガ領域特講4	選択	講義	2	1・2	●	●		●	

※¹ 芸術研究科生のみ履修可

※² デザイン研究科生のみ履修可

※³ マンガ研究科生のみ履修可

専門研究科目

区分	科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配当 年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考 と考察	技術と表現	視点と協働	社会への 関心と行動
人文学研究科	GMH51115	人文学特殊講義1	選択	演習	2	1・2	●	●			
	GMH51125	人文学特殊講義2	選択	演習	2	1・2	●	●			
	GMH51135	人文学特殊講義3	選択	演習	2	1・2	●	●			
	GMH51145	人文学特殊講義4	選択	演習	2	1・2	●	●			
	GMH51155	人文学特殊講義5	選択	演習	2	1・2	●	●			
	GMH51165	人文学特殊講義6	選択	演習	2	1・2	●	●			
	GMH51215	人文学合同演習	必修	演習	2	1	●	●	●	●	●
	GMH51315	人文学基礎演習	必修	演習	2	1	●	●	●	●	●
	GMH51416	人文学演習1	必修	演習	2	2	●	●	●	●	●
	GMH51426	人文学演習2	必修	演習	2	2	●	●	●	●	●
芸術研究科	GMA60015	芸術研究1	必修	演習	4	1		●	●		
	GMA60025	芸術研究2	必修	演習	4	1			●	●	●
	GMA60036	芸術研究3	必修	演習	4	2	●	●	●		
	GMA60046	芸術研究4	必修	演習	4	2		●	●	●	●
デザイン専攻	GMD60015	デザイン研究1	必修	実習	4	1	●	●	●	●	●
	GMD60025	デザイン研究2	必修	実習	4	1	●	●	●	●	●
	GMD60036	デザイン研究3	必修	実習	4	2	●	●	●	●	●
	GMD60046	デザイン研究4	必修	実習	4	2	●	●	●	●	●
デザイン研究科 建築専攻	GMD65015	建築研究1	必修	実習	4	1	●	●	●	●	●
	GMD65025	建築研究2	必修	実習	4	1	●	●	●	●	●
	GMD65036	建築研究3	必修	実習	4	2	●	●	●	●	●
	GMD65046	建築研究4	必修	実習	4	2	●	●	●	●	●
	GMD55015	建築設計特講	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMD55115	先端建築技術特講	選択	講義	2	1・2	●		●		
	GMD55215	建築家倫理特講	選択	講義	2	1・2	●			●	
	GMD65115	建築構造演習	選択	演習	2	1・2	●		●		
	GMD65215	建築設備演習	選択	演習	2	1・2	●		●		
	GMD65315	建築工事監理演習	選択	演習	4	1・2	●		●		
マンガ研究科	GMM60015	マンガ研究1	必修	演習	4	1	●	●			
	GMM60025	マンガ研究2	必修	演習	4	1	●	●			
	GMM60036	マンガ研究3	必修	演習	4	2	●	●	●		
	GMM60046	マンガ研究4	必修	演習	4	2	●	●	●	●	●

芸術研究科 博士後期課程

教育方針

● 育成人材像

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働し、世界の様々な問題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間。

● 教育研究目的

芸術研究科博士後期課程の教育研究目的は、アートやデザインの領域における高度な知性と思考をもって、将来の美術教育を担う学術研究者あるいは高度専門職業人を育成することです。伝統と倫理を尊重し、他者と協働しながら、関心のある分野や対象について深く考究することを通じて先進的な研究に取り組む力を養います。所定の修了要件をみたし、5つの能力(ディプロマ・ポリシー)を習得し、かつ提出した学位論文審査に合格した者に学位(博士:芸術)を授与します。

● ディプロマ・ポリシー

芸術研究科博士後期課程を修了した者は、本学カリキュラムを通じて身に付けた次のような能力をもって、大学において専門分野を牽引する高度専門職業人ないしは研究者・教育者として活躍することが期待されます。

知識と理解	過去から現在に至る研究成果のなかで、未来の展望を予測し、自身の研究をその中に正しく位置づけることができる。
創造的思考と考察	研究対象を多角的に分析し、独創的な見解を創出することができる。
技術と表現	調査対象について複数の資料を的確に整理し、複数の観点から論理的・一貫性のある論文をまとめ上げることができる。
視点と協働	特定の分野において確固たる研究者として自立し、専門分野の問題解決を先導することができる。
社会への関心と行動	高度なコミュニケーションおよび、みずからの分析力と総合力を基盤として、芸術にまつわる知見をもって社会や教育の発展に貢献することができる。

博士学位論文は、専門分野の研究者として将来専門的な職業に従事するのに必要な研究能力と学識が認められるものでなくてはなりません。よって、本学規約で定める形式を満たしたうえで、以下に挙げる項目に基づいて厳正に審査されます。

- (1) 問題設定と研究テーマの妥当性・独自性
- (2) 論文の体系性・全体構成の適切性
- (3) 先行研究の調査・既往研究との関連性
- (4) 方法論の妥当性
- (5) 論旨・主張の整合性と一貫性
- (6) 表現・表記の適切さ

● カリキュラム・ポリシー

京都精華大学大学院博士後期課程では、修士課程の教育をさらに発展させ、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、主査1名・副査2名以上の複数教員による個別具体的な指導を実施します。さらに、表現研究計画演習、表現総合研究(1~3)という授業編成で隣接分野への理解を深めながら、研究テーマ、研究計画、調査手法、文章作成をより専門的に学修していきます。定期的に研究記録書を記載・提出することで研究・調査の進捗を可視化し、3年次での博士論文完成を目指します。

自主的かつ真摯に研究に取り組むことを前提として、博士論文の作成は段階的に進められます。1年次には「公開報告会」で1年間の研究成果を公にすること、新たに探究すべき課題を見出すことが求められます。2年次には、「学位審査予備審査会」にて博士學位論文を執筆するに足る学術的素養を身に付けているのか、3名以上の指導者による審査を受け、審査に合格した者が學位論文提出の資格を得ることができます。3年次には、「学位審査会」にて、主査1名、副査2名以上の教員によって評価が実施されます。その厳格な運用を通じて、提出論文の可否について判定が下されます。

修了要件

科目区分	修了要件	
表現研究計画演習	2単位	左記14単位以上を修得のうえ 博士論文を提出し 審査及び試験に合格すること
表現総合研究1~3	計12単位(4単位×3科目)	

審査スケジュール

実施期間	行事・提出物
1年次	4月 ◇博士後期課程オリエンテーション 「研究指導教員グループ申請書(書式1)」提出
	7月 「研究記録書(書式2)」前期分提出 「研究計画書(書式3)」提出
	1月 「研究記録書(書式2)」後期分提出 「研究状況報告書(書式4)」提出
	2月 ◆公開報告会
2年次	4月 ◇博士後期課程オリエンテーション 「研究指導教員グループ申請書(書式1)」提出 ※必要な院生のみ
	7月 「研究記録書(書式2)」前期分提出
	1月 「研究記録書(書式2)」後期分提出 「研究状況報告書(書式4)」提出
	2月 ◆中間報告会(業績&研究)
3年次	4月 ◇博士後期課程オリエンテーション 「研究指導教員グループ申請書(書式1)」提出 ※必要な院生のみ
	7月 「研究業績一覧」提出 「学位審査予備審査申請書」提出 「学位審査予備審査論文」提出 「研究記録書(書式2)」前期分提出
	10月 ◆業績審査会 ◆予備審査会
	11月 「学位申請書」提出 ※予備審査合格者対象
	1月 「学位請求論文」提出 「研究記録書(書式2)」後期分提出 「研究状況報告書(書式4)」提出
	2月 ◆学位審査会

※具体的な日程や提出方法は、各年度の始めにお知らせします。

研究指導体制

①指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

②指導体制

主指導教員1名+副指導教員(理論)1名+副指導教員(領域不問)1名=計3名以上

③論文指導チューター

週に1日、博士後期課程共同研究室に論文指導チューターが在室し、研究に必要な資料の探し方や文の構成、留学生の場合には日本語の添削などを補助します。 ※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

芸術研究科博士後期課程 科目一覧

科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
						DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
						知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
GDA50017	表現研究計画演習	必修	演習	2	1	●	●	●	●	●
GDA60017	表現総合研究1	必修	実習	4	1	●	●		●	
GDA60028	表現総合研究2	必修	実習	4	2	●		●	●	
GDA60039	表現総合研究3	必修	実習	4	3	●			●	●

「表現研究計画演習」(担当:理論担当教員)

授業の概要および目的	各々の研究範囲とその研究テーマに応じて、指導教員との面談を重ねながら、博士後期課程3年間における研究計画を立案する。総合的な芸術表現の視点を獲得するため、研究方法に対する理解を深め、制作と理論のバランスがとれた調和ある研究計画の設定を行う。
授業計画	週1回、博士後期課程1年次全員が集まり、理論的な文献の講読、自らの作品の分析、あるいは研究に関する発表等を行い、各々にふさわしい理論的サポートを行う。状況に応じてレポートを課すこともある。研究計画の立案が必須となり、「研究計画書」を提出する。7月中旬に主指導教員、副指導教員を交えて学生の3年間の研究計画に関する報告会を開催する。その後、報告会を踏まえた上で、研究計画書を作成し直し、メールへの添付ファイルの形で主指導教員・副指導教員・教務チームへ提出する。
成績評価	授業への参加度

「表現総合研究1」(担当:主指導教員)

授業の概要および目的	主指導教員1名と副指導教員2名以上が、学生の研究領域のテーマに応じて分担または合同で研究指導を行う。次年度に設定される「表現総合研究2」の指導の前提となる研究である。
授業計画	各院生の研究テーマを考慮した上、決定する。
成績評価	授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など) 授業中の口頭発表

「表現総合研究2」（担当:主指導教員）

授業の概要および目的	主指導教員の指導を中心としながら、各自の制作・研究を徹底的に進めて行く。前期・後期を通じて、学位審査予備審査論文の作成を指導する。
授業計画	各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く思考していけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。「表現総合研究2」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受けるごとに、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。指導、助言はメールや電話などを含む。
成績評価	授業への参加度（出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など） 授業中の口頭発表 予備審査論文の内容および予備審査会での口頭試問の内容

「表現総合研究3」（担当:主指導教員）

授業の概要および目的	主指導教員・副指導教員を中心に「表現総合研究1」・「表現総合研究2」における研究の成果を踏まえ、各学生の制作・研究の集大成を目的に指導にあたる。これは学位（博士）申請に関わる論文と作品の審査に直結し、学生の修了要件として単位化される。
授業計画	各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く思考していけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。「表現総合研究3」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受けるごとに、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。指導、助言はメールや電話などを含む。
成績評価	授業への参加度（出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など） 授業中の口頭発表 予備審査論文の内容および予備審査会での口頭試問の内容

※希望により、博士前期課程に開設される基礎理論関係科目および学部開設される専門講義科目の履修を認める場合があります。履修に関しては、教務チームと相談のうえ、科目登録を行ってください。

各種行事における評価・判定

各年次で、以下の報告会または審査会が開かれます。

- 1年次:公開報告会
- 2年次:中間報告会
- 3年次:業績審査会、予備審査会、学位審査会

これらの行事では、ルーブリック評価により、評価・判定を行います。

ルーブリックに関する詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

機関リポジトリへの登録

博士論文・作品の審査及び試験に合格した博士論文・博士作品は、京都精華大学機関リポジトリに登録掲載します。

マンガ研究科 博士後期課程

教育方針

● 育成人材像

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働し、世界の様々な問題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間。

● 教育研究目的

マンガ研究科博士後期課程の教育研究目的は、マンガやアニメーションの領域における高度な知性と思考をもって、将来のマンガ・アニメーション教育を担う学術研究者あるいは高度専門職業人の育成です。過去と倫理を尊重し、他者と協働しながら、関心のある分野や対象について深く考究することを通じて先進的な研究に取り組む力を養います。所定の修了要件をみたし、5つの能力(ディプロマ・ポリシー)を習得し、かつ提出した学位論文審査に合格した者に学位(博士:芸術)を授与します。

● ディプロマ・ポリシー

マンガ研究科博士後期課程を修了した者は、本学カリキュラムを通じて身に付けた次のような能力をもって、大学において専門分野を牽引する高度専門職業人ないしは研究者・教育者として活躍することが期待されます。

知識と理解	過去から現在に至る研究成果のなかで、未来の展望を予測し、自身の研究をその中に正しく位置づけることができる。
創造的思考と考察	研究対象を多角的に分析し、独創的な見解を創出することができる。
技術と表現	調査対象について複数の資料を的確に整理し、複数の観点から論理的・一貫性のある論文をまとめ上げることができる。
視点と協働	特定の分野において確固たる研究者として自立し、専門分野の問題解決を先導することができる。
社会への関心と行動	高度なコミュニケーションおよび、みずからの分析力と総合力を基盤として、マンガ・アニメーションにまつわる知見をもって社会や教育の発展に貢献することができる。

博士学位論文は、専門分野の研究者として将来専門的な職業に従事するのに必要な研究能力と学識が認められるものでなくてはなりません。よって、本学規約で定める形式を満たしたうえで、以下に挙げる項目に基づいて厳正に審査されます。

- (1) 問題設定と研究テーマの妥当性・独自性
- (2) 論文の体系性・全体構成の適切性
- (3) 先行研究の調査・既往研究との関連性
- (4) 方法論の妥当性
- (5) 論旨・主張の整合性と一貫性
- (6) 表現・表記の適切さ
- (7) 学会もしくは一般社会における価値

● カリキュラム・ポリシー

京都精華大学大学院博士後期課程では、博士前期課程の教育をさらに発展させ、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、主査1名・副査2名以上の複数教員による個別具体的な指導を実施します。さらに、マンガ研究計画演習、マンガ総合研究(1~3)という授業編成で研究領域の理解と思考を深め、文献・資料収集・分析の方法を身に付け、研究テーマ、研究計画、調査手法、文章作成をより専門的に学修していきます。定期的に研究記録書を記載・提出することで研究・調査の進捗を可視化し、3年次での博士論文完成を目指します。

自主的かつ真摯に研究に取り組むことを前提として、博士論文の作成は段階的に進められます。2年次以降には、まず「業績審査」において博士学位論文を執筆するに足る業績を持ち、学術的素養を身に付けているのか、3名以上の指導者による審査を受けます。この業績審査に合格した者は博士学位論文の構想を事前に審査する「学位審査予備審査」を3年次以降に受ける資格を得ます。この予備審査を通過した者が博士学位論文を提出できます。提出された論文は「学位審査会」で審査され、主査1名、副査2名以上の教員によって評価が実施されます。なお、予備審査、学位審査の各段階においては、それぞれの基準を示したルーブリックによる厳格な審査が実施され、最終的に提出論文の可否についての判定が下されます。

修了要件

科目区分	修了要件	
マンガ研究計画演習	2単位	左記14単位以上を修得のうえ 博士論文を提出し 審査及び試験に合格すること
マンガ総合研究1~3	計12単位(4単位×3科目)	

審査スケジュール

実施期間	行事・提出物
1年次	4月 ◇博士後期課程オリエンテーション 「研究指導教員グループ申請書(書式1)」提出
	7月 「研究記録書(書式2)」前期分提出 「研究計画書(書式3)」提出
	1月 「研究記録書(書式2)」後期分提出 「研究状況報告書(書式4)」提出
	2月 ◆公開報告会
2年次	4月 ◇博士後期課程オリエンテーション 「研究指導教員グループ申請書(書式1)」提出 ※必要な院生のみ
	7月 「研究記録書(書式2)」前期分提出
	10月 ◆中間報告会(業績&研究)
	1月 「研究記録書(書式2)」後期分提出 「研究状況報告書(書式4)」提出
3年次	4月 ◇博士後期課程オリエンテーション 「研究指導教員グループ申請書(書式1)」提出 ※必要な院生のみ
	7月 「研究業績一覧」提出 「学位審査予備審査申請書」提出 「学位審査予備審査論文」提出 「研究記録書(書式2)」前期分提出
	10月 ◆業績審査会 ◆予備審査会
	11月 「学位申請書」提出 ※予備審査合格者対象
	1月 「学位請求論文」提出 「研究記録書(書式2)」後期分提出 「研究状況報告書(書式4)」提出
	2月 ◆学位審査会

※具体的な日程や提出方法は、各年度の始めにお知らせします。

研究指導体制

①指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

②指導体制

主指導教員1名+副指導教員2名以上=計3名以上

③論文指導チューター

週に1日、博士後期課程共同研究室に論文指導チューターが在室し、研究に必要な資料の探し方や文の構成、留学生の場合には日本語の添削などを補助します。 ※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

マンガ研究科博士後期課程 科目一覧

科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
						DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
						知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
GDM50017	マンガ研究計画演習	必修	演習	2	1	●	●			
GDM60017	マンガ総合研究1	必修	実習	4	1	●	●	●	●	
GDM60028	マンガ総合研究2	必修	実習	4	2	●	●	●	●	
GDM60028	マンガ総合研究3	必修	実習	4	3	●	●	●	●	●

「マンガ研究計画演習」(担当:理論担当教員)

授業の概要および目的	各々の研究範囲とその研究テーマに応じて、指導教員との面談を重ねながら、博士後期課程3年間における研究計画を立案する。総合的なマンガ表現の視点を獲得するため、研究方法に対する理解を深め、制作と理論のバランスがとれた調和ある研究計画の設定を行う。
授業計画	週1回、博士後期課程1年次全員が集まり、理論的な文献の講読、自らの作品の分析、あるいは研究に関する発表等を行い、各々にふさわしい理論的サポートを行う。状況に応じてレポートを課すこともある。研究計画の立案が必須となり、「研究計画書」を提出する。7月中旬に主指導教員、副指導教員を交えて学生の3年間の研究計画に関する報告会を開催する。その後、報告会を踏まえた上で、研究計画書を作成し直し、メールへの添付ファイルの形で主指導教員・副指導教員・教務チームへ提出する。
成績評価	出席・積極的参加 30% 研究計画書の内容 30% 報告会の発表内容 40%

「マンガ総合研究1」(担当:主指導教員)

授業の概要および目的	主指導教員1名と副指導教員2名以上が、学生の研究領域のテーマに応じて分担または合同で研究指導を行う。これは、次年度に設定される「マンガ総合研究2」の指導の前提となる研究である。
授業計画	各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く思考していけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。「マンガ研究計画演習」「マンガ総合研究1」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受ける毎に、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。指導、助言はメールや電話等を含む。また、後期に公開シンポジウム形式の研究計画報告会を開催し、自身の研究計画についてプレゼンテーションを行う。
成績評価	授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など) 50% 授業中の口頭発表 50%

「マンガ総合研究2」(担当:主指導教員)

授業の概要および目的	主指導教員の指導を中心としながら、各自の制作・研究を徹底的に進めて行く。博士論文資格試験のための予習も行う。
授業計画	各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く思考していけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。10月にこれまでの業績について報告する「中間報告会」を開催する。「マンガ総合研究2」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受けるごとに、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。
成績評価	授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など) 50% 授業中の口頭発表 50%

「マンガ総合研究3」(担当:主指導教員)

授業の概要および目的	主指導教員・副指導教員を中心に「マンガ総合研究1」・「マンガ総合研究2」における研究の成果を踏まえ、各学生の制作・研究の集大成を目的に指導にあたる。これは学位(博士)申請に関わる論文と作品の審査に直結し、学生の修了要件として単位化される。
授業計画	各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く思考していけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。10月上旬には学位請求論文の提出要件を満たしているかどうかを審査する「業績審査会」を開催する。また、「予備審査」を経て「学位審査」を行う。「マンガ総合研究3」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受けるごとに、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。
成績評価	授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など) 50% 授業中の口頭発表 50%

※希望により、博士前期課程に開設される基礎理論関係科目および学部開設される専門講義科目の履修を認める場合があります。履修に関しては、教務チームと相談のうえ、科目登録を行ってください。

各種行事における評価・判定

各年次で、以下の報告会または審査会が開かれます。

- 1年次:公開報告会
- 2年次:中間報告会
- 3年次:業績審査会、予備審査会、学位審査会

機関リポジトリへの登録

博士論文の審査及び試験に合格した博士論文は、京都精華大学機関リポジトリに登録掲載します。

8

資格課程

Qualification
Course

資格課程の概要

1. 京都精華大学で取得できる資格

ここでは、定められた授業科目を履修することで取得できる資格について説明します。取得できる資格は入学年度、所属学部・学科・コースによって異なります。建築士（一級、二級、木造）の受験資格については、P.140以降のライフクリエイションコース、建築コース、人間環境デザインプログラムのページで確認してください。教職、博物館学芸員、図書館司書の課程については「資格課程ハンドブック（「セイカ・ポータル」掲載）」も確認してください。

国際文化学部生が取得できる資格

学部	学科	専攻	教職					博物館学芸員	図書館司書
			中一種免許		高一種免許				
			国語	社会	国語	公民	地理歴史		
国際文化	人文	文学	○	-	○	-	-	○	○
		歴史	-	○	-	-	○	○	○
		社会	-	○	-	○	-	○	○
		日本文化	○※	○※	○※	○※	○※	○	○
	グローバルスタディーズ	全専攻	-	○	-	○	-	○	○

※日本文化専攻にて教員免許を希望する場合、また文学、歴史、社会専攻にて所属専攻に○のない教員免許種を希望する場合は負担が大きくなるので必ず教務チーム（資格課程）に相談してください。

メディア表現学部生が取得できる資格

学部	学科	専攻	教職		博物館学芸員	図書館司書
			高一種免許（情報）			
メディア表現	メディア表現	全専攻	○		○	○

芸術・デザイン・マンガ学部生が取得できる資格

学部	学科	コース	教職			博物館学芸員	図書館司書	一級建築士 （受験資格）	二級・木造建築士 （受験資格）
			中一種免許	高一種免許					
			美術	美術	工芸				
芸術	造形		○	○	○	○	○	-	-
デザイン	イラスト	イラスト	○	○	-	○	○	-	-
		グラフィックデザイン デジタルクリエイション	○	○	-	○	○	-	-
	プロダクトデザイン	プロダクトコミュニケーション ライフクリエイション	○	○	○	○	○	-	-
		ファッション	○	○	-	○	○	-	-
		建築	建築	-	-	-	-	-	○
		人間環境デザインプログラム	-	-	-	-	-	○	○
マンガ	マンガ	カートゥーン	○	○	-	○	○	-	-
		ストーリーマンガ	○	○	-	○	○	-	-
		新世代マンガ	○	○	-	○	○	-	-
		キャラクターデザイン	○	○	-	○	○	-	-
	アニメーション	アニメーション	○	○	-	○	○	-	-

2. 課程登録について

資格を取得するためには2年次に必ず課程登録をしてください。

課程登録手続きは次の通りです。

- 登録期間にセイカ・ポータルから課程登録をする（登録方法についての詳細は4月にセイカ・ポータルから告知します）。
- 証明書自動発行機で所定の課程登録料を納付し、登録料納付書を入手する。
- 登録料納付書を教務チーム窓口提出する。

課程名	登録料	登録時期
教職課程	30,000円	2年次の5月頃
博物館学芸員課程	20,000円	
図書館司書課程	10,000円	

必ず課程登録をしよう理由について

資格課程受講に際して授業以外に実習や諸団体への届出等さまざまな手続きが必要です。卒業時に無事資格を取得できるように資格課程担当は希望者を把握しておかなければなりません。登録料は課程を運営する中で必要となる授業や授業以外の諸活動の費用の一部としています。

1. 履修の心得

教職課程は中学校、高等学校教員として働くのに必要な免許状を取得するために設置された課程です。人間の発達段階において、中学生、高校生の時期は感性や豊かな人間性を養う重要な時期であると言えます。本学の教職課程では、そのような重要な時期を担う中学校、高等学校で教職に就く人材として、京都精華大学の教育目標とも共通する「人間を尊重し多様な価値観・文化を受容し」「広い視野と論理的思考に基づき」「多様な人々と共生・協働」できる教師を育成することをめざします。これらの方針を理解したうえで、下に記すような熱意ある学生の履修を望みます。

- 教育に関心があり、教員になりたいと思っている人
- 人と関わる仕事がしたいと思っている人
- 粘り強く、継続して学び続ける姿勢を持っている人
- 芸術、文化を通して、地域や社会に役立ちたいと思っている人

2. 教職課程の4年間の流れ

年次	時期	事項
1年	4月 初旬	教職に関する科目（前期）履修開始／教科に関する科目（前期）履修開始
	10月 初旬	教職に関する科目（後期）履修開始／教科に関する科目（後期）履修開始
2年	3月 下旬 4月 中旬	資格課程ガイダンス 課程登録手続き（～5月初旬）※登録料が必要
	9月 下旬	介護等体験事前指導実施（中学校一種希望者のみ）
	10月 初旬	介護等体験先府県決定
3年	4月 初旬	資格課程ガイダンス／教育実習予定校へ訪問、内諾依頼（～9月）
	5月	介護等体験（前期）開始（～8月）
	10月	介護等体験（後期）開始（～3月）
4年	4月 初旬	資格課程ガイダンス／教育実習受入依頼書の発送（教務チームから発送）
	5月	教育実習（前期）開始
	10月 下旬	教育実習（後期）開始 教員免許状申請説明会（第1回）開催
	11月 下旬	教員免許状申請説明会（第2回）開催
	3月 下旬	教育職員免許状取得

教職課程を履修しようかどうか悩んでいる場合、1年次の間は検討期間になります。教職に関する科目の中で1年次から履修できる科目を履修してみて、自分に向いているか、4年次まで続けられそうか、考えてみましょう。

2年次の4月に「課程登録」手続きを行います。この手続きによって、「教職課程を履修する」という正式な意思表示をすることになります。

教育実習は、中学校一種免許希望者は3週間以上、高校一種免許のみ希望者は2週間以上行います。

3. 教員免許状を取得するために必要な要件

教職課程は、みなさんが所属する学部・学科・コースのカリキュラム(教育課程)とはまったく別のカリキュラムとなります。教員免許状を取得するためには、卒業に必要な単位以外に、教職課程の専門科目の単位を修得する必要があります。

教職に関する科目一覧(全学部共通)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	CQT50013	教職論		★	★	講義	2		○	○		※国際文化学部生は2年次にAクラスを、その他の学部生は3年次にBクラスを履修してください。
	CQT50111	教育原論		★	★	講義	2	○	○	○		
	CQT50211	教育心理学		★	★	講義	2	○	○	○		
	CQT50311	教育制度論		★	★	講義	2	○	○	○		
	CQT50412	教育課程論		★	★	講義	2		○	○		
CQT50352	特別支援教育論		★	★	講義	1		○	○	○		
道徳、総合的な学習の時間、等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	CQT51012	道徳教育論		★		講義	2		○	○		
	CQT51112	特別活動論		★	★	講義	2		○	○		
	CQT51212	教育方法論		★	★	講義	2		○	○		
	CQT51512	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		★	★	講義	1		○	○	○	2022年度以降入学生のみ
	CQT51312	生徒・進路指導論		★	★	講義	2		○	○		
	CQT51412	教育相談		★	★	講義	2		○	○		
	CQT51052	総合的な学習の時間の指導論		★	★	講義	1		○	○	○	
教科及び教科の指導法に関する科目	CQT50513	美術科教育法I	(1)/(2)	★	★	講義	2			○	※	事前に指定されたクラスを受講すること
	CQT50523	美術科教育法II	(1)/(2)	★	★	講義	2			○	※	
	CQT50613	美術科・工芸科教育法I		★	★	講義	2			○	※	
	CQT50623	美術科・工芸科教育法II		★	★	講義	2			○	※	
	CQT50813	情報科教育法I			★	講義	2			○		
	CQT50823	情報科教育法II			★	講義	2			○		
	CQT50913	社会科公民科教育法I		★	★	講義	2			○	社会科、公民科希望者	
	CQT50923	社会科公民科教育法II		★	★	講義	2			○	社会科、公民科希望者	
	CQT50953	社会科地歴科教育法I		★	★	講義	2		○		社会科、地理歴史科希望者	
	CQT50963	社会科地歴科教育法II		★	★	講義	2		○		社会科、地理歴史科希望者	
	CQT50712	国語科教育法I		★	★	講義	2		○		国語科希望者	
	CQT50722	国語科教育法II		★	★	講義	2		○		国語科希望者	
	CQT50733	国語科教育法III		★	★	講義	2			○	国語科希望者	
CQT50743	国語科教育法IV		★	★	講義	2			○	国語科希望者		
教育実践に関する科目	CQT60014	事前・事後指導		★	★	演習	1				○	事前に指定されたクラスを受講すること
	CQT90014	教育実習I		★	★	学外実習	2				○	
	CQT90024	教育実習II		★		学外実習	2				○	
	CQT52114	教職実践演習		★	★	演習	2				○	

※中学校(美術)免許を取得するには3年次に4単位、4年次に4単位、合計8単位が必要

[必修/選択必修の見方: ★ 必修、● 選択必修]

[介護等体験] 中学校教諭一種免許状希望者のみ対象（2年次6月下旬に対象者に案内します）

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修		授業形態	単位数	実施年次				担当者名	専任/兼任	実施時期	曜日	講時	受付科目 先着順	備考
				中	高			1年	2年	3年	4年							
	—	介護等体験事前指導		★	—	講義	なし		○				—	9月頃	—	—		
	—	介護等体験 (学校2日間・施設5日間)		★	—	講義	なし			○		各体験先	—	前期/後期	—	—		

「教科に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」については、所属学科・コース、取得を希望する免許教科ごとに異なるため、P.212以降の各学科・コースの科目一覧を参照してください。

履修上の注意

3年次終了までに以下の科目を修得しなければ、4年次に「教育実習」「教職実践演習」を履修することはできません。

対象科目

「教職論」、「教育原論」、「教育心理学」、「教育制度論」、「教育課程論」、「教科教育法」、
「道徳教育論」(中学校のみ)、「特別活動論」、「教育方法論」、「生徒・進路指導論」、「教育相談」

- ※1 取得を希望する免許教科、所属コースに応じた「教科教育法」を履修してください。詳細は「教職に関する科目一覧(全学部共通)」を参照してください。
 ※2 上記「教科教育法」とは科目区分「教科及び教科の指導法に関する科目」に記載の○○科教育法が該当します。

4. 学部・学科・コース別 教科に関する科目一覧

国際文化学部 人文学科(国語免許)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
				国語	国語							
教科に関する科目	Cgg12211	日本語学概論		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Khu23021	日本語学特講		★	★	講義	2		○	○	○	
	Kgl23121	古文書解読		★	★	講義	2		○	○	○	
	Kgl23061	古典文法		★	★	講義	2		○	○	○	
	Cgg12221	言語学		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Kgl23091	日本文学史		★	★	講義	2		○	○	○	
	Khu22001	文学概論		★	★	講義	2		○	○	○	
	Kgl23051	口承文化論		★	★	講義	2		○	○	○	
	Kgl23071	書誌学		★	★	講義	2		○	○	○	
	Khu22011	日本文学研究1		★	★	講義	2		○	○	○	
	Khu22012	日本文学研究2		★	★	講義	2		○	○	○	
	Kgl23041	漢文学		★	★	講義	2		○	○	○	
Kgl23081	書道		★		講義	2		○	○	○		
大学が独自に設定する科目	CQT53012	人権教育論		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53051	障がい者理解		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53071	学校安全論		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT60012	学校ボランティア		★	★	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	Cla13101	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cgg12011	英語1		★	★	演習	1	○				
	Cgg12012	英語2		★	★	演習	1	○				
	Cla13201	教職コンピュータ入門		★	★	演習	2	○	○	○	○	

国際文化学部 人文学科(社会・地理歴史・公民免許)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修			授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
				中	高				1年	2年	3年	4年	
				社会	地歴	公民							
教科に関する科目	Kgl23131	日本史		★	★		講義	2		○	○	○	
	Kgl23201	西洋史		★	★		講義	2		○	○	○	
	Kgl23211	東洋史		★	★		講義	2		○	○	○	
	Khu22031	日本史研究1		★	★		講義	2		○	○	○	
	Khu22032	日本史研究2		★	★		講義	2		○	○	○	
	Khu22021	歴史学概論		★	★		講義	2		○	○	○	
	Kgl23171	日本地域史			★		講義	2		○	○	○	
	Khu23131	日本思想史			★		講義	2		○	○	○	
	Kgl23191	日本・アジア関係史			★		講義	2		○	○	○	
	Kgl23271	自然地理学		★	★		講義	2		○	○	○	
	Kgl23141	歴史地理学		★	★		講義	2		○	○	○	
	Khu23121	日本の風土		★	★		講義	2		○	○	○	
	Cla13091	法学		★		★	講義	2	○	○	○	○	
	Cla13081	政治学		★		★	講義	2	○	○	○	○	
	Khu22052	社会研究2		★		★	講義	2		○	○	○	
	Kgl23221	社会学		★		★	講義	2		○	○	○	
	Kgl23261	経済学		★		★	講義	2		○	○	○	
	Khu22041	現代社会論		★		★	講義	2		○	○	○	
	Khu22051	社会研究1		★		★	講義	2		○	○	○	
	Kgl23361	国際開発論				★	講義	2		○	○	○	
Kgl13001	哲学概論		★		★	講義	2	○	○	○	○		
Kgl13011	倫理学		★		★	講義	2	○	○	○	○		
Kgl13031	宗教学		★		★	講義	2	○	○	○	○		
Kgl24571	世界の宗教				★	講義	2		○	○	○		
大学が独自に設定する科目	CQT53012	人権教育論		★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53051	障がい者理解		★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53071	学校安全論		★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT60012	学校ボランティア		★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
第66教育職員の免許法施行規則の6に定める科目	Cla13101	日本国憲法	A/B	★	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cgg12011	英語1		★	★	★	演習	1	○				
	Cgg12012	英語2		★	★	★	演習	1	○				
	Cla13201	教職コンピュータ入門		★	★	★	演習	2	○	○	○	○	

4. 学部・学科・コース別 教科に関する科目一覧

国際文化学部 グローバルスタディーズ学科(社会・公民免許)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
				社会	公民							
教科に関する科目	Kgl23131	日本史		★		講義	2		○	○	○	
	Kgl23201	西洋史		★		講義	2		○	○	○	
	Kgl23211	東洋史		★		講義	2		○	○	○	
	Kgl23271	自然地理学		★		講義	2		○	○	○	
	Kgl23141	歴史地理学		★		講義	2		○	○	○	
	Cla13091	法学		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cla13081	政治学		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Kgl23221	社会学		★	★	講義	2		○	○	○	
	Kgl23261	経済学		★	★	講義	2		○	○	○	
	Kgs23041	社会運動論		★	★	講義	2		○	○	○	
	Kgs23091	比較社会学		★	★	講義	2		○	○	○	
	Kgl23361	国際開発論		★	★	講義	2		○	○	○	
	Kgl13001	哲学概論		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Kgl13011	倫理学		★	★	講義	2	○	○	○	○	
Kgl13031	宗教学		★	★	講義	2		○	○	○		
Kgl24571	世界の宗教			★	講義	2		○	○	○		
大学が独自に設定する科目	CQT53012	人権教育論		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53051	障がい者理解		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53071	学校安全論		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT60012	学校ボランティア		★	★	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	Cla13101	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cgg12011	英語1		★	★	演習	1	○				
	Cgg12012	英語2		★	★	演習	1	○				
	Cla13201	教職コンピュータ入門		★	★	演習	2	○	○	○	○	

メディア表現学部 メディア表現学科

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	クラス	必修	授業 形態	単 位 数	履修推奨年次				備考
				高			1年	2年	3年	4年	
				情報							
教科に関する科目	Cla13031	情報と倫理		★	講義	1	○	○	○	○	
	Cla13141	情報科学概論		★	講義	1	○	○	○	○	
	Cla13171	プログラミング1		★	演習	1	○	○	○	○	
	Cla13172	プログラミング2		★	演習	1	○	○	○	○	
	Cla23173	プログラミング3		★	演習	1		○	○	○	
	Tmc33013	応用演習13		★	講義	1			○	○	
	Tmc33014	応用演習14		★	講義	1			○	○	
	Tmc16051	コンピュータ&ネットワーク論		★	講義	2	○	○	○	○	
	Tmc33015	応用演習15		★	講義	1			○	○	
	Tmc33016	応用演習16		★	講義	1			○	○	
	Tmc11001	メディア表現概論1		★	講義	1	○	○	○	○	
	Tmc11002	メディア表現概論2		★	講義	1	○	○	○	○	
	Cla23174	プログラミング4		★	演習	1		○	○	○	
	Tmc16101	教育メディア論		★	講義	2	○	○	○	○	
	Tmc16031	ゲームデザイン論		★	講義	2	○	○	○	○	
	Tmc16011	サウンドスケープ論		★	講義	2	○	○	○	○	
	Tmc11021	メディア表現リテラシー1		★	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	Tmc11022	メディア表現リテラシー2		★	講義	2	○	○	○	○	
	Tmc26001	コンテンツビジネス1		★	講義	1		○	○	○	
	Tmc26002	コンテンツビジネス2		★	講義	1		○	○	○	
Tmc22019	基礎演習19		★	演習	1		○	○	○		
大学が独自に 設定する科目	CQT53012	人権教育論		★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53051	障がい者理解		★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53071	学校安全論		★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT60012	学校ボランティア		★	講義	2	○	○	○	○	
第66教育 職員の6に 定める科目	Cla13101	日本国憲法	A/B	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cgg12011	英語1		★	演習	2	○				
	Cgg12012	英語2		★	演習	2	○				
	Cla13201	教職コンピュータ入門		★	演習	2	○	○	○	○	

4. 学部・学科・コース別 教科に関する科目一覧

芸術学部 造形学科

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修			授業形態	単位数	履修推奨年次				備考	
				中		高			1年	2年	3年	4年		
				美術	美術	工芸								
教科に関する科目	Afa10001	芸術基礎実習1		★	●		実習	2	○				1単位以上選択必修	
	Afa23083	映像メディア表現1		●	●		演習	1		○	○	○		
	Afa23084	映像メディア表現2		●	●		演習	1		○	○	○		
	Afa10003	芸術基礎実習3		★	★		実習	2	○					
	Afa10004	芸術基礎実習4		★	★	★	実習	2	○				1単位以上選択必修	
	Afa23081	映像メディア表現3		●	●		演習	1		○	○	○		
	Afa23082	映像メディア表現4		●	●		演習	1		○	○	○		
	Afa10002	芸術基礎実習2		★		★	実習	2	○				2単位以上選択必修	
	Afa23051	工芸1		●		●	演習	1		○	○	○		
	Afa23052	工芸2		●		●	演習	1		○	○	○		
	Afa23053	工芸3		●		●	演習	1		○	○	○		
	Afa23054	工芸4		●		●	演習	1		○	○	○		
	Afa23061	図法製図1				★	実習	1		○	○	○		
	Afa23062	図法製図2				★	実習	1		○	○	○		
	Cet11051	美学概論			★	★		講義	2	○	○	○	○	
	Cet11071	美術史			★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Afa32091	アートマネジメント論1			★	★	★	講義	1			○	○	
	Cet11081	日本美術史			★	★		講義	2	○	○	○	○	
	Cet11091	東洋美術史			★	★		講義	2	○	○	○	○	
	Cet11111	西洋美術史			★	★		講義	2	○	○	○	○	
	Cet11041	芸術学			★	★		講義	2	○	○	○	○	
	Cet11131	デザイン論			★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11121	工芸概論					★	講義	2	○	○	○	○	
	Cmi27031	京都の伝統工芸講座1					★	講義	2		○	○	○	
	Cmi27032	京都の伝統工芸講座2					★	講義	2		○	○	○	
	Afa22011	美術工芸史1					★	講義	1		○	○	○	
	Afa22012	美術工芸史2					★	講義	1		○	○	○	
	Afa22013	美術工芸史3					★	講義	1		○	○	○	
	Afa22014	美術工芸史4					★	講義	1		○	○	○	
	Cet11141	素材論					★	講義	2	○	○	○	○	
大学が独自に設定する科目	CQT53071	学校安全論		●	●	●	講義	2	○	○	○	○	6単位以上選択必修	
	CQT53012	人権教育論		●	●	●	講義	2	○	○	○	○		
	CQT53031	現代学校論		●	●	●	講義	2	○	○	○	○		
	CQT53051	障がい者理解		●	●	●	講義	2	○	○	○	○		
	CQT60012	学校ボランティア		●	●	●	講義	2	○	○	○	○		
第66条の6に定める科目	ClA13101	日本国憲法	A/B	★	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	ClA13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	ClA13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	Cgg12011	英語1		★	★	★	演習	1	○					
	Cgg12012	英語2		★	★	★	演習	1	○					
	ClA13201	教職コンピュータ入門		★	★	★	演習	2	○	○	○	○		

[必修/選択必修の見方: ★ 必修、● 選択必修]

デザイン学部 イラストコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考	
				中	高			1年	2年	3年	4年		
				美術	美術								
教科に関する科目	Dil10001	イラスト基礎実習1		★	★	実習	2	○					
	Dil10002	イラスト基礎実習2		★	★	実習	2	○					
	Dil10003	イラスト基礎実習3		★	★	実習	2	○					
	Dil10004	イラスト基礎実習4		★	★	実習	2	○					
	Dil33021	イラスト応用演習1		★	★	演習	1			○	○		
	Dil33022	イラスト応用演習2		★	★	演習	1			○	○		
	Dil13001	イラスト基礎演習1		★	★	演習	1	○	○	○	○		
	Dil13002	イラスト基礎演習2		★	★	演習	1	○	○	○	○		
	Dil13005	イラスト基礎演習5		★	★	演習	1	○	○	○	○		
	Dil13007	イラスト基礎演習7		★	★	演習	1	○	○	○	○		
	Dil13003	イラスト基礎演習3		●	●	演習	1	○	○	○	○	1単位以上選択必修	
	Dil13004	イラスト基礎演習4		●	●	演習	1	○	○	○	○		
	Dfd23011	基礎立体・彫塑			★	★	実習	2		○	○	○	
	Dfd11001	デザイン概論1			★	★	講義	1	○				
	Dfd11002	デザイン概論2			★	★	講義	1	○				
	Dfd11021	デザインリテラシー1			★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Dfd11022	デザインリテラシー2			★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Dil30013	イラスト応用実習3			★	★	実習	2			○		
	Dil30014	イラスト応用実習4			★	★	実習	2			○		
	Dfd23021	工芸			★		実習	2		○	○	○	
	Cet11051	美学概論			★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11071	美術史			★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11081	日本美術史			★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11091	東洋美術史			★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11111	西洋美術史			★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11041	芸術学			★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Dil33031	アートマネジメント論1			★	★	講義	1			○	○	
	Cet11061	現代美術概論			★	★	講義	2	○	○	○	○	
科目が独自に設定する	CQT53031	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修	
	CQT53012	人権教育論		●	●	講義	2	○	○	○	○		
第66条の6に定める科目	Cla13101	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	Cla13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	Cla13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	Cgg12011	英語1		★	★	演習	1	○					
	Cgg12012	英語2		★	★	演習	1	○					
	Cla13201	教職コンピュータ入門			★	★	演習	2	○	○	○	○	

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

4. 学部・学科・コース別 教科に関する科目一覧

デザイン学部 グラフィックデザインコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
				美術	美術							
教科に関する科目	Dvd10001	ビジュアルデザイン基礎実習1		★	★	実習	2	○				
	Dvd10002	ビジュアルデザイン基礎実習2		★	★	実習	2	○				
	Dvd10003	ビジュアルデザイン基礎実習3		★	★	実習	2	○				
	Dvd10004	ビジュアルデザイン基礎実習4		★	★	実習	2	○				
	Dfd23011	基礎立体・彫塑		★	★	実習	2		○	○	○	
	Dfd11001	デザイン概論1		★	★	講義	1	○				
	Dfd11002	デザイン概論2		★	★	講義	1	○				
	Dfd11021	デザインリテラシー1		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Dfd11022	デザインリテラシー2		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Dvd20012	ビジュアルデザイン応用実習2		★	★	実習	2		○			
	Dvd30013	ビジュアルデザイン応用実習3		★	★	実習	2			○		
	Dfd23021	工芸		★		実習	2		○	○	○	
	Cet11051	美学概論		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11071	美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11081	日本美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11091	東洋美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11111	西洋美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
Cet11041	芸術学		★	★	講義	2	○	○	○	○		
科目設定する 大学が	CQT53031	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	CQT53012	人権教育論		●	●	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	Cla13101	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cgg12011	英語1		★	★	演習	1	○				
	Cgg12012	英語2		★	★	演習	1	○				
	Cla13201	教職コンピュータ入門		★	★	演習	2	○	○	○	○	

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

デザイン学部 プロダクトコミュニケーションコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修			授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
				中	高				1年	2年	3年	4年	
				美術	美術	工芸							
教科に関する科目	Dpd10002	プロダクトデザイン基礎実習2		★	★		実習	2	○				
	Dpd10003	プロダクトデザイン基礎実習3		★	★	★	実習	2	○				
	Dpd23211	プロダクトデザイン応用演習11		★	★	★	実習	1		○	○	○	
	Dpd23212	プロダクトデザイン応用演習12		★	★	★	実習	1		○	○	○	
	Dpd23213	プロダクトデザイン応用演習13		★	★	★	実習	1		○	○	○	
	Dpd23216	プロダクトデザイン応用演習16		★	★	★	演習	1		○	○	○	
	Dpd23229	プロダクトデザイン応用演習19		★	★	★	演習	1		○	○	○	
	Dpd23222	プロダクトデザイン応用演習22		★	★	★	演習	1		○	○	○	
	Dpd10001	プロダクトデザイン基礎実習1		★	★	★	実習	2	○				
	Dpd20005	プロダクトデザイン基礎実習5		★	★	★	実習	2		○			
	Dpd20006	プロダクトデザイン基礎実習6		★	★	★	実習	2		○			
	Dpd13101	プロダクトデザイン基礎演習1		★	★	★	実習	1	○	○	○	○	
	Dpd13102	プロダクトデザイン基礎演習2		★	★	★	演習	1	○	○	○	○	
	Dpd13103	プロダクトデザイン基礎演習3		★	★	★	演習	1	○	○	○	○	
	Cet11051	美学概論		★	★		講義	2	○	○	○	○	
	Cet11071	美術史		★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11081	日本美術史		●	●		講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	Cet11091	東洋美術史		●	●		講義	2	○	○	○	○	
	Cet11111	西洋美術史		●	●		講義	2	○	○	○	○	
	Cet11041	芸術学		●	●		講義	2	○	○	○	○	
Cet11121	工芸概論				★	講義	2	○	○	○	○		
Cet11131	デザイン論				★	講義	2	○	○	○	○		
Cmi27031	京都の伝統工芸講座1				●	講義	2		○	○	○	2単位以上選択必修	
Cmi27032	京都の伝統工芸講座2				●	講義	2		○	○	○		
科目設定する 大学が 独自に	CQT53031	現代学校論		●	●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	CQT53012	人権教育論		●	●	●	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	Cla13101	日本国憲法	A/B	★	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cgg12011	英語1		★	★	★	演習	1	○				
	Cgg12012	英語2		★	★	★	演習	1	○				
	Cla13201	教職コンピュータ入門		★	★	★	演習	2	○	○	○	○	

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

4. 学部・学科・コース別 教科に関する科目一覧

デザイン学部 ライフクリエイションコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修			授業形態	単位数	履修推奨年次				備考	
				中	高				1年	2年	3年	4年		
				美術	美術	工芸								
教科に関する科目	Dpd10002	プロダクトデザイン基礎実習2		★	★		実習	2	○					
	Dpd10003	プロダクトデザイン基礎実習3		★	★	★	実習	2	○					
	Dpd23211	プロダクトデザイン応用演習11		★	★	★	演習	1		○	○	○		
	Dpd23212	プロダクトデザイン応用演習12		★	★	★	演習	1		○	○	○		
	Dpd23213	プロダクトデザイン応用演習13		★	★	★	演習	1		○	○	○		
	Dpd23216	プロダクトデザイン応用演習16		★	★	★	演習	1		○	○	○		
	Dpd23229	プロダクトデザイン応用演習19		★	★	★	演習	1		○	○	○		
	Dpd23222	プロダクトデザイン応用演習22		★	★	★	演習	1		○	○	○		
	Dpd10001	プロダクトデザイン基礎実習1			★	★	★	実習	2	○				
	Dpd20005	プロダクトデザイン基礎実習5			★	★	★	実習	2		○			
	Dpd20006	プロダクトデザイン基礎実習6			★	★	★	実習	2		○			
	Dpd13101	プロダクトデザイン基礎演習1			★	★	★	演習	1	○	○	○	○	
	Dpd13102	プロダクトデザイン基礎演習2			★	★	★	演習	1	○	○	○	○	
	Dpd13103	プロダクトデザイン基礎演習3			★	★	★	演習	1	○	○	○	○	
	Cet11051	美学概論			★	★		講義	2	○	○	○	○	
	Cet11071	美術史			★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
Cet11081	日本美術史			●	●		講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修	
Cet11091	東洋美術史			●	●		講義	2	○	○	○	○		
Cet11111	西洋美術史			●	●		講義	2	○	○	○	○		
Cet11041	芸術学			●	●		講義	2	○	○	○	○		
Cet11121	工芸概論					★	講義	2	○	○	○	○		
Cet11131	デザイン論					★	講義	2	○	○	○	○		
Cmi27031	京都の伝統工芸講座1					●	講義	2		○	○	○	2単位以上選択必修	
Cmi27032	京都の伝統工芸講座2					●	講義	2		○	○	○		
科目設定する 大学が 独自に	CQT53031	現代学校論		●	●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修	
	CQT53012	人権教育論		●	●	●	講義	2	○	○	○	○		
第66条の6に定める科目	Cla13101	日本国憲法	A/B	★	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	Cla13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	★	★	実習	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	Cla13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	★	★	実習	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	Cgg12011	英語1		★	★	★	演習	1	○					
	Cgg12012	英語2		★	★	★	演習	1	○					
	Cla13201	教職コンピュータ入門		★	★	★	演習	2	○	○	○	○		

[必修/選択必修の見方: ★ 必修、● 選択必修]

マンガ学部 カートゥーンコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
				美術	美術							
教科に関する科目	Mct10001	マンガ基礎実習1		★	★	実習	2	○				
	Mct10002	マンガ基礎実習2		★	★	実習	2	○				
	Mct10003	マンガ基礎実習3		★	★	実習	2	○				
	Mdm23131	基礎デッサン1		●	●	実習	1		○	○	○	3単位以上選択必修
	Mdm23132	基礎デッサン2		●	●	実習	1		○	○	○	
	Mdm23133	基礎デッサン3		●	●	実習	1		○	○	○	
	Mdm23134	基礎デッサン4		●	●	実習	1		○	○	○	
	Mfm23011	基礎立体・彫塑		★	★	実習	2		○	○	○	
	Mdm23061	マンガデザイン1		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mdm23062	マンガデザイン2		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mdm23063	マンガデザイン3		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mdm23064	マンガデザイン4		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mfm23021	工芸		★		実習	2		○	○	○	
	Cet11051	美学概論		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11071	美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11081	日本美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11091	東洋美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11111	西洋美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11041	芸術学		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	科目 大学が独自に設定する	CQT53031	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○
CQT53012		人権教育論		●	●	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	Cla13101	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cgg12011	英語1		★	★	演習	1	○				
	Cgg12012	英語2		★	★	演習	1	○				
	Cla13201	教職コンピュータ入門		★	★	演習	2	○	○	○	○	

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

4. 学部・学科・コース別 教科に関する科目一覧

マンガ学部 ストーリーマンガコース

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	クラス	必修/ 選択必修		授業 形態	単 位 数	履修推奨年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
				美術	美術							
教科に関する科目	Msm10001	マンガ基礎実習1		★	★	実習	2	○				
	Msm10002	マンガ基礎実習2		★	★	実習	2	○				
	Msm10003	マンガ基礎実習3		★	★	実習	2	○				
	Mdm23131	基礎デッサン1		●	●	実習	1		○	○	○	3単位以上選択必修
	Mdm23132	基礎デッサン2		●	●	実習	1		○	○	○	
	Mdm23133	基礎デッサン3		●	●	実習	1		○	○	○	
	Mdm23134	基礎デッサン4		●	●	実習	1		○	○	○	
	Mfm23011	基礎立体・彫塑		★	★	実習	2		○	○	○	
	Mdm23061	マンガデザイン1		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mdm23062	マンガデザイン2		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mdm23063	マンガデザイン3		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mdm23064	マンガデザイン4		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mfm23021	工芸		★		実習	2		○	○	○	
	Cet11051	美学概論		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11071	美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11081	日本美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11091	東洋美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11111	西洋美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11041	芸術学		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	科目 設定 する 大学 が 独自 に	CQT53031	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○
CQT53012		人権教育論		●	●	講義	2	○	○	○	○	
第 66 条 の 6 に 定 め る 科 目	Cla13101	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cgg12011	英語1		★	★	演習	1	○				
	Cgg12012	英語2		★	★	演習	1	○				
	Cla13201	教職コンピュータ入門		★	★	演習	2	○	○	○	○	

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

マンガ学部 新世代マンガコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
				美術	美術							
教科に関する科目	Mng10001	マンガ基礎実習1		★	★	実習	2	○				
	Mng10002	マンガ基礎実習2		★	★	実習	2	○				
	Mng10003	マンガ基礎実習3		★	★	実習	2	○				
	Mdm23131	基礎デッサン1		●	●	実習	1		○	○	○	3単位以上選択必修
	Mdm23132	基礎デッサン2		●	●	実習	1		○	○	○	
	Mdm23133	基礎デッサン3		●	●	実習	1		○	○	○	
	Mdm23134	基礎デッサン4		●	●	実習	1		○	○	○	
	Mfm23011	基礎立体・彫塑		★	★	実習	2		○	○	○	
	Mdm23061	マンガデザイン1		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mdm23062	マンガデザイン2		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mdm23063	マンガデザイン3		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mdm23064	マンガデザイン4		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mfm23021	工芸		★		実習	2		○	○	○	
	Cet11051	美学概論		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11071	美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11081	日本美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11091	東洋美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11111	西洋美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11041	芸術学		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	科目 大学が独自に設定する	CQT53031	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○
CQT53012		人権教育論		●	●	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	Cla13101	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cla13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cgg12011	英語1		★	★	演習	1	○				
	Cgg12012	英語2		★	★	演習	1	○				
	Cla13201	教職コンピュータ入門		★	★	演習	2	○	○	○	○	

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

4. 学部・学科・コース別 教科に関する科目一覧

マンガ学部 キャラクターデザインコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
				美術	美術							
教科に関する科目	Mcd10001	マンガ基礎実習1		★	★	実習	2	○				
	Mcd10002	マンガ基礎実習2		★	★	実習	2	○				
	Mcd10003	マンガ基礎実習3		★	★	実習	2	○				
	Mdm23131	基礎デッサン1		●	●	実習	1		○	○	○	3単位以上選択必修
	Mdm23132	基礎デッサン2		●	●	実習	1		○	○	○	
	Mdm23133	基礎デッサン3		●	●	実習	1		○	○	○	
	Mdm23134	基礎デッサン4		●	●	実習	1		○	○	○	
	Mfm23011	基礎立体・彫塑		★	★	実習	2		○	○	○	
	Mdm23061	マンガデザイン1		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mdm23062	マンガデザイン2		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mdm23063	マンガデザイン3		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mdm23064	マンガデザイン4		★	★	演習	1		○	○	○	
	Mfm23021	工芸		★		実習	2		○	○	○	
	Cet11051	美学概論		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11071	美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11081	日本美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11091	東洋美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11111	西洋美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11041	芸術学		★	★	講義	2	○	○	○	○	
科目設定する 大学が 独自に	CQT53031	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	CQT53012	人権教育論		●	●	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目 教育職員免許法施行規則	ClA13101	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	ClA13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	ClA13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cgg12011	英語1		★	★	演習	1	○				
	Cgg12012	英語2		★	★	演習	1	○				
	ClA13201	教職コンピュータ入門		★	★	演習	2	○	○	○	○	

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

マンガ学部 アニメーションコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
				美術	美術							
教科に関する科目	Man10001	アニメーション基礎実習1		★	★	実習	2	○				
	Man10002	アニメーション基礎実習2		★	★	実習	2	○				
	Man10003	アニメーション基礎実習3		★	★	実習	2	○				
	Man13011	アクションドローイング基礎1		★	★	実習	1	○	○	○	○	
	Man13012	アクションドローイング基礎2		★	★	実習	1	○	○	○	○	
	Man13013	アクションドローイング基礎3		★	★	実習	1	○	○	○	○	
	Mfm23011	基礎立体・彫塑		★	★	実習	2		○	○	○	
	Man10004	アニメーション基礎実習4		★	★	実習	2	○				
	Man20005	アニメーション基礎実習5		★	★	実習	2		○			
	Man20006	アニメーション基礎実習6		★	★	実習	2		○			
	Mfm23021	工芸		★		実習	2		○	○	○	
	Cet11051	美学概論		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11071	美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11081	日本美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11091	東洋美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11111	西洋美術史		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Cet11041	芸術学		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	科目設定する 大学が 独自に	CQT53031	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○
CQT53012		人権教育論		●	●	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める 教育職員免許法施行規則 の科目	ClA13101	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	ClA13261	スポーツ実習1	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	ClA13262	スポーツ実習2	教職A/教職B	★	★	実習	1	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	Cgg12011	英語1		★	★	演習	1	○				
	Cgg12012	英語2		★	★	演習	1	○				
	ClA13201	教職コンピュータ入門		★	★	演習	2	○	○	○	○	

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

9. 専修免許状の取得について(大学院生対象)

専修免許状とは、一種免許状(学部を卒業することで取得できる免許状)を基礎にして、大学院で所定の単位を修得し、修了することで取得できる免許状です。現在の教員採用試験において必要とされる免許状は一種免許状がほとんどですが、一方で高等学校を中心に指導教科に関する専門的な知識や力量が求められる傾向が高まりつつあります。一種免許状を基礎に、修士課程、博士前期課程での高度な学修を通して得た知見を教員として活かしたいと思うみなさんに必要な免許状と言えます。

- 前提となる一種免許状を取得していること
例) 中学校教諭専修免許状(美術)の取得を希望する場合→中学校教諭一種免許状(美術)を取得していることが条件
- 修士の学位を有すること(修士課程・博士前期課程を修了すること)
- 以下の「教科又は教職に関する科目」を24単位以上修得すること
- 免許取得希望者は、1年次終了までに教務チームに申し出ること

芸術研究科

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修			授業形態	単位数	備考
				中	高				
				美術	美術	工芸			
(大学が独自に設定する科目) 教科又は教職に関する科目	GMC50015	表現特論		★	★	★	講義	2	
	GMA50015	芸術理論特講		★	★	★	講義	2	
	GMA50115	表現領域特講1		●	●	●	講義	2	4単位以上選択必修
	GMA50125	表現領域特講2		●	●	●	講義	2	
	GMA50135	表現領域特講3		●	●	●	講義	2	
	GMA50145	表現領域特講4		●	●	●	講義	2	
	GMA60015	芸術研究1		★	★	★	実習	4	
	GMA60025	芸術研究2		★	★	★	実習	4	
	GMA60036	芸術研究3		★	★	★	実習	4	
	GMA60046	芸術研究4		★	★	★	実習	4	

デザイン研究科

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修			授業形態	単位数	備考
				中	高				
				美術	美術	工芸			
(大学が独自に設定する科目) 教科又は教職に関する科目	GMC50015	表現特論		★	★	★	講義	2	
	GMD50015	デザイン理論特講		★	★	★	講義	2	
	GMD50115	創造領域特講1		●	●	●	講義	2	4単位以上選択必修
	GMD50125	創造領域特講2		●	●	●	講義	2	
	GMD50135	創造領域特講3		●	●	●	講義	2	
	GMD50145	創造領域特講4		●	●	●	講義	2	
	GMD60015	デザイン研究1		★	★	★	実習	4	
	GMD60025	デザイン研究2		★	★	★	実習	4	
	GMD60036	デザイン研究3		★	★	★	実習	4	
	GMD60046	デザイン研究4		★	★	★	実習	4	

[★:必修、●:選択必修]

マンガ研究科

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業 形態	単 位数	備考
				中	高			
				美術	美術			
(大学が独自に設定する科目) 教科又は教職に関する科目	GMC50015	表現特論		★	★	講義	2	
	GMM50015	マンガ理論特講		★	★	講義	2	
	GMM50115	マンガ領域特講1		●	●	講義	2	4単位以上選択必修
	GMM50125	マンガ領域特講2		●	●	講義	2	
	GMM50135	マンガ領域特講3		●	●	講義	2	
	GMM50145	マンガ領域特講4		●	●	講義	2	
	GMM60015	マンガ研究1		★	★	実習	4	
	GMM60025	マンガ研究2		★	★	実習	4	
	GMM60036	マンガ研究3		★	★	実習	4	
	GMM60046	マンガ研究4		★	★	実習	4	

人文学研究科

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業 形態	単 位数	備考
				中	高			
				社会	公民			
(大学が独自に設定する科目) 教科又は教職に関する科目	GMH50115	表象領域特講1		★	★	講義	2	
	GMH50125	表象領域特講2		★	★	講義	2	
	GMH50135	表象領域特講3		★	★	講義	2	
	GMH50145	表象領域特講4		★	★	講義	2	
	GMH51115	人文学特殊講義1		★	★	講義	2	
	GMH51125	人文学特殊講義2		★	★	講義	2	
	GMH51135	人文学特殊講義3		★	★	講義	2	
	GMH51145	人文学特殊講義4		★	★	講義	2	
	GMH51215	人文学合同演習		★	★	講義	2	
	GMH51315	人文学基礎演習		★	★	講義	2	
	GMH51416	人文学演習1		★	★	講義	2	
	GMH51426	人文学演習2		★	★	講義	2	

[★:必修、●:選択必修]

博物館学芸員課程

1. 博物館学芸員課程履修の心得

博物館法に基づき、博物館において資料の収集や保管、展示、調査研究をおこなう専門的職員を一般に博物館学芸員といいます。「博物館」と呼ばれるものにも様々な館種があり、歴史・自然科学・民族などの博物館だけでなく、動物園、水族館、植物園などにおいても専門職としての職域が開かれています。本学では『博物館法』に定める科目を取得する中で、博物館学芸員に必要な資質・能力を積極的に身につけたいと考える右記のような熱意ある学生の履修を望みます。

- 博物館に興味があり、博物館学芸員になりたい人
- 一成人としてマナーを守り、謙虚な気持ちで博物館実習に臨める人
- 生涯学習に関心がある人

2. 博物館学芸員資格を取得するために必要な条件とは

博物館学芸員課程は、みなさんが所属する学部・学科・コースのカリキュラム(教育課程)とはまったく別のカリキュラムとなります。博物館学芸員資格を取得するためには、卒業に必要な単位以外に、博物館学芸員課程で定めた科目の単位を修得する必要があります。

博物館学芸員資格を取得するための条件

- (1) 博物館学芸員課程の課程登録を済ませていること(資格課程ハンドブック参照)。
- (2) 学士の学位を有すること(卒業することが条件)。
- (3) 博物館学芸員課程で定めた科目の単位を修得すること。

3. 博物館実習とは

博物館業務の基本は、資料を収集・保管・展示し、そのための調査研究、整理、分類、作品解説等を行うことです。授業科目の「博物館実習」では、博物館活動の基礎知識ならびに初歩的技術を修得するために、博物館施設において本学担当教員および博物館学芸員から実地で指導を受け、博物館実務の理論と実践を学びます。

本学の博物館学芸員課程では、3年次後期に実習先の博物館施設を学生各自が選択し、4年次に館務実習を行います。

(1) 学内実習

学内において、担当教員から収集・保管・資料管理等についての指導を受ける。

(2) 見学実習

担当教員の引率・指導のもと、もしくは学生各自で博物館施設における展示および文化財などの見学(年間を通じて10館程度)を行う。

(3) 館務実習

博物館・美術館において、現職の博物館学芸員から実務指導を受ける。館務実習は原則として、夏期休暇期間中に1週間程度実施する。

4. 博物館学芸員課程の4年間の流れ

4年間の流れ

1年	4月	学芸員資格に関する科目履修開始				
2年	4月	資格課程ガイダンス(課程登録手続き)				
3年	4月	資格課程ガイダンス	12月	博物館実習予備登録説明会		
4年	4月	資格課程ガイダンス	8月頃	博物館実習	3月下旬	学芸員資格取得(卒業式)

5. 博物館学芸員課程 履修科目一覧

4年次「博物館実習」履修条件

- ①「博物館実習」を除くA群必修科目の単位をすべて修得済みであること。
 ②B群選択科目のうち、2系列以上にわたり、2科目4単位以上を修得済みであること。

国際文化学部 履修科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択	授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
							1年	2年	3年	4年	
A群	CQG50011	生涯学習概論	A/B	必修	講義	2	○	○			
	CQM50011	博物館概論		必修	講義	2	○	○			
	CQM50113	博物館経営論		必修	講義	2		○			
	CQM50213	博物館資料論		必修	講義	2		○			
	CQM50313	博物館資料保存論		必修	講義	2			○		
	CQM50412	博物館展示論		必修	講義	2		○	○		
	CQM50512	博物館教育論		必修	講義	2		○	○		
	CQM50612	博物館情報・メディア論		必修	講義	2		○			
	CQM60014	博物館実習		必修	実習	3				○	
B1群	Khu23031	説話・伝承史		選択	講義	2		○	○		B1～B6までのB群6系列の中から、2系列以上にわたり、2科目4単位以上を選択必修
B2群	(※1)	日本美術史	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
	(※1)	東洋美術史	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
B3群	(※1)	考古学		選択	講義	2	○	○	○		
B4群	(※1)	民俗学	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
B5群	(※1)	自然科学概論	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
B6群	(※1)	生物学	A/B	選択	講義	2	○	○	○		

メディア表現・芸術・デザイン・マンガ学部 履修科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択	授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
							1年	2年	3年	4年	
A群	CQG50011	生涯学習概論	A/B	必修	講義	2	○	○	○		
	CQM50011	博物館概論		必修	講義	2	○	○			
	CQM50113	博物館経営論		必修	講義	2			○		
	CQM50213	博物館資料論		必修	講義	2			○		
	CQM50313	博物館資料保存論		必修	講義	2			○		
	CQM50412	博物館展示論		必修	講義	2		○	○		
	CQM50512	博物館教育論		必修	講義	2		○	○		
	CQM50612	博物館情報・メディア論		必修	講義	2		○	○		
	CQM60014	博物館実習		必修	実習	3				○	
B1群	(※1)	美術史	A/B	選択	講義	2	○	○	○		B1～B5までのB群5系列の中から、2系列以上にわたり、2科目4単位以上を選択必修
	(※1)	西洋美術史	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
	(※1)	日本美術史	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
	(※1)	東洋美術史	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
B2群	(※1)	考古学		選択	講義	2	○	○	○		
B3群	(※1)	民俗学	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
B4群	(※1)	自然科学概論	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
B5群	(※1)	生物学	A/B	選択	講義	2	○	○	○		

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P61～のカリキュラムページで確認してください。

図書館司書課程

1. 図書館司書課程履修の心得

図書館とはこれまで生きてきた人びとの積み重ねてきた表現活動資料が蓄積された場です。図書館司書はこのような資料を守り、人びととつなげる役割を果たす人たちです。現在の図書館は、情報技術のめざましい発展により、図書館相互のネットワーク機能や館内の検索機能、所蔵品データベースの多機能化、情報の発信などさまざまな機能が向上しています。一方で多様な人びとが利用できるようなサービスの向上などが社会からより一層求められるようになっていきます。

図書館司書となる資格を得るためには『図書館法』第5条第1項および本学が定めた規定に基づく条件を満たす必要がありますが、同時にこのような現在の社会状況を認識し、対応できる人材とならなくてはなりません。

本学図書館司書課程では以下のような熱意ある学生の履修を望みます。

- 生涯学習に関心がある人
- 資料収集・分析に取り組むことができる人
- 粘り強く、継続して学び続ける姿勢を持っている人
- コミュニケーション能力のある人
- 芸術、文化などの面で自らの知識を伸ばし、地域や社会に役立ちたいと思っている人

2. 図書館司書資格を取得するために必要な条件とは

図書館司書課程は、みなさんが所属する学部・学科・コースのカリキュラム(教育課程)とはまったく別のカリキュラムとなります。図書館司書資格を取得するためには、卒業に必要な単位以外に、図書館司書課程で定めた科目の単位を修得する必要があります。

図書館司書資格を取得するための条件

- (1) 図書館司書課程の課程登録を済ませていること(資格課程ハンドブック参照)。
- (2) 学士の学位を有すること(卒業することが条件)。
- (3) 図書館司書課程で定めた科目の単位を修得すること。

3. 図書館司書課程 履修科目一覧

履修条件

次の科目には履修順序や履修条件の指定があります。

①情報サービス系

「情報サービス演習1」「情報サービス演習2」は同一学期に履修すること。なお、「情報サービス演習1」「情報サービス演習2」の履修は、「情報サービス論」の単位修得を前提条件とする。

②情報資源組織系

「情報資源組織演習1」「情報資源組織演習2」は同一学期に履修すること。なお、「情報資源組織演習1」「情報資源組織演習2」の履修は、「情報資源組織論」の単位修得を前提条件とする。（国際文化学部生は、3年次前期に「フィールドスタディーズ」を履修するため、情報資源組織系3科目は4年次に履修してください。再履修のチャンスはありません。）

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択	授業形態	単位数	履修推奨年次				備考	
							1年	2年	3年	4年		
全学部対象履修科目一覧	CQG50011	生涯学習概論(生涯学習概論I)	A/B	必修	講義	2	○	○	○	○		
	CQL50001	図書館概論		必修	講義	2	○	○	○	○		
	CQL50013	図書館制度・経営論		必修	講義	2			○	○		
	CQL50113	図書館情報技術論		必修	講義	2			○	○		
	CQL50212	図書館サービス概論		必修	講義	2		○	○	○		
	CQL50312	児童サービス論		必修	講義	2		○	○	○		
	CQL50412	図書館情報資源概論		必修	講義	2		○	○	○		
	CQL50512	情報サービス論		必修	講義	2		○	○	○		
	CQL60012	情報サービス演習1		必修	演習	1		○	○	○	同一年次に履修すること	
	CQL60022	情報サービス演習2		必修	演習	1		○	○	○		
	CQL50613	情報資源組織論		必修	講義	2			○	○	ABクラスのいずれかを履修すること 同一年次に履修すること	
	CQL60113	情報資源組織演習1	A/B	必修	演習	1			○	○		
	CQL60123	情報資源組織演習2	A/B	必修	演習	1			○	○		
	CQL51013	図書館サービス特論			選択必修	講義	2			○	○	4科目のうち2科目以上を選択必修
	CQL51312	書誌学※			選択必修	講義	2			○	○	
CQL51413	芸術資料特論			選択必修	講義	2			○	○		
CQL61013	図書館実習			選択必修	実習	2			○	○		

※国際文化学部生は学部開講の「書誌学」を取得してください。

9

諸規程

School Regulations

※2025年2月時点の情報です。変更される場合がありますので、
最新情報は大学webサイトで確認してください。

京都精華大学 学則

第1章 | 総則

[目的]

第1条 本学は学校教育法および教育基本法の規定するところに従い、大学教育を施し、広く知識を授けるとともに、深奥な学問芸術を研究・教授し、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

[自己評価等]

第2条 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的および社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表する。

- 2 前項の点検および評価を行うため、委員会を設ける。
- 3 委員会に関する規程は、これを別に定める。
- 4 点検、評価の項目等については、別にこれを定める。

[学部、学科、入学定員および収容定員]

第3条 本学に次の学部・学科をおく。

芸術学部

造形学科

デザイン学部

イラスト学科

ビジュアルデザイン学科

プロダクトデザイン学科

建築学科

マンガ学部

マンガ学科

アニメーション学科

メディア表現学部

メディア表現学科

国際文化学部

人文学科

グローバルスタディーズ学科

2 前項の学部・学科の入学定員および収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
芸術学部	造形学科	112人	448人
デザイン学部	イラスト学科	64人	256人
	ビジュアルデザイン学科	64人	256人
	プロダクトデザイン学科	72人	288人
	建築学科	56人	224人
マンガ学部	マンガ学科	232人	928人
	アニメーション学科	80人	320人
メディア表現学部	メディア表現学科	168人	672人
国際文化学部	人文学科	160人	640人
	グローバルスタディーズ学科	90人	360人

[人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的]

第3条の2 前条の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は次のとおりとする。

芸術学部

人間の多様性を理解した上で、幅広い視野から適切な表現方法を用いてコミュニケーションをとることができ、さらに芸術によって培われる専門性と創造力で人類社会の諸課題に取り組むことができる主体性をもった人間形成を目的とする。

造形学科

伝統的造形芸術の知識技法にとどまらず、多角的な観察と自立した思考力によって新たな表現を創造する能力と造形芸術を開拓できる資質を備えた人材の養成を行う。

デザイン学部

デザイン領域において高度な技法知識を修得し新たな可能性を探究すること、および自立した思考によってグローバル社会および地域社会に現実的に貢献するデザイナー・プランナーの資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

イラスト学科

デザインやアートといった多様なフィールドで展開が可能となるイラスト領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を行う。

ビジュアルデザイン学科

情報技術の発展によってその目的および手法が飛躍的に拡大した視覚デザインの領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を行う。

プロダクトデザイン学科

社会活動や生活に使用される道具、器具、装置などのデザインの領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を行う。

建築学科

環境、建築、居住空間などのデザイン・設計の領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

マンガ学部

マンガ文化の再評価とともに重要視されるマンガやアニメーションの制作と理論について多角的な教育研究を行い新たな可能性を探究すること、およびマンガ文化の継承と発展に貢献する資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

マンガ学科

マンガの作品史、表現などについての理論および技法の修得にとどまらず、実践によってマンガ表現の発展に貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

アニメーション学科

アニメーションの作品史、表現などについての理論および技法の修得にとどまらず実践によってアニメーションの発展に貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

メディア表現学部

メディアと情報に関する広範な知識と専門的な表現技能を活用した豊かな人間性を育む文化表現を通して、コンテンツの制作やメディアの活用、新しいビジネスモデルの構想などによって次世代の産業界の発展に貢献する資質を備えた、人間形成を行うことを目的とする。

メディア表現学科

技術革新が進む人類社会において、急激に変化し続けるメディアと産業システムの動向をふまえたうえで、豊かな文化の発展にも寄与し、時代の先端を切り開くコンテンツ、メディア、新たなビジネスモデルを創造できる人材の養成を目的とする。

国際文化学部

アフリカ・アジアの文化、京都を中心とした日本の歴史や文化、そして世界の相関を理解し、現在の社会が抱える多様な課題の解決に貢献し、より良い共生社会の実現と世界の発展に寄与できる人間形成を行うことを目的とする。

人文学科

日本の「文学」、「歴史」、「社会」、「文化」を研究対象とし、日本を基点とした世界の文化と社会を多角的に捉え、課題の解決に貢献し、より良い共生社会の実現と世界の発展に寄与できる人材の養成を目的とする。

グローバルスタディーズ学科

著しい発展と同時に多様な課題を抱え、世界が目指すアフリカ・アジア地域に学びの場を重点化し、世界の新しい関係性や構造をグローバルな視点で捉え、課題の解決に貢献し、より良い共生社会の実現と世界の発展に寄与できる人材の養成を目的とする。

[大学院]

第4条 本学に大学院をおく。

2 大学院の学則は、別に定める。

[修業年限]

第5条 本学の修業年限は4年とする。ただし、8年を超えて在学することはできない。

2 学長が有益と認めるときは、他の大学等における修学期間を修業年限に算入することができる。ただし、修業年限については1年を超えて算入することはできない。

3 前項の規定は、外国の大学における修学期間についても準用する。

第2章 | 学年・学期および休業日

[学年]

第6条 本学の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

[学期および授業日数]

第7条 1学年の授業日数は定期試験の日数を含めて35週、210日を下らないものとし、1学年を分けて次の学期とする。

- ① 第1クォーター
 - ② 第2クォーター
 - ③ 第3クォーター
 - ④ 第4クォーター
- 2 第1クォーター、第3クォーターの開始日はそれぞれ4月1日、10月1日とし、第2クォーター・第4クォーターの開始日は、学長が年度ごとに定める。
- 3 第2クォーター、第4クォーターの終了日はそれぞれ9月30日、3月31日とし、第1クォーター・第3クォーターの終了日は、学長が年度ごとに定める。
- 4 学長が必要と認めるときは、クォーターの開始日・終了日を変更することができる。

[休業日]

第8条 休業日は次のとおりとする。

- ① 日曜日
- ② 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- ③ 春季・夏季・秋季・冬季の休業期間は、学長が年度ごとに定める。
- 2 学長が必要と認めるときは、臨時に休業日を設け、または休業日を変更することができる。
- 3 学長が必要と認めるときは、休業日に授業を行うことができる。

第3章 | 教育課程・単位・教育課程の履修

[教育課程の編成]

第9条 本学は、学部および学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目に分け、これを各年次に配当して編成する。

[授業科目および単位数]

第10条 本学の授業科目および単位数は別表I、別表II、別表III、および別表IVのとおりとする。

2 学長は他学部および他学科が開設する授業科目の中から学部交流科目および学科交流科目を定め、当該学部および学科の卒業に必要な単位とすることができる。

[授業の方法]

第10条の2 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。

2 学長が教育上有益と認めるときは、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で授業を行うことができる。

3 前項により与えることができる単位数は60単位を超えないものとする。

4 第2項の規定により実施する授業科目については、学長が定め学生に通知するものとする。

5 第1項の授業の一部を、本学の校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

[単位計算方法]

第11条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、前条の授業の方法に応じ、その授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で別に定める授業の時間をもって1単位として単位数を計算するものとする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究、卒業論文、卒業制作、学外学修・個別課題学習等の授業科目および公の技能審査等による認定を受けた者については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

[教育課程の履修]

第12条 学生は原則として、別表Iに定める教育課程に従い、各年次に配当された授業科目を履修する。

2 学生が各年次所定の授業科目を履修しない場合、または所定の単位を修得しない場合は、次学年に進級することができない。進級に関する事項は別にこれを定める。

3 卒業に必要な単位は、124単位とする。

[他の大学、専門職大学又は短期大学における授業科目の履修等]

第13条 学長が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学、専門職大学又は短期大学の授業科目を履修することを認める。

2 前項の規定に基づいて学生が履修した単位は60単位を超えない範囲で、本学で修得したものとみなすことができる。

3 前項の規定は、学生が外国の大学に留学する場合に準用する。

4 留学に関する規程は、別にこれを定める。

[大学以外の教育施設等における学修]

第14条 学長が本学における教育水準を有し、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校等の専攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における履修とみなし単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第2項の規定による単位数とあわせて60単位を超えないものとする。

[入学前の既修得単位等の認定]

第15条 学長が教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を本学で修得したものとみなすことができる。

2 学長が教育上有益と認めるときは、本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、編入学、転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第13条第2項および前条第2項の規定による単位数とあわせて60単位を超えないものとする。

[特別聴講生]

第16条 他の大学等の学生で、当該他の大学等との協議に基づき、本学において授業科目を履修することを志願する者については特別聴講生として、学長がこれを許可することがある。

2 特別聴講生に関する規程は本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[履修登録]

第17条 学生は履修しようとする授業科目を毎学期始め、所定の期日までに届け出なければならない。

2 学生は当該学部が定める登録上限単位数の範囲内で履修登録しなければならない。

[資格の取得]

第18条 本学に教育職員免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく。本学において教育職員免許状の取得を希望する者は、教育職員免許法および教育免許法施行規則に基づき、本学が別表IIに定める教職および教科に関する専門科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

本学における教育職員免許状の教科および種類は、以下の表に掲げるとおりとする。

学部	学科	免許状の種類(教科)
芸術学部	造形学科	中学校教諭一種免許状(美術)
		高等学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(工芸)
デザイン学部	イラスト学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術)
	ビジュアルデザイン学科	中学校教諭一種免許状(美術)
		高等学校教諭一種免許状(美術)
マンガ学部	マンガ学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術)
	アニメーション学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術)
メディア表現学部	メディア表現学科	高等学校教諭一種免許状(情報)
国際文化学部	人文学科	中学校教諭一種免許状(国語)
		中学校教諭一種免許状(社会) 高等学校教諭一種免許状(国語) 高等学校教諭一種免許状(地理歴史) 高等学校教諭一種免許状(公民)
	グローバルスタディーズ学科	中学校教諭一種免許状(社会) 高等学校教諭一種免許状(公民)

2 図書館司書の資格を取得しようとする者は、図書館法および図書館法施行規則に基づき、本学が別表Ⅲに定める図書館司書課程に関する授業科目を履修し、その単位を修得しなければならない。図書館司書課程を設置する学部および学科は、以下の表に掲げるとおりとする。

学部	学科
芸術学部	造形学科
デザイン学部	イラスト学科
	ビジュアルデザイン学科
	プロダクトデザイン学科
マンガ学部	マンガ学科
	アニメーション学科
メディア表現学部	メディア表現学科
国際文化学部	人文学科
	グローバルスタディーズ学科

3 図書館司書の資格を取得しようとする者は、図書館法および図書館法施行規則に基づき、本学が別表Ⅲに定める図書館司書課程に関する授業科目を履修し、その単位を修得しなければならない。図書館司書課程を設置する学部および学科は、以下の表に掲げるとおりとする。

学部	学科
芸術学部	造形学科
デザイン学部	イラスト学科
	ビジュアルデザイン学科
	プロダクトデザイン学科
マンガ学部	マンガ学科
	アニメーション学科
メディア表現学部	メディア表現学科
国際文化学部	人文学科
	グローバルスタディーズ学科

第4章 | 教育課程修了の認定・単位の授与・卒業および称号

[教育課程修了の認定]

- 第19条** 教育課程修了の認定は授業科目の試験、研究報告の成績を審査し、その結果に基づき、教授会の審議を経て学長が行う。
- 2 成績の評価はS(100点～90点)、A(89点～80点)、B(79点～70点)、C(69点～60点)、F(59点以下)、K(評価対象外)とし、S、A、B、Cをもって合格とする。
- 3 成績の評価をせず単位の認定のみを行う場合はN(認定)を用いる。
- 4 総合成績評価としてGPAを用いる場合は、第2項の成績評価のSを4、Aを3、Bを2、Cを1、FおよびKを0の評点に置き換え、履修科目の単位数で乗じた点数の合計を、総履修科目単位数で除して算出する。なおNの評価を受けた授業科目はGPA算出の対象外とする。

[単位の授与]

第20条 学長は、別表IからIVに定める授業科目を履修した学生に対し、当該授業科目の試験および研究報告の成績を審査し、その結果に基づき、教授会の審議を経て、相当する数の単位を与える。

[卒業]

- 第21条** 学長は本学の学部で4年以上在学し、第12条に規定する卒業に必要な単位を修得し、かつ学費等納入金について大学への諸債務を滞納していない者について、教授会の審議を経て卒業を認定する。
- 2 学長は卒業を認定した者に対し、学位記を授与する。

[学位の授与]

- 第22条** 本学の芸術学部、デザイン学部およびマンガ学部を卒業した者に、学士(芸術)の学位を授与する。
- 2 本学のメディア表現学部を卒業した者に、学士(メディア表現)の学位を授与する。
- 3 本学の国際文化学部を卒業した者に、学士(文化)の学位を授与する。

第5章 | 入学・編入学・転入学・休学・復学・退学・転学・除籍および再入学

[入学]

- 第23条** 本学の入学は学年の始めとする。
- 2 前項の規定にかかわらず、国際文化学部については、外国人留学生・帰国生徒の第3クォーターよりの入学を認めることができる。

[入学資格]

- 第24条** 学の第1年次に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。
- ① 高等学校を卒業した者
 - ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)
 - ③ 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - ④ 文部科学大臣の指定した者
 - ⑤ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - ⑥ 大学入学資格検定規程により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
 - ⑦ 相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があるものと本学が認めた者

[入学志願手続および合否判定]

- 第25条** 入学を志願する者は、本学所定の出願書類に別表Vに定める入学検定料を添えて提出しなければならない。
- 2 提出の方法、時期、同時に提出すべき書類等については別に定める。
- 3 学長は入学を志願する者に対して入学試験を実施する。
- 4 学長は入学試験を受験した者に対して、教授会における合否判定の審議を経て、結果を通知する。

[入学手続金の納入および入学許可]

- 第26条** 入学試験に合格した者は、学長が指定する期日までに所定の納付金を納入し、かつ必要書類を提出しなければならない。
- 2 学長は、前項の規定により所定の納付金を納入し、必要書類を提出した者に対して、入学を許可する。

[編入学]

- 第27条** 本学の第3年次および第2年次に編入学を希望する者については、選考のうえ、学長はこれを許可することがある。
- 2 第3年次に編入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- ① 大学を卒業した者、または大学に2年以上在学した者
 - ② 短期大学または高等専門学校を卒業した者
 - ③ 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第132条の規定により大学に編入学できる者
- 3 第2年次に編入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- ① 大学に1年以上在学した者
 - ② 短期大学または高等専門学校を卒業した者
- 4 前2項の規定により入学を許可された者がすでに履修した科目および単位の取扱については、別にこれを定める。

[転入学]

- 第28条** 他の大学に1年以上在学してから、本学の学部へ転入学しようとする者について、選考のうえ、既に在学していた大学および履修した授業科目の内容と成績とを考慮して、学長は入学を許可することがある。
- 2 本条により入学を許可された者の修学年限は、他大学における在学年数が1年であった者は3年、2年以上であった者は2年とし、それぞれ6年、4年を超えて在学することはできない。
- 3 転入学を許可された者が既に履修した授業科目および単位の取扱については、別に定めるところによる。

[転学部、転学科]

第28条の2 転学部および転学科に関する規程は、別にこれを定める。

[休学]

第29条 学生が疾病その他の事由によって1ヶ月以上就学することができないときは、保証人と連署のうえ、所定の様式により願い出て、休学することができる。

- 2 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。
- 3 前項の定めに関わらず、学長が特別な理由があると認めるときは、休学期間を延長することができる。
- 4 休学の期間は通算して4年を超えることができない。
- 5 休学の期間は、第5条に定める修業年限および在学年限に算入しない。
- 6 休学期間中の学費は、1クォーター10,000円、通年40,000円とし、納入等に関する規定は第34条による。
- 7 休学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[復学]

第30条 休学者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ、所定の様式により願い出て、学長の許可を得たうえ復学することができる。

- 2 復学は、学期の始めからとする。
- 3 復学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[退学および転学]

第31条 疾病、その他の事由によって退学または転学しようとする者は、保証人連署のうえ、所定の様式により退学願または転学願を提出しなければならない。

- 2 退学および転学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。
- 3 懲戒による退学に関する規程は、第50条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[除籍]

第32条 学長は、学生が各号のいずれかに該当するときは、学生を除籍する。

- ① 第5条に規定する在学年限を超えた者
 - ② 第29条第2項および第3項に規定する休学年限を超えた者
 - ③ 所定の授業料等学費の納付を怠り、その督促を受けてもこれを納付しない者
 - ④ 第30条の復学手続きのない者
 - ⑤ 本学での就学の意思のない者
 - ⑥ 本人が死亡したとき
 - ⑦ その他、学長が相当の理由を認めた者
- 2 除籍に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[再入学]

第33条 退学または除籍となった者が、保証人連署のうえ、所定の様式により再入学を願い出たときは、教授会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

- 2 再入学を願い出ることのできる期間は、退学または除籍の日より2年以内とする。
- 3 再入学は学期の始めからとする。
- 4 再入学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第1節 | 入学検定料、入学金および授業料

[学費等納付金および手数料]

第34条 入学検定料、入学金および授業料は、別表Vの①のとおりとする。

- 2 前項に規定する既納の入学検定料、入学金および授業料等の学費は、原則として返還しない。
- 3 前項の規定にかかわらず、入学許可を得た者で、指定の期日までに入学手続の取り消しを願い出た者については、入学金またはこれに相当する金額を除く学費を返還する。
- 4 入学検定料以外の手数料については、別にこれを定める。
- 5 学費納入等に関する規定は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第2節 | 職員組織および教授会

[職員組織]

第35条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他の職員をおく。

- 2 学長は本学則に定める職務を行い、所属職員を統督する。
- 3 副学長は、学長の職務を助ける。
- 4 教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他の職員の職務は、学校教育法、その他の法令および本学諸規程の定めるところによる。

[教授会]

第36条 本学の教育研究に関する事項を審議するために教授会をおく。

- 2 教授会は、これを分けて全学教授会と学部教授会とする。
- 3 教授会に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[全学教授会]

第36条の2 全学教授会は、学長、専任の教授・准教授および講師を構成員として、これを組織する。

- 2 全学教授会は、前項に定める者の他、必要に応じ他の教職員などの出席を求めることができる。
- 3 全学教授会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
 - ① 全学に関する重要事項
 - ② 各学部間の連絡調整に関する事項
 - ③ 全学共通の教育課程の編成に関する事項
 - ④ 全学共通の授業科目の担当に関する事項
 - ⑤ 教員の人事に関する事項
 - ⑥ その他学長が必要と認める事項

[学部教授会]

第36条の3 学部教授会は、各学部に所属する専任の教授・准教授および講師を構成員として、これを組織する。

- 2 学部教授会は、前項に定める者の他、必要に応じ他の教職員などの出席を求めることができる。
- 3 学部教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。
 - ① 学生の入学（編入学・転入学を含む）、卒業および課程の修了
 - ② 学位の授与
 - ③ 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学部教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 4 学部教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下、この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるることができる。

第3節 | 聴講生・科目等履修生・委託生・研究生・外国人留学生・帰国生徒および社会人

[聴講生]

第37条 本学の教職課程科目のうち「教職に関する専門科目」について聴講しようとする者があるときは、本学の教育・研究に支障のない場合に限り教授会の審議を経て、学長がこれを許可する。

- 2 聴講を許可する授業科目は1年度につき12単位とし、在学年限は1年以内とする。
- 3 学長は、特定の授業科目を履修し、その単位を修得した聴講生に対して、単位修得証明書を交付することができる。
- 4 聴講料等の納付金については、別表Vの③に定めるところによる。
- 5 聴講生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[科目等履修生]

第38条 本学の学生以外の者が本学の特定の授業科目を履修しようとするときは、本学の教育・研究に支障がない限り、教授会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

- 2 履修を許可する授業科目の単位数は、1年度につき12単位とし、在学年限は1年以内とする。
- 3 学長は、特定の授業科目を履修し、その単位を修得した科目等履修生に対し、単位修得証明書を交付することができる。
- 4 科目等履修の納付金については、別表Vの④に定めるところによる。
- 5 科目等履修生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[委託生]

第39条 公共団体その他の機関から本学の特定の学科に修学を委託されたときは、選考のうえこれを受託し、委託の目的に合致する特定の授業科目の履修について、学長がこれを許可することができる。

- 2 前項の特定の授業科目の履修およびその単位は、委託者の希望を考慮し教授会の審議を経て、学長が決定する。
- 3 学長は、特定の授業科目を聴講し、その単位を修得した委託生に対し、単位修得証明書を交付することができる。
- 4 委託生の委託料は、別表Vの①に規定する授業料相当額とする。
- 5 委託生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[研究生]

第40条 本学の専任教員のもとで研究しようとする者があるときは、教授会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

- 2 研究生の授業料等の学費は、別表Vの⑤に定めるところによる。
- 3 研究生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[外国人留学生]

第41条 勉学の目的をもった外国人で、第24条に定める要件を充足する者が本学への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

- 2 外国人留学生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[帰国生徒]

第42条 長期間の海外生活を経験した者で、第24条に定める要件を充足する者が本学への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

- 2 帰国生徒に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[社会人]

第43条 社会的経験を有する者で、第24条に定める要件を充足する者が本学への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

- 2 社会人に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第4節 | 公開講座および履修証明プログラム

[公開講座]

第44条 本学に公開講座をおくことができる。

- 2 公開講座は、一般市民に対し本学の教育を公開し、学問・芸術の研究向上に資することを目的とする。
- 3 公開講座に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[履修証明プログラム]

第44条の2 本学に履修証明プログラムをおくことができる。

- 2 履修証明プログラムは、本学および他大学の学生以外の社会人等を対象として、体系的な知識、技術等の習得を目指す課程とする。
- 3 履修証明プログラムに関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第5節 | 情報館

[情報館]

第45条 本学に情報館をおき、教育および研究活動に必要な図書、文献、画像、視聴覚資料および研究資料を収集管理し、教職員、学生および一般市民の利用に供する。

- 2 情報館に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第6節 | 保健施設および学生寮

[保健施設]

第46条 本学に教職員および学生の保健衛生を管理するために、保健室をおく。

- 2 学生は、毎年定められた時期に健康診断を受けなければならない。

[学生寮]

第47条 本学に学生寮をおく。

- 2 学生寮に関する規程は、別にこれを定める。

第7節 | 育英奨学制度

[育英奨学制度]

第48条 本学に育英奨学制度を設ける。

- 2 育英奨学制度に関する規程は、別にこれを定める。

第8節 | 賞罰

[表彰]

第49条 学長は、品行・学業とも優秀で他の模範となる学生に対して、表彰を行うことがある。

[懲戒]

第50条 学長は学則または規則に違反し、その他学生の本分に背く行為のあった学生に対して、教授会の審議を経て懲戒する。

- 2 懲戒は訓告、停学および退学とする。
- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。
 - ① 品行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - ② 正当の理由なく、出席が常でない者
 - ③ 大学の秩序を乱し、その他学生の本分に背く者
- 4 学生の懲戒に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

附則

(略)

第39項 この学則は、2021(令和3)年4月1日から実施する。ただし、第10条の2に規定する授業の方法については、2020(令和2)年4月以前入学者に対しても一斉に適用するものとする。

第40項 この学則は、2022(令和4)年4月1日から実施する。ただし、別表Iおよび別表IIに規定する教育課程は2021(令和3)年4月入学者より一斉に適用し、メディア表現学部メディア表現学科において第18条に規定する高等学校教諭1種免許状(情報)を取得しようとする者は、2021(令和3)年4月入学者より必要単位を履修することができるものとする。また別表IIIに規定する図書館司書課程に関する科目の一部については2021(令和2)年4月以前入学者に対しても適用する。その移行・経過措置は別に定める。

第41項 この学則は、2023(令和5)年4月1日から実施する。ただし、別表Iに規定する教育課程のうちデザイン学部とマンガ学部の教育課程は2021(令和3)年4月入学者より、別表IIに規定する教育課程は2022(令和4)年4月入学者より一斉に適用する。

第42項 この学則は、2024年11月7日に改定・施行する。ただし、第11条第1項および第2項については、2025年(令和7年)4月1日から実施する。

※別表I～Vは省略

京都精華大学大学院 学則

第1章 | 総則

[目的]

第1条 京都精華大学大学院(以下「本大学院」という。))は、学術の理論および応用を研究・教授し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。

[自己評価等]

第2条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、本大学院の目的および社会的使命を達成するため、本大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表する。

2 前項の点検および評価を行うため、委員会を設ける。

3 委員会に関する規程は、これを別に定める。

4 点検、評価の項目等については、これを別に定める。

5 本大学院は、第1項の点検および評価の結果について、本大学院の教職員以外の者による検証を行うものとする。

[研究科]

第3条 本大学院に次の研究科をおく。

芸術研究科
デザイン研究科
マンガ研究科
人文学研究科

[課程]

第4条 本大学院に博士課程および修士課程をおく。

2 博士課程は、前期2年の課程(以下「博士前期課程」という。))および後期3年の課程(以下「博士後期課程」という。))に区分する。

3 博士前期課程は、修士課程として取り扱うものとする。

4 博士前期課程および修士課程は、広い視野にたつて精妙な学識を修め、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うものとする。

5 博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその高度な専門的業務に従事するに必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

[専攻および収容定]

第5条 研究科の専攻ならびにその入学定員および収容定員は、別表第1のとおりとする。

[人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的]

第5条の2 本大学院の研究科・専攻の人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

芸術研究科 芸術専攻 博士前期課程

専門領域にとらわれない多角的視点と柔軟な想像力を養い、芸術表現のさらなる探究を目的とし、新しい芸術文化の発信と高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

芸術研究科 芸術専攻 博士後期課程

多種多様な芸術表現のジャンルを整理・融合させながら専門応用能力を養い、制作と理論との調和を軸に、高度に洗練された芸術表現手法と芸術理論の探究を目的とし、新しい芸術文化の発信と活性化に貢献できる人材の養成を目的とする。

デザイン研究科 デザイン専攻 修士課程

デザイン分野の社会動向に広い視野と見識を備え、デザイン受容者の潜在的ニーズの分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

デザイン研究科 建築専攻 修士課程

社会動向に広い視野と見識を持ち、建築分野において多様な側面から分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

マンガ研究科 マンガ専攻 博士前期課程

国際的にも注目されるマンガ・アニメーション分野において、体系的な学術研究を深め、次代を担う新しい文化の発展に貢献できる高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

マンガ研究科 マンガ専攻 博士後期課程

国内外の様々な要請に対応可能なマンガ・アニメーション分野について、多角的視点から学術研究を行い、制作および理論に関する特に高度な能力を有した人材の育成を目的とする。

人文学研究科 人文学専攻 修士課程

人文諸科学を総合する学際的なアプローチにて、現代社会が直面する現実課題の探求を体系化し、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

[研究科委員会および博士後期課程委員会]

第6条 本大学院に研究科委員会および博士後期課程委員会をおく。

2 研究科委員会は、研究科の授業を担当する教授、准教授、講師および助教をもって組織し、研究科長がこれを招集し、その議長となる。

3 研究科の責任者を研究科長とする。ただし、学部長との兼任を妨げない。

4 博士後期課程委員会は、当該研究科博士後期課程の担当教員をもって組織し、研究科長がこれを招集し、その議長となる。

[研究科委員会および博士後期課程委員会の審議事項]

第7条 研究科委員会は、博士前期課程および修士課程に関し、また博士後期課程委員会は博士後期課程に関し、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学(転入学を含む)、および課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育に関する重要な事項で、研究科委員会または博士後期課程委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 研究科委員会は、学長及び研究科長(以下この項において「学長等」という。))がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

[学費等納付金および手数料]

第8条 入学検定料、入学金および授業料等の学費は、別表第2の通りとする。

2 前項に規定する既納の入学検定料、入学金および授業料等の学費は、原則として返還しない。

3 前項の規定にかかわらず、入学許可を得た者で、指定の期日までに入学手続の取り消しを願った者については、入学金またはこれに相当する金額を除く学費を返還する。

4 入学検定料以外の手数料については、別にこれを定める。

5 学費納入に関する規程は、本条に定めるものの他、別にこれを定める。

第2章 | 学年・学期・休業日・修業年限等

[学年]

第9条 大学院の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

[学期および授業日数]

第9条の2 1学年の授業日数は定期試験の日数を含めて35週、210日を下らないものとし、1学年を分けて次の学期とする。

① 前期 4月1日より9月30日まで

② 後期 10月1日より3月31日まで

[休業日]

第9条の3 休業日は次のとおりとする。

① 日曜日

② 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

③ 春季・夏季・冬季の休業期間は、各年度ごとに定める

2 学長が必要と認めたときは、臨時に休業日を設け、または休業日を変更することができる。

3 学長が必要と認めたときは、休業日に授業を行うことができる。

[修業年限]

第10条 博士前期課程および修士課程の標準修業年限は、2年とする。

2 博士後期課程の標準修業年限は、3年とする。

[在学年限]

第11条 博士前期課程および修士課程の学生は、4年を超えて在学することができない。

- 2 博士後期課程の学生は、6年を超えて在学することができない。
- 3 学長が有益と認めるときは、他の大学院研究科等における修学期間を修業年限に算入することができる。ただし、他の大学院研究科等における修学期間については1年を超えて算入することはできない。

第3章 | 入学・休学・退学等

[入学の時期]

第12条 入学の時期は、学年の始めとする。

[入学資格]

第13条 博士前期課程および修士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により、学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - (5) 日本において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限り)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するもの当該課程を修了した者
 - (6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であること、その他の文部科学が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
 - (7) 文部科学大臣の指定した者
 - (8) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
 - (9) 大学に3年以上在学した者であって、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められたもの
 - (10) 外国において15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、または日本において外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限り)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するもの当該課程を修了した者で、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められたもの
 - (11) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したものの
- 2 博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。
- (1) 修士の学位または専門職学位を有する者
 - (2) 外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (3) 文部科学大臣の指定した者
 - (4) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したものの
 - (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (6) 日本において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するもの当該課程を修了し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (7) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
 - (8) 外国の学校、第6号の指定を受けた教育施設または国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験および審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - (9) 大学を卒業した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院において当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者

[入学者の選考]

- 第14条** 入学志願者に対しては、入学試験を行う。
- 2 入学試験に関し必要な事項は、別にこれを定める。

[入学許可等]

- 第15条** 入学試験に合格した者は、学長が指定する期日までに所定の納付金を納入し、かつ必要書類を提出しなければならない。
- 2 学長は、前項の規定により所定の納付金を納入し、かつ必要書類を提出した者に対し、入学を許可する。

[再入学]

- 第16条** 退学した者または除籍となった者が、保証人連署のうえ、所定の様式により再入学を願い出たときは、研究科委員会または博士後期課程委員会の審議を経て、学長はこれを許可することができる。
- 2 再入学を願い出ることのできる期間は、退学の日または除籍の日より2年以内とする。
- 3 再入学の時期は学期の始めからとする。
- 4 再入学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[転入学]

第17条 他の大学院に1年以上在籍した後、本大学院の研究科に転入学しようとする者については、選考のうえ、既に在学した大学院において履修した授業科目の内容と成績等を考慮し、学長は入学を許可することができる。

[休学]

- 第18条** 学生が疾病その他の事由によって3ヶ月以上就学することができないときは、保証人連署のうえ、所定の様式により願い出て、休学することができる。
- 2 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。
- 3 休学の期間は通算して、博士前期課程および修士課程にあっては2年、博士後期課程にあっては3年を超えることができない。
- 4 休学の期間は、第10条および第11条に定める修業年限および在学年限に算入しない。
- 5 休学期間中の学費は、半期20,000円、通年40,000円とし、納入等に関する規定は第8条による。
- 6 休学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[復学]

- 第19条** 休学者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ、所定の様式により願い出て、学長の許可を得て復学することができる。
- 2 復学の時期は学期の始めからとする。
- 3 復学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[退学]

- 第20条** 疾病、その他の事由によって退学または転学しようとする者は、保証人連署のうえ、所定の様式により願い出なければならない。
- 2 退学および転学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。
- 3 懲戒による退学に関する規程は、第37条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[除籍]

- 第21条** 学長は、学生が次の各号のいずれかに該当するときは、研究科委員会または博士後期課程委員会の審議を経て、学生を除籍する。
- (1) 第11条に規定する在学年限を超えた者
 - (2) 第18条第2項および第3項に規定する休学年限を超えた者
 - (3) 所定の授業料等学費の納付を怠り、その督促を受けてもこれを納入しない者
 - (4) 第19条に規定する復学手続きのない者
 - (5) 本大学院での就学意思のない者
 - (6) 本人が死亡したとき
 - (7) その他、学長が相当の理由を認めるとき
- 2 除籍に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第4章 | 授業

[授業科目および単位数]

- 第22条** 本大学院の芸術研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-1に定める。
- 2 本大学院のデザイン研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-2に定める。
- 3 本大学院のマンガ研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-3に定める。
- 4 本大学院の人文科学研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-4に定める。

[学部開設科目等の履修]

第22条の2 学長は、教育研究上の必要に応じて、学生に授業科目を指定して、学部、本大学院の他研究科、他専攻および他課程が開設する授業科目を履修させることができる。

[単位の認定]

第23条 学長は、授業科目を履修した学生に対して、当該授業科目の試験および研究報告の成績を審査し、その結果に基づき、研究科委員会の審議を経て、相当する数の単位を与える。

[他の大学院との交流]

第24条 学長は、教育上有益と認めるときは、他の大学院との協定に基づき、その大学院(以下「交流協定校」という。)との間に学生を交流し、学生に必要な授業科目を履修させ、または研究指導を受けさせることができる。

2 前項の規定に基づいて学生が履修した単位は、15単位を超えない範囲で、本大学院で履修したものとみなすことができる。

3 交流協定校の認定、交流協定校における学生の履修した授業科目の単位の認定、その他、他の大学院との交流に関する重要事項については、研究科委員会の審議を経て学長が決定する。

4 本条第2項の規定は、外国の大学院において授業科目を履修した場合においても準用する。

5 他の大学院との交流に関して実施上必要とされる具体的措置については、別にこれを定める。

[研究指導]

第25条 本大学院に在学する学生は、担当教員による研究指導を受けなければならない。

2 学長が教育上有益と認めるときは、学生は他の大学院または研究所等において必要な研究指導を受けることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は、博士前期課程および修士課程の学生にあっては1年を超えないものとする。

[入学前の既修得単位等の認定]

第26条 学長が教育上有益と認めるときは、学生が本大学院入学前に他大学院において履修した授業科目について修得した単位を本大学院で修得したものとみなすことができる。ただし、学部学生として履修した科目については認めない。

2 前項の規定により修得したものとみなし、博士前期課程および修士課程の修了要件である単位数に算入することのできる単位数は15単位を超えないものとし、かつ第24条第2項に定めるものと合わせて20単位を超えないものとする。

第5章 | 課程の修了および学位

[博士前期課程および修士課程の修了]

第27条 博士前期課程および修士課程に2年以上在学し、修了の要件となる単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文または修士作品についての研究成果の審査および最終試験に合格し、かつ学費等納入金について大学への諸債務を滞納していない者に対し、研究科委員会の審議を経て、学長が修了を認定する。

2 前項の審査および最終試験については、別にこれを定める。

3 在学期間については、優れた研究業績をあげた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

[博士後期課程の修了]

第27条の2 博士後期課程に3年以上在学し、修了の要件となる単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格し、かつ学費等納入金について大学への諸債務を滞納していない者に対し、博士後期課程委員会の審議を経て、学長が修了を認定する。

2 前項の審査および最終試験については、別にこれを定める。

3 在学期間については、優れた研究業績をあげた者については、博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した場合にあっては、博士後期課程に1年以上、前条第3項の規定による在学期間をもって修了した場合にあっては、博士課程に3年(当該在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

4 前項の規定にかかわらず、第13条第2項第2号から第4号までの規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で優れた研究業績をあげた者の在学期間については、博士後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

[学位の授与]

第28条 学長は、博士前期課程および修士課程の修了を認定した者に対して、修士の学位を授与する。

2 学長は、博士後期課程の修了を認定した者に対して、博士の学位を授与する。

3 本学博士後期課程に所定の修業年限以上在籍し、予備審査合格後に所定の単位を修得して退学した者が、第30条に定める研究生として在籍し、かつ退学後5年以内に学位論文の審査に合格した場合、博士の学位を授与することができる。

4 本大学院の行う博士論文の審査に合格し、かつ本学博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有すると認定した者に対して、博士の学位を授与することができる。

5 修士および博士の学位の授与については、学長が定める。

6 本大学院が授与する学位の種類および専攻分野の名称は、次の通りとする。

芸術研究科	博士前期課程 修士(芸術)
	博士後期課程 博士(芸術)
デザイン研究科	修士課程 修士(芸術)
マンガ研究科	博士前期課程 修士(芸術)
	博士後期課程 博士(芸術)
人文学研究科	修士課程 修士(人文学)

7 学位に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第6章 | 委託生・研究生・特別交流学生・科目等履修生および外国人留学生

[委託生]

第29条 本大学院において研修することについて、国・地方公共団体または他の教育機関から委託された者(外国人留学生を除く。)があるときは、本大学院における教授および研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、研究科委員会の審議を経て、委託生として学長が入学を許可することができる。

2 委託生の委託料は、別表第2の①に規定する一般学生の授業料相当額とする。

[研究生]

第30条 本大学院の専任教員のもとで研究しようとする者があるときは、研究科委員会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

2 研究生の授業料等の学費は、別表第2の②に定めるところによる。

3 研究生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[特別交流学生]

第31条 第24条に規定する交流協定校の大学院学生が、特別交流学生として特定の授業科目の履修または研究指導を受けることについて、研究科委員会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

2 特別交流学生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[科目等履修生]

第32条 本大学院以外の者で1または複数の授業科目を履修することを希望する者があるときは、本大学院における教育および研究に支障がなく、また、本大学院が指定する科目に限り、学長がこれを許可することができる。

2 履修を許可する授業科目の単位数は、1年度につき8単位以内とし、在学期間は1年以内とする。

3 科目等履修料等の納付金については、別表第2の③に定めるところによる。

4 科目等履修生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[外国人留学生]

第33条 勉学の目的を持った外国人で、第13条の要件を充足する者が、本大学院への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[教育免許状の取得・種類]

第34条 中学校教諭1種免許状および高等学校教諭1種免許状授与の所要資格を有する者で、当該免許状同一教科に係る中学校教諭専修免許状および高等学校教諭専修免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法および教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本大学院において当該所要資格を取得できる中学校教諭専修免許状および高等学校教諭専修免許状の免許教科の種類は、中学校教諭専修免許状(美術・社会)および高等学校教諭専修免許状(美術・工芸・公民)とする。

[学芸員資格の取得]

第35条 博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法および同法施行規則に定めるところにより、学部において開設する博物館学芸員に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

第7章 | 賞罰

[表彰]

第36条 学長は、人物、学業ともに優秀な学生に対して、これを表彰する。

[懲戒]

- 第37条** 学長は、本大学院の学則または規程に違反し、その他学生としての本分に反した者で、研究科委員会または博士後期課程委員会の審議を経て懲戒する。
- 2 学生の懲戒に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第8章 | 補則

[補則]

- 第38条** この大学院学則の施行に関して必要な細則は、学長が定める。

附則

(略)

- 第23項** この学則は、2025(令和7)年4月1日から施行する。

※別表第1～3は省略

京都精華大学 学位規程

[目的]

- 第1条** この規程は、京都精華大学学則(以下「大学学則」という。)および京都精華大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)の規定に基づき、京都精華大学(以下「本学」という。)が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

[学位の種類]

- 第2条** 本学において授与する学位および付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

- (1) 国際文化学部 学士(人文学)
- (2) メディア表現学部 学士(メディア表現)
- (3) 芸術学部 学士(芸術)
- (4) デザイン学部 学士(芸術)
- (5) マンガ学部 学士(芸術)
- (6) ポピュラーカルチャー学部 学士(芸術)
- (7) 人文学部 学士(人文)
- (8) 人文学研究科 修士(人文学)
- (9) 芸術研究科 修士(芸術)
..... 博士(芸術)
- (10) デザイン研究科 修士(芸術)
- (11) マンガ研究科 修士(芸術)
..... 博士(芸術)

[学位授与の要件]

- 第3条** 学士の学位は、本大学学則の定めるところにより、本学学部で課程を修了した者に授与する。
- 2 修士の学位は、本大学院学則の定めるところにより、本大学院博士前期課程および修士課程を修了した者に授与する。
- 3 博士の学位は、本大学院学則の定めるところにより、本大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。
- 4 前項に定める者のほか、博士の学位は、本大学院学則の規定に基づき、博士論文の審査および試験に合格し、かつ本大学院博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することが認定された者にも授与することができる。

[審査対象]

- 第4条** 本大学院学則に規定する審査を受けるべき博士論文、修士論文、修士作品または特定の課題についての研究の成果は、次の表に掲げるとおりとする。

研究科・課程	審査対象
芸術研究科博士後期課程	博士論文
芸術研究科博士前期課程	修士論文または修士作品
デザイン研究科修士課程	修士論文または修士作品
マンガ研究科博士後期課程	博士論文
マンガ研究科博士前期課程	修士論文または修士作品
人文学研究科修士課程	修士論文または修士作品

[学位論文等の提出]

- 第5条** 修士の学位を得ようとする者は、所定の学位申請書(別表第1)に修士論文または修士作品(以下、「修士論文等」という。)を添え、研究科長に提出しなければならない。
- 2 博士の学位を得ようとする者は、所定の学位申請書(別表第1)に博士論文、博士論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文を添え、研究科長に提出しなければならない。
- 3 修士論文等または博士論文の提出の時期および試験の期日、方法については、別に定める。

[学位授与の申請]

- 第6条** 第3条第4項により博士の学位論文を提出して学位の授与を申請する者は、学位申請書に、博士論文、博士論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文、研究業績一覧、履歴書(別表第2)に論文審査料を添えて学長に提出するものとする。
- 2 前項における論文審査料については、これを別に定める。
- 3 提出された博士論文については、博士後期課程委員会の審議を経て、学長が受理する。
- 4 学長は前項により提出された博士論文の審査を研究科長に付託する。
- 5 受理した博士論文、博士論文の要旨、参考論文、研究業績一覧、履歴書等および論文審査料は返還しない。

[学位論文等の審査]

第7条 研究科長は修士論文等または博士論文(以下「学位論文等」という。)の提出または付託を受けたときは、研究科委員会または博士後期課程委員会にその審査を依頼する。

2 研究科委員会または博士後期課程委員会は、前項の依頼に基づき、学位論文等の審査を行うものとする。

3 研究科委員会または博士後期課程委員会は、学位論文等を審査するため、学位論文等ごとに審査委員会を設ける。

[審査委員会]

第8条 審査委員会は、提出された学位論文等の内容に関する専門分野の指導教員と、研究科委員会において選出された関連分野の教員2名以上を加えて組織する。

2 提出された学位論文等の審査にあたって、審査委員会は研究科長の承認を得て他の大学院または研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

3 審査委員会は、学位論文等の審査および試験を行うものとし、試験は、学位論文等を中心として口頭試問の方法によって行うものとする。

[審査結果の報告]

第9条 審査委員会は、審査および試験の結果について、文書により研究科長に報告しなければならない。

[課程修了および授与資格の審議]

第10条 研究科長は前条の報告に基づき、博士後期課程委員会または研究科委員会に学位論文等の審査および試験の結果を提案し、博士後期課程委員会または研究科委員会はその課程の修了の可否について審議する。

2 第3条第4項により学位の申請のあった者については、学位授与要件の有無について、審議する。

3 本条第1項および第2項に規定する審議は、構成員の3分の2以上が出席する博士後期課程委員会または研究科委員会において行い、出席者の過半数が審議結果に賛成しなければならない。

[審議結果の認定]

第11条 研究科委員会が前条第1項および第2項の審議を行ったときは、研究科長は速やかに文書により学長に報告し、学長がこれを認定する。

[学位の授与]

第12条 学長は、課程の修了または授与資格を認定した者に学位記を授与する。また、学位を授与できない者には、その旨を通知する。

[学位記の様式]

第13条 学位記の様式は別表第3、別表第4、別表第5および別表第6のとおりとする。

[学位論文、学位作品の保存]

第14条 本大学院で学位を授与された者は、学位論文1部または学位作品写真1部の原本ならびに磁気媒体を本学情報館に提供するものとし、博士の学位を授与された者は、国立国会図書館にも提供しなければならない。

[学位の名称の使用]

第15条 本大学院で学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、当該専攻分野の名称を記し、当該学位を授与した本大学院名を付記するものとする。

[学位授与の報告]

第16条 本大学院において博士の学位を授与したときは、学長は、当該博士の学位を授与した日から3か月以内に、学位授与報告書を文部科学大臣に報告するものとする。

[博士論文要旨の公表]

第17条 本学は、博士の学位を授与したときは、「学位規則」(昭和28年4月1日、文部省令第9号)の定めにより、当該博士の学位を授与した日から3か月以内に、当該博士の学位に係る論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

[博士論文の公表]

第18条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に公表したときは、この限りではない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない理由がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

[学位の取消]

第19条 学長は本学において学位を授与された者に次の事実があったときは、学位を取り消し、学位簿より削除し、学位記を返付せしめ、かつ、その旨を公表する。

(1) 不正な方法によって、学位の授与を受けた事実が判明したとき

(2) 名誉を汚辱する行為があったとき

[雑則]

第20条 本規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

[事務担当部署]

第21条 この規程に関する事務は、教学グループが担当する。

[改廃]

第22条 この規程の改廃は、常務理事会の議を経て、学長が行う。

附則

(略)

10 この規程は、2025(令和7)年4月1日から施行する。ただし、2024年度以前に国際文化学部へ入学した者は第2条第1項第1号を「国際文化学部 学士(文化)」を学位として取り扱うものとする。

※別表第1～6は省略

京都精華大学 履修規程

第1章 | 総則

[目的]

第1条 この規程は、京都精華大学学則（以下「大学学則」という。）の規定に基づき、京都精華大学（以下「本学」という。）における入学から卒業までの授業科目（以下「科目」という。）の履修登録、受講、単位修得方法等に関し必要な事項を定める。

第2章 | 単位の修得

[科目の開講方法]

第2条 科目の開講方法はクォーター制およびセメスター制で開講する。
2 本規程におけるクォーター制とは、第1クォーター、第2クォーター、第3クォーター、第4クォーターの各学期をもって各科目を完結させる制度のことをいう。
3 本規程におけるセメスター制とは、前期または後期の各学期をもって各科目を完結させる制度のことをいう。

[授業時間]

第3条 授業時間は次の表に掲げるとおりとする。

1講時	2講時	3講時	4講時	5講時	6講時
9:00 ～10:30	10:40 ～12:10	13:00 ～14:30	14:40 ～16:10	16:20 ～17:50	18:00 ～19:30

[単位の修得]

第4条 当該学期の履修登録を行った科目（以下「履修科目」という。）について単位を修得することができる。
2 履修科目の単位を修得するためには、授業および授業外学修を行い、大学学則第19条の規定に従って60点以上の成績評価を取得しなければならない。
3 単位は、各授業科目のシラバスに基づき、学習意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価し授与されるものとする。
4 原則として、履修科目の授業にはすべて出席しなければならない。
5 代人に受講させる等、授業出席に関して不正行為と判断された場合は、当該科目の成績評価は0点となり、単位を修得できない。
6 学期末試験および授業時間内に実施される中間テストならびに小テスト等の各種試験において、不正行為と判断された場合は、当該科目のみならず、当該学期の全履修科目の成績評価は0点となり、単位を修得できない場合がある。
7 課題レポート・課題作品や卒業論文・卒業制作の作成において、剽窃またはインターネットからのコピー・アンド・ペースト等の不正行為と判断された場合は、当該科目のみならず、当該学期の全履修科目の成績評価は0点となり、単位を修得できない場合がある。
8 前2項における不正行為の判定や成績評価については別に定める。

[履修登録]

第5条 履修登録とは、履修する科目を、自らの責任において、大学の指定した方法により登録することをいう。
第6条 履修登録は原則、学期ごとに行い、所定の期間内に完了しなければならない。
2 所定の期間内に履修登録を行わなかった場合は、当該学期における登録はなかったものとし、授業への出席や各種試験受験等の事実に関わらず、単位を修得できない。
3 やむをえない事情により所定の期間内に履修登録を完了できない場合は、あらかじめ教学グループに申し出て許可を得なければならない。
4 履修登録においては、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載したシラバスを、当該年度に開講する授業科目ごとに作成し、公開する。
5 履修登録は、授業外学修に要する学修時間を考慮するとともに、4年間の学修計画を立て、進級、卒業要件等を自ら確認したうえで慎重に行わなければならない。
6 本規程に定めるもののほか、履修に関わる必要な事項は、別途公示する。
7 履修確認後は、登録した科目の変更や追加等は原則として認められない。やむを得ず科目の変更や追加等の必要がある場合は、指定された期間内に、指示された方法で、自らの責任において履修変更等の手続を行わなければならない。
第7条 履修科目の取消は、原則として認められない。やむを得ず取り消す必要がある場合は、指定された期間内に、指示された方法で、自らの責任において履修取消の手続を行わなければならない。
2 履修取消について指示された方法で手続を行った場合でも、卒業要件や履修者数などの理由で取消が認められない場合がある。
3 手続を行わずに放棄した科目の成績評価については、大学学則第19条第3項

に定めるGPAの算出時に算入する。

[履修上限単位]

第8条 各学期（各クォーター）に履修登録できる単位数は、10単位を限度とする。ただし、次の各号に定める科目等の単位数は、これに算入しない。
(1) 教職に関する科目 (2) 博物館学芸員に関する科目
(3) 図書館司書に関する科目
(4) 大学コンソーシアム京都等による本学が認めた単位互換科目
2 前項の規定にかかわらず、集中授業形式で開講される授業（以下「集中授業」という。）の履修は、各学期の履修登録上限単位数に含めない。ただし、年度内の集中授業の履修登録上限単位数は8単位とし、後期から入学または復学等した場合は4単位とする。
3 前々項の規定にかかわらず、教務委員会が必要と判断した場合は、各学期の限度となる単位を超えた履修を認めることがある。

[配当年次]

第9条 当該科目が履修可能な学年を配当年次という。上級配当年次の科目を、原則として下級年次の学生が履修することはできない。
2 前項の規定にかかわらず、教務委員会が特に教育上有益と判断した場合は、上級配当年次の科目の履修を認めることがある。

[不開講科目]

第10条 年度や学期によって開講されない科目がある。
2 授業開講人数基準については、「京都精華大学授業開講基準」に定める。
3 授業開講人数基準によって不開講となった科目において当該科目の履修者が希望する場合には他の科目を相当単位数分、新たに登録することができる。

[履修者数の制限]

第11条 科目によって、授業を円滑に開講するために履修者数を制限することがある。
2 前項にもとづき、履修登録を行う前に抽選または選考を行うことがある。
3 抽選または選考が必要な科目について、これを経ないで履修登録を行った場合は、当該科目の登録は無効となる。

[既修得科目の履修]

第12条 単位を修得した科目は、再度履修することはできない。

[同一時間の重複履修]

第13条 当該学期の同一時間に重複して科目を履修することはできない。

[再履修]

第14条 不合格になった科目を再度履修登録することを再履修という。

[標準修得標準単位数]

第14条の2 4年間で卒業するための各学年における標準的な修得単位数を標準修得単位数とし、31単位と定める。

[授業料未納者の扱い]

第15条 授業料その他納付金の未納者は、当該学期の履修登録は無効となり、授業への出席や各種試験受験等の事実にかかわらず、単位を修得することができない。

[出席等の取扱い]

第16条 授業への出席に際しては、常時、学生証を携帯しなければならない。
2 学生証の不携帯は、担当教員の判断により欠席として扱われることがある。

[公欠]

第17条 当該授業への不参加を欠席として扱わないことを公欠という。当該授業における教授内容（各種の試験やレポートの提出を含む）を免除するものではない。公欠となる欠席の理由については別表第1に定める。

[長期欠席]

第18条 1ヶ月を超えて欠席することを長期欠席という。長期欠席をする学生は、授業担当教員に連絡するとともに、診断書等を教務チームに提出しなければならない。ただし、本規程第17条に定める公欠には該当しない。

[成績評価]

第19条 履修科目の成績は、学期末試験、期中のテスト等の試験、レポート、授業への参加度等を総合評価する。具体的な評価方法と評価基準は、履修科目の担当教員がシラバスにて公示する。

[成績通知]

第20条 成績は学期ごとに大学が定める方法によって学生本人および学費支弁者

に対して通知する。

[Grade Point]

第21条 履修科目に応じて、相応するGrade Pointを付与する。Grade Pointの付与基準は大学学則第19条第3項に定める。

第22条 学生が学修の成果を自ら検証するための指標として、Grade Point Average (以下「GPA」という)を算出する。

2 GPAを算出するための対象科目(以下「GPA対象科目」という)は、原則として卒業要件単位に算入する全科目とする。ただし、単位認定科目等、成績点数の表記がない科目は除外する。

3 履修取消について指示された方法で手続を行い、取消が認められた科目は、GPAの算出から除外する。

[成績評価]

第23条 成績評価は、次学期における他の科目の履修可否や留学等学内の諸制度の選考における判定基準として利用される。

2 GPAの算出対象科目は、過年度の不合格科目も含めた卒業要件の対象となる全履修科目とする。

3 一旦不合格になった科目を次学期以降に再履修した場合は、当該科目の成績が更新される。

[進級、留年、成績不良による退学勧告]

第23条の2 大学学則第12条第2項に定める進級とは、当該学年での学修を修了し、次学年での学修を開始することをいう。進級するためには、各学年において次の各項の進級要件を充足しなければならない。ただし、本学が派遣する1年以上の長期留学参加者はこの限りではない。

2 1年次生が2年次へ進級するための要件は、別表第2の1に定める。

3 2年次生が3年次へ進級するための要件は、別表第2の2に定める。

4 3年次生が4年次へ進級するための要件は、別表第2の3に定める。

第23条の3 前条に定める進級要件を充足できない者は、大学学則第12条第2項に基づき当該年次に留年となる。

2 留年者に対して当該学部は教員が面談指導を行う。面談結果とGPA等を勘案し成業の見込みがないと判断した場合は、当該学部運営会議の議を経て、学部長は当該学生に休学及び退学勧告を行うことができる。

3 面談指導には、学費支弁者等を同伴させることができる。

[編入学]

第24条 大学学則第27条に定める編入学を許可された者が入学する前の大学等において修得した単位のうち、入学する年次において以下の通り定めた範囲で本学において履修し、修得したものとみなすことができる。

2年次編入学者 30単位 3年次編入学者 62単位

第25条 単位認定の手続は、入学までに、次の各号に定める書類を添付して、指定した期日までに本学へ申請しなければならない。

(1) 出身大学、短期大学、高等専門学校または専修学校の既修得単位を証明する成績証明書または単位修得証明書

(2) 既修得科目のシラバス

第26条 認定対象科目は、本学科目の中から教務委員会が適当と認める科目とする。

第27条 単位の認定は、申請手続時に提出された成績証明書、講義概要等により判断する。

2 次の各号のいずれかに該当する場合は、単位を認定しないことがある。

(1) 既修得科目の授業時間数および単位計算方法が本学の基準に準じたものではない場合

(2) 成績評価が低い場合

第28条 編入学生の修業年限は以下の通りとする。

2年次編入学生 3年 3年次編入学生 2年

第29条 編入学生の在学年限は以下に定める期限を越えることはできない。

2年次編入学生 6年 3年次編入学生 4年

第30条 大学学則第18条第1項から第3項に定める資格においては、本規程第29条に定める修業年限の期間の範囲内で修得できないことがある。

[転入学]

第31条 転入学については大学学則第28条に定める。

[転学部、転学科]

第32条 転学部および転学科に関する規程は、別にこれを定める。

[入学前の既修得単位認定の取扱]

第33条 単位認定の手続は、入学後、指定した期日までに教学グループへ次の各号に定める書類を添えて申請しなければならない。

(1) 出身大学、短期大学、高等専門学校または専修学校の既修得単位を証明する成績証明書または単位修得証明書

(2) 既修得科目のシラバス

第34条 認定対象科目は、大学学則第15条の規定にもとづき、大学又は短期大学における既修得単位の認定にあたって、本学が指定する科目とする。

第35条 既修得単位の認定は、60単位を超えない範囲で行う。

第36条 単位の認定は、申請手続時に提出された成績証明書、シラバス等により教務委員会からこれを委託された教務部長がこれを判断する。

2 次の各号のいずれかに該当する場合は、単位を認定しないことがある。

(1) 既修得科目の授業時間数および単位計算方法が本学の基準に準じたものではない場合

(2) 成績評価が低い場合

3 教務委員会が必要と判断した科目は、試験等を課すことがある。

[技能審査等の合格に係る学修により認定できる単位]

第37条 大学学則第14条により次の各号のいずれかに該当する資格試験(以下「試験」という。)で、次項に定める成績基準を満たした場合、本学における全学共通教育科目として開講する授業科目の一部を履修したものとみなし、単位を与えることができるものとする。

(1) 実用英語技能検定試験(以下「英検」という。)

(2) TOEFL (Test of English as a Foreign Language)

(3) TOEIC (Test of English for International Communication)

(4) IELTS (International English Language Testing System)

(5) JLPT (日本語能力試験) (6) JPT (日本語能力試験)

2 前項に規定する試験での単位認定の成績基準、授業科目及び認定単位数は、別表第3に定める。ただし、認定時において、当該授業科目の単位を既に修得している場合は、その単位数を控除して認定する。

3 上記第1項による単位認定の手続は、入学後、指定した期日までに教学グループへ次の各号に定める書類を添えて申請しなければならない。

(1) 当該資格試験に関する認定(合格)通知書又は成績証明書(ただし、原本に限る。)

(2) 本学が定める所定の単位認定申込書

4 教務委員会は、当該授業科目にあたる「英語」並びに「日本語」について、上記第3項によって申し出があった場合、単位認定にあたり、必要に応じて申請者と面談の上、その適切性を判断する場合がある。

[暴風警報、特別警報、交通機関運休による休校、休講措置]

第38条 次の各号のいずれかに該当する場合は、休校・休講措置をとることとする。その場合の条件は別表第4の1および別表第4の2に基づく。

(1) 気象庁が発表する気象警報において、「京都府南部」(もしくはその細分区域である「南丹・京丹波」、「京都・亀岡」、「山城中部」、「山城南部」のいずれかの地域)に暴風警報、もしくは特別警報が発令されたとき。

(2) JR在来線(米原～神戸)、叡山電鉄(鞍馬線)、京都市営地下鉄、および京阪電鉄(本線)、阪急電鉄(京都線)、近畿日本鉄道(京都線)のいずれかが運休になり、なおかつバス等の代替手段がないとき。

2 第1項の規定には、大雨洪水警報ないし大雪警報は含まれない。

3 第1項の規定にかかわらず、災害その他特別の事由がある場合は、学長の判断により臨時に休講の措置を講ずることがある。

[雑則]

第39条 本規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

[事務担当部署]

第40条 この規程に関する事務は、教学グループが担当する。

[改廃]

第41条 この規程の改廃は、常務理事会の議を経て、学長が行う。

附則

(略)

10 2024年5月13日に改定し、2025年4月1日から施行する。ただし、2024年度以前の入学者については、第8条第1項の各学期に履修登録できる単位数の上限は各クォーターで12単位(集中授業含む)、各セメスターで24単位(集中授業含む)を限度とし、第8条第2項は適用しない。また、第23条の2の規定にかかわらず、2021年度入学者から2024年度以前入学者の進級要件は、以下のとおりとする。

1年次生が2年次へ進級するための要件

学部・学科	要件
全学部全学科	1年次終了時に総修得単位数(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)が10単位以上に達していること

2年次生が3年次へ進級するための要件

学部・学科・コース	要件
国際文化学部、メディア表現学部を除くすべての学部・学科	<ul style="list-style-type: none"> 全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること 学部専門の1・2年次必修科目の20単位をすべて修得していること
国際文化学部人文学科	<ul style="list-style-type: none"> 全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること 学部専門の1・2年次必修科目の28単位をすべて修得していること
国際文化学部グローバルスタディーズ学科	<ul style="list-style-type: none"> 全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること 学部専門の1・2年次必修科目の30単位をすべて修得していること
メディア表現学部メディア表現学科	<ul style="list-style-type: none"> 全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること 「プログラミング1・2・3・4」を修得していること 学部専門の1・2年次必修科目の20単位をすべて修得していること

3年次生が4年次へ進級するための要件

学部・学科・コース	要件
国際文化学部、メディア表現学部を除くすべての学部・学科	学部専門の3年次必修科目の12単位をすべて修得していること
国際文化学部人文学科	学部専門の3年次必修科目の16単位をすべて修得していること
国際文化学部グローバルスタディーズ学科	学部専門の3年次必修科目の20単位をすべて修得していること
メディア表現学部メディア表現学科	<ul style="list-style-type: none"> 「インターンシップ1」、「インターンシップ2」から1科目を修得していること 学部専門の3年次必修科目の12単位をすべて修得していること

別表第1(第17条関係)
公欠として認められる事由

事由	要件	日数
忌引	1親等の血族または配偶者	7日
	2親等の直系血族	3日
	1親等の姻族	3日
	上記以外の3親等以内の血族	1日
	2親等以内の姻族	1日
通学経路の交通機関が事故などにより不通になった場合		当該事由が解消されるまで
教育実習、博物館実習、介護等体験、学外実習		当該実習期間
学校感染症	学校保健安全法に定める感染症を罹患した場合	学校保健安全法施行規則に定められた期間
外国人留学生の在留申請等手続き		1日(入国管理局出頭当日)
裁判員制度による裁判への参加		制度により定められた期間

別表第2の1(第23条の2関係)

(略)

別表第2の2(第23条の2関係)

(略)

別表第2の3(第23条の2関係)

(略)

別表第3(第37条関係)

技能審査等の合格に係る学修により認定できる単位

① 2025年度以降入学者対象

(略)

② 2021年度から2024年度入学者対象

対象科目	成績基準(スコア/級)	授業科目及び認定単位数
英語科目	TOEIC(L&R) 550点以上	「英語1」、「英語2」、 「英語3」に加え、「英語4」、 すなわち4単位を認定する
	TOEFL(iBT) 54点以上	
	TOEFL(ITP) 480点以上	
	IELTS 5点以上	
	英検 準1級以上	
	TOEIC(L&R) 500点以上	「英語1」に加え、「英語2」、 すなわち2単位を認定する
	TOEFL(iBT) 32点以上	
	TOEFL(ITP) 470点以上	
	IELTS 4.5点以上	
	その他の資格試験	申請があった場合、 教務委員会で審議の上、 学長に提案し、学長が適切と 認めた場合、相当数の科目 並びに単位を認定する
科 日本語	日本語能力試験JLPT N1以上	「日本語1」、「日本語2」、 「日本語3」、「日本語4」、 すなわち4単位を認定する
	JPT 660点以上	

別表第4の2(第38条関係)

休校・休講の判断基準(交通機関運行の状況)

基準時刻	条件	休校・休講の措置
午前7時	運行が再開されている	平常授業実施
	運行が再開されていない	午前中休講
午前9時	運行が再開されている	3講時より平常授業実施
	運行が再開されていない	終日休校

9時よりも後に警報発令となった場合は、その時点から休講とする。

別表第4の1(第38条関係)

休校・休講の判断基準(気象警報)

基準時刻	条件	休校・休講の措置
午前7時	警報が解除されている	平常授業実施
	警報が解除されていない	午前中休講
午前9時	警報が解除されている	3講時より平常授業実施
	警報が解除されていない	終日休校

9時よりも後に警報発令となった場合は、その時点から休講とする。

京都精華大学 各種試験およびレポート等における不正行為に関する規程

〔目的〕

第1条 この規程は、京都精華大学履修規程第4条第8項の規定および京都精華大学大学院学則に基づき、本学の実施する各種試験およびレポート、課題作品・論文等における不正行為について、判定や成績評価に関する必要な事項を定めることを目的とする。

〔定義〕

第2条 この規程における用語の定義は、次のとおりとする。

- (1) 各種試験 授業科目において実施される試験、テスト
 - (2) レポート 授業科目において実施されるレポート試験
 - (3) 課題作品・論文 授業科目において指示された課題作品、卒業論文・卒業制作、修士論文・修士作品、博士論文・博士作品
- 2** この規程における「不正行為」とは、教務委員会において承認された「不正行為の取り扱いおよび防止に関するガイドライン」において定めた行為、および教務委員会において不正と判断した行為とする。

〔事案の報告〕

第3条 科目担当教員等は、不正と疑われる行為が発生した場合は、当該科目の開講学部長等を通して速やかに教務部長に報告するものとする。

〔調査委員会〕

第4条 教務部長は、前条の報告の後、速やかに教務委員会の下に調査委員会を設置して、事実の確認および当該学生に対する事情聴取を行い、不正行為の判定と成績評価を決定する。

2 調査委員会は、教務部長が委員長となり、当該学生が所属する学部等の教務委員を含む教務部長が指名した4名以上の教員で構成する。また、教学担当副学長は必要に応じて陪席することができる。

3 不正行為と判定した場合、成績評価は行為の重大性や悪質性により、当該科目の成績評価を0点とするか、当該学期の全履修科目の成績評価を0点とするか等を決定する。

〔当該学生への通知〕

第5条 教務部長は、不正行為の判定や成績評価が決定した場合は、速やかに当該学生に通知するものとする。

〔不服申立て〕

第6条 当該学生は、不服申立てする場合は7日以内に理由を記した文書を教務部長に提出することができる。

2 教務部長は、不服申立てがあった場合は、再度調査委員会を開催して審議しなければならない。なお、この再度の調査結果に対する不服申し立ては認めない。

〔事務担当部署〕

第7条 この規程に関する事務は、教学グループが担当する。

〔改廃〕

第8条 この規程の改廃は、常務理事会の議を経て、学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、2020年10月19日に制定し、同日から施行する。
- 2 2021年2月15日改定・施行
- 3 2023年12月11日に改定し、2024年4月1日から施行する。
- 4 2025年1月15日に改定し、2025年4月1日から施行する。

京都精華大学大学院 博士前期課程および修士課程 学位審査規則

[目的]

第1条 本規則は「京都精華大学大学院学則」および「京都精華大学学位規程」に基づき、京都精華大学(以下、「本学」という。)大学院博士前期課程および修士課程に在籍する学生の修了および修士論文、または修士作品の審査について必要な事項を定めるものである。

[学位取得の要件]

- 第2条** 修士の学位を得ようとする者は、課程に2年以上在学し、かつ修了の要件となる単位を修得しなければならない。
- 2** 修士の学位を得ようとする者は、修了予定学年の指定された期日までに、修士論文あるいは修士作品の審査を受けなければならない。
- 3** 第2項の修士論文あるいは修士作品の審査を受けようとする者は、審査に先立ち、学会、報告会、展覧会等により自らの研究成果を学内外に発表しなければならない。

[学位申請書の提出]

第3条 修士論文あるいは修士作品の審査を受けようとする者は、各研究科が別に定める「修士論文・修士作品提出要領」に基づき、指定された期日までに専任指導教員が署名・捺印の上、研究科長宛に「学位申請書」を提出しなければならない。

[修士論文・修士作品の提出]

第4条 修士論文あるいは修士作品は、各研究科が別に定める「修士論文・修士作品提出要領」に基づき、修士論文要旨、修士作品要旨を添付の上、指定された期日までに研究科長あてに提出しなければならない。

[学位審査委員会]

第5条 研究科長は、研究科委員会の議を経て、学位審査委員会を設置する。

[学位審査委員会の構成]

- 第6条** 学位審査委員会は、当該学生が在籍する研究科の研究科委員会において、資格を認定された3名以上の教員により構成し、うち1名以上は専任教員とする。
- 2** 前項の構成員に加え、研究科委員会が必要と認めた場合、他学部教員、他大学教員、他研究機関研究員、作家等、当該研究科に所属しない者を原則1名まで審査委員とすることができる。

[学位審査基準]

第7条 学位審査は以下の基準により厳正に行うものとする。

(1) 修士論文の学位審査基準

- ① 当該論文が学術的、社会的意義において価値を持ち、関連分野での貢献が期待できる内容であること
- ② 当該論文がテーマ、問題設定、研究内容について独創的であり、明確な結論を導き出していること
- ③ 当該論文がテーマに応じた研究・分析・手法や資料により論述が展開されていること

(2) 修士作品の学位審査基準

- ① 当該作品が独創的または普遍的な表現領域の可能性を探求し、社会に対して自らの深い思考が具体化されていること
- ② 当該作品が表現方法・内容において社会に対して明確なコンセプトを持ち、それに沿ったテーマと素材、技法を選択し、制作されていること
- ③ 当該作品が多角的視点と想像力に基づき、柔軟で応用力のある制作技術や高度な作法を用い、十分な完成度が認められること

[学位審査方法]

第8条 学位審査委員会は、修士論文あるいは修士作品を提出した者に対して、口述試問または筆記試験により審査を行う。

[審査結果の報告と修了の審議]

第9条 学位審査委員会は審査の可否結果を研究科長あてに報告する。研究科長は第2条の学位取得の要件を満たし、かつ第8条の審査に合格した者を研究科委員会に諮り、課程修了の審議を行う。

[学位の授与]

- 第10条** 研究科長は、第9条の研究科委員会において課程修了の審議を受けた者について学長に報告し、学長がこれを認定する。
- 2** 学長は前項の認定者に対して学位を授与する。

[修士論文・修士作品の保管]

第11条 第10条で課程修了の認定を受けた者の修士論文は正本として、また修士作品はデジタルデータもしくは図録等写真として本学情報館に永久保存する。

[事務担当部署]

第12条 この規則に関する事務は、教学グループが担当する。

[改廃]

第13条 この規則の改廃は、常務理事会が行う。

附則

(略)

- 4** 2024年7月8日に改定・施行する。

京都精華大学大学院(芸術研究科/マンガ研究科) 博士後期課程 学位審査規則

京都精華大学大学院芸術研究科

[目的]

第1条 この規則は、「京都精華大学学位規程」(以下「学位規程」という。)第3条第3項に基づく博士の学位(以下「課程博士」という。)の審査について定めるものである。

[学位審査予備審査]

第2条 京都精華大学大学院芸術研究科博士後期課程(以下「後期課程」という。)に在学し、学位請求論文を提出しようとするものは、事前に学位審査予備審査に合格しなければならない。

2 予備審査を受けようとする者は博士後期課程委員会が指定する期日までに第3項に定める書類を提出しなければならない。

3 予備審査に際し提出する書類およびその書式は、以下に定めるものとする。

(1) 学位審査予備審査申請書(様式第1号) 1部

(2) 研究業績一覧(様式任意) 1部

(3) 学位申請予備審査論文(以下「予備審査論文」という。) 5部

① 予備審査論文の使用言語は、日本語とする。ただし、指導教員ならびに博士後期課程委員会が認めた場合に限り、英語での予備審査論文の提出を可とする。

② 予備審査論文は、「はじめに(序論)」、「本論」、「おわりに(結論)」などの章節およびそれらの題目、すなわち学位請求論文の構成を明確にする目次を記すこと。

③ 予備審査論文は、使用言語を日本語とする場合は、400字詰め原稿用紙25枚以上(引用・資料を除く。)、またはPCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)で、10,000字以上(10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とすること。

使用言語を英語とする場合は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)でダブルスペースにより5,500words以上(1ページ:25行、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、引用・資料を除く。)とすること。

④ 予備審査論文の使用言語を英語とする場合は、予備審査論文とともに日本語の論文要旨を提出すること。日本語の論文要旨は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全文3,000字以上(10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とし、各章(各節)ごとに記すこと。

⑤ 予備審査論文には、それぞれの部分(章・節などについて)の概略を簡潔に記すこと。

⑥ 予備審査論文は、中央下にページ番号を記すこと。

[学位審査予備審査会]

第3条 学位審査予備審査会の構成は、以下に掲げる者とする。

(1) 博士後期課程委員会委員長

(2) 当該年度におけるすべての指導教員

(3) 上記の他に、博士後期課程委員会委員長が必要と認めるときは、研究科長と協議のうえ、研究科に所属する教員若干名を構成員とすることができる。

2 学位審査予備審査会委員長は博士後期課程委員会委員長とする。

[審査基準]

第4条 学位審査予備審査(以下「予備審査」という。)における審査は、以下の基準に基づいて厳正に行うものとする。

(1) 本学博士後期課程の修了要件単位の取得(またはその見込み)の確認

(2) 当該予備審査論文が、本学が授与する博士の学位を授与するにふさわしいものとして完成する見込みの有無

(3) 当該予備審査論文の属する研究領域において、独創性ある展開の可能性の有無

(4) 当該予備審査論文の属する研究領域の発展に貢献する可能性の有無

(5) 当該予備審査論文に、他の研究領域を含む学際性ある展開の可能性の有無

[合否の判定]

第5条 予備審査における合否の判定は、学位審査予備審査会構成員の3分の2以上が出席(4週間以上の出張者・欠勤者、休職者および学外研究員を定足数から除外する。)し、かつ、出席者の過半数が賛成しなければならない。

[審査結果の通知]

第6条 学位審査予備審査における審査結果については、博士後期課程委員会委員長が当該学生に文書によって通知するものとする。

[博士論文の審査]

第7条 博士論文の審査については、「学位規程」第7条の規定に基づく。

[学位審査会]

第8条 学位審査会は学位請求論文発表会と口頭試問により行うものとする。

2 課程博士の学位を申請することのできる者は、以下に掲げる者とする。

(1) 後期課程に在学し所定の単位を取得および取得見込みの者で、予備審査において学位請求論文の提出を認められた者

3 前項第1号および第2号に規定する者が課程博士の学位を申請しようとするときは、以下の書類を研究科長に提出しなければならない。

(1) 学位申請書(様式第2号) 1部

(2) 研究業績一覧(様式任意) 1部

(3) 学位請求論文 表紙(様式第3号)をつけ、レポートファイルに綴じこんだ状態のもの5部

① 学位請求論文の使用言語は、日本語とする。ただし、指導教員ならびに博士後期課程委員会が認めた場合に限り、英語での学位請求論文の提出を可とする。

② 学位請求論文は、「はじめに(序論)」、「本論」、「おわりに(結論)」などの章節およびそれらの題目、すなわち学位請求論文の構成を明確にする目次を記すこと。

③ 学位請求論文の使用言語を日本語とする場合は、400字詰め原稿用紙100枚以上(引用・資料を除く。)、またはPCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)で、40,000字以上(10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とすること。

使用言語を英語とする場合は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)でダブルスペースにより22,000words以上(1ページ:25行、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、引用・資料を除く。)とすること。

④ 学位請求論文は、レポートファイルに、内扉、目次、本文、引用・資料の順に綴り込むこと。

⑤ 学位請求論文は、中央下にページ番号を記すこと。

(4) 論文の要旨(様式任意) 5部

要旨は、学位請求論文の使用言語によって、それぞれ次の要領にて作成、提出すること。

[学位請求論文の使用言語を日本語とする場合]

・要旨はPCを使用し、日本語でA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに1,000字以上、10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)にて作成すること。

・上記、全体の概略を記した要旨(1枚)については、英文(A4用紙横書き550words以上、余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、ダブルスペースにより要約したもの)をあわせて作成、添付すること。

・中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

[学位請求論文の使用言語を英語とする場合]

・要旨はPCを使用し、日本語と英語、それぞれにて作成・提出すること。

日本語においてはA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに1,000字以上、10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)にて作成すること。

英語においてはA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに550words以上、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、ダブルスペースにより要約したもの)を作成すること。

・中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

(5) 研究業績として出版した論文があるときは当該論文の写し 5部

① 参考論文の写しは、ファイルに綴り込み、参考論文の写しごとに見出しをつけること。

② ファイルの表には、参考論文の写しであることを明記するとともに、学籍番号、氏名を記すこと。

(6) 学位請求論文および要旨のデータ

(7) その他、後期課程委員会が必要とする書類

4 (削除)

5 最終学位審査は、学位論文発表会終了後に、学位請求論文の属する研究領域およびその関連する分野に関する知見について、口頭試問によって行うものとする。

6 前項の試験を経て学位審査に合格した者は、指定された期日までに、長期保存に耐えるハードカバー製本を施した学位論文を3部提出するものとする。

[学位審査委員会]

第9条 学位審査委員会の構成については、「京都精華大学学位規程」第8条の規定に基づく。

2 審査委員会に委員長を置き、委員長は、博士後期課程委員会の互選によるものとする。

[審査基準]

第10条 学位審査は、以下の基準に基づいて厳正に行うものとする。

(1) 当該博士論文が、当該申請者の研究業績をふまえた内容であること

(2) 当該博士論文の属する研究領域において、独創性が認められること

(3) 当該博士論文の属する研究領域の発展に資するものであると認められること

(4) 当該博士論文に、他の研究領域を含む学際性が認められること

(5) 本学大学院が授与する博士の学位にふさわしいと認められるものであること

[審査結果の報告]

第11条 博士論文審査結果および試験結果については、「京都精華大学学位規程」第9条の規定に基づく。

[合否の審議]

第12条 研究科長は、前条の報告に基づき、後期課程委員会において合否を審議する。

2 前項に規定する合否の審議には、博士後期課程委員会構成員の3分の2以上が出席(4週間以上の出張者・欠勤者、休職者および学外研究員を定足数から除外する。)し、かつ、出席者の過半数が審議結果に賛成しなければならない。

[審議結果の認定]

第13条 審議結果の認定については、「京都精華大学学位規程」第11条の規定に基づく。

[雑則]

第14条 本規則に定めるものの他、必要な事項は別に定める。

[事務担当部署]

第15条 この規則に関する事務は、教学グループが担当する。

[改廃]

第16条 この規則の改廃は、常務理事会が行う。

附則

(略)

8 2024年11月11日改定・施行

※様式第1～4号は省略

京都精華大学大学院マンガ研究科

[目的]

第1条 この規則は、「京都精華大学学位規程」(以下「学位規程」という。)第3条第3項に基づく博士の学位(以下「課程博士」という。)の審査について定めるものである。

[学位審査予備審査]

第2条 京都精華大学大学院マンガ研究科博士後期課程(以下「後期課程」という。)に在学し、学位請求論文を提出しようとするものは、事前に学位審査予備審査に合格しなければならない。

2 博士後期課程委員会が指定する期日までに第3項に定める書類を提出しなければならない。

3 予備審査に際し提出する書類およびその書式は、以下に定めるものとする。

(1) 学位審査予備審査申請書(様式第1号) 1部

(2) 研究業績一覧(様式任意) 1部

(3) 学位申請予備審査論文(以下「予備審査論文」という。) 5部

① 学位申請予備審査論文の使用言語は、日本語とする。ただし、指導教員、ならびに博士後期課程委員会が認めた場合に限り、英語での学位申請予備審査論文の提出を可とする。

② 予備審査論文には、学位請求論文の構成を明確にする目次を付すこと。

③ 予備審査論文は、原則としてA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)で16,000字以上(11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とすること。

使用言語を英語とする場合は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)にダブルスペースにより、9,000words以上(1ページ:25行、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、引用・資料を除く。)とすること。

④ 予備審査論文には、800字程度の論文要旨を付すこと。

⑤ 予備審査論文の使用言語を英語とする場合は、日本語の論文要旨を提出すること。日本語の論文要旨は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全文3,000字以上(11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とし、各章(各節)ごとに記すこと。

⑥ 予備審査論文は、中央下にページ番号を記すこと。

[学位審査予備審査会]

第3条 学位審査予備審査会の構成は、以下に掲げる者とする。

(1) 博士後期課程委員会委員長

(2) 当該年度におけるすべての指導教員

(3) 上記の他に、博士後期課程委員会委員長が必要と認めるときは、研究科長と協議のうえ、研究科に所属する教員若干名を構成員とすることができる。

2 学位審査予備審査会委員長は博士後期課程委員会委員長とする。

[審査基準]

第4条 学位審査予備審査(以下「予備審査」という。)は、以下の基準にて厳正に行うものとする。

(1) 本学博士後期課程の修了要件単位の取得(またはその見込み)の確認

(2) 当該予備審査論文が、本学が授与する博士の学位を授与するにふさわしいものとして完成する見込みの有無

(3) 当該予備審査論文の属する研究領域において、独創性ある展開の可能性の有無

(4) 当該予備審査論文の属する研究領域の発展に貢献する可能性の有無

(5) 当該予備審査論文に、他の研究領域を含む学際性ある展開の可能性の有無

[合否の判定]

第5条 予備審査における合否の判定は、学位審査予備審査会構成員の3分の2以上が出席(4週間以上の出張者・欠勤者、休職者および学外研究員を定足数から除外する。)し、かつ、出席者の過半数が賛成しなければならない。

[審査結果の通知]

第6条 学位審査予備審査の審査結果については、博士後期課程委員会委員長が当該学生に文書によって通知するものとする。

[博士論文の審査]

第7条 博士論文の審査については、「学位規程」第7条の規定に基づく。

[学位審査会]

第8条 学位審査会は学位請求者による学位論文発表会と口頭試問により行うものとする。

2 課程博士の学位を申請することのできる者は、以下に掲げる者とする。

(1) 後期課程に在学し所定の単位を取得および取得見込みの者で、予備審査において学位請求論文の提出を認められた者

3 前項第1号および第2号に規定する者が課程博士の学位を申請しようとするときは、以下の書類を研究科長に提出しなければならない。

(1) 学位申請書(様式第2号) 1部

(2) 研究業績一覧(様式任意) 1部

(3) 学位請求論文表紙(様式第3号)をつけたもの 5部

① 学位請求論文の使用言語は、日本語とする。ただし、指導教員、ならびに博士後期課程委員会が認めた場合に限り、英語での学位請求論文の提出を可とする。

② 学位請求論文は、使用言語を日本語とする場合は、原則としてA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)で40,000字以上11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く)とすること。

使用言語を英語とする場合は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)にダブルスペースにより22,000words以上(1ページ:25行、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、引用・資料を除く。)とすること。

③ 学位請求論文は、レポートファイルに、内扉、目次、本文、引用・資料の順に綴り込むこと。

④ 学位請求論文は、中央にページ番号を記すこと。

(4) 論文の要旨(様式任意) 5部

要旨は、学位請求論文の使用言語によって、それぞれ次の要領にて作成、提出すること。

【学位請求論文の使用言語を日本語とする場合】

・要旨はPCを使用し、日本語でA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに1,000字以上、11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)にて作成すること。また中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

・上記、全体の概略を記した要旨(1枚)については、英文(A4用紙横書きに550words以上、余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、ダブルスペースにより要約したもの)をあわせて作成、添付すること。

・中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

【学位請求論文の使用言語を英語とする場合】

・要旨はPCを使用し、日本語と英語、それぞれにて作成・提出すること。

日本語においてはA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに1,000字以上、11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)にて作成すること。

英語においてはA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに550words以上、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、ダブルスペースにより要約したもの)を作成すること。

・中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

(5) 研究業績として出版した論文のある場合は当該論文の写し 5部

① 論文の写しは、ファイルに綴り込み、論文の写しごとに見出しをつけること。

② ファイルの表には、論文の写しであることを明記するとともに、学籍番号、氏名を記すこと。

(6) 学位請求論文および要旨のデータ

4 最終学位審査は、学位論文発表会終了後に、学位請求論文の属する研究領域およびその関連する分野に関する知見について、口頭試問によって行うものとする

5 学位審査に合格した者は、指定された期日までに、長期保存に耐えるハードコピー製本を施した学位論文を3部提出するものとする。

【学位審査委員会】

第9条 位審査委員会の構成については、「学位規程」第8条の規定に基づく。

2 審査委員会に委員長を置き、委員長は、博士後期課程委員会の互選によるものとする。

【審査基準】

第10条 学位審査は、以下の基準に基づいて厳正に行うものとする。

(1) 当該博士論文が、当該申請者の研究業績をふまえた内容であること

(2) 当該博士論文の属する研究領域において、独創性が認められること

(3) 当該博士論文の属する研究領域の発展に資するものであると認められること

(4) 当該博士論文に、他の研究領域を含む学際性が認められること

(5) 本学大学院が授与する博士の学位にふさわしいと認められるものであること

【審査結果の報告】

第11条 博士論文審査結果については、「学位規程」第9条の規定に基づく。

【合否の審議】

第12条 研究科長は、前条の報告に基づき、後期課程委員会において合否を審議する。

2 前項に規定する合否の審議には、博士後期課程委員会構成員の3分の2以上が出席(4週間以上の出張者・欠勤者、休職者および学外研究員を定足数から除外する。)し、かつ、出席者の過半数が審議結果に賛成しなければならない。

【審議結果の認定】

第13条 審議結果の認定については、「学位規程」第11条の規定に基づく。

【雑則】

第14条 本規則に定めるものの他、必要な事項は別に定める。

【事務担当部署】

第15条 この規則に関する事務は、教学グループが担当する。

【改廃】

第16条 この規則の改廃は、常務理事会が行う。

附則

(略)

7 2024年11月11日改定・施行

※様式第1号～4号 省略

10

施設

Campus Map

※2025年2月時点の情報です。変更される場合があります。

キャンパスマップ

AED AED(自動体外式除細動器)設置場所

♿ ベビーシート設置場所

♿ ベビーチェア設置場所

🚬 特定屋外喫煙場所

P **グラウンド校舎** グラウンドこうしゃ

G **体育館** たいいくかん

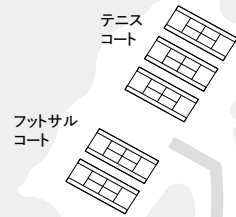
体育館
トレーニングルーム

Y **友愛館** ゆうあいかん

Agora
音楽コース
ファッションコース
メディア表現学部

E **遠友館** えんゆうかん

クラブボックス
大学祭実行委員会



F **風光館** ふうこうかん

陶芸専攻 イラストコース
プロダクトコミュニケーションコース
ライフクリエイションコース
建築コース 全学共通写真スタジオ

7 **7号館** ななごうかん

洋画専攻 立体造形専攻
プロダクトコミュニケーションコース

5 **5号館** ごごうかん

日本画専攻
人間環境デザインプログラム

K **光彩館** こうさいかん

テキスタイル専攻

R **流溪館** りゅうけいかん

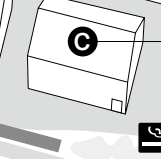
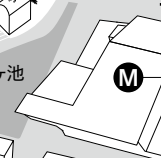
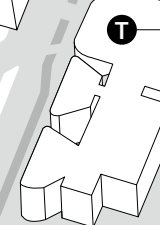
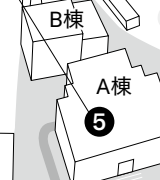
教員研究室
国際文化学部
人文学部
講義室
大学院研究室

U **悠々館** ゆうゆうかん

学生食堂
コンビニ
購買部 画箋堂
ラウンジ

J **情報館** じょうほうかん

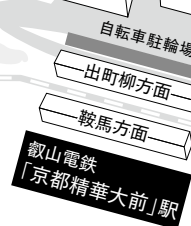
ライブラリー
メディアセンター

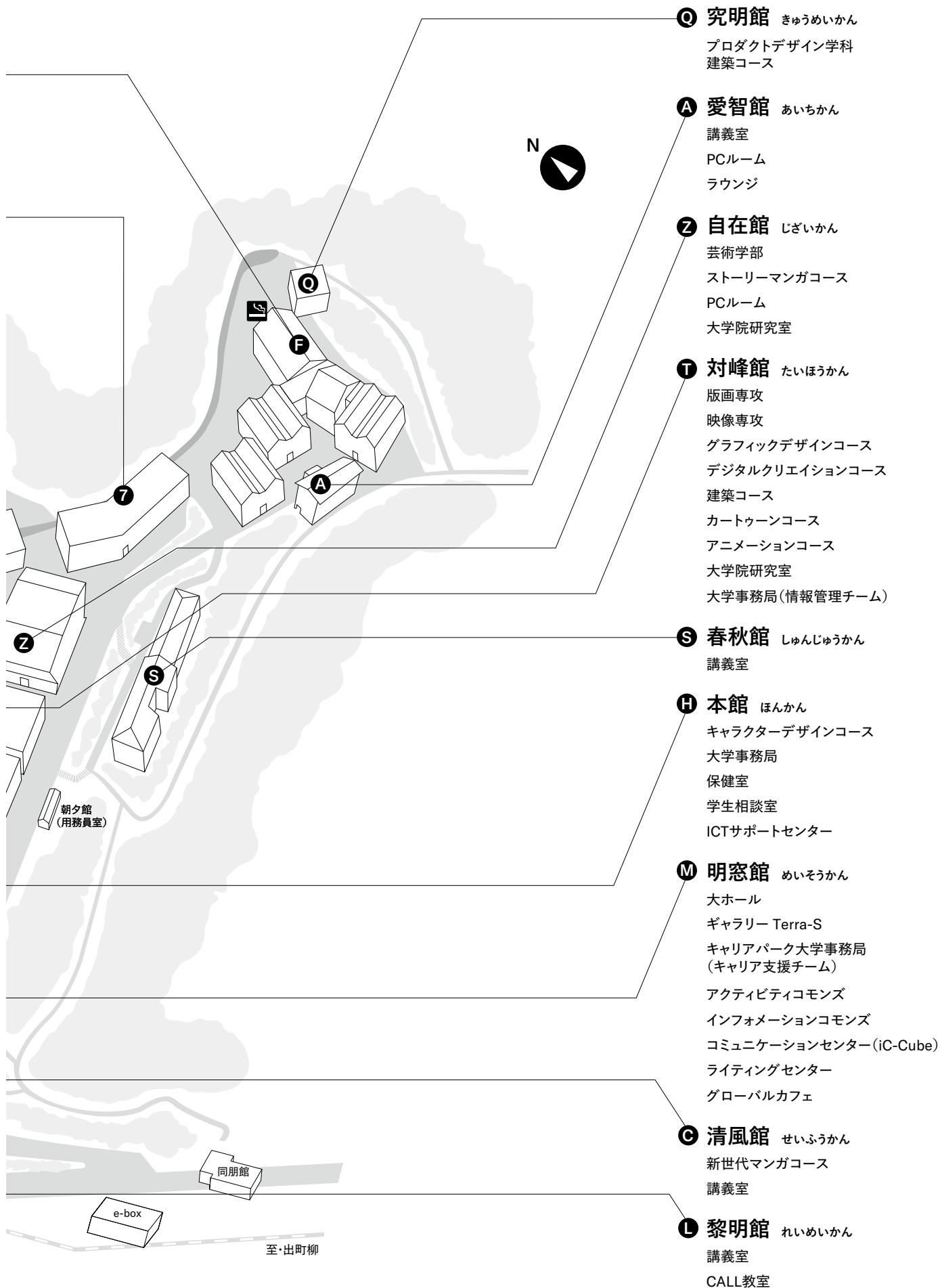


グラウンド



至・鞍馬





教室の使用申請方法

(1) 講義室の使用

授業以外で講義室を使用する場合は、学生支援チームにある「教室使用台帳」で空き状況を確認し、「施設使用願」を提出してください。

- 使用可能校舎
黎明館・春秋館
- 使用可能時間
月～土 9:00～22:00(授業使用時を除く)
日・祝日 9:00～17:00

(2) 実習室の使用

芸術学部・デザイン学部・マンガ学部・ポピュラーカルチャー学部の実習室は、授業期間中の9:00から20:00(日曜除く)は、届出不要で利用することができます。その他の時間帯、特別な機材のある実習室については以下の表に従って、必要な「施設使用願」を提出するか、教員・スタッフに開錠を依頼してください。

手続きの流れ

- ① 学生支援チームで「施設使用願」をもらう
- ② 「施設使用願」に記入し、担当教職員の押印を受ける
- ③ 「施設使用願」を警備棟に提出する

利用時間・利用方法

通常の実習室

	期間		提出物
授業期間中	月～土	9:00～20:00	届出不要
		20:00～22:00	担当教員押印済みの 「施設使用願」
	日・祝日	9:00～17:00	
長期休暇期間中	全曜日	9:00～17:00	担当教員押印済みの 「施設使用願」

特別な機材のある実習室

教員・スタッフに開錠を依頼する。あるいは担当教員押印済みの「施設使用願」を提出してください。

※教室区分等の詳細については施設管理チームまでお問い合わせください。

※やむを得ない事情で上記の時間外に実習室を利用する場合は、「特別延長願」の提出と担当教員による付き添いが必要となります。

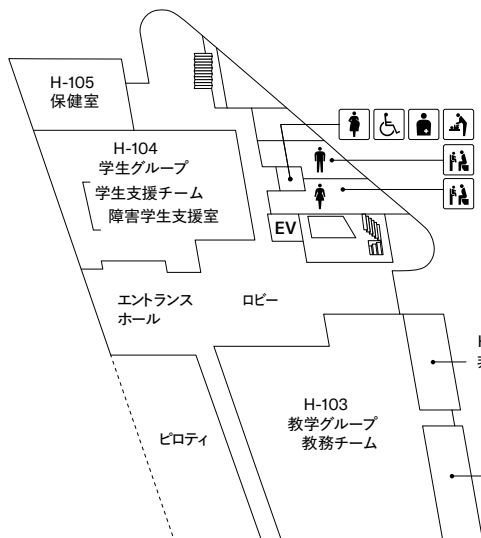
そのほか、全学共通写真スタジオ、春秋館ギャラリーなど、利用申請により使用可能な施設があります。

詳細については、大学Webサイトの「施設利用の手引き」を確認してください。

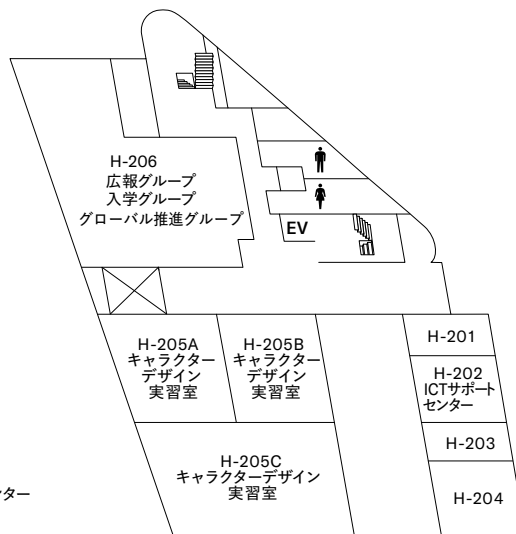
学内施設

H 本館

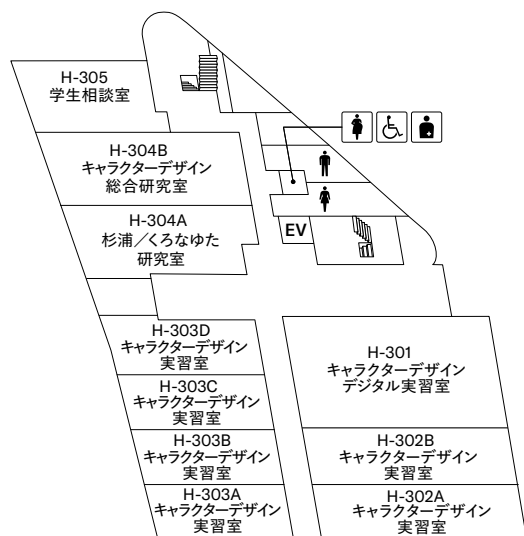
1F



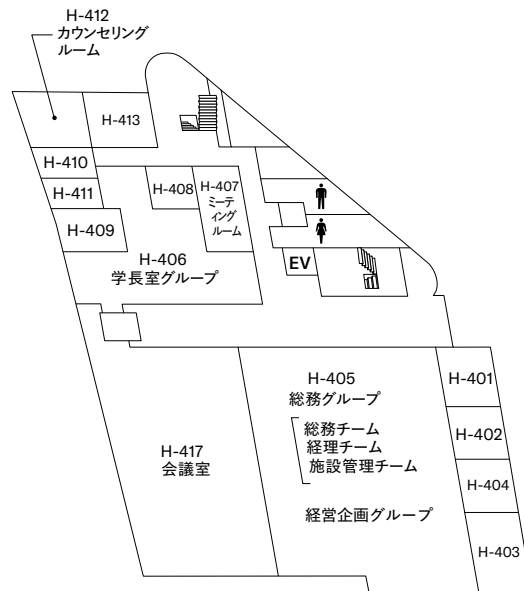
2F



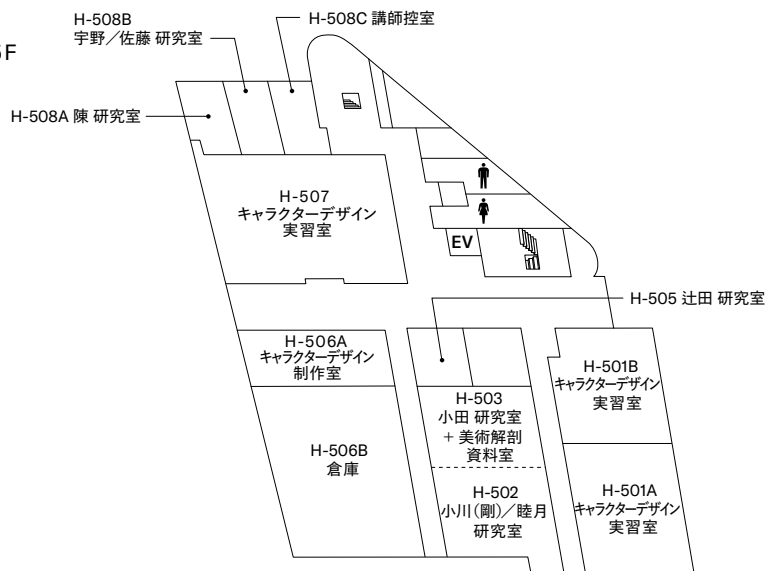
3F



4F



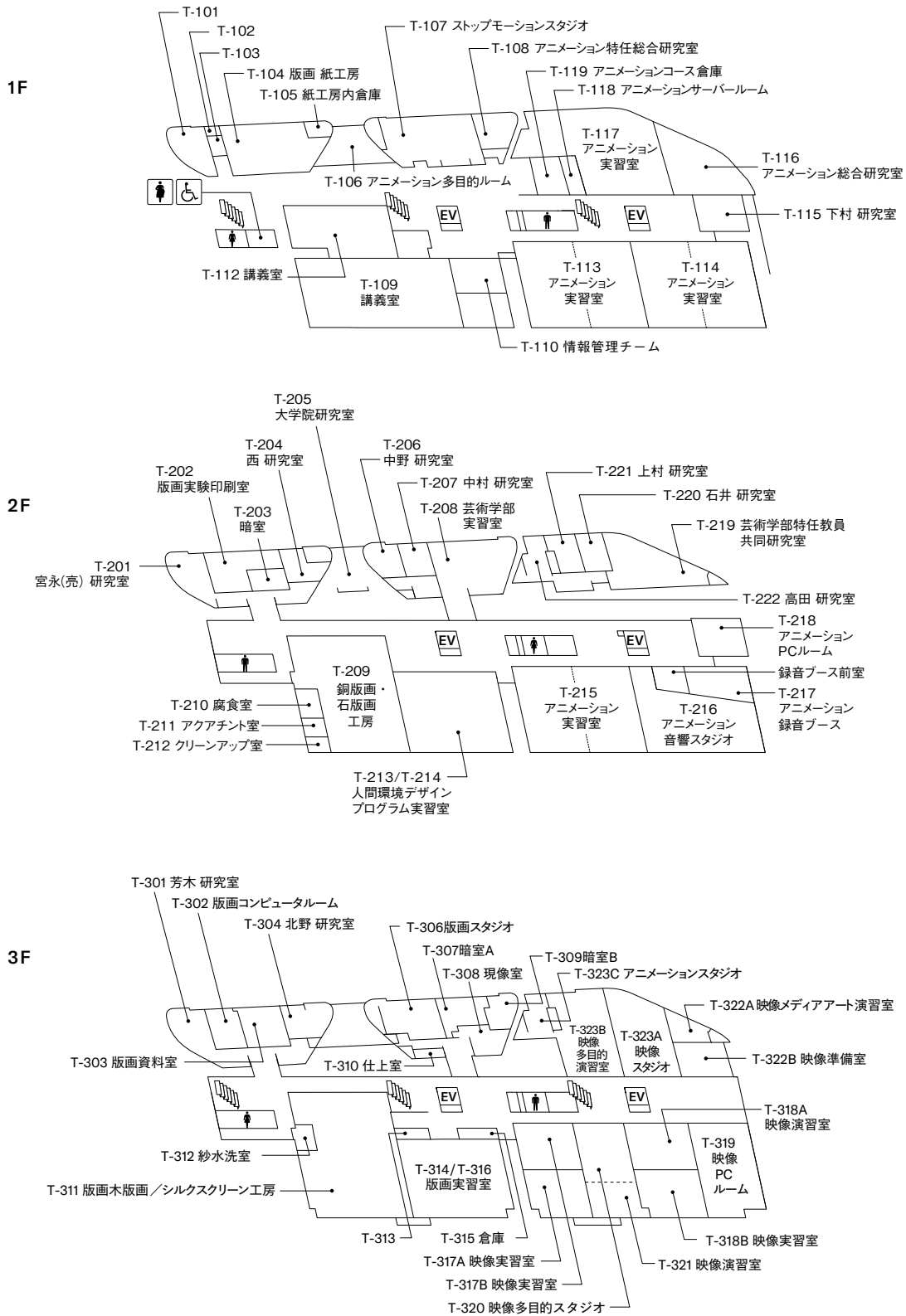
5F



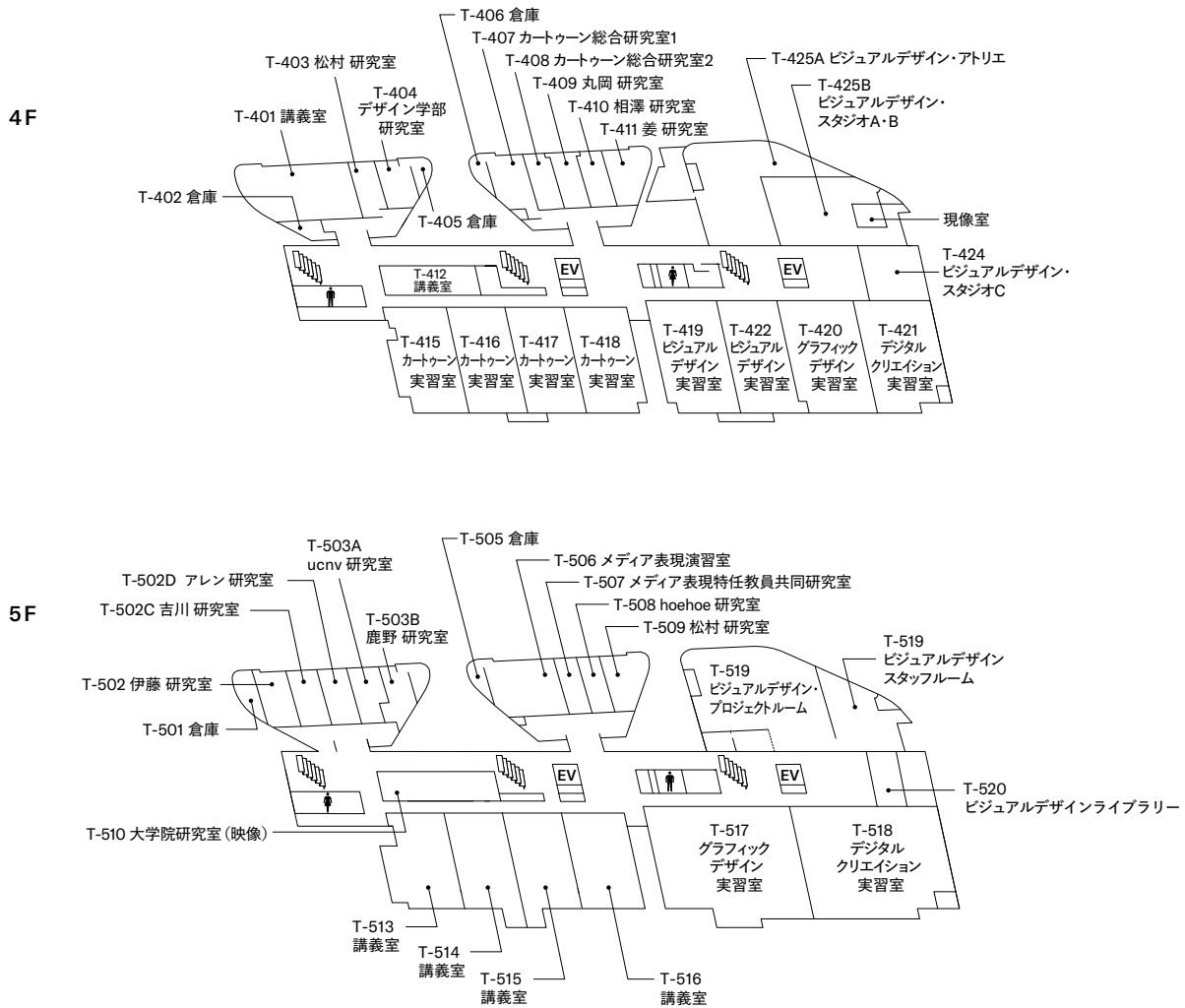
施設

学内施設 (本館)

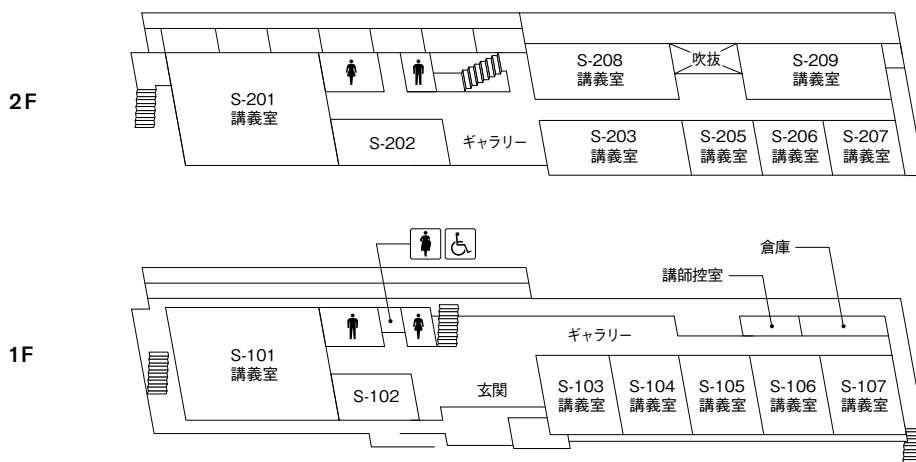
T 対峰館



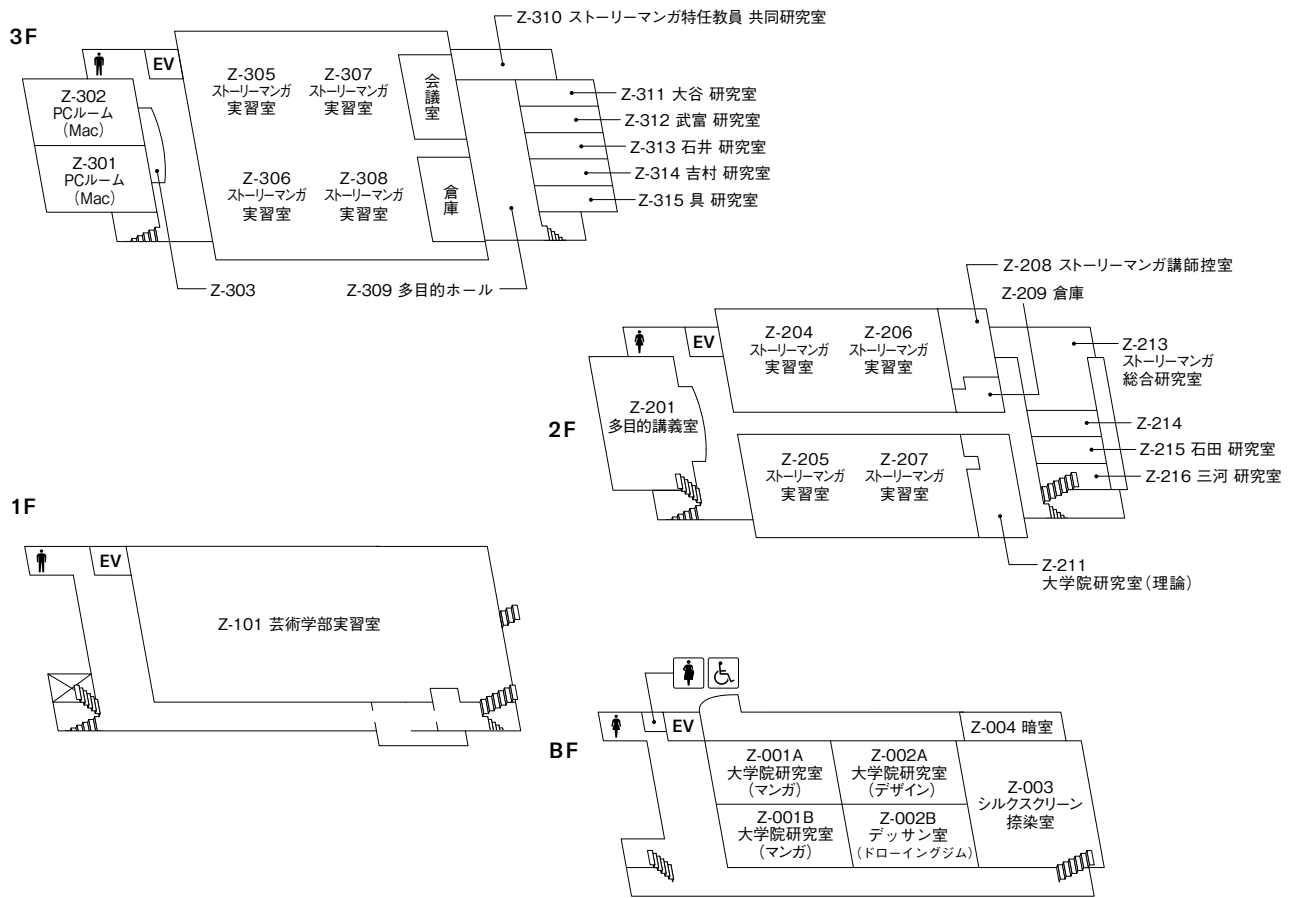
T 対峰館



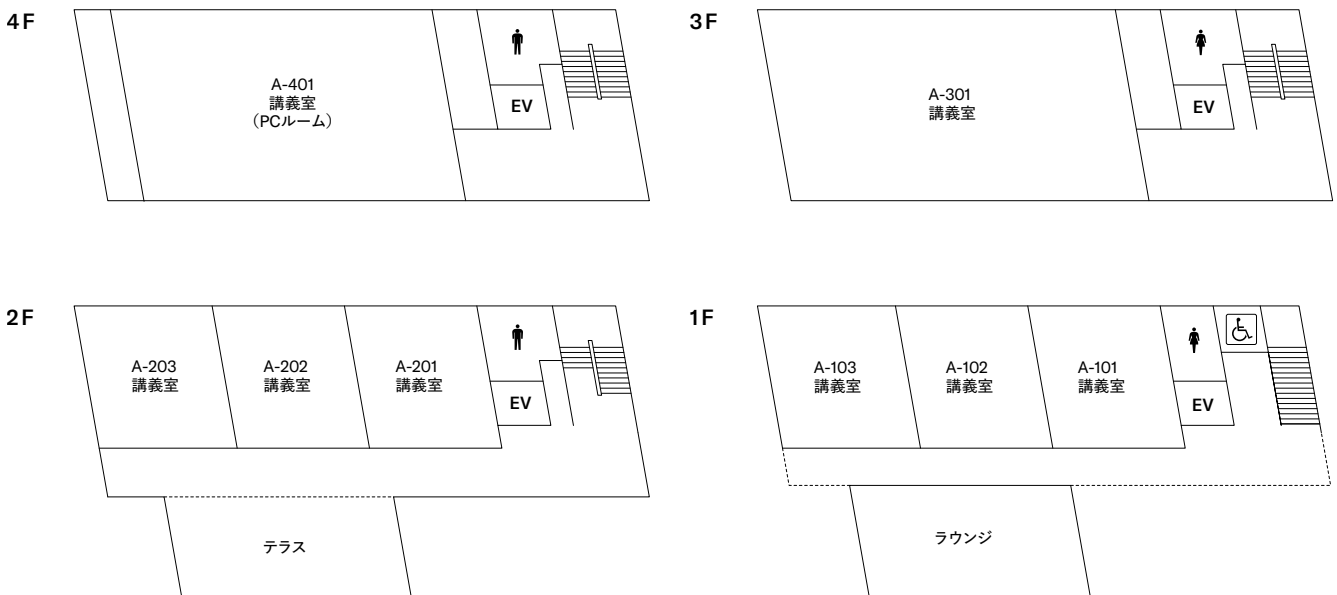
S 春秋館



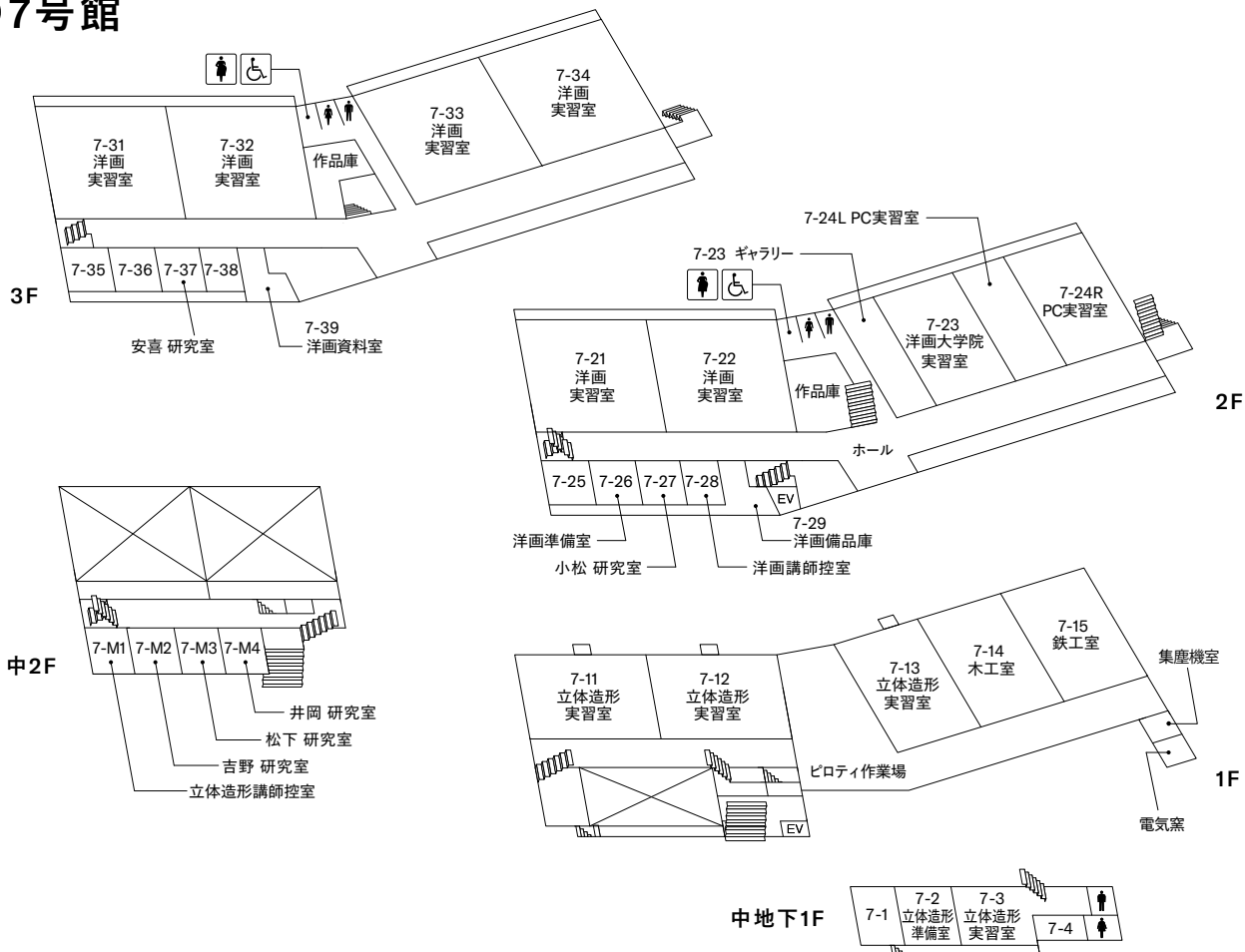
Z 自在館



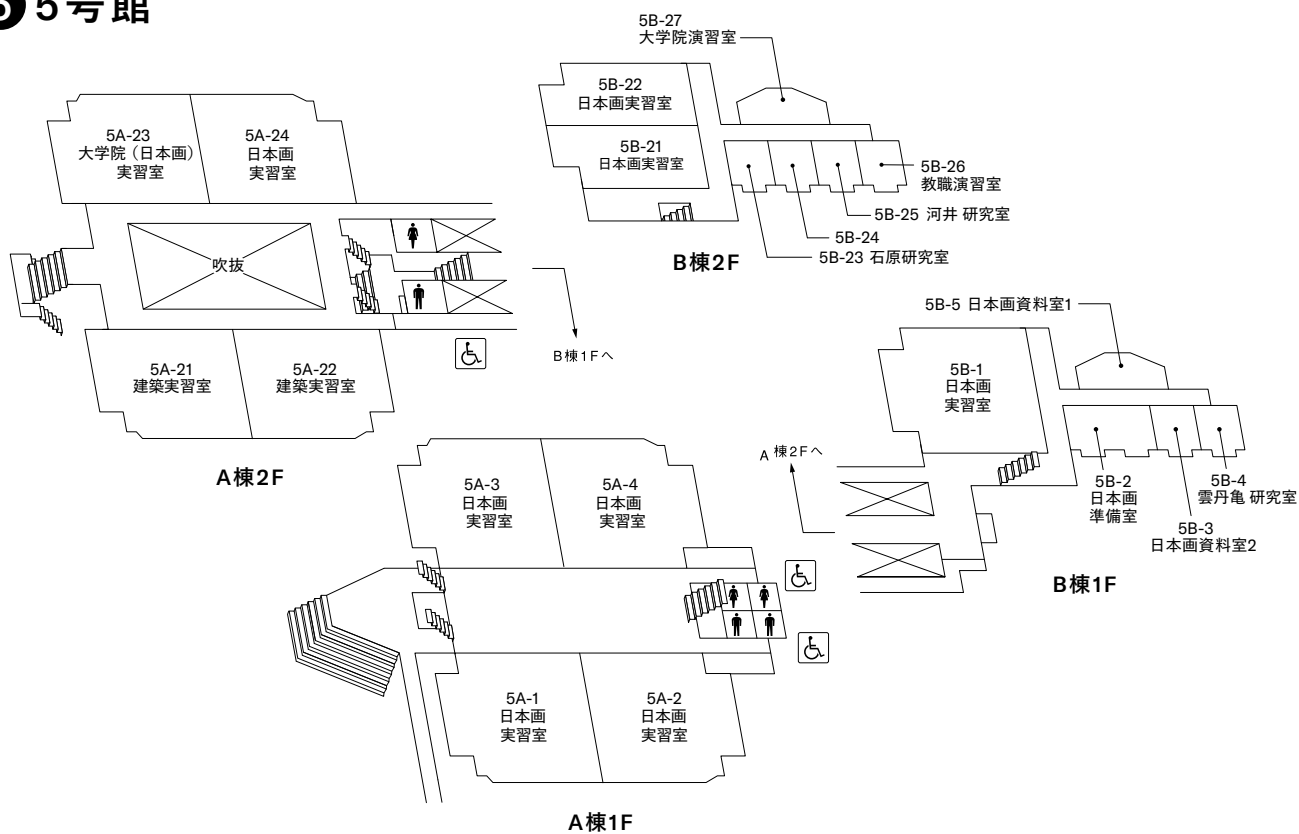
A 愛智館



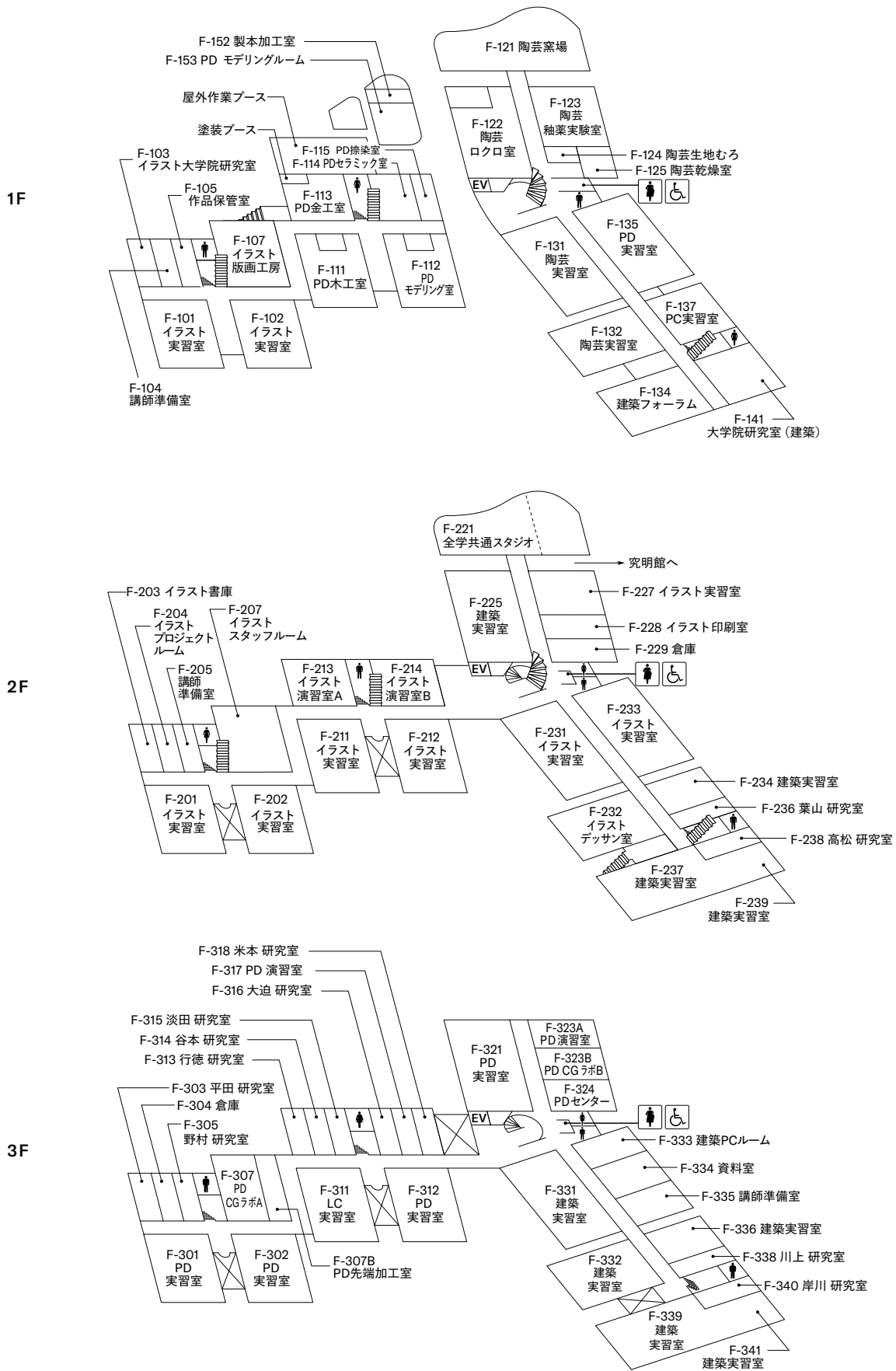
7号館



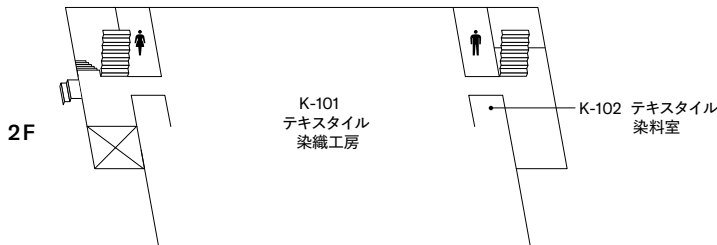
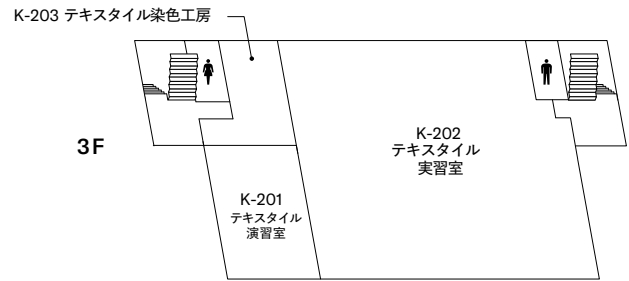
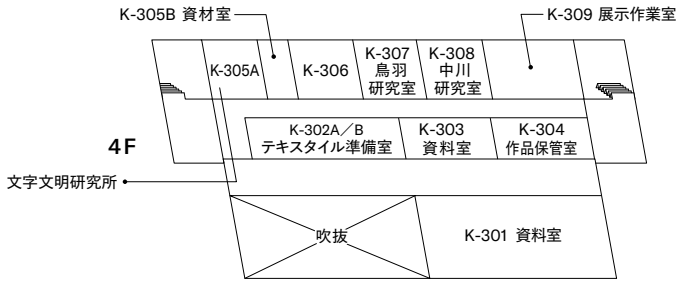
5号館



F 風光館



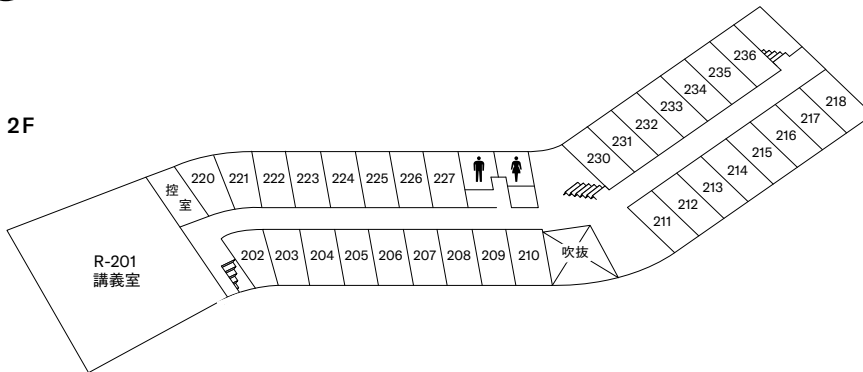
K 光彩館



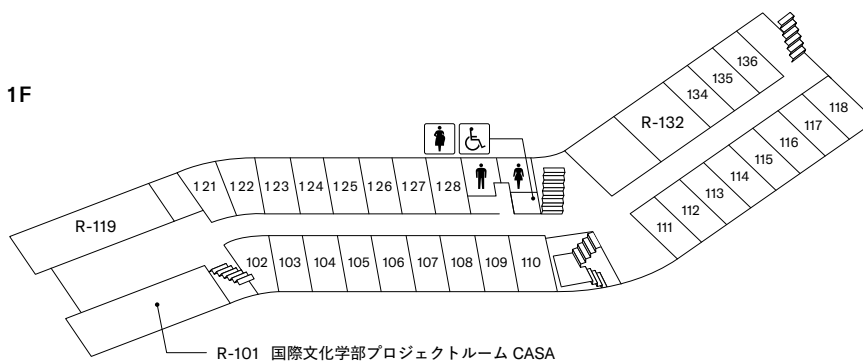
施設

学内施設 (風光館 / 光彩館 / 流溪館)

R 流溪館

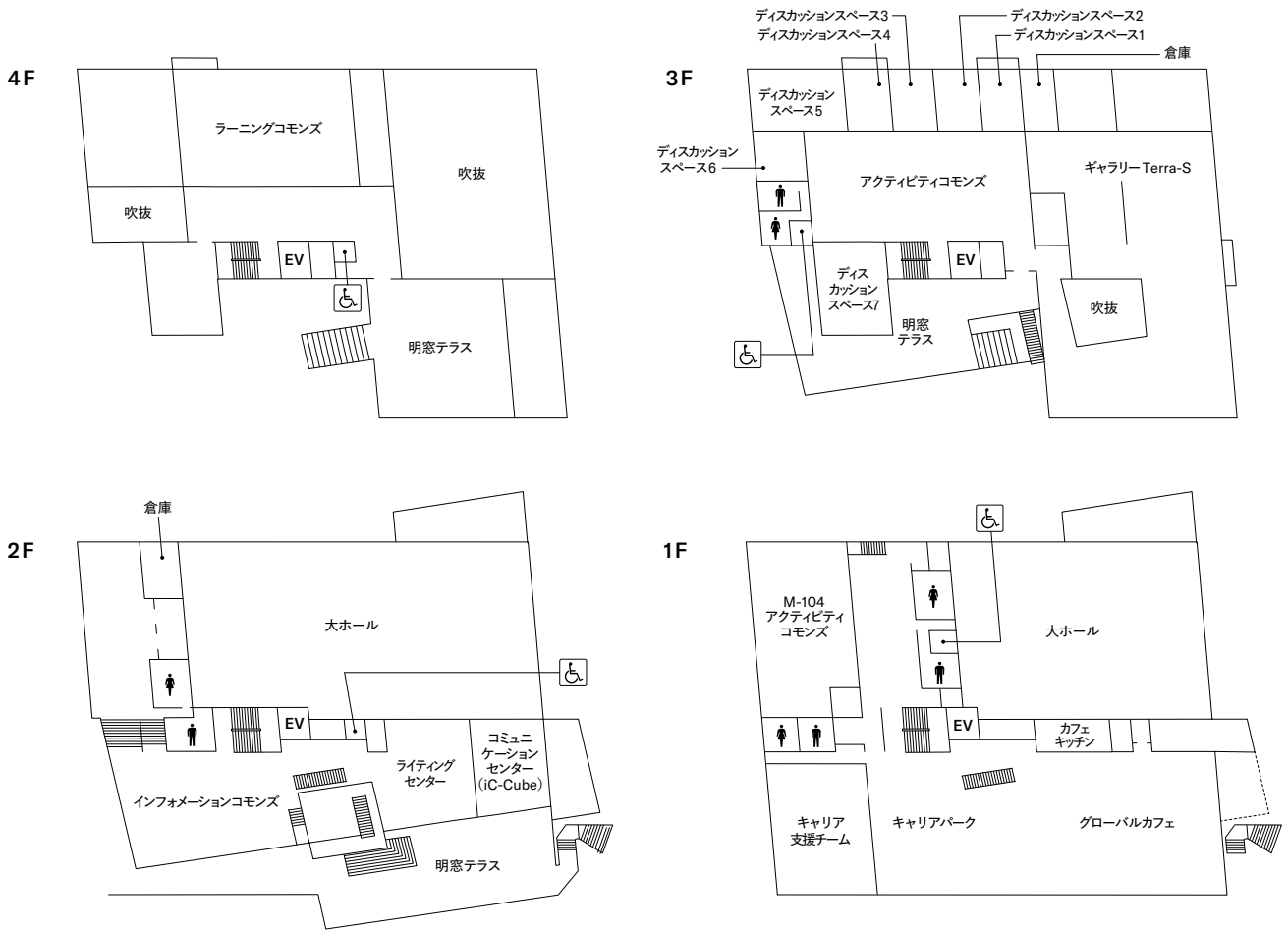


- 2F
- | | |
|---------------|--------------------|
| 202 申 研究室 | 220 山田(亜) / 河本 研究室 |
| 203 カイン 研究室 | 221 藤枝 研究室 |
| 204 柳田 研究室 | 222 蘆田 研究室 |
| 205 白井(聡) 研究室 | 223 研究室 |
| 206 上野目 研究室 | 224 研究室 |
| 207 ラリ 研究室 | 225 は澤 研究室 |
| 208 村上 研究室 | 226 新稲 / 三原 研究室 |
| 209 中岡 研究室 | 227 川本 研究室 |
| 210 住友 研究室 | 230 横山 研究室 |
| 211 澤田 研究室 | 231 佐々木(美) 研究室 |
| 212 鯖江 研究室 | 232 木川田 研究室 |
| 213 鈴木 研究室 | 233 渡邊 研究室 |
| 214 白井(裕) 研究室 | 234 研究室 |
| 215 ユー 研究室 | 235 恵阪 研究室 |
| 216 ルーズ 研究室 | 236 住田 研究室 |
| 217 西田 研究室 | |
| 218 恩地 研究室 | |

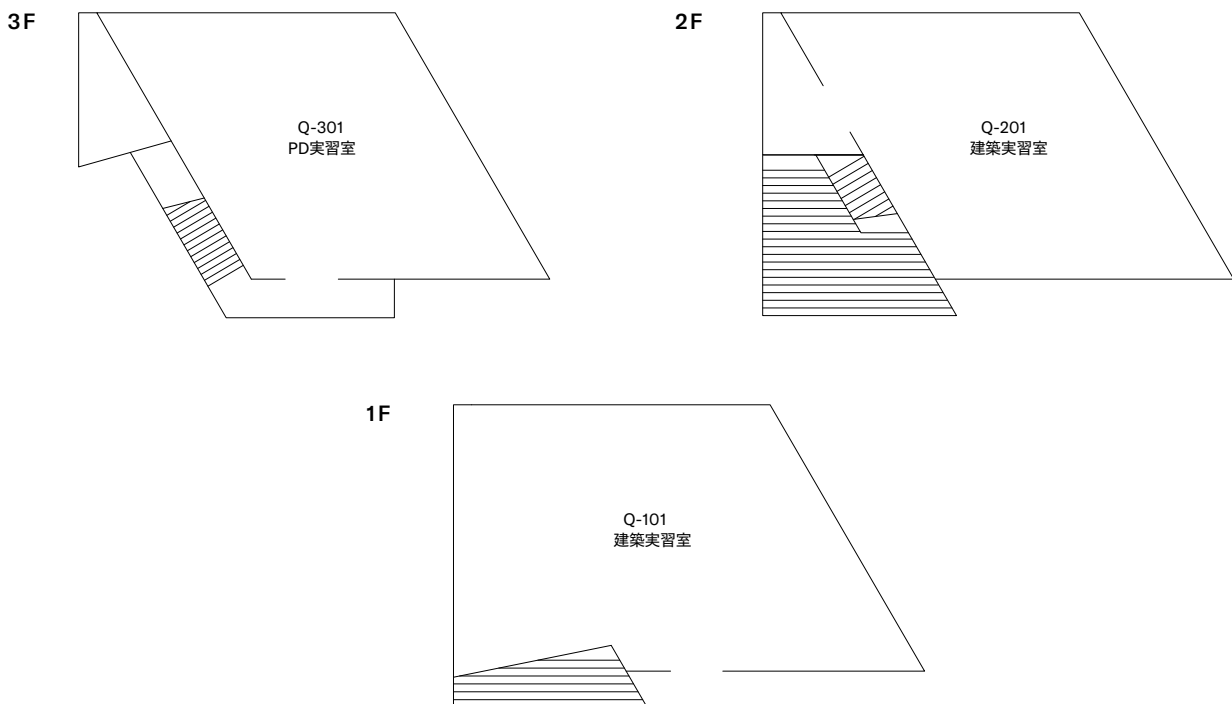


- 1F
- | | |
|-------------------------|----------------|
| 102 南 研究室 | 121 佐々木(中) 研究室 |
| 103 磯辺 研究室 | 122 前田 研究室 |
| 104 小泉 研究室 | 123 高村 研究室 |
| 105 八木 研究室 | 124 藪内 研究室 |
| 106 西野(厚) 研究室 | 125 岩本 研究室 |
| 107 堀井 研究室 | 126 吉元 研究室 |
| 108 高橋(伸) 研究室 | 127 吉永 研究室 |
| 109 森 研究室 | 128 安田 研究室 |
| 110 アフリカ・アジア 現代文化研究センター | 134 服部 研究室 |
| 111 吉岡 研究室 | 135 川辺 研究室 |
| 112 小川(仁) 研究室 | 136 清水 研究室 |
| 113 米原 研究室 | |
| 114 設備管理室 | |
| 115 田村 研究室 | |
| 116 研究室 | |
| 117 ソーン 研究室 | |
| 118 坪田 研究室 | |

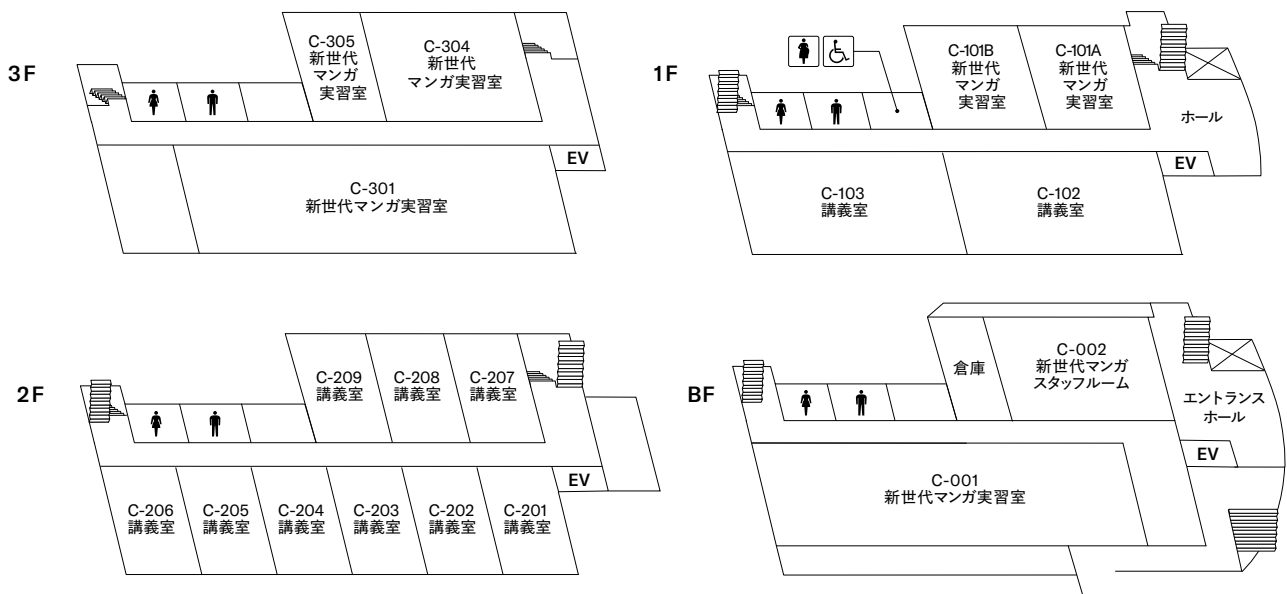
M 明窓館



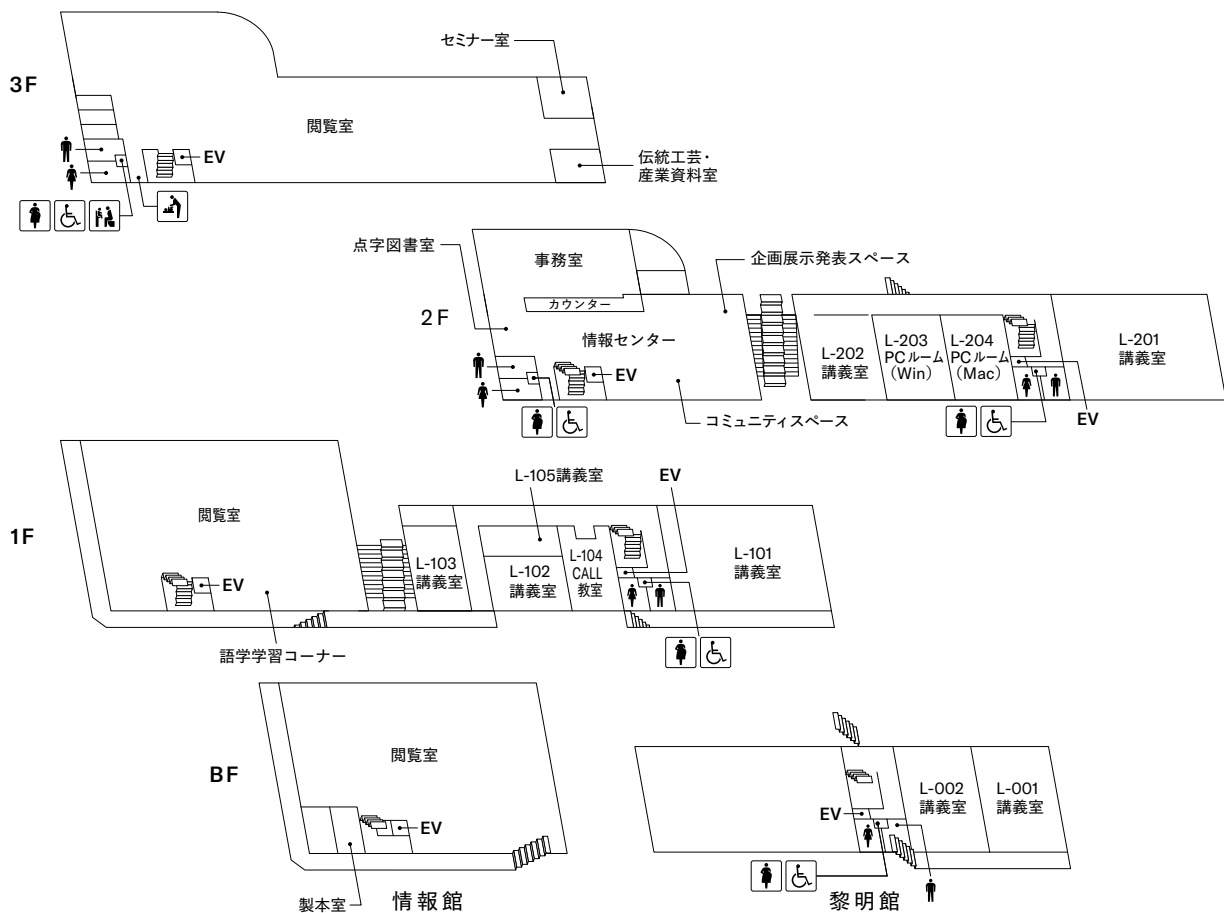
Q 究明館



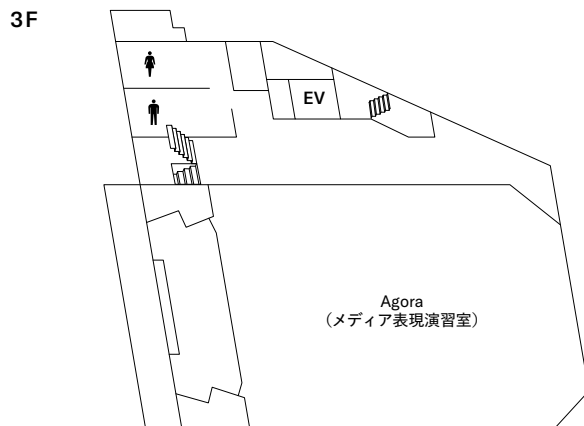
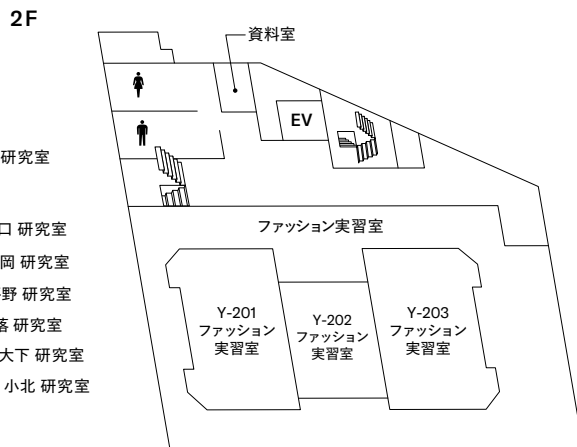
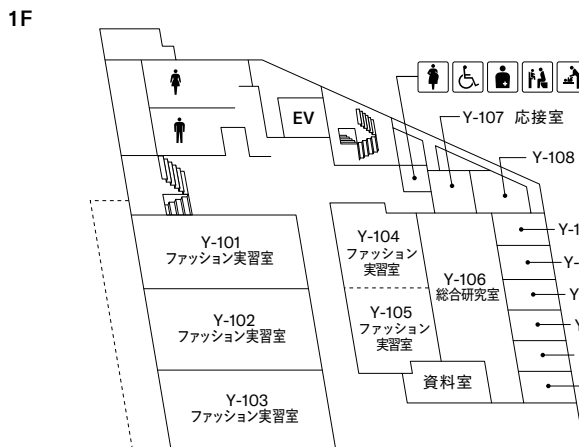
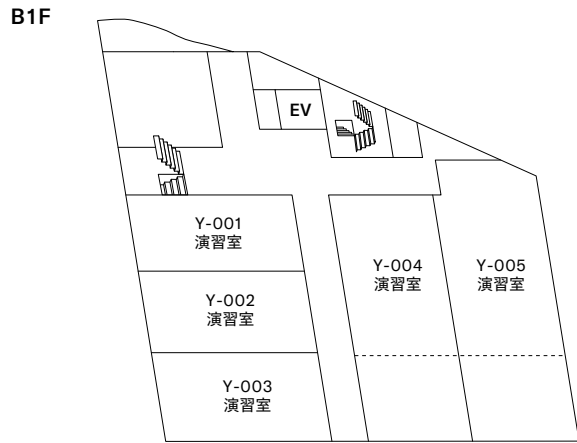
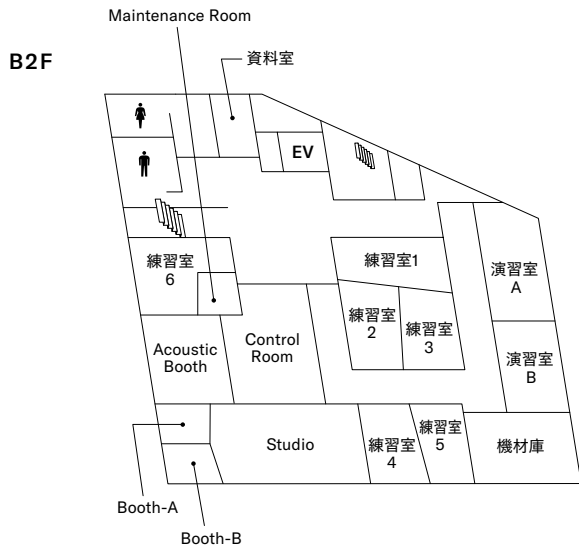
◎ 清風館



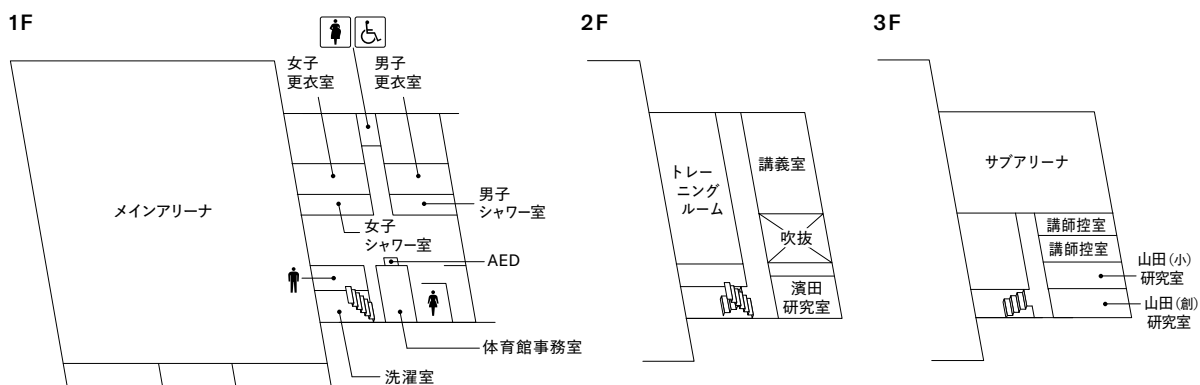
◎ 黎明館・J 情報館



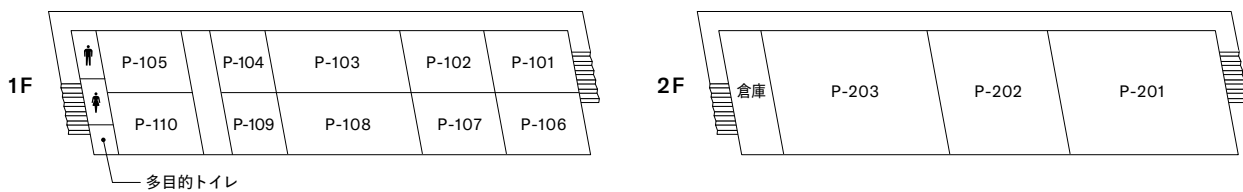
Y 友愛館



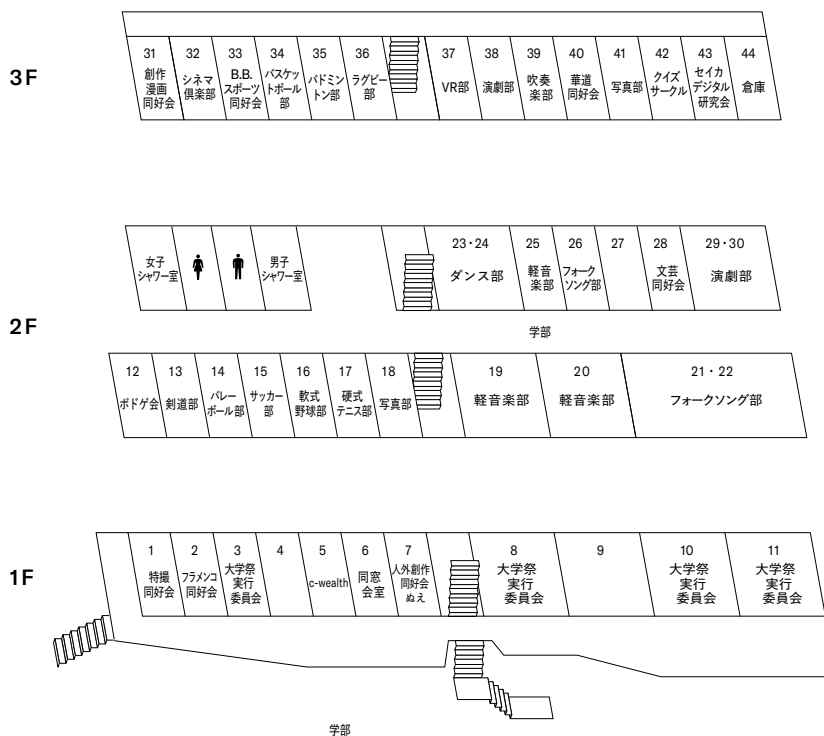
G 体育館



P グラウンド校舎



E 遠友館



学外施設利用について

(1) 京都国際マンガミュージアム

京都精華大学と京都市の共同事業として運営されており、在学生は学生証の提示で入館料が無料となります。「マンガ」の収集・保存・保管・展示およびマンガ文化に関する調査研究及び事業を行うことを目的とした博物館機能と図書館機能を併せ持った文化施設です。明治の雑誌や戦後の貸本などの貴重な歴史資料、現在の人気作品や海外の作品まで約30万点を所蔵し、そのうち約5万冊のマンガ単行本が閲覧可能です。



京都国際マンガミュージアム

京都市中京区烏丸通御池上ル(元龍池小学校)
TEL: 075-254-7414 FAX: 075-254-7424
開館時間: 10:00~17:00(最終入館時刻16:30)
休館日: 水曜日、年末年始、メンテナンス期間

(2) 京都精華大学サテライトスペース kara-S(カラス)

四条烏丸にある京都精華大学のサテライトスペース。展覧会やワークショップ、イベントなどを行う「ギャラリー」と、アートグッズの販売を行う「ショップ」の2つのスペースを持ち、クリエイティブな活動によって生みだされるアイデアや作品を発信しています。展覧会やワークショップの実施、作品の委託販売ができます。使用については、社会連携センターで確認してください。



京都精華大学サテライトスペース kara-S

京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町620番地
COCON KARASUMA 3F
TEL&FAX: 075-352-0844
営業時間: 11:00~20:00
最寄り駅: 地下鉄烏丸線「四条駅」
2番出口より四条烏丸西直結

(3) 丹後学舎(海の家)・朽木学舎(山の家)

在學生は丹後学舎(海の家)と朽木学舎(山の家)を利用できます。申し込みは利用日の2ヵ月前から受け付けます(先着順)。予約する際は、学生支援チーム(本館1F)のカウンターにて申込書を記入して予約手続きを行った後、経理チーム(本館4F)にて使用料の支払いをおこなってください。なお、丹後学舎の夏期の使用については申込多数のため抽選を行います。詳細は6月下旬頃に「セイカ・ポータル」等でお知らせします。



利用料金(一人あたり/自炊)

	在學生	在學生の家族	宿泊可能日数
通常期 (10~6月)	1泊500円 /1人	1泊500円 /1人	4泊5日まで
繁忙期 (7~9月)	1泊1,000円 /1人	1泊1,000円 /1人	2泊3日まで
正課授業 での利用	無料	—	授業 スケジュールに 準ずる

※在學生の家族は、同居もしくは同一生計世帯の家族の方に限ります。(12歳未満は半額)

※チェックインは13:00以降17:00まで、チェックアウトは9:00以降11:00までに行うこと。それ以外の時間に利用を希望する場合は、事前に申込を行い、一泊分の利用料金を追加で支払うこと。

※キャンセルによる返金、人数変更の受付は、利用日の10日前まで受け付けます。

丹後学舎

京都府京丹後市丹後町上野894 TEL: 0772-76-0624

朽木学舎

滋賀県高島市朽木古屋472 TEL: 0740-38-5118

2025年度版

学習のてびき

2021-2024年度入学生向け

2025年4月発行

京都精華大学

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

<http://www.kyoto-seika.ac.jp>

京都精華大学

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町 137

<http://www.kyoto-seika.ac.jp>